このたびは、スズキ　エスクード（ハイブリッド）を お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！ 安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。
  警告 、 注意 、 注 記 、 アドバイス は、とくにしっかりお読みください。

警告	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。**
注意	**取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。**
注 記	**取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。**
アドバイス	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「 × 」または「 ⃠ 」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

本書の見かた

本ページは見本を使って本書の基本的な読みかたを説明しています。

運転する前に/スイッチの使いかた

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

タイトル
階層により区別しています。

フォグランプ

タイプ別装備

タイプ別装備
お車のグレードなどにより装備の有無が異なる事を示しています。

フォグランプスイッチ

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

参照先
関連する内容が記載されているページなどを案内しています。

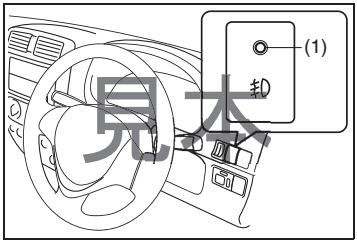
→ **3-53ページ（ライトスイッチ）**

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。

3

章番号
各章の番号を案内しています。

操作要領
装備の取扱いかたなどを説明しています。



注 記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

警告・注意・注記・アドバイス
前ページをお読みください。

お知りになりたいことをさがすときは

次のような方法で検索されますと、すばやくさがせます。

■ タイトルからさがす

- ♦ 総合目次
- ♦ 各章のはじめの目次
- ♦ ヘッダー

■ ハイブリッドシステム特有の記載をさがす

- ♦ ハイブリッドシステム → **4-99ページ**

■ 取り付け位置、警告灯・表示灯からさがす

- ♦ イラスト目次 → **1-2ページ**

■ ブザー音からさがす

- ♦ 警告ブザーが鳴ったときは → **1-23ページ**

■ 名称からさがす

- ♦ さくいん → **9-1ページ**

■ 4WD車特有の記載をさがす

- ♦ 4WD車を運転するときは → **2-32ページ**
- ♦ タイヤチェーン → **6-20ページ**
- ♦ けん引してもらうときは → **7-30ページ**

■ オイルや、交換部品をさがす

- ♦ お車との上手なつきあいかた → **6-1ページ**
- ♦ 万一のとき → **7-1ページ**
- ♦ サービスデータ → **8-1ページ**

■ よくあるご質問（Q & A）からさがす

- ♦ よくあるご質問（Q & A） → **1-32ページ**

ご愛車に関するメモ

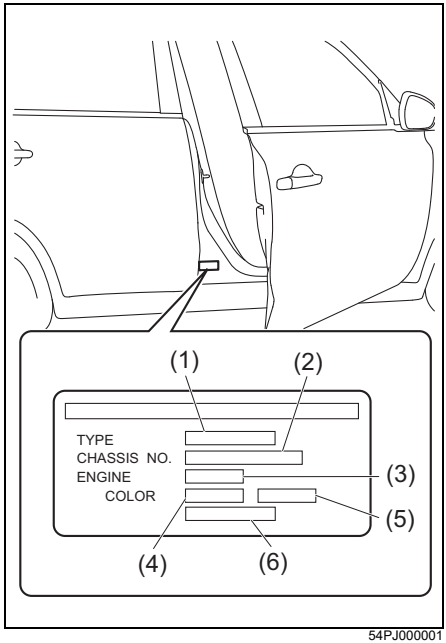
記入される記号・番号は、車検証、IDプレートをご覧ください。

ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	
車体色記号	
営業機種記号	
トランスミッション	
ナンバープレート(自動車登録番号)	
ご購入年月日	年　月　日

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「AGS（オートギヤシフト車）」を示しています。

IDプレート

運転席ドアを開いた所に貼付してあります。



54PJ000001

(1) 車両型式
(2) 車台番号
(3) エンジン型式
(4) 車体色記号
(5) 車体色と内装色の組み合せコード
(6) 営業機種記号(補助記号)

データの記録について

この車は、車両の制御や操作などに関するデータを記録するコンピュータが装備されており、以下のデータを記録します。

データの種類について

- エンジンの回転数など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ、シフトポジションなど、操作の状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報
  (イベントデータレコーダー(EDR)に記録されます。EDR は Event Data Recorderの略です。)

→ **3-43 ページ（SRS エアバッグ車を 運転するときは）**

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- 会話などの音声は記録しません。
- 使用条件などにより、データが記録されない場合があります。

データの開示について

スズキおよびスズキが委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

MEMO

総 合 目 次

1 クイックガイド

イラスト目次 ····· 1-2
警告ブザーが鳴ったときは ····· 1-23
よくあるご質問（Q & A） ····· 1-32

2 必読！安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために ····· 2-2

3 運転する前に

ドアの開閉 ····· 3-2
警報装置 ····· 3-16
ウインドーの開閉 ····· 3-18
各部の調節 ····· 3-22
シートの調節 ····· 3-26
シートベルト ····· 3-33
SRSエアバッグ ····· 3-43
お子さま用シート ····· 3-56
メーター ····· 3-68
スイッチの使いかた ····· 3-118

4 運転するときは

ハイブリッドシステム起動・停止 ····· 4-2
パーキングブレーキ ····· 4-13
オートマチック車 ····· 4-15
4WD車 ····· 4-28
ESP® ····· 4-34
ABS ····· 4-38
ヒルホールドコントロール ····· 4-43
ヒルディセントコントロール ····· 4-44

スズキ セーフティ サポート ····· 4-47
車両接近通報装置 ····· 4-98
ハイブリッドシステム ····· 4-99

5 装備の取扱い

エアコン、ヒーター ····· 5-2
オーディオ ····· 5-13
そのほかの装備 ····· 5-16

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ ····· 6-2
寒冷時の取扱い ····· 6-15

7 万一のとき

パンク ····· 7-2
バッテリーあがり ····· 7-14
ヒューズ切れ ····· 7-16
電球切れ ····· 7-20
オーバーヒート ····· 7-26
そのほか ····· 7-28

8 サービスデータ

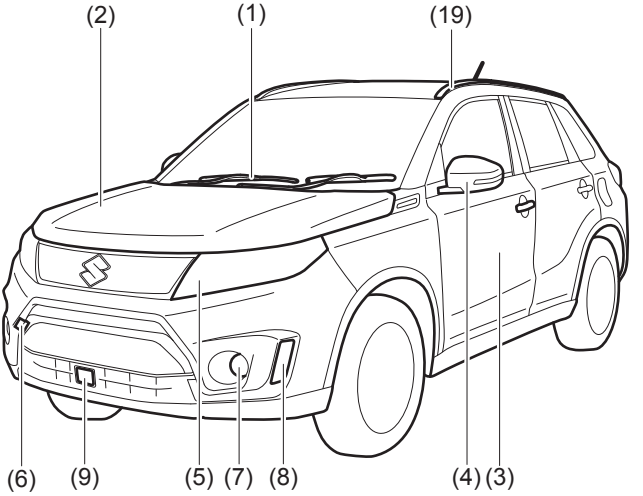
サービスデータ ····· 8-1

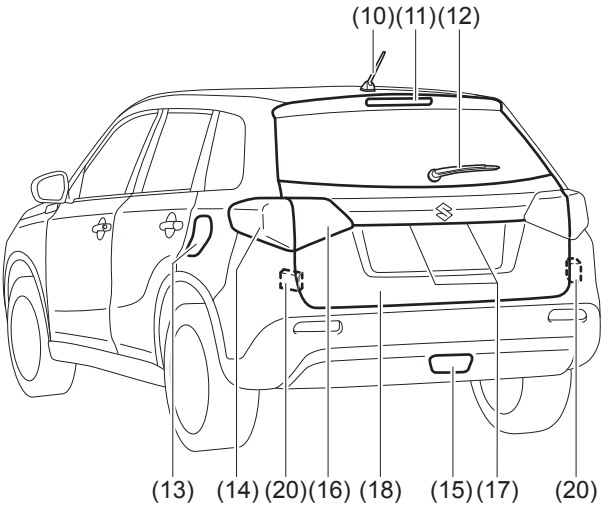
9 さくいん

さくいん ····· 9-1

イラスト目次

外観

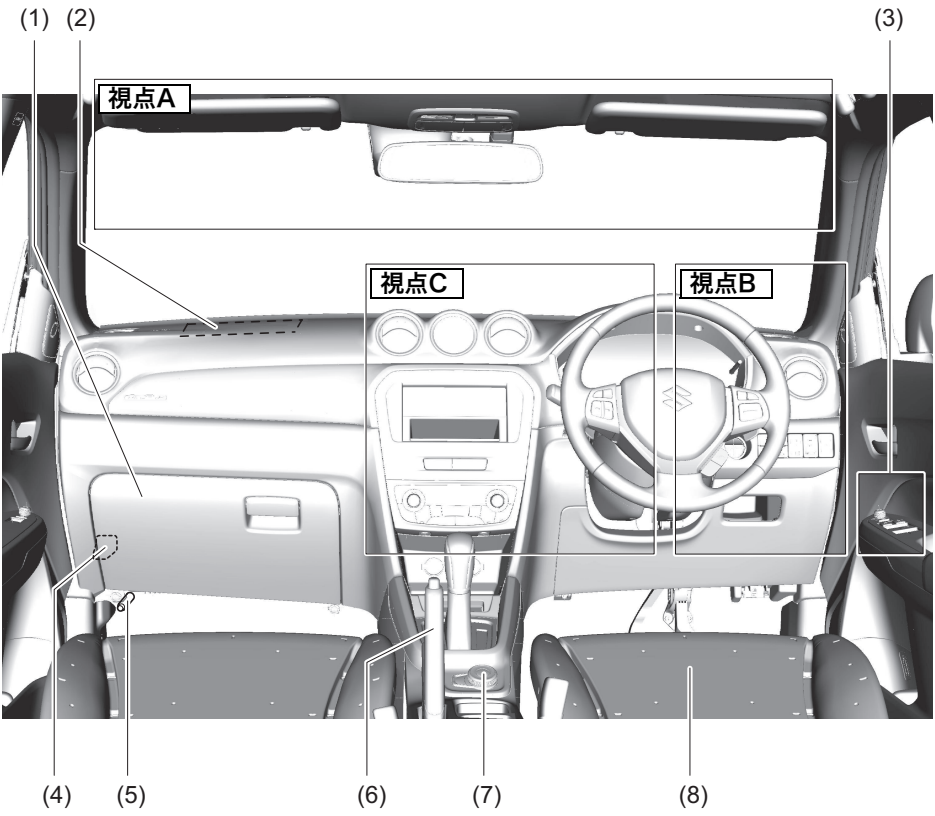




53SJ0002

(1)　フロントワイパー ····· 3-123
(2)　ボンネット ····· 5-17
(3)　ドア ····· 3-11
(4)　ドアミラー ····· 3-23
(5)　ヘッドライト ····· 3-118
(6)　けん引フック ····· 7-30
(7)　フォグランプ ····· 3-121
(8)　LEDイルミネーションランプ ····· 3-120
(9)　ミリ波レーダー ····· 4-88
(10) ルーフアンテナ ····· 5-14
(11) ハイマウントストップランプ ····· 7-25
(12) リヤワイパー ····· 3-125
(13) 燃料給油口(フューエルリッド) ····· 5-16
(14) リヤコンビネーションランプ ····· 7-22
(15) 後退灯 ····· 7-23
(16) 尾灯 ····· 7-25
(17) 番号灯 ····· 7-25
(18) バックドア ····· 3-12
(19) ルーフレール ····· 5-32
(20) レーダーセンサー ····· 4-93

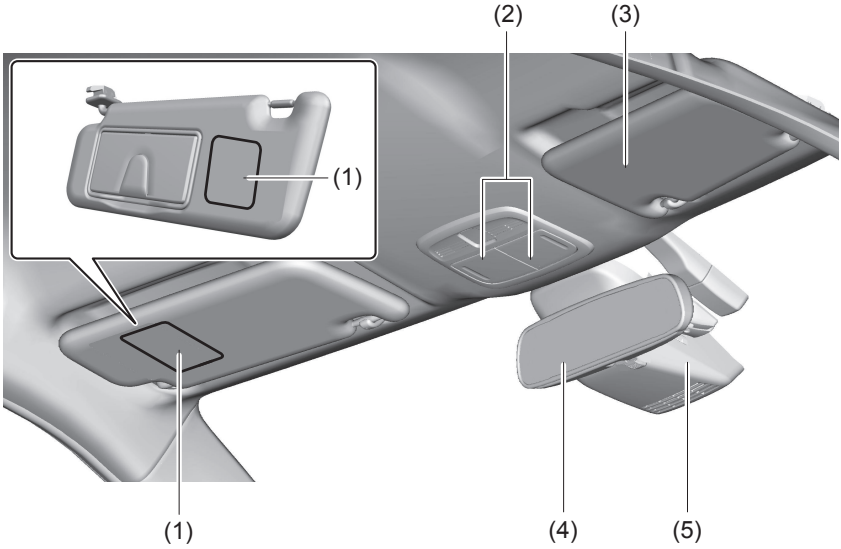
内装（前面）



53SJ0003

(1) グローブボックス ····· 5-28
(2) 助手席SRSエアバッグ ····· 3-48
(3) パワーウインドースイッチ ····· 3-18
ドアミラー角度調節スイッチ ····· 3-23
ドアミラー格納スイッチ ····· 3-24
(4) ヒューズ ····· 7-18
(5) 発炎筒 ····· 7-28
(6) パーキングブレーキ ····· 4-13
(7) ALLGRIPモードスイッチ ····· 4-28
(8) 前席シート ····· 3-26

■ 視点A



53SJ0131

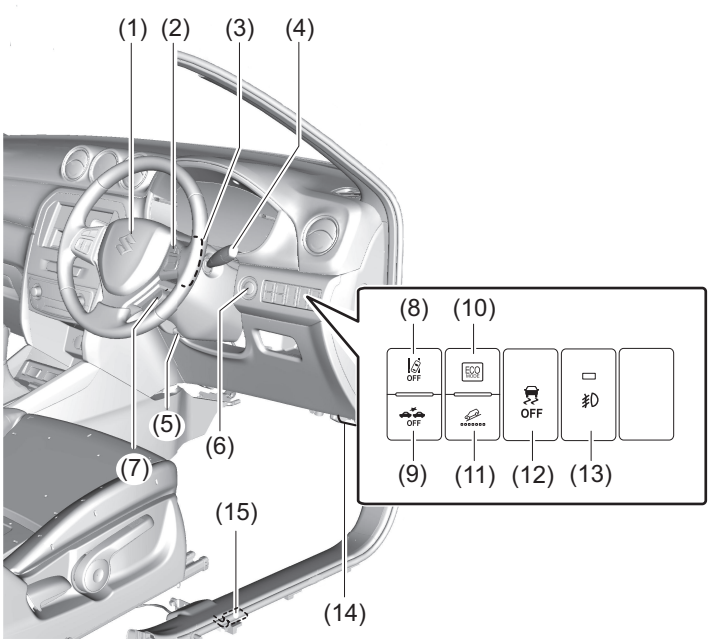
(1)　助手席SRSエアバッグに関する
警告ラベル(※1、※2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-31
(2)　フロントマップランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-22
(3)　サンバイザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-19
(4)　ルームミラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-22
(5)　レーザーレーダーと単眼カメラ ・・・・・・・・・・・・・・・ 4-47

※1 お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。
※2 前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。



72M00150

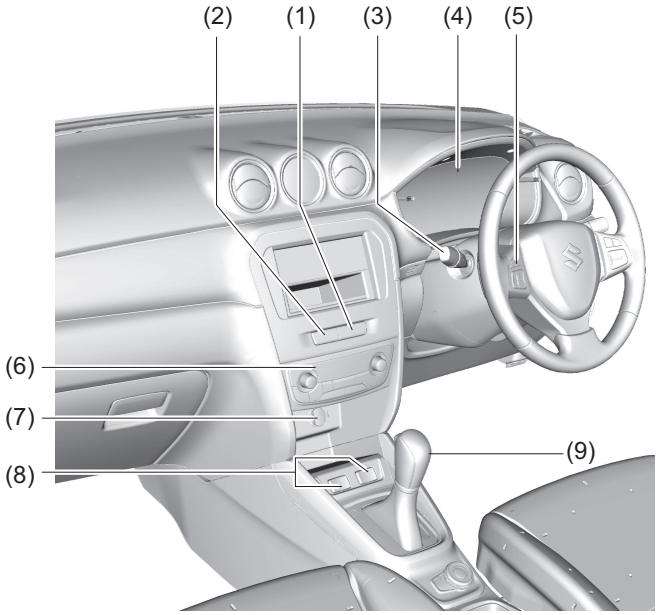
■ 視点B



76S00002

(1) 運転席SRSエアバッグ ····· 3-48
ホーンスイッチ ····· 3-126
(2) アダプティブクルーズコントロールスイッチ ···· 4-78
(3) パドルシフトスイッチ ····· 4-19
(4) ライトスイッチ ····· 3-118
方向指示器スイッチ ····· 3-122
(5) ハンドル位置固定レバー ····· 3-25
(6) エンジンスイッチ ····· 4-2
(7) 車線逸脱抑制機能ON／OFFスイッチ ····· 4-64
(8) 車線逸脱警報OFFスイッチ ····· 4-71
(9) デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ ····· 4-70
(10) エコモードスイッチ ····· 3-126
(11) ヒルディセントコントロールスイッチ ····· 4-44
(12) ESP® OFFスイッチ ····· 4-37
(13) フォグランプスイッチ ····· 3-121
(14) ボンネットオープナー ····· 5-17
(15) フューエルリッドオープナー ····· 5-16

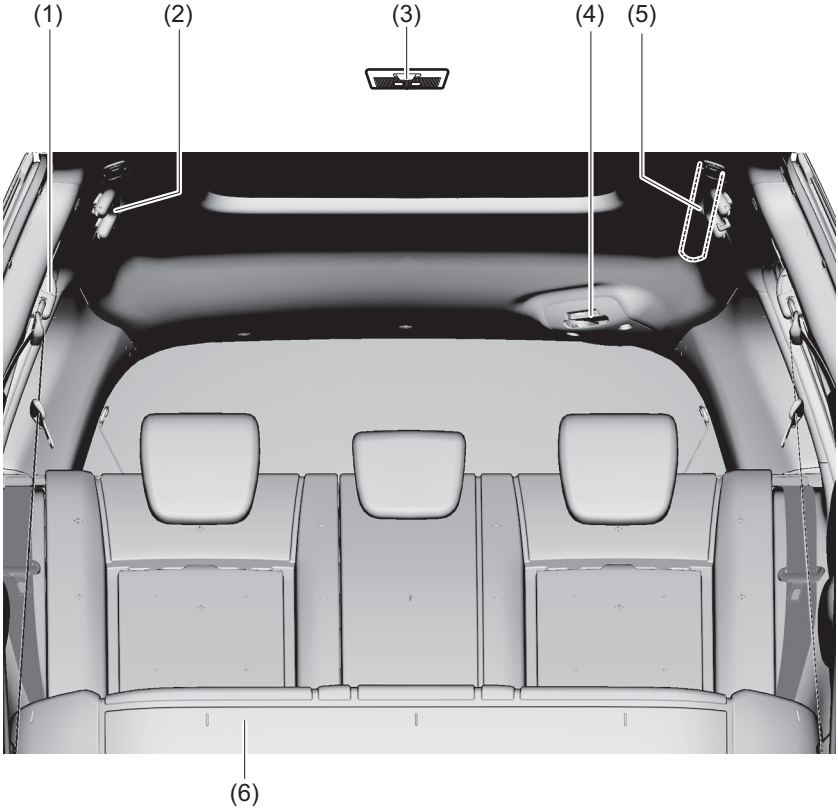
■ 視点C



53SJ0006

(1)　セキュリティアラームインジケーター　・・・・・・・　3-16
(2)　非常点滅表示灯スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-122
(3)　ワイパー／ウォッシャースイッチ　・・・・・・・・・・　3-123
(4)　メーター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1-19、3-68
(5)　ステアリングオーディオスイッチ　・・・・・・・・・・・　5-15
(6)　エアコン、ヒーター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-3
(7)　アクセサリーソケット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-22
(8)　前席シートヒータースイッチ　・・・・・・・・・・・・・・　3-28
(9)　セレクトレバー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-15

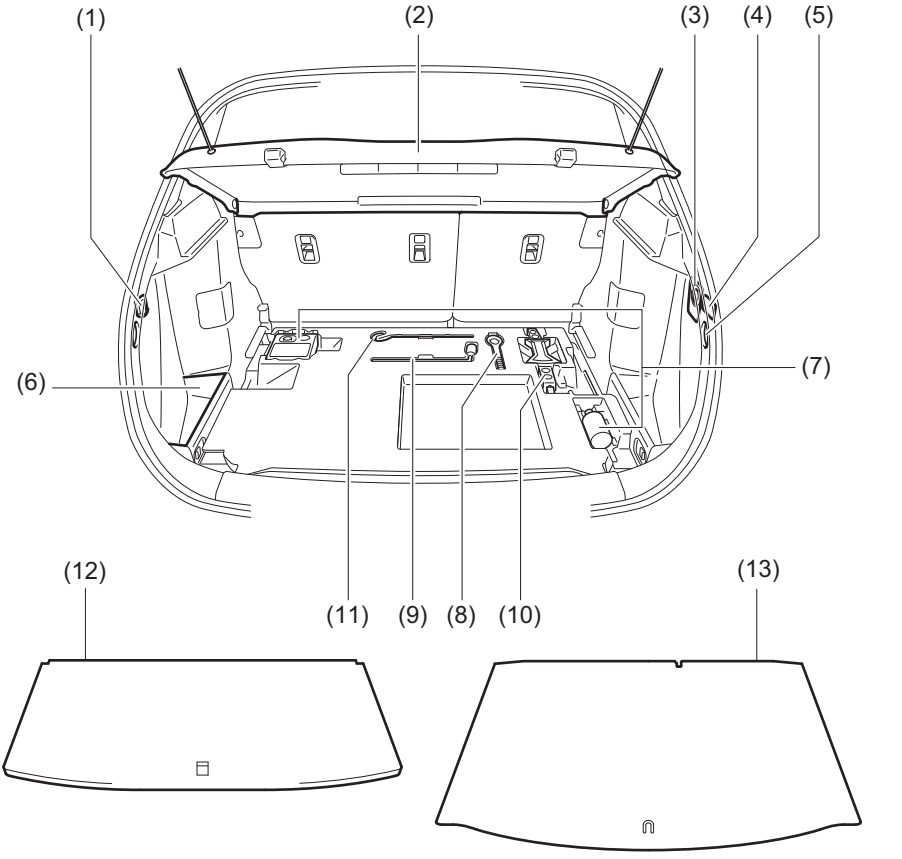
内装（後面）



53SJ0007

(1)　シートベルト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-33
(2)　アシストグリップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-29
(3)　室内灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-20
(4)　後席中央席シートベルト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-36
(5)　カーテンエアバッグ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-44
(6)　後席シート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-29

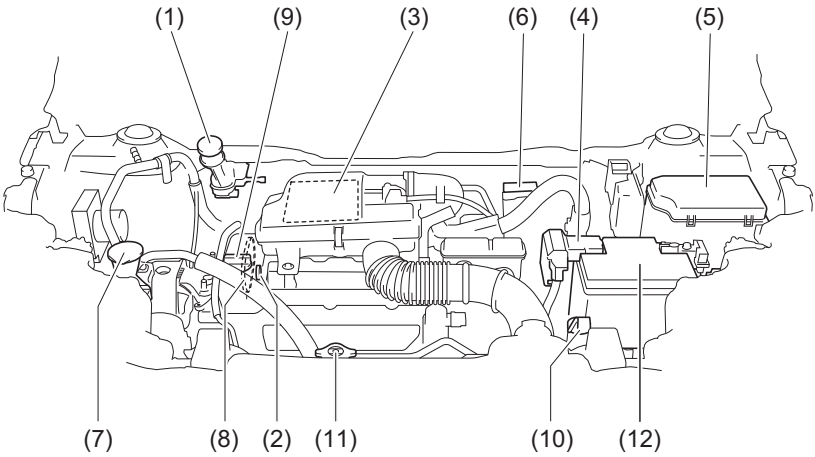
荷室



76S00003

(1)　ショッピングフック　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-30
(2)　ラゲッジシェルフ(荷室カバー)　・・・・・・・・・・・・・　5-31
(3)　アクセサリーソケット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-22
(4)　ラゲッジルームランプ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-21
(5)　ラゲッジフック(ラゲッジサイド)　・・・・・・・・・・・　5-30
(6)　ラゲッジポケット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-27
(7)　タイヤパンク応急修理セット　・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(8)　けん引フック　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-30
(9)　ホイールレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(10) ジャッキ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(11) ジャッキバー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(12) ラゲッジボード　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-31
(13) ラゲッジフロアカーペット　・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-31

エンジンルーム



76S00004

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **ブレーキフルードリザーバータンク**

(2) **エンジンオイルレベルゲージ**

(3) エアクリーナー

(4) メインヒューズボックス

(5) リレーボックスNo.1

(6) リレーボックスNo.2

(7) **ウォッシャータンク**

(8) ドライブベルト

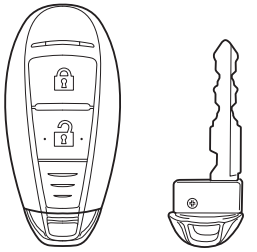
(9) エンジンオイルフィラーキャップ

(10) **冷却水リザーバータンク**

(11) ラジエーターキャップ

(12) **鉛バッテリー**

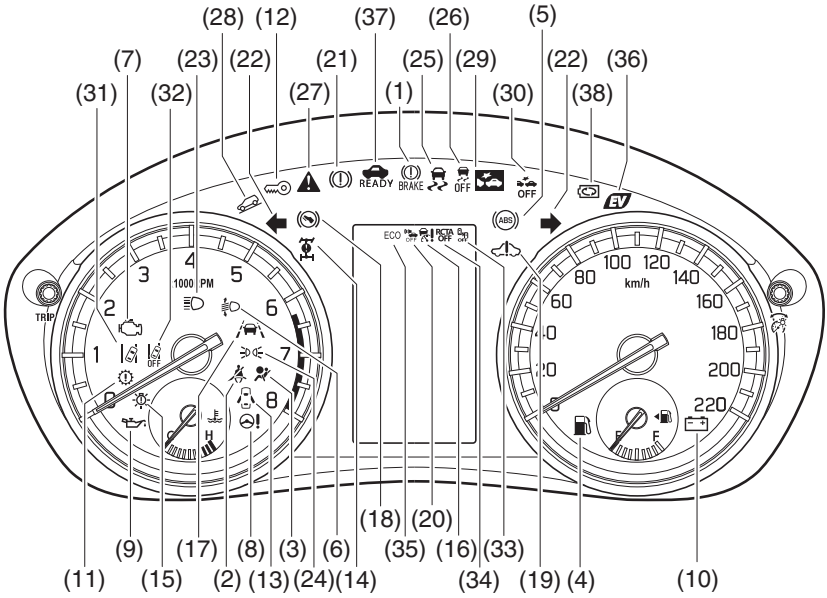
キー



61M0002

キー ····· 3-2
ドア ····· 3-11
キーレスエントリー ····· 3-3
携帯リモコン ····· 3-5
キーレスプッシュスタートシステム ····· 4-5
ハイブリッドシステムの起動 ····· 4-9

警告灯・表示灯



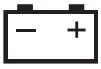
76S00005

■ 警告灯一覧表

- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。参照先の内容をよくお読みのうえ、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 警告灯・表示灯が点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

→ **3-106ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

- ※ 印の警告灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

警告灯			色	警告灯名	参照先
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯	**3-71ページ**
(2)			赤	シートベルト警告灯	**3-72ページ**
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯	**3-73ページ**
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯	**3-73ページ**
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯	**3-74ページ**
(6)		※	オレンジ	オートレベリング警告灯	**3-74ページ**
(7)		※	オレンジ	エンジン警告灯	**3-75ページ**
(8)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯	**3-75ページ**
(9)		※	赤	油圧警告灯	**3-76ページ**
(10)		※	赤	充電警告灯	**3-76ページ**
(11)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯	**3-77ページ**
(12)		※	オレンジ	イモビライザー警告灯	**3-78ページ**
(13)			赤	半ドア警告灯	**3-78ページ**

警告灯			色	警告灯名	参照先
(14)		※	オレンジ	4WD警告灯	**3-79ページ**
(15)		※	オレンジ	LEDヘッドライト警告灯	**3-79ページ**
(16)		※	オレンジ	アダプティブクルーズコントロール警告灯	**3-79ページ**
(17)		※	オレンジ	車線逸脱抑制機能警告灯	**3-80ページ**
(18)			オレンジ	ブレーキリクエストインジケーター	**3-80ページ**
(19)		※	赤	ハイブリッドシステム警告灯	**3-81ページ**
(20)		※	オレンジ	車両接近通報装置警告灯	**3-81ページ**
(21)		※	黄	ブレーキシステム警告灯	**3-82ページ**

■ 表示灯一覧表

- ※ 印の表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

表示灯			色	表示灯名	参照先
(22)			緑	方向指示器表示灯	**3-82ページ**
(23)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯	**3-82ページ**
(24)			緑	ライト点灯表示灯	**3-82ページ**
(25)		※	オレンジ	ESP®作動表示灯	**3-83ページ**

表示灯			色	表示灯名	参照先
(26)		※	オレンジ	ESP® OFF表示灯	**3-83ページ**
(27)		※	オレンジ	マスターウォーニング	**3-83ページ**
(28)		※	緑	ヒルディセント コントロール表示灯	**3-83ページ**
(29)		※	オレンジ	デュアルセンサー ブレーキサポート 作動表示灯	**3-84ページ**
(30)		※	オレンジ	デュアルセンサー ブレーキサポート OFF表示灯	**3-84ページ**
(31)		※	オレンジ	車線逸脱警報作動表示灯	**3-85ページ**
(32)		※	オレンジ	車線逸脱警報OFF表示灯	**3-85ページ**
(33)		※	オレンジ	ブラインドスポット モニタOFF表示灯	**3-85ページ**
(34)		※	オレンジ	リヤクロストラフィック アラートOFF表示灯	**3-86ページ**
(35)			緑	エコモード表示灯	**3-86ページ**
(36)			緑	EV表示灯	**3-86ページ**
(37)			緑	READY表示灯	**3-86ページ**
(38)		※	白	回生エネルギー表示灯	**3-87ページ**

警告ブザーが鳴ったときは

いつ	ブザー	表示	説明
いずれかのドアを開けたとき	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（約10秒間）	 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。次のいずれかの操作により警報を停止してください。 ●携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠する ●エンジンスイッチを ON にする。 → **3-16ページ（セキュリティアラーム（警報装置））**
エンジンスイッチを ON にしたとき、または ON のとき	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（4回）	 小刻みに点滅	駐車中にセキュリティアラームが作動したことをお知らせしています。 ●盗難にあってないか車の中を確認してください。 → **3-16ページ（セキュリティアラーム（警報装置））**

いつ	ブザー	表示		説明
エンジンスイッチを ON にしたとき、または ON のとき	室内ブザー ● **ポーン**（1回）	 点滅		マルチインフォメーションディスプレイにお知らせしたい情報が表示されています。 ● メッセージの内容を確認してください。 → **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**
		 点灯	 点滅	ESP® のシステムに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）**
		 点灯	 点滅	燃料の残量が少なくなっています。 ● すみやかに給油してください。 → **3-73ページ（燃料残量警告灯）**
すべてのドアを閉めたとき エンジンをかけようとしたとき	室内/車外ブザー ● **ピー、ピー、**（約2秒間）	 点滅	 点滅	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。 ● リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → **4-8 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）** → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**
停車中／後退中	室内ブザー ● **ピー、ピー**	 表示		セレクトレバーが R に入っています。 ● セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-21ページ（（リバース）ポジション警告ブザー）**

いつ	ブザー	表示		説明
走行中	室内ブザー ●**ポーン** （1回）	 点灯	 点滅	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 ●安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 → **3-78ページ（半ドア警告灯）**
	室内ブザー ●**ピピピッ、ピピピッ、**	 BRAKE 点灯		パーキングブレーキが解除されていません。 ●パーキングブレーキを解除してください。 → **4-14ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）**
	室内ブザー ●**ピー、ピー、** （約95秒間）	 点滅		●運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、シートベルトを着用してください。 ●助手席の乗員がシートベルトを着用していません。ベルトを着用してください。 → **3-34ページ（シートベルト警告ブザー）**
パドルシフトスイッチを操作したとき	室内ブザー ●**ピピッ**	—		希望するギヤポジションに変速されていません。 ●車速に見あった適切なギヤポジションを選択してください。 → **4-18 ページ（マニュアルモードの使いかた）**

いつ	ブザー	表示	説明
エンジンスイッチをもどすとき	室内ブザー ●**ポーン**（1回）	 点滅	マルチインフォメーションディスプレイにお知らせしたい情報が表示されています。 ●メッセージの内容を確認してください。 → **3-106ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**
運転席ドアを開けたとき	室内ブザー ●**ピー、ピー、**	—	エンジンスイッチが ACC になっています。 ● LOCK（OFF）にもどしてください。 → **4-12ページ（エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー）**
	室内ブザー ●**ピーーー**	 点灯  点滅	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。 ●ライトを消してください。 → **3-120ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）**
	室内ブザー ●**ピッ、ピッ、**	—	故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしていずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされていません。 ●スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-13 ページ（ハンドルロック未作動警告ブザー）**

<table>
<tr><th>いつ</th><th>ブザー</th><th colspan="2">表示</th><th>説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">リクエストスイッチを押したとき</td><td>車外ブザー</td><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td rowspan="2">エンジンスイッチが ACC または ON になっています。
● LOCK（OFF）にもどしてください。
→ 4-12ページ（エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー）
携帯リモコンが車内にあります。
●リモコンを車外に持ち出してください。</td></tr>
<tr><td>●ピー
（約２秒間）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">携帯リモコンのロックスイッチを押したとき</td><td>車外ブザー</td><td>点灯</td><td>点滅</td><td>いずれかのドアが完全に閉まっていません。
●ドアを完全に閉めてください。
→ 3-8ページ（リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠）</td></tr>
<tr><td>●ピー
（約２秒間）</td><td>点灯</td><td>点滅</td><td>いずれかのドアが完全に閉まっていません。
●ドアを完全に閉めてください。
→ 3-3ページ（キーレスエントリー）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンの自動停止中</td><td>室内ブザー</td><td colspan="2" rowspan="2">－</td><td rowspan="2">ボンネットが開いたため、エンスト状態（※）になりました。
次の手順で対処してください。
①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れる。
②ボンネットを完全に閉める。
③エンジンスイッチを操作して再始動する。
→ 4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）</td></tr>
<tr><td>●ピー、ピー、</td></tr>
</table>

いつ	ブザー	表示	説明
エンジンの自動停止中	室内ブザー ●**ピー、ピー、**（約5秒間）	 いずれか点灯	次のいずれかの操作をしたため、エンジンが自動で再始動しました。 ●運転席シートベルトを外す ●運転席ドアを開ける 発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → **4-11 ページ（ハイブリッドシステムの止めかた）**
走行中	室内ブザー ●**ピピピピピ** または ●**ピーーーー**	 点滅	デュアルセンサーブレーキサポートが作動しています。ブレーキペダルを強く踏み込んでください。 → **4-54 ページ（デュアルセンサーブレーキサポート）**
停車中／徐行中	室内ブザー ●**ピピピピピ**		誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → **4-59 ページ（誤発進抑制機能）**

※エンスト状態になると、上記以外にも次の警告灯が点灯します。
・エンジン警告灯、パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯
→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

いつ	ブザー	表示		説明
エンジンスイッチがON のとき	室内ブザー ●**ポーン** （1回）	 点灯/ 点滅/ 消灯	 点滅	マルチインフォメーションディスプレイにお知らせしたい情報が表示されています。 ●メッセージの内容を確認してください。 → **4-31 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**
走行中	室内ブザー ●**ピッ、ピッ、**	N 点滅		セレクトレバーの位置と実際のギアが異なっています。 そのまま少し（2～3秒）待ってもセレクトレバー位置表示が切り替わらない場合は、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作をやり直してください。 ●切り替わらない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-16 ページ（セレクトレバーの動かしかた）**
走行中	室内ブザー ●**ピー、ピー、** （約5秒間）	 点灯		高電圧遮断機能が作動またはハイブリッドシステムに重大な故障が発生しました。 スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
走行中	室内ブザー ●**ピピピッ、ピピピッ、**	 点灯		ハイブリッドシステムに重大な故障が発生しました。 ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

いつ	ブザー	表示	説明
走行中	室内ブザー ●**ポーン** （1回）	 点灯	ハイブリッドシステムに故障が発生しました。 ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。 ●クリープ機能が働かない場合があります。坂道での発進はパーキングブレーキを使用してください。
走行中	室内ブザー ●**ポーン** （1回）	—	高電圧バッテリーの残量がなくなりました。セレクトレバーの位置を D にして走行し、高電圧バッテリーを充電してください。 ●クリープ機能が働かない場合があります。坂道での発進はパーキングブレーキを使用してください。
走行中	室内ブザー ●**ピッ、ピッ、** （約1秒間）	 点灯 N 点滅	●車両が前進している状態で、ブレーキペダルを踏まないでセレクトレバーを D 、 M 、 N から R へ操作した ●車両が後退している状態で、ブレーキペダルを踏まないでセレクトレバーを R 、 N から D 、 M へ操作した ブレーキペダルを踏んで完全に停車してから、セレクトレバーの操作をやり直してください。 → **4-16 ページ（セレクトレバーの動かしかた）**

いつ	ブザー	表示	説明
走行中	室内ブザー ●**ピッ、ピッ、**	N 点滅	システムに異常があります。異常が発生すると、次のようになります。スズキサービス工場で点検を受けてください。 ●走行中、セレクトレバーを操作しても変速できない ●車速が10 km/h 以下になると自動でN（ニュートラル）になる → **4-16 ページ（セレクトレバーの動かしかた）**

よくあるご質問（Q & A）

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

ドアの開閉

Q. キーレスエントリーが作動しない。

A. キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。
3-3ページの「**キーレスエントリー**」お読みください。

A. 携帯リモコンの電池が消耗しているときは、交換してください。
→ **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**

Q. ドアを開けたら警報が鳴る。

A. 警報装置（セキュリティアラーム）が作動しています。次のいずれかの操作で警報を止めてください。
・ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠する
・エンジンスイッチを ON にする
正しい取扱い方法や設定切替えについては、**3-16 ページ**の「**セキュリティアラーム （警報装置）**」をお読みください。

窓ガラス

Q. フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. デフロスタースイッチをご使用ください。
→ **5-3ページ（オートエアコン）**

Q. バックウインドーガラス内側のくもりを取りたい。

A. リヤデフォッガースイッチ（**5-10ページ**）をご使用ください。

タイヤ

Q. パンクした。

A. パンクの状態によっては、タイヤパンク応急修理セットをご使用いただくことで、応急修理ができます。
→ **7-2ページ（パンク）**

バッテリーあがり

Q. バッテリーがあがり、ハイブリッドシステムが起動できない。

A. 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、ハイブリッドシステムを起動してください。
→ **7-14ページ（鉛バッテリーあがりのときは）**

デュアルセンサーブレーキサポート

Q. デュアルセンサーブレーキサポートが作動するとき、作動しないときを知りたい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **4-54ページ（デュアルセンサーブレーキサポート）**

エンジンオイル

Q. エンジンオイルを交換したい。

A. 次の項目をお読みください。
→ **2-36ページ（エンジンオイルを交換するときは）**
→ **8-1ページ（サービスデータ）**

電装品

Q. ヘッドライトまたは制動灯が点灯しなくなった。

A. 電球を点検してください。
→ **7-20ページ（電球の点検）**
→ **7-21ページ（電球を交換するときは）**
→ **8-3ページ（電球の容量）**

Q. 電気装置が使用できなくなった。

A. ヒューズを点検してください
→ **7-16ページ（ヒューズが切れたときは）**

Q. 運転席パワーウインドーがオートで全開／全閉しなくなった。

A. パワーウインドーのはさみ込み防止機構の初期設定が必要です。**3-21 ページ**の「**はさみ込み防止機構の初期設定のしかた**」をお読みください。

MEMO

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

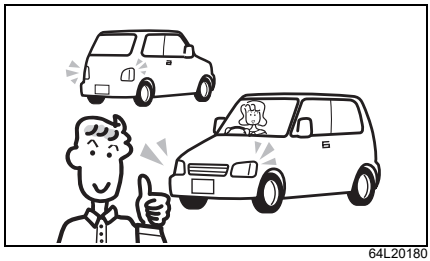
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、ESP®(※)、SRSエアバッグシステム、スズキセーフティサポートなどの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。
(※ESP® は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AGの登録商標です。)

出発の前に（お車の確認）…… 2-2
荷物を積むときは…… 2-5
お子さまを乗せるときは…… 2-6
植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ… 2-11
運転席にすわって…… 2-12
ハイブリッドシステムを起動するときは…… 2-14
走行するときは…… 2-15
駐車するときは…… 2-23
給油するときは…… 2-26
オートマチック車を運転するときは…… 2-28
SRSエアバッグ車を運転するときは…… 2-30
4WD車を運転するときは …… 2-32
こんなことにも注意して…… 2-33
エコドライブをしましょう…… 2-37

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に

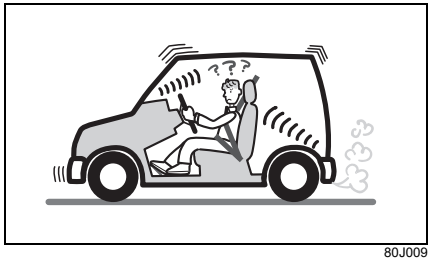


64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

→ **メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



80J009

⚠注意

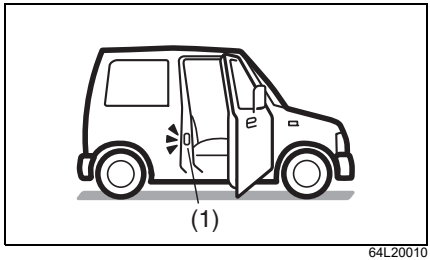
次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認できます。

  → **メンテナンスノート（日常点検）**

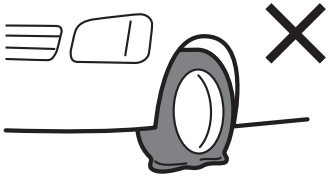


64L20010

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。

⚠警告

- **空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。**



72J20040

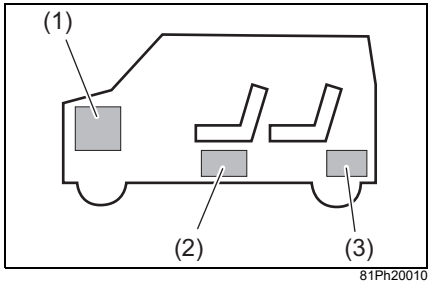
●指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。
・走行安定性が悪化する
・ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる
・タイヤ回転速度に悪影響をあたえて、次の機能が正常に作動しなくなる
・ABS
・ESP®
・エマージェンシーストップシグナル（ESS）
・アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）
・デュアルセンサーブレーキサポート
・誤発進抑制機能
・車線逸脱抑制機能

●4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

バッテリーについて

この車は、次のバッテリーを搭載しています。

- **鉛バッテリー**
  車の電源供給に使用されています。
- **リチウムイオンバッテリー**
  車の電装品に電気を供給するために使用されています。
- **高電圧バッテリー**
  駆動用モーターを駆動するために使用されています。



81Ph20010

(1) 鉛バッテリー
(2) リチウムイオンバッテリー
(3) 高電圧バッテリー

各バッテリーについて、次の「**鉛バッテリー**」、「**リチウムイオンバッテリー**」および「**高電圧バッテリー**」をお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

- 鉛バッテリー、リチウムイオンバッテリーまたは高電圧バッテリーは少しずつ放電します。バッテリーあがりを防ぐためには、1 か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。

■ 鉛バッテリー

この車に装備されている鉛バッテリーは、メンテナンスフリータイプです。

- メンテナンスフリータイプの鉛バッテリーは、バッテリー補充液の補充は不要ですが、ときどきバッテリーの状態を点検する必要があります。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 警告

バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。

注 記

この車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。ハイブリッドシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
- **バッテリー端子から電気製品の電源をとらない**

■ リチウムイオンバッテリー

ハイブリッド車専用のバッテリーで、助手席下にあります。

- リチウムイオンバッテリーは点検不要です。ただし、バッテリーあがりを防ぐためには、1 か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠ 警告

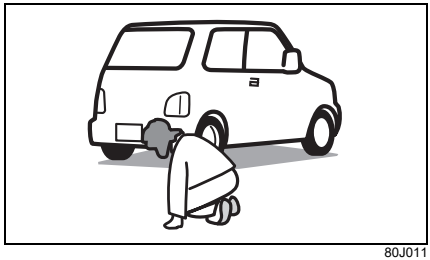
リチウムイオンバッテリーの取扱いを誤ると、火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあるため、次のことをお守りください。

- **取り外したり分解したりしない**
- **水などで濡らさない**
- **強い衝撃をあたえない**
- **上に乗ったり、荷物を載せたりしない**
- **バッテリー端子を外したり、端子から電気製品の電源をとったりしない**

■ 高電圧バッテリー

→ 4-105ページ
（高電圧バッテリー）

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠警告

●燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。



80J021

●インパネの上にものを置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席 SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

⚠注意

●セレクトレバーにものをかけたり、セレクトレバーをハンドレスト代わりに使用したりしないでください。セレクトレバーが正常に作動しなくなり故障の原因や思わぬ事故につながるおそれがあります。

●車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



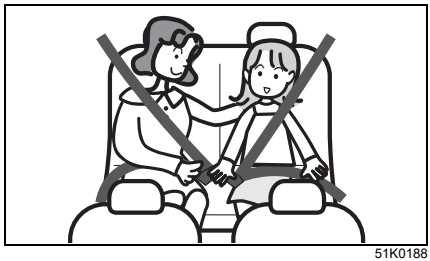
80J022

●動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

→ **2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-56ページ（お子さま用シートの選択 について）**

⚠ 警告

- **後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフをご使用ください。**

→ **3-16 ページ（チャイルドプルーフによる 施錠・解錠）**

- **お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。**
  - **助手席を一番後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  - **SRSサイド/カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。**



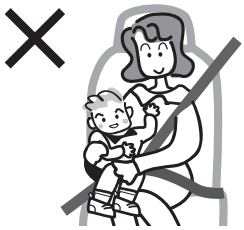
80J062

- **お子さまがアームレストやシート下のレール部分など車内の可動部に手や足などを近づけないように注意してください。はさまれてけがをするおそれがあります。**

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

- お子さまをしっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。ひざの上にお子さまを抱かないでください。



80J081

- シートベルトを装着しないと、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用すると、急ブレーキ時や衝突時などにシートベルトが本来の効果を発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- この車のシートベルトは成人サイズの乗員に適するように設計されています。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。



80J082

- ベビーシートを使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない



80J028

⚠ 警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- 安全のため、チャイルドシートおよびジュニアシートも後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

→ **3-56ページ（お子さま用シートの選択 について）**

- 助手席サンバイザーの両面には、助手席 SRS エアバッグ装備車にお子さま用シートを取り付ける場合の禁止事項などを示した警告ラベルが貼られています。お子さま用シートをご使用の前に、**2-31ページ**の「**助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル**」を必ずお読みください。
- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  - ・シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート

→ **3-62ページ（お子さま用シートの シートベルトによる固定）**

  - ・ISOFIXタイプのお子さま用シート

→ **3-65ページ（お子さま用シートのISOFIXアンカーによる固定）**

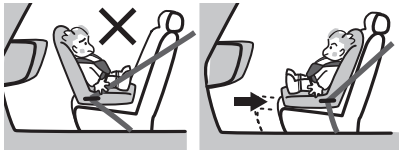
  - ・テザーベルト付きお子さま用シート

→ **3-67ページ（お子さま用シートのテザーアンカーによる固定）**

- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートには、スズキ純正品をおすすめします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

●助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。



80J027

●お子さま用シートが正しく取り付けられていないと、事故の際お子さまやその他乗員が重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さま用シートは必ず本書とお子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがい、確実に取り付けてください。

●お子さまの体が正しく固定されていないと、事故の際お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずお子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。

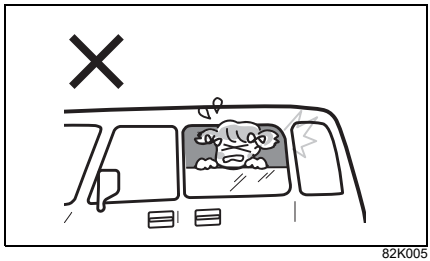
●SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。
●お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
●後席でお子さま用シートを使用するときに、前席がお子さまの足やお子さま用シートと干渉していると、事故の際お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。干渉しないよう前席を調整してください。
●万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。

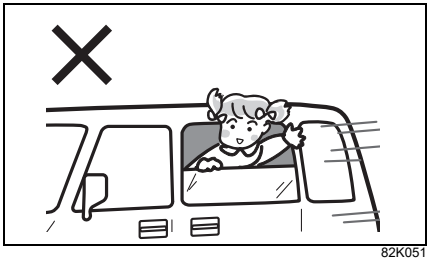


82K005

⚠警告

●パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。
→ 3-19ページ
(ウインドーロックスイッチ)
●車から離れるときは、お子さまがパワーウインドーを操作することがないように、必ずエンジンスイッチをOFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に離れてください。

窓から顔や手を出さない



82K051

⚠警告

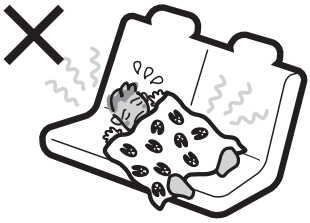
お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

⚠警告

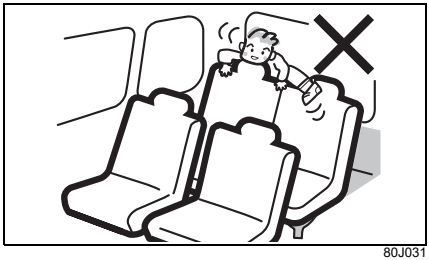
車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



80J031

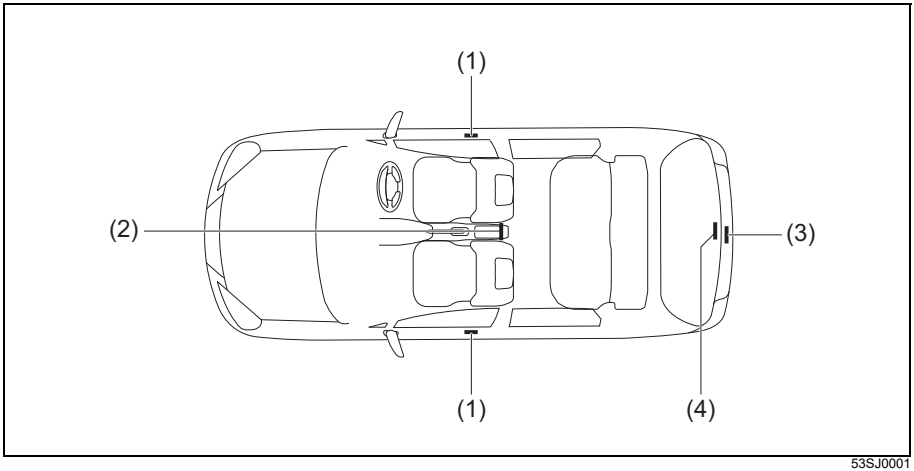
⚠警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。
道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

⚠警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステムの各発信機（下図参照）から約 22 cm 以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。**
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステムの電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**
- **詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。**

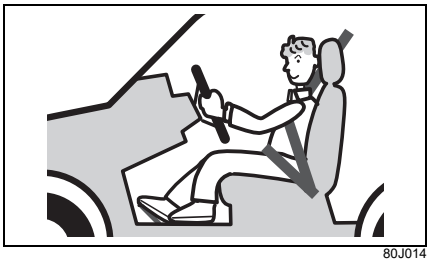


53SJ0001

(1) 前席ドア車外発信機
(2) 車室内発信機
(3) バックドア車外発信機
(4) 荷室発信機

運転席にすわって

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



80J014

⚠警告

●走行中にハンドルの調節やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 3-25 ページ（テレスコピック & チルトステアリング）
→ 3-26ページ（前席シート）
→ 3-22ページ（ルームミラー）
→ 3-23ページ（ドアミラー）

●背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。



74P0210

⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

シートベルトは正しく着用



70K216

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。
  → **2-12ページ（正しい運転姿勢）**

⚠警告

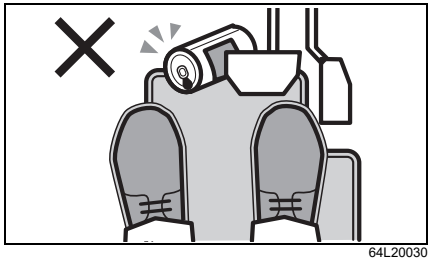
●走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
●背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

●助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。



77R20050

運転席の足元付近にものを置かない

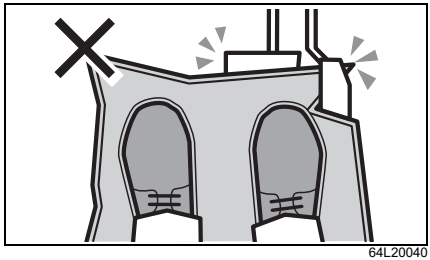


64L20030

⚠警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車にあったフロアマットを適切に使用する



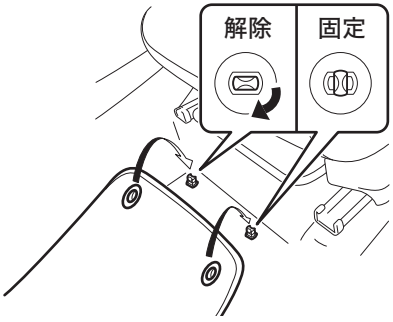
64L20040

⚠警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **足元の形にあわないフロアマットを使わない**
- **フロアマットを重ねて敷かない**
- **フロアマットは固定具などで確実に固定する**

スズキ純正フロアマットの例



76S00029

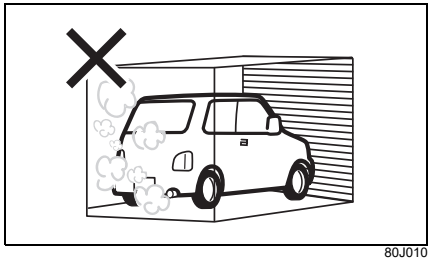
※運転席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。
各穴にファスナ・ノブを通して、ファスナ・ノブをロック位置に回して確実に固定してください。

アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

ハイブリッドシステムを起動するときは

換気が悪いところでハイブリッドシステムを起動したままにしない

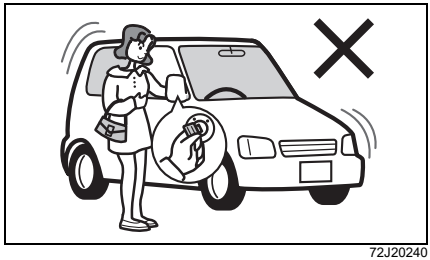


80J010

⚠警告

- **車庫の中など、換気が悪いところでハイブリッドシステムを起動したままにしないでください。エンジンが停止していてもお車の状態により自動で再始動して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **エンジンがかかった状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。**
- **車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。**

窓越しのハイブリッドシステムの起動はしない



72J20240

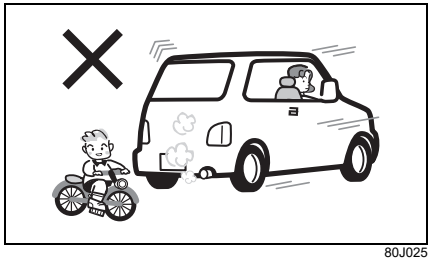
運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからハイブリッドシステムを起動してください。

⚠警告

窓越しのエンジンスイッチ操作はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
→ 4-9ページ（ハイブリッドシステムの起動）

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

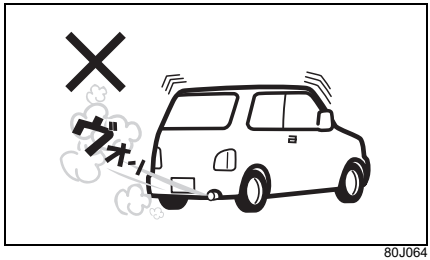


80J025

⚠注意

- **周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。**
- **バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車から降りて自分の目で後方を確認してください。**

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



80J064

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。

→ 2-37ページ
（エコドライブをしましょう）

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

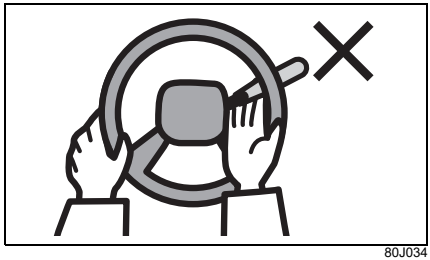


85K2114

⚠ 警告

- **運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **運転者は、走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠ 警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

⚠注意

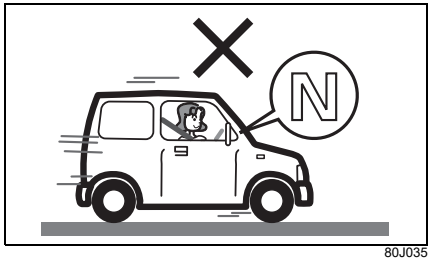
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

アクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたとき

アドバイス

走行中にアクセルペダルとブレーキペダルの両方が踏み込まれたときに、ブレーキ効果を優先させるため、ブレーキオーバーライドシステムによりエンジン出力が抑制される場合があります。

走行中はニュートラルにしない



80J035

⚠注意

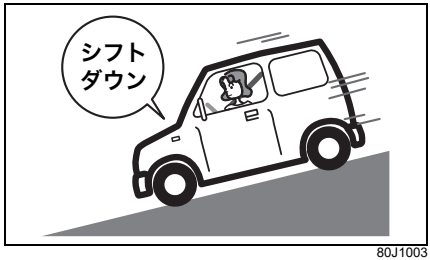
緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N（ニュートラル）にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度にあわせて、次のようにします。

- セレクトレバーを M に入れて、適切なギヤポジションにシフトダウンします。
  → **4-18ページ（マニュアルモードの使いかた）**
- マニュアルモードでは、パドルシフトスイッチ（－側）を操作して、適切なギヤポジションにシフトダウンします。
  → **4-18ページ（マニュアルモードの使いかた）**

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

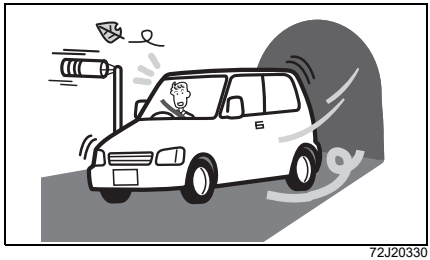


80J1003

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

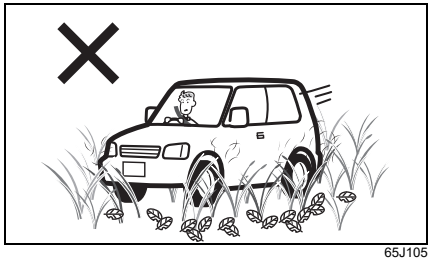
横風が強いときは



72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通りすぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

草の生い茂った場所は走行しない

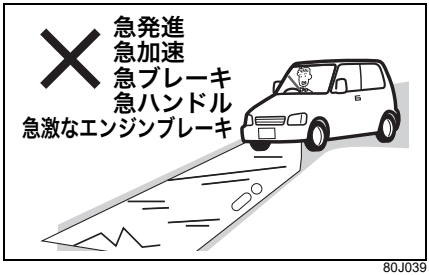


65J105

⚠ 警告

草などが駆動系部品や排気管にからまると、駆動装置が損傷したり、火災につながったりするおそれがあります。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

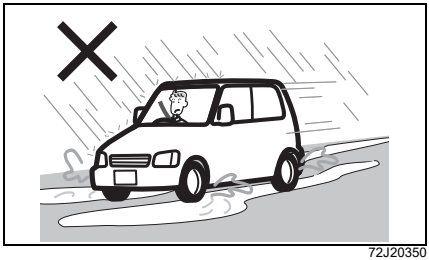


80J039

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

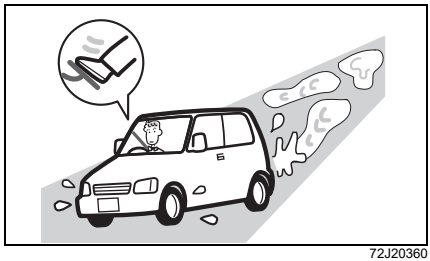


72J20350

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



72J20360

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない

注 記

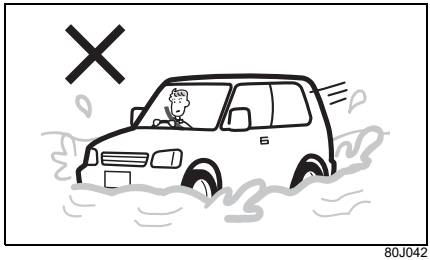
大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。
- **エンストする。**
- **電装品がショートする。**
- **エンジンやトランスミッションの損傷等**

やむをえず冠水した道路を走行するときは、水深に応じて対応してください。
- 水深が床面より下のとき、低速で慎重に走行してください。水深がより深い箇所には侵入しないでください。
- 水深が床面より上のとき、すみやかに安全な場所に停車し、車外に出てください。

冠水状態から急激に増水したときは水没したときの対応をしてください。
→ **7-34ページ（水没したときは）**

アドバイス

水深が床面より下のときでも速度が速くなると車が停止するおそれがあります。



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。
- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注 記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - ・セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  - ・数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- ESP®装備車では、トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、ESP® OFF スイッチを操作してトラクションコントロールを作動停止の状態にしてください。

→ **4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）**

- ALLGRIP（4WD）モードをLOCKモードに切替えてください。

→ **4-28 ページ（ALLGRIP（4WD）モードの切替え）**

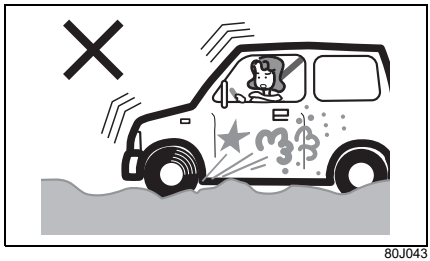
⚠警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注記

●ALLGRIP（4WD）モードをLOCKモードに切替えてください。LOCKモード以外で脱出しようとすると、駆動装置などが損傷するおそれがあります。

●タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  警告メッセージが表示されたら？
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。

→ **3-71ページ（警告灯）**
→ **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

●タイヤが突然パンクしたら？
ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。

→ **7-2ページ（パンク）**

●ブレーキペダルが重く感じたら？
車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

●ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？
すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（スズキ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠警告

金属音が発生したまま走行を続けないでください。ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

●ブレーキ操作の感じがいつもと違ったら？

⚠注意

次の様な状況を感じたら、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキの効きが悪い**
- **ブレーキの効きに左右差がある**
- **ブレーキペダルの踏込量が大きい**
- **ブレーキのひきずり感がある**

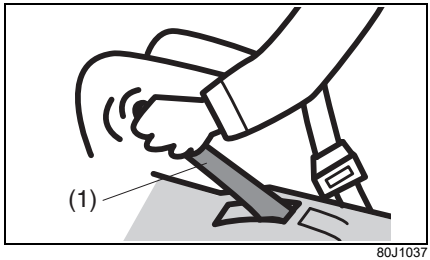
駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

⚠警告

駐車時はパーキングブレーキをかけて、セレクトレバーを P に入れてください。ハイブリッド車には通常の車のようなエンジン音や振動がないことがあるため、走行できる状態であることに気づかず、思わぬ事故につながる可能性があります。

■ 平らな場所に駐車するときは



80J1037

(1) パーキングブレーキレバー

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。
→ **4-13 ページ（パーキングブレーキの操作）**

2 セレクトレバーを P に入れます。
・ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。
→ **4-15ページ（セレクトレバーの操作）**

⚠注意

●平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のためセレクトレバーを P に入れてください。
●寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。
→ **6-19ページ（パーキングブレーキ）**

■ 坂道に駐車するときは

1、2は、平らな場所に駐車するときと同じです。

3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠警告

急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン作動中、冷却ファン（ラジエーターファン）が突然、回転することがあります

エンジンルーム内の冷却ファン（ラジエーターファン）は、エンジン冷却水の温度条件により、自動で停止したり回転したりします。

⚠警告

エンジン作動中は、冷却ファン（ラジエーターファン）が停止していても、自動で回転しはじめることがあるため、冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

エンジン停止後に冷却ファン（ラジエーターファン）が回転することがあります

エンジン冷却水温が高い場合、エンジンを停止させたあとでもエンジンルーム内の冷却ファン（ラジエーターファン）が回転し続けますが、異常ではありません。冷却水の温度が下がると、自動的に冷却ファンが停止します。

⚠警告

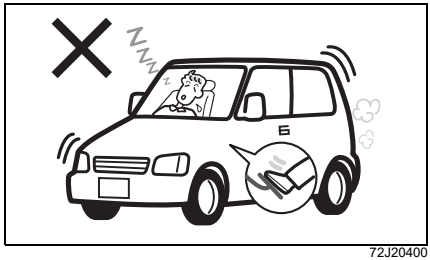
回転中の冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

車を移動するときはハイブリッドシステムを起動して

⚠注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

ハイブリッドシステムを起動したまま仮眠しない



72J20400

⚠警告

- **周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。**

燃えやすいものの近くに駐車しない

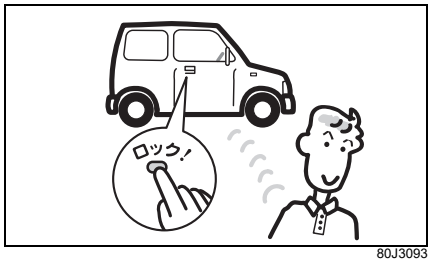


80J046

⚠ 警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはハイブリッドシステムを停止してドアを施錠



80J3093

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

⚠ 警告

ハイブリッドシステムを作動させたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

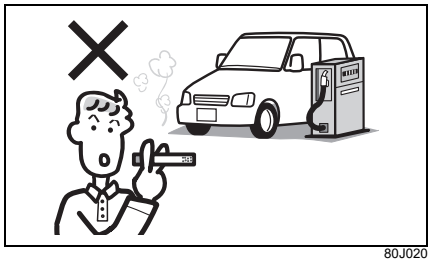
⚠ 警告

- **炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**
- **操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**

給油するときは

→ 5-16ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

⚠警告

給油するときは、必ず次のことをお守りください。

- ハイブリッドシステムを停止してください。
- ドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

  ※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。

⚠ 警告

- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。



61M0155

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示にしたがってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをカチッという音が2回以上するまで閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- そのほか、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、そのほかの燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-15ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「AGS 車（オートギヤシフト車）」を示しています。

クリープ現象に注意して

ハイブリッドシステムを起動して停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- **セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

AGS車もクリープ現象があります。

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

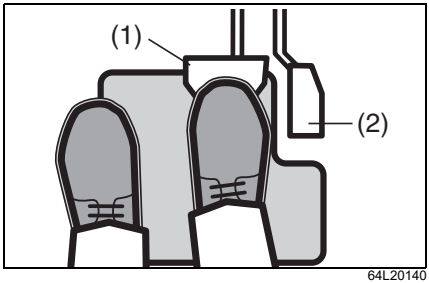
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。
- セレクトレバーを操作したときに、セレクトレバー位置表示が点滅し、警告ブザーが鳴った場合、セレクトレバーの位置と実際のギアにずれが生じています。そのまま少し（2～3秒）待っても切り替わらないときは、ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーの操作をやり直してください。
- セレクトレバーの位置とメーター内の表示が異なる場合、メーター内の表示が正しいギヤの位置を示しています。

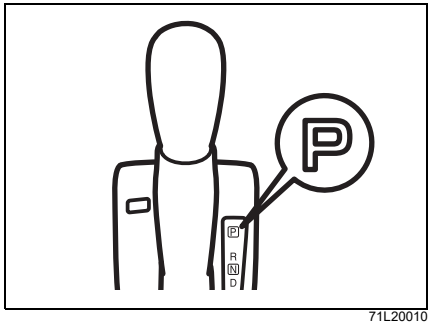
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



71L20010

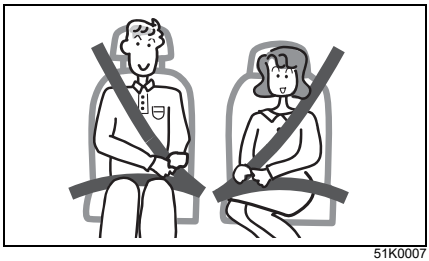
⚠ 警告

ハイブリッドシステムを作動させたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-43 ページ**の「**SRS エアバッグ車を 運転するときは**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



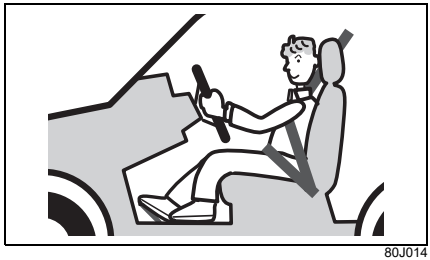
51K0007

⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

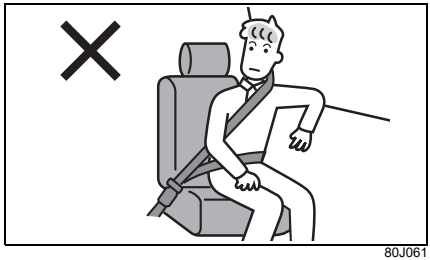
瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。



80J014

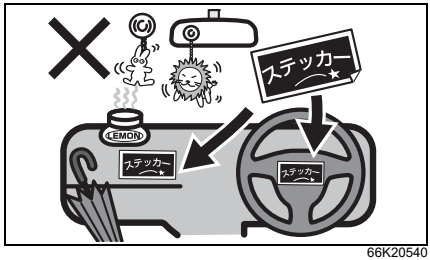
⚠ 警告

- **ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。**



80J061

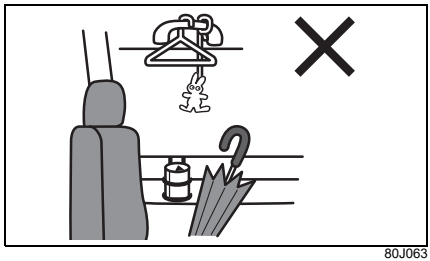
SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠ 警告

●ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。
●インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。
●フロントガラスやルームミラーにアクセサリー(スズキ純正用品を除く)などを取り付けないでください。
●SRS サイドエアバッグ装備車の場合、前席にシートカバーを取り付けないでください。SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
●SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、ものが飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J063

助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。
この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくお読みになり、適切に取り付けてください。



72M00150

⚠ 警告

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席SRSエアバッグ装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席SRSエアバッグがふくらむと、後ろ向きお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱説明書（本書）を読むことを指示 → **2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）** → **3-56 ページ（お子さま用シートの選択 について）**

4WD車を運転するときは

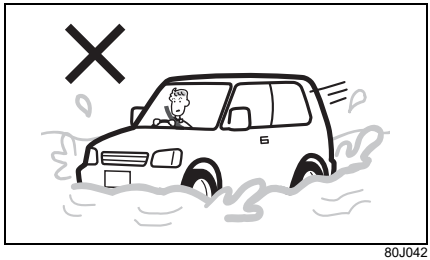
4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や水中走行をしないでください。**



80J042

こんなことにも注意して

車検を受けるときの注意

ESP® 装備車をテスターに載せる場合は、ESP® OFF スイッチを操作して、次の機能を作動停止の状態にしてください。

→ **4-38ページ（ESP® OFF表示灯）**

- トラクションコントロールおよびスタビリティコントロール
- デュアルセンサーブレーキサポート
- 誤発進抑制機能

詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチを操作しても、ESP® は作動停止（OFF）しません。

マッチ、タバコの火は確実に消す

⚠ 警告

●マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿（別売り）は完全に閉めてください。
●灰皿（別売り）の中に吸いがらをためすぎたり、紙など燃えやすいものを入れたりしないでください。

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

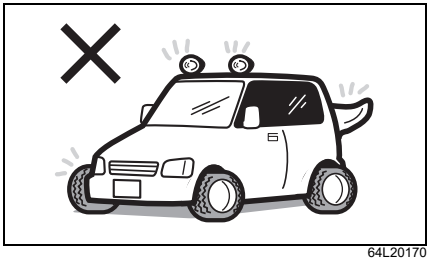
段差などに注意して

注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

●路肩など段差がある場所への乗り入れ
●わだちやくぼみなどがある道路の走行

不正改造はしない



64L20170

⚠ 警告

- この車に適さない部品を取り付ける、あるいは自己流の調整や配線をするなどの改造をしないでください。
  火災や事故につながるおそれがあります。また、取扱い、性能、耐久性に悪影響をあたえたり、法令に違反したりするおそれがあります。
- 無線機、ナビゲーション、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取り付け、取り外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品のはたらきをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールボルトは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にボルトがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注 記

- LEDヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - ・サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）
  - ・指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着
- この車に無線機を搭載する前には、周波数、最大出力、車へのアンテナ位置、搭載や使用のための具体的な条件について、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談することをおすすめします。
  無線機が不適切に搭載された場合や、無線機がこの車に適さない場合には、車の電子制御系が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- お車の故障診断コネクターには、指定の点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。指定以外の機器を接続すると、電子部品のはたらきをさまたげたり、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。

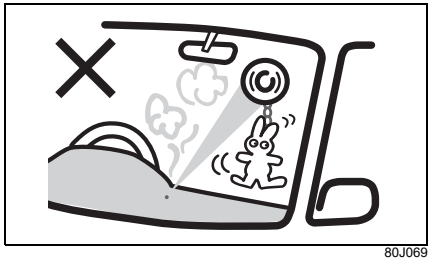
部品の取り付け、取り外し、修理をするときは

⚠ 警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。
次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取り付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席の交換およびシートまわりの修理
- フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取り付けに気をつけて



80J069

⚠ 警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーが飛んでけがのおそれがあります。

飲み物などをこぼしたときは

⚠ 警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **SRSエアバッグシステム**
- **ナビゲーションまたはオーディオ**
- **スイッチ、配線などの電気部品**
- **セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分**

注 記

助手席のシートクッションには、シートベルトリマインダーのセンサーが内蔵されています。シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。助手席のシートベルトリマインダーセンサーが損傷する恐れがあります。

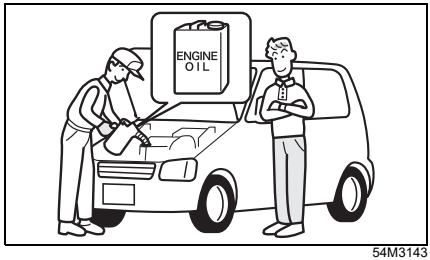
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは **15,000km** ごと、または **12か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは **15,000km** ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
  → **メンテナンスノート**

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



54M3143

■ エンジンオイルの規格／粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表1、表2 をそれぞれみたすオイルを使用してください。オイルは、スズキ純正オイルのご使用をおすすめします。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**

表1

規格		オイル性能
API（※1）/ ILSAC（※2）	SP/GF-6相当	高
	SN/GF-5相当	
	SM/GF-4相当	
	SL/GF-3相当	

表2

規格	全車共通
SAE粘度（※3）	0W-16
	0W-20
	5W-30

※1　API規格とは、American Petroleum Institute が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。

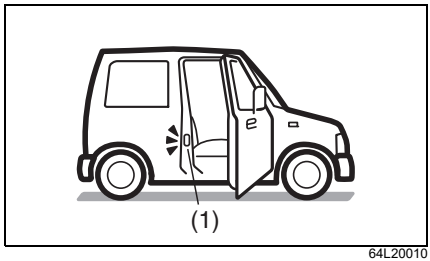
※2　ILSAC規格とは、International Lubricant Specification Advisory Committeeが定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API 規格をベースに省燃費・耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。

※3 SAE 粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字（W の付く数字）は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

エコドライブをしましょう

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認のうえ、調整してください。



64L20010

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間、お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（−10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

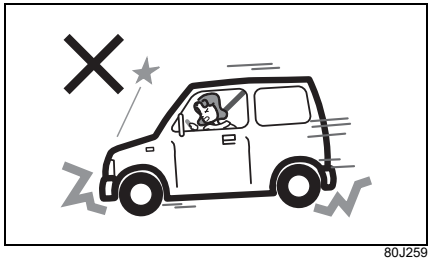
注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

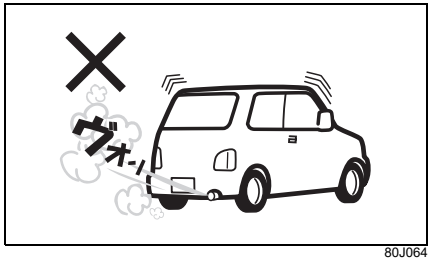
状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5 分間で 160 mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



80J259

空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

MEMO

3. 運転する前に

● **ドアの開閉**
キー ····· 3-2
キーレスエントリー ····· 3-3
携帯リモコン ····· 3-5
ドア ····· 3-11

● **警報装置**
セキュリティアラーム（警報装置） ····· 3-16

● **ウインドーの開閉**
パワーウインドー ····· 3-18

● **各部の調節**
ルームミラー ····· 3-22
ドアミラー ····· 3-23
テレスコピック＆チルトステアリング ····· 3-25

● **シートの調節**
前席シート ····· 3-26
後席シート ····· 3-29

● **シートベルト**
シートベルトについて ····· 3-33
シートベルトの着用のしかた ····· 3-35
シートベルトの取扱いとお手入れ ····· 3-39
シートベルトプリテンショナー
（前席および後席左右） ····· 3-40
シートベルト可変フォースリミッター
（前席のみ） ····· 3-42
シートベルトフォースリミッター
（後席左右） ····· 3-42

● **SRSエアバッグ**
SRSエアバッグ車を運転するときは ····· 3-43
SRSエアバッグシステムの取扱い ····· 3-47
SRSエアバッグシステムの作動 ····· 3-50
SRSエアバッグ警告灯 ····· 3-55
廃棄と廃車 ····· 3-55

● **お子さま用シート**
お子さま用シートの選択について ····· 3-56
お子さま用シートの
シートベルトによる固定 ····· 3-62
ISOFIX対応お子さま用シートの固定 ····· 3-64

● **メーター**
メーターの見かた ····· 3-68
警告灯・表示灯の見かた ····· 3-71
マルチインフォメーションディスプレイ ····· 3-88

● **スイッチの使いかた**
ライトスイッチ ····· 3-118
フォグランプスイッチ ····· 3-121
方向指示器スイッチ ····· 3-122
非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-122
ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-123
ホーンスイッチ ····· 3-126
エコモードスイッチ ····· 3-126

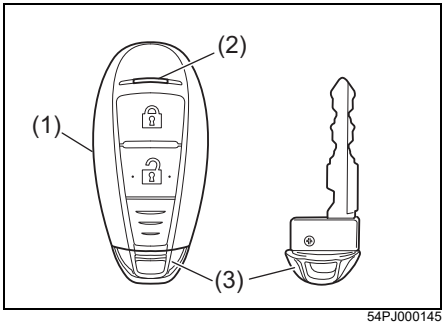
キー

- キーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動・停止には使えません。エンジンの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。

  → **4-9ページ（ハイブリッドシステムの起動）**

- キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。
- 携帯リモコン（1）が 2 個、リモコンに格納可能なキー（3）が 2 本ついています。

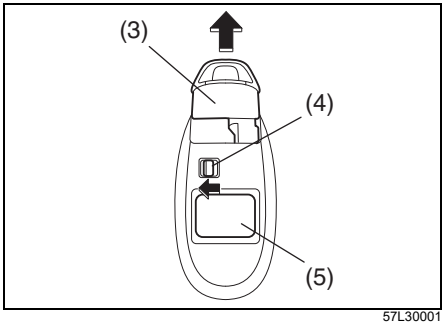
  → **3-5ページ（携帯リモコン）**



54PJ000145

(2) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（3）は、ロック解除レバー（4）を ◀ 方向に引きながら取り出します。



57L30001

(5) 適合証明マーク

⚠警告

リモコンキーを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

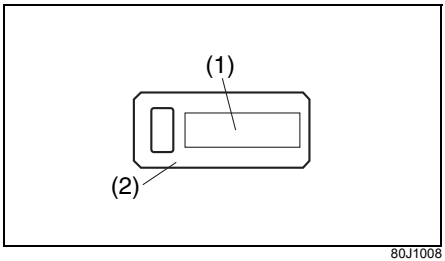
※リモコンキーは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーのご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（2）には、キー作成時に必要なキーナンバー（1）が打刻されています。



80J1008

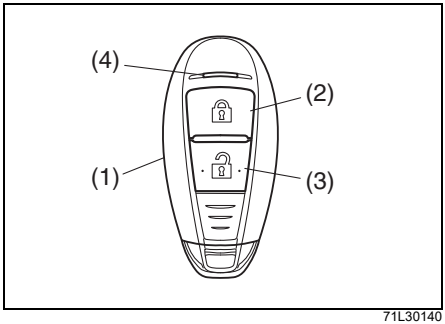
アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

キーレスエントリー

車から約 2m 以内の範囲で携帯リモコンのロックスイッチ・アンロックスイッチを押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



71L30140

(1) 携帯リモコン
(2) ロックスイッチ
(3) アンロックスイッチ
(4) 作動表示灯

⚠ 警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

注 記

リモコンキーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。（解錠はできます）車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき。
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。

  → **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**
- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯（スイッチがDOOR位置）		約15秒間点灯	2回点滅	約15秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約 15 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。

  → **5-20ページ（室内灯）**
- キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、車外ブザーも鳴ります。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴		

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。また、次の合図が別々にカスタマイズできます。
  - ・非常点滅表示灯／室内灯による合図
  - ・車外ブザーによる合図
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、車外ブザーによる合図を停止することができます。

→ **3-102 ページ（セッティングモード）**

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）

→ **3-16 ページ（セキュリティアラーム （警報装置））**

アドバイス

リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

携帯リモコン

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。
また、そのほかに次の機能があります。

- キーレスエントリー

→ **3-3ページ（キーレスエントリー）**

- エンジンスイッチによる始動および電源の切替え

→ **4-5 ページ（キーレスプッシュスタートシステム）**

- イモビライザー（車両盗難防止装置）

→ **4-4ページ（イモビライザーシステム）**

注 記

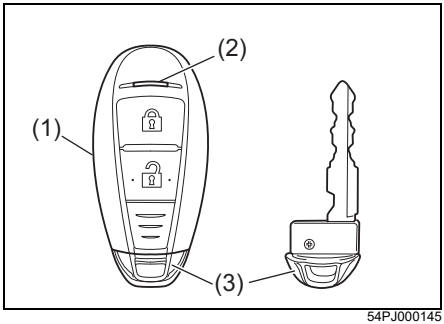
携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話やほかのリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。
必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
・近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
・携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
・携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
・近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
・コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

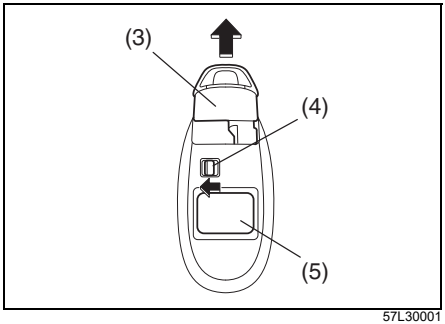
携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（3）が2本ついています。



54PJ000145

(2) 作動表示灯

● リモコンに格納されているキー（3）は、ロック解除レバー（4）を ⬅ 方向に引きながら取り出します。



57L30001

(5) 適合証明マーク

⚠注意

リモコンキーは電波法の認証に適合しています。次のことをお守りください。
●日本国内でのみご使用ください。
●携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。
●適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。

注 記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。

→ **6-9ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ 携帯リモコン電池消耗警告

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。電池を交換してください。

→ **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**



53SJ0056

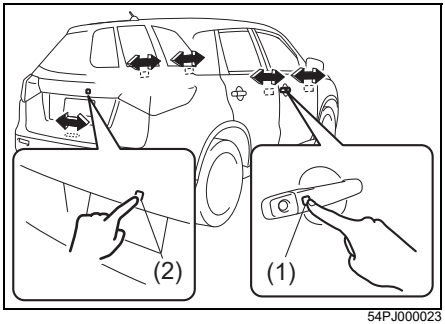
アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、メッセージを表示させなくすることもできます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「**リクエストスイッチの作動範囲**」（**3-9 ページ**参照）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



54PJ000023

(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

⚠ 警告

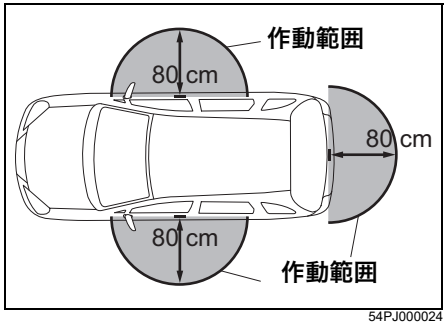
火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

アドバイス

- 次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
  - いずれかのドアが開いている
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
  → **3-4ページ（アンサーバック機能）**
  → **3-5ページ（タイマーロック機能）**
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

リクエストスイッチの作動範囲（車外）

前席ドアまたはバックドアのリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約 80cm 以内です。



54PJ000024

アドバイス

- **「リクエストスイッチの作動範囲」**で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
  - ・携帯リモコンの電池が消耗している
  - ・携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - ・携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - ・携帯リモコンがドアに近づきすぎている
  - ・携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている
- リクエストスイッチの作動は、携帯リモコンが作動範囲にあるドアのみとなります。例えば、運転席ドアの作動範囲にリモコンがあると、運転席ドアにあるリクエストスイッチは作動しますが、助手席ドアおよびバックドアにあるリクエストスイッチは作動しません。
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約 2 秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- エンジンスイッチが ACC または ON の状態で携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  - ・携帯リモコンを車内に置き忘れている
  - ・いずれかのドアが開いている

→ **3-71ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

エンジンスイッチを LOCK（OFF）にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」（**3-14 ページ**参照）で、携帯リモコンを閉じ込めてしまうのを防止する機能です。

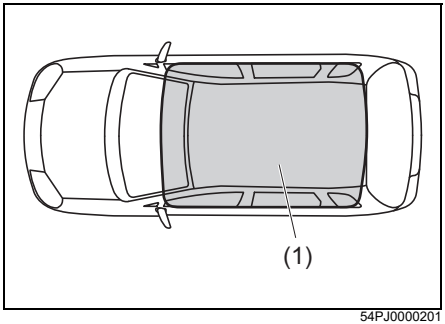
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、**「キーを使わない施錠」**ですべてのドアを施錠しようとすると、自動的にすべてのドアが解錠されます。

アドバイス

- **「キーを使わない施錠」**をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込めてしまうおそれがあります。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- 鉛バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「車内の検知範囲」（1）は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



54PJ0000201

アドバイス

- **「車内の検知範囲」**に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
  - ・携帯リモコンの電池が消耗している
  - ・携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - ・携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - ・携帯リモコンが次のような小物入れの中にある
    - ・グローブボックス
    - ・インパネトレー（運転席）
    - ・インパネボックス（運転席）
    - ・ドアポケット
  - ・携帯リモコンがメーターの手前やサンバイザー、床にある

●「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
・車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
・携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

ドア

⚠警告

●ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。
●エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
●火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

⚠注意

●ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。
●ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。
●バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
●エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。

アドバイス

- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。

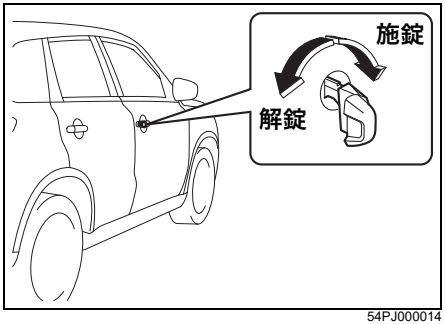
→ **3-16 ページ（セキュリティアラーム （警報装置））**

キー操作による車外からの施錠・解錠

→ **3-3ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-5ページ（携帯リモコン）**

■ 運転席ドア

キーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

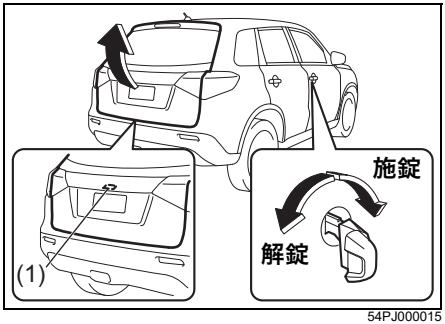


54PJ000014

■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

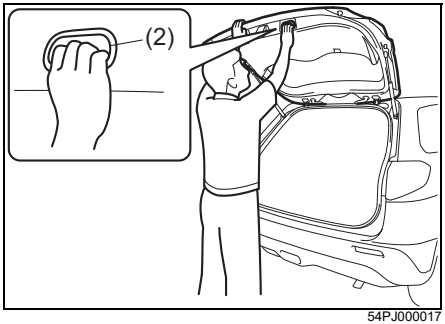
- バックドアを開けるときは、解錠後、バックドアオープナースイッチ（1）を押しながらドアを持ち上げます。



54PJ000015

バックドアを閉めるときは

ドア下面右側の手かけ部（2）を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押し付けます。



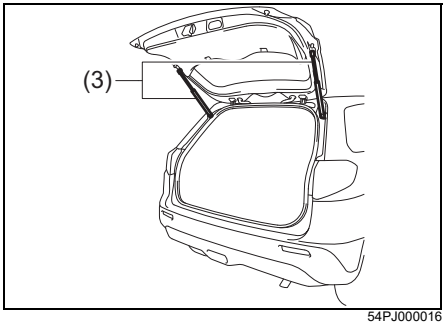
54PJ000017

- バックドアオープナースイッチを押したあと、ドアを少し開け、すぐに閉めた場合、完全に閉まらず半ドア状態になります。もう一度バックドアを開け、しばらくしてから閉め直してください。

⚠注意

バックドアをささえているダンパーステー（3）の損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドア開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、ものをかけたりしないでください。**

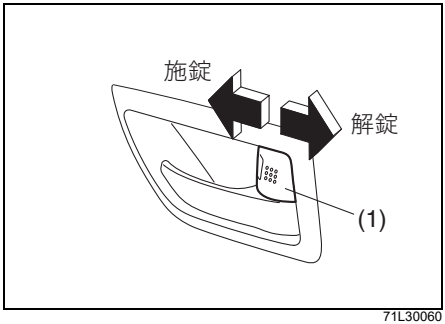


54PJ000016

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、後席ドア

ドアを閉めてロックレバー（1）を施錠側にすると施錠、解錠側にすると解錠できます。



71L30060

アドバイス

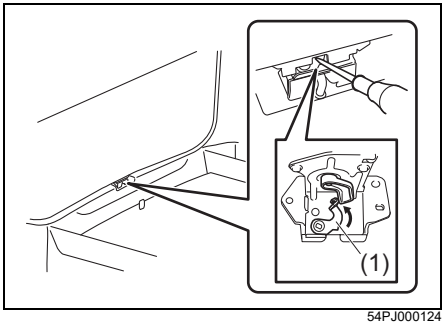
- 解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。
- 運転席ドアのロックレバーには、パワードアロック機能がありません。
  → **3-15ページ（パワードアロック）**

■ バックドア

故障や鉛バッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。
緊急を要するときは、次の手順で解錠してください。

1 後席の背もたれを倒すなどして、作業スペースを確保します。
→ **3-31ページ（背もたれの倒しかた）**

2 ジャッキバーの先端やマイナスドライバー（市販品）など先が細く平たいもので、エマージェンシーレバー（1）を押したままバックドアを内側から押し開きます。
バックドアを閉めると、再び施錠されます。



54PJ000124

⚠注意

●エマージェンシーレバーを指などで操作しないでください。けがのおそれがあります。
●バックドアを内側から押し開くときは、車の後ろに人がいないことやものがないことを確認してください。バックドアが勢いよく開き、人やものに当たるおそれがあります。

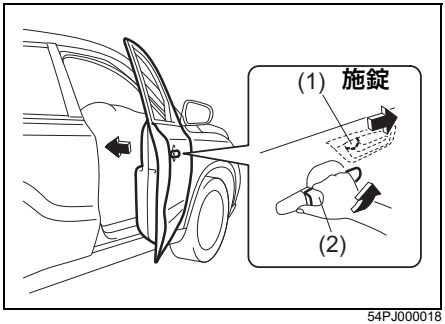
キーを使わない施錠

アドバイス

●「**キーを使わない施錠**」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。
●次のような状況では、「**キーを使わない施錠**」ができない場合があります。
・携帯リモコンが車内にある
・エンジンスイッチが ACC または ON のとき
→ **3-10ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**

■ 前席ドア

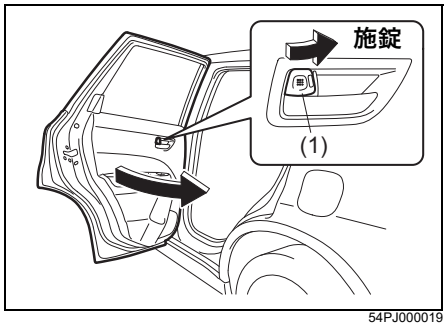
ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアハンドル（2）を引いたままドアを閉めると施錠できます。



54PJ000018

■ 後席ドア

ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアを閉めると施錠できます。

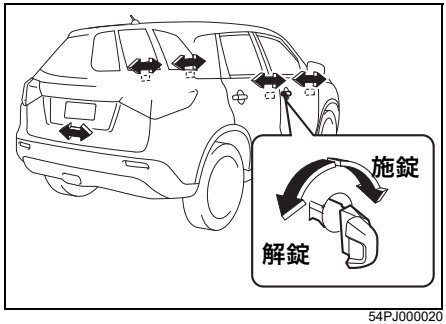


54PJ000019

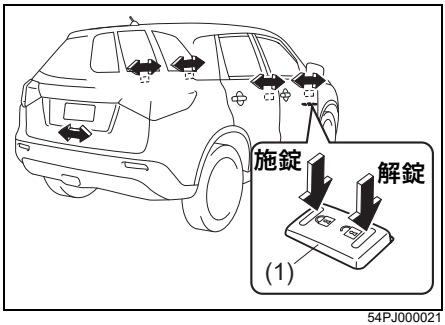
キーまたはパワードアロックスイッチ操作によるパワードアロック

→ **3-3ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-5ページ（携帯リモコン）**

運転席ドアをキーまたはパワードアロックスイッチ（1）操作で施錠・解錠すると、助手席／後席／バックドアも同時に施錠・解錠します。



54PJ000020



54PJ000021

アドバイス

- 前席のドアが開いていると、パワードアロックスイッチ操作で施錠できない場合があります。
  → **3-10 ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**
- エンジンスイッチが ON のときは、キー操作で助手席／後席ドアの施錠ができません。

■ ドアロック解除機能

衝突などで SRS エアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

- SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときも、ドアロック解除機能が作動します。

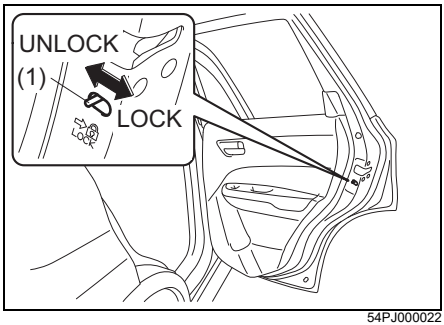
アドバイス

エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

チャイルドプルーフによる施錠・解錠

車内から後席ドアが開かないようにできます。お子さまなどによるドア誤開放を防止するために使用してください。

- 後席ドアにあるレバー（1）を **LOCK**（開かない）の位置にして、ドアを閉めます。車内のドアハンドルで開けることはできません。
- 外からドアを開けることは可能です。



54PJ000022

(1) レバー

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。
セット状態にて、リクエストスイッチまたはキーレスエントリー以外のもの（※）で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※キーやロックレバーを含む

- 工場出荷時は、＜**警報あり（Dモード）**＞になっています。任意で＜**警報なし（Aモード）**＞に切替えてください。

  → **3-18ページ（モード設定の切替えのしかた）**

- 警報を誤作動させたときは

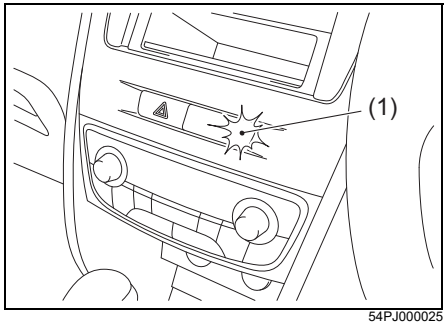
  → **3-17ページ(警報の停止のしかた)**

アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを＜**警報なし（Aモード）**＞に切替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた（Dモード）

ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター（1）が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。
セット中は、セキュリティアラームインジケーターが約2秒間隔で点滅します。



54PJ000025

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーやパワードアロックスイッチで解錠し、いずれかのドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバー、パワードアロックスイッチで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。（**警報なし（Aモード）**時を除く）

→ **3-5ページ（タイマーロック機能）**

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、次のいずれかの操作を行なってください。警報を途中で停止できます。

- ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠する
- エンジンスイッチを ON にする

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態で鉛バッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを ON にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

＜警報あり（D モード）＞と**＜警報なし（A モード）＞**の２つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

＜警報あり（Dモード）＞（工場出荷時）
非常点滅表示灯が約 40 秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。作動中は、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

＜警報なし（Aモード）＞
警報は作動しません。

モード設定の切替えのしかた

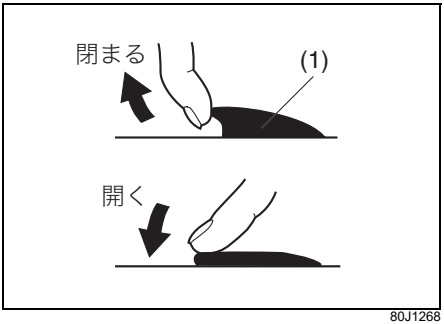
アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、モード設定を切替えることができます。

→ **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

パワーウインドー

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



80J1268

⚠警告

●ウインドーの開閉操作をするとき、誤って手足や首などが挟み込まれるおそれがあります。
- **運転者は自身だけでなく他の乗員にもウインドー開閉操作に注意を払わせてください。**
- **お子様にはウインドースイッチを操作させないでください。**
- **お子様を乗せているときは常にウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。**
  → **3-19ページ（ウインドーロックスイッチ）**
- **車から離れるときは必ずエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子様と一緒に離れてください。**
- **運転席で他席のウインドーを開閉するときは、開閉操作の前に、他の乗員やお子さまが、手や顔を出していないかを必ず確認し、声かけをしてから操作してください。**

●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注 記

鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

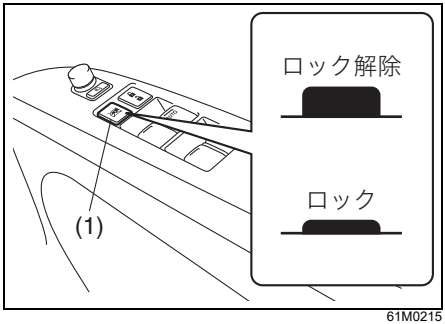
アドバイス

- お子さまを乗せているときは、はさみ込み事故を未然に防ぐため、お子さま用シートを使用し、ウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。
- 走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
  後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
  ・前席ウインドーも開ける
  ・後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチ（1）を押し込むと、助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



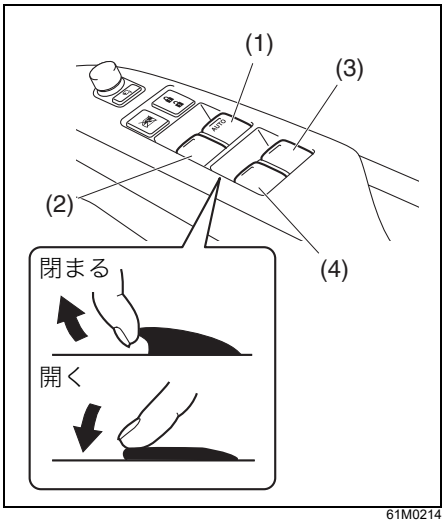
61M0215

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

各席のウインドーが開閉できます。



61M0214

(1) 運転席ウインドースイッチ
（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーの開閉（オート機構付）

- ウインドースイッチを軽く操作すると、操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
  途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 助手席／後席ウインドーの開閉

ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まりきる直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 助手席／後席ウインドーにはさみ込み防止機構はありません。

■ はさみ込み防止機構の初期設定のしかた

鉛バッテリー端子やヒューズ（**7-18 ページ**参照）を外すなどして、パワーウインドーシステムへの電源供給を一度絶ってしまうと、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。
この場合、次の手順ではさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。また、運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、同様に初期設定を行なってください。

1 エンジンを始動します。

2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。

5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

⚠ 警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

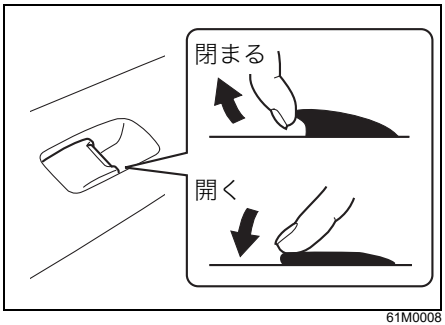
- 手順 1 ～ 4 を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

助手席、後席での開閉

自席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。

→ **3-19ページ（ウインドーロックスイッチ）**



61M0008

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

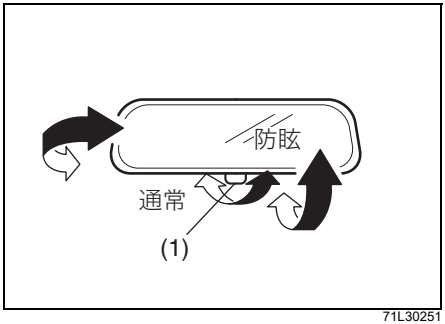
ミラー全体を動かして角度を調節します。

⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

防眩式ルームミラー

通常はレバー（1）を車の前方向に押した状態で使用し、角度の調節もこの位置で行ないます。後続車のライトがまぶしいときは、レバーを手前に引くとライトの反射が弱まります。



71L30251

ドアミラー

角度の調節

⚠警告

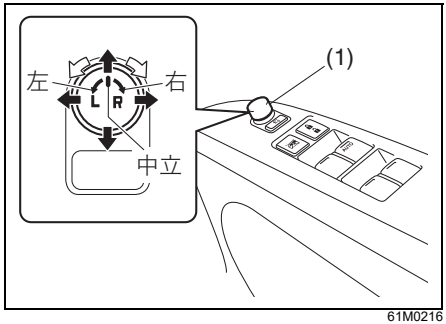
必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

1 ドアミラー角度調節スイッチ（1）を、調節したいミラーの側へまわします。

2 ドアミラー角度調節スイッチ（1）を操作して、上下左右にミラーを動かします。



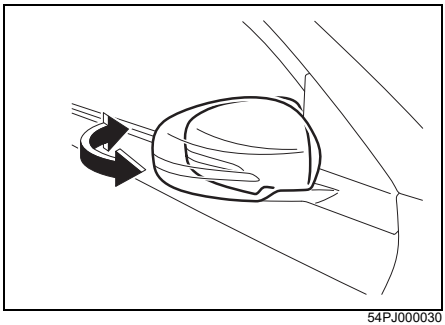
61M0216

アドバイス

調節後は、ドアミラー角度調節スイッチをまわして、中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に格納できます。



54PJ000030

⚠注意

●ドアミラーを格納したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
●ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人やものに当てないように気をつけてください。

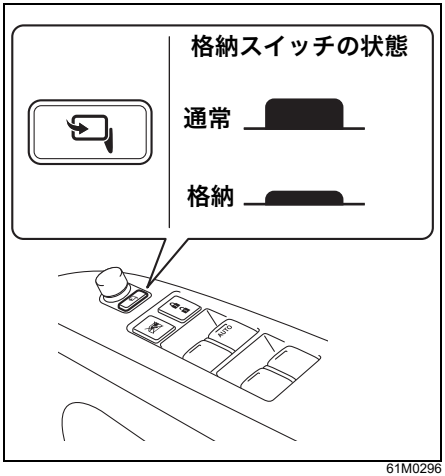
注記

エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときは、手でドアミラーを動かさないでください。故障の原因となります。

ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切替わります。



61M0296

- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

⚠注意

ドアミラーを動かすときは、次のことに注意してください。けがをしたり、ミラーが破損したりする原因となります。

- **ドアミラーの周囲に人やものがないか確認する**
- **動いているドアミラーに触れない**

格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。
その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

注 記

ドアミラーが凍結しているときは、手で動かすことが可能かを確認してから、格納スイッチの操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 6-17ページ
（ドアミラーの凍結）

アドバイス

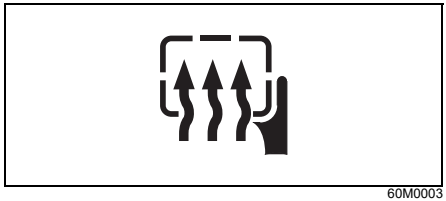
ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。

ドアミラーヒータースイッチ

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ **5-10ページ（リヤデフォッガースイッチ）**

- 運転席側のミラー鏡面に下図のマークがついています。



60M0003

テレスコピック＆チルトステアリング

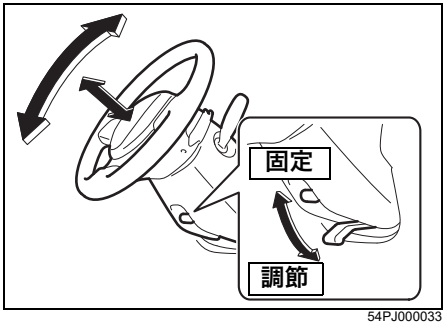
ハンドルの前後・高さ調節

→ **2-12 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）**

1 ハンドルの固定を解除します。
- 片手でハンドルをささえながら、ハンドル位置固定レバーを押し下げます。

2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置に調節します。

3 調節後は、ハンドルを固定します。
- その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



54PJ000033

⚠注意

調節後はハンドルを前後・上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

⚠注意

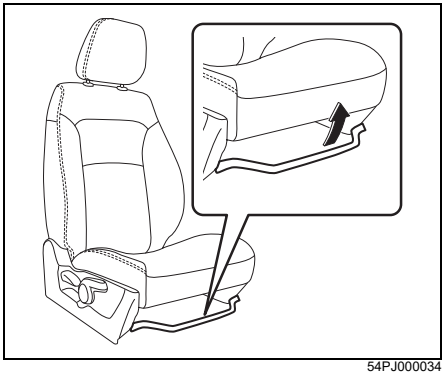
●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

→ 2-12ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）

●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。



54PJ000034

⚠警告

シートの下にものを置かないでください。ものがはさまって、次のようなことが起きるおそれがあります。

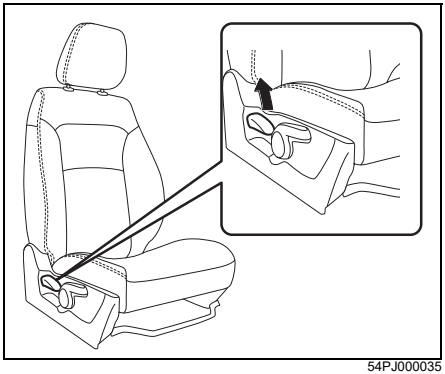
●シートが固定されない

●助手席下にあるリチウムイオンバッテリーを損傷する

→ 2-3ページ（バッテリーについて）

背もたれの角度調節

- 後方へ倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 前方へ起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



54PJ000035

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

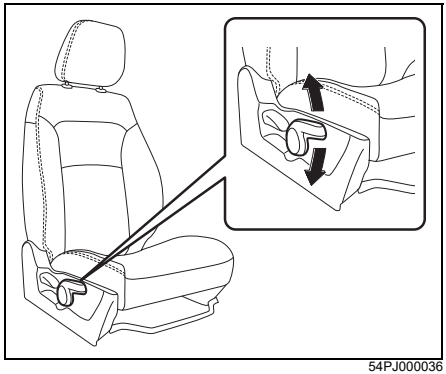
⚠注意

背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方へ倒れることがあります。手などを添えて操作してください。

高さの調節（運転席のみ）

運転席シート右横のレバーを繰り返し操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方へ動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方へ動きます。



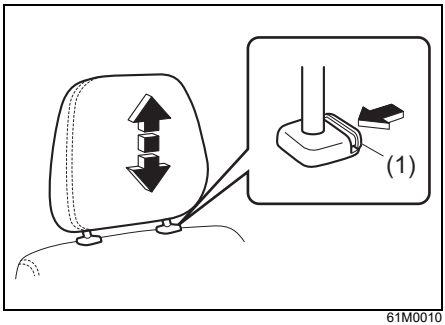
54PJ000036

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを押し下げます。



61M0010

(1) ロックボタン

■ 取り外しかた

ロックボタン（1）を押したまま引き抜きます。

- ヘッドレストが天井に当たる場合は、シート背もたれを倒すと取り外しやすくなります。

⚠ 警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

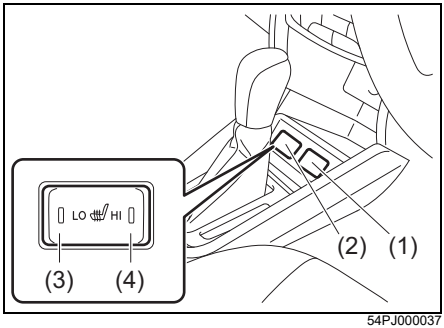
⚠ 警告

ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

前席シートヒータースイッチ

シート内にあるヒーターで座面をあたためることができます。

- エンジンスイッチが ON のときにスイッチを操作すると、ヒーターが作動します。



54PJ000037

(1) 運転席シートヒータースイッチ
(2) 助手席シートヒータースイッチ
(3) LO側
(4) HI側

- 早くあたためたいときは、スイッチのHI側を押します。
- HI 側ではあたたかすぎるときや保温したいときは、スイッチの LO 側を押します。
- シートが適温になったときや使用しないときは、スイッチを中立の位置へもどしてください。
- スイッチに水や飲み物などをこぼさないように気をつけてください。

→ **2-36ページ（飲み物などをこぼしたときは）**

⚠注意

●長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。
●毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

注記

●助手席のシートクッションにはシートベルトリマインダーのセンサーが内蔵されています。シートクッションの上に重いものや尖ったもの等を置いたり、助手席の取り外しや分解、改造等を行なったりすると、センサーが誤作動したり破損したりするおそれがあります。シートクッションの上に重いものや尖ったもの等は置かないでください。助手席の取り外しや分解・改造は行なわないでください。
●シートクッションの上にソフトドリンクやジュースなどの液体をこぼしたときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。助手席シートベルトリマインダーセンサーが損傷するおそれがあります。
●シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーター、シートベルトリマインダーセンサーが損傷する原因となります。
→ 6-5ページ（内装のお手入れ）

●鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。

アドバイス

ヒーターは自動停止しません。スイッチがHI側／LO側に押されていると、作動し続けます。

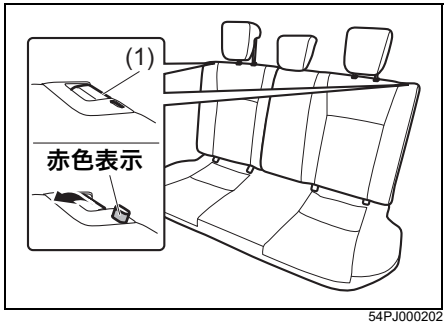
後席シート

⚠注意

●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

シートの調節

下図のレバーを操作して調節します。



54PJ000202

(1) ロックレバー

■ ロックレバー

背もたれ肩部のロックレバーを引き上げると、ロックが解除され、レバーの横に赤色表示が出ます。

- 後方へ倒すときは、レバーから手を離し、背もたれを押して固定します。
- 前方へ起こすときは、レバーを引き上げたまま一度背もたれを手前に引き、レバーから手を離してから背もたれを押し戻して固定します。

調節後は、背もたれが固定され、レバーの横に赤色表示が出ていないことを確認します。

⚠注意

調節後は、ロックレバーの横に赤色表示が出ていないことを確認してください。また、背もたれを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。背もたれの固定が不確実な場合、走行中に突然背もたれが前に倒れ、けがのおそれがあります。

アドバイス

背もたれを前に倒すと、荷室が広く使えます。

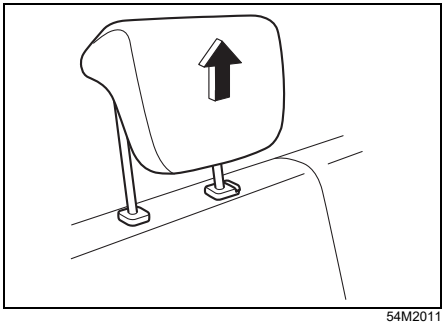
→ **3-31ページ（背もたれの倒しかた）**

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

■ 使用時の位置

使用するときは、ヘッドレストを手で持ち上げ、しっかりと固定します。

使用時

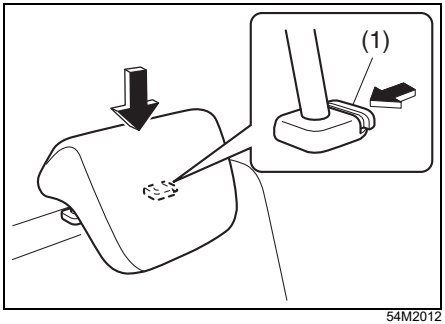


54M2011

■ 収納時の位置

収納するときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。

収納時



54M2012

■ 取り外しかた

操作方法は、前席シートと同様です。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま走行すると、後方からの衝突時に乗員の頭部の後傾を抑えることができないだけでなく、急ブレーキ時や衝突時などに乗員の頭部への衝撃を緩和することができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
走行する際は正しくヘッドレストを取り付けてください。

⚠注意

取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠警告

- **ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。**
- **ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。**
- **お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを取り外してください。**
- **ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

背もたれの倒しかた

背もたれを前方へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

座席以外の部分に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されて重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

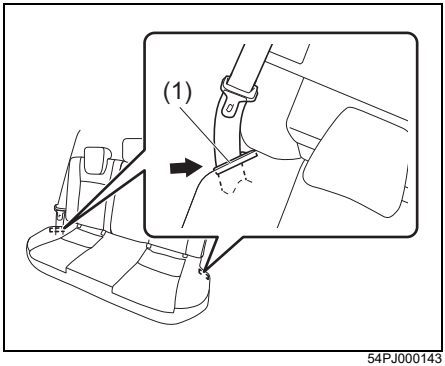
背もたれを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

■ 倒しかた

1 ヘッドレストを一番低い位置へ調節します。

2 後席中央のシートベルトを収納します。
→ **3-38ページ（収納のしかた）**

3 後席左右のシートベルトをベルトガイド（1）にかけます。

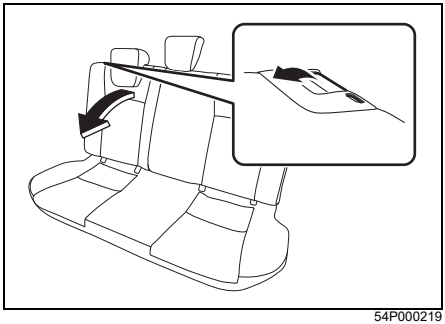


54PJ000143

⚠注意

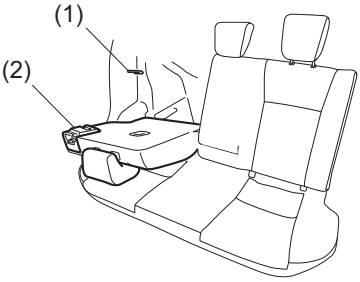
シートベルトをシートベルトガイドにかけていないと、背もたれを動かすときにベルトをかみ込んでしまうおそれがあります。

4 背もたれ肩部のロックレバーを引き上げたまま、背もたれを前に倒します。



54P000219

⚠注意



54PJ000038

(1) 背もたれ固定用フック
(2) ロック部品

●背もたれ裏のロック部品に指などを入れないでください。けがのおそれがあります。
荷物の固定などに、背もたれ裏のロック部品や背もたれ固定用フックを使用しないでください。また、ロック部品やフックに砂などの異物を付着させないでください。ロック部品が損傷したりフックが曲がったりして、背もたれが固定できなくなるおそれがあります。
●背もたれのロックが解除されたままの状態で、後席に人を乗せないでください。ロックレバーは一度操作すると、レバーの横に赤色表示が出て、ロックが解除されたままとなります。背もたれを一度前に倒し再び起こすなどして、背もたれが確実に固定されているか確認してください。



54P000220

アドバイス

背もたれを倒す時に、ヘッドレストが前席に当たる場合は、前席の前後位置や背もたれの角度を調節してください。

■ 起こしかた

背もたれを起こし、固定される位置まで背もたれを車の後ろ方向へ押し付けます。

⚠注意

背もたれを起こしたあとは、次のことを確認してください。背もたれの固定が不確実な場合、走行中に突然背もたれが前に倒れ、けがのおそれがあります。

●ロックレバーの横に赤色の表示が出ていないことを確認してください。赤色の表示が出ている場合は、背もたれが固定されていません。
●背もたれを前後にゆすって確実に固定されているか確認してください。

シートベルトについて

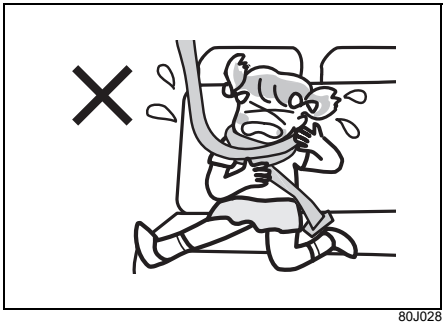
正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトは、**2-13ページ**の「**シートベルトは正しく着用**」を参照のうえ、正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため全員に着用させましょう。

お子さまもシートベルトを着用

→ **2-6ページ(お子さまを乗せるときは)**

⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



80J028

妊娠中や疾患のある方は

⚠警告

- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**



80J075

シートベルト警告ブザー

前席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。

→ **3-71ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

アドバイス

- ベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーはベルトを着用しなくても、約 95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にするまで消灯しません。
- 助手席側の場合、助手席に乗員がすわっていないときブザーは鳴りません。ただし、助手席の座面に荷物などを載せていると鳴る場合があります。
- 警告灯は、運転席側・助手席側兼用です。

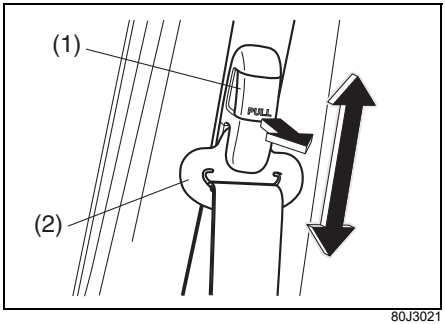
シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節（前席のみ）

身体の大きさにあわせて、シートベルトが正しく着用できるようにショルダーアンカー（2）の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー(1)を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



80J3021

シートベルトの着用のしかた

前席、後席左右席

■ 着用のしかた

1 タングプレート（1）とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

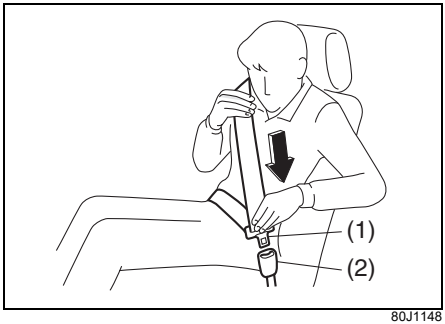


80J1147

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2 タングプレート（1）をバックル（2）の差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



80J1148

3 ベルトを引っ張るなどして、タングプレートがバックルに確実に固定されていることを確認します。

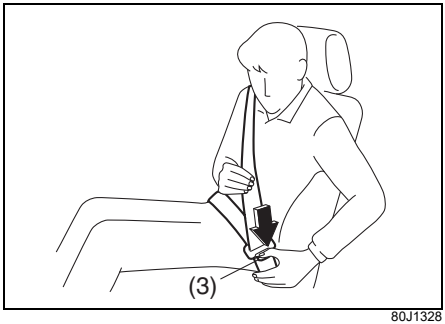
4 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

5 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

6 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン（3）を押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



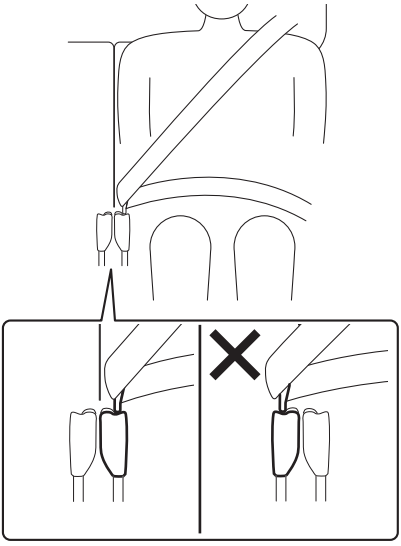
80J1328

アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

⚠ 警告

誤って隣の席用のバックルを使用すると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。
後席のシートベルトを着用するときは、必ずご自身の体に近いバックルを使用してください。

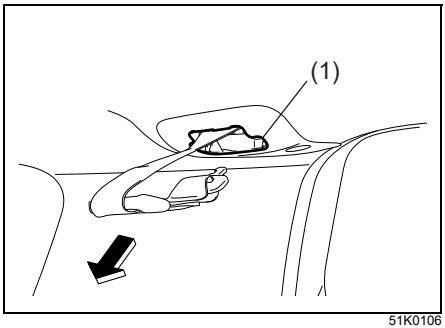


53SJ0132

後席中央席シートベルト

■ 着用のしかた

1 シートベルトをねじれないようにゆっくりと引き出します。シートベルトは、荷室天井にあるホルダーに収納されています。



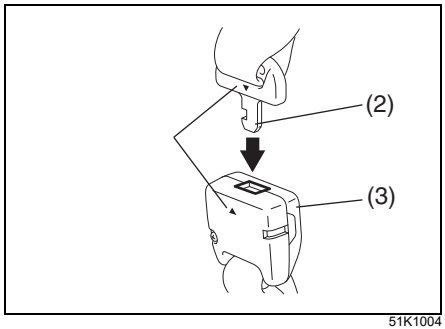
51K0106

(1) ホルダー

アドバイス

シートベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

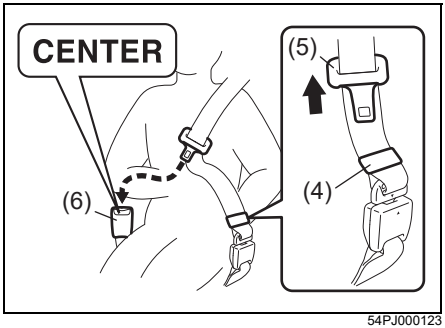
2 シートベルトがねじれていないことを確認し、シートベルト先端のプレートと中央席左側にあるバックルの▲のマークのある面をあわせ、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



51K1004

(2) シートベルト先端のプレート
(3) 中央席左側のバックル

3 バンドからタングプレートを引き出し、中央席右側にあるバックルの差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。
右側後席用のバックルとの間違い防止のため、中央席右側にあるバックルには、**CENTER** の表示があります。



54PJ000123

(4) バンド
(5) タングプレート
(6) 中央席右側のバックル

4 ベルトを引っ張るなどして、タングプレートがバックルに確実に固定されていることを確認します。

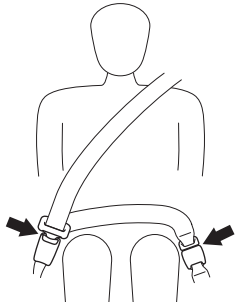
5 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

6 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

7 シートベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

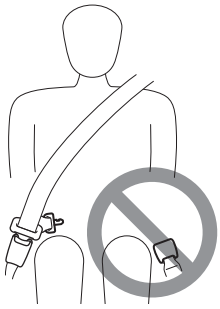
⚠警告

重大な傷害を避けるため、後席中央席のシートベルトは前記の手順にしたがって、左右2つのバックルを使用して正しく装着してください。



61MM0A061

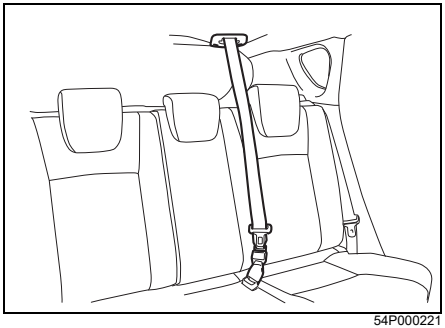
〔誤装着の例〕



61MM0A062

■ 外すときは

右側にあるバックルのボタンを押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、シートベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。下図の位置まで、シートベルトが自動的に巻きもどされます。



54P000221

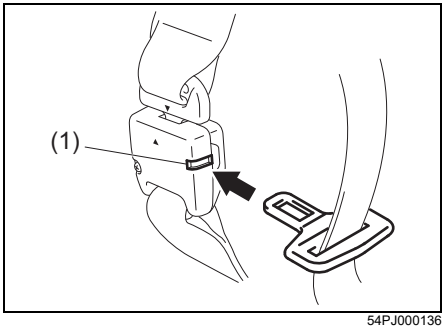
■ 収納のしかた

使用しないときは、荷室天井のホルダーに収納してください。

⚠注意

収納せずに後席を倒すと、シートベルトやシートが損傷するおそれがあります。

1 左側にあるバックルの解除ボタン（1）に、タングプレートなどを差し込んでシートベルトを外します。

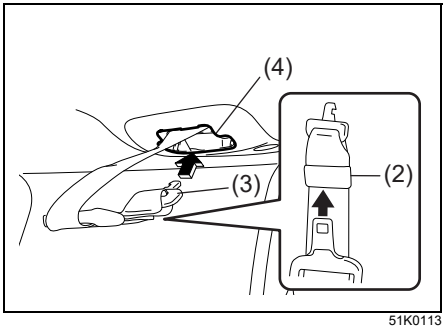


54PJ000136

⚠注意

解除ボタンを押すときは、シートベルトに手を添えてください。自動的に巻き取られたプレートが身体に当たって、けがのおそれがあります。

2 タングプレートをバンドに差し込みます。シートベルト先端のプレートを、荷室天井のホルダー内下側の収納スペースに奥まで差し込みます。



51K0113

(2) バンド
(3) シートベルト先端のプレート
(4) ホルダー

3 シートベルトの残りをすべて巻き取らせて収納します。

⚠注意

シートベルトはしっかりと収納してください。収納が不十分だと、走行中の揺れなどでシートベルトが落ちて身体に当たり、けがのおそれがあります。

シートベルトを正しく着用する

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用してください。正しく着用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されず、重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことに注意してください。

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腰部でなく腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに内臓が強く圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前方に投げ出されるおそれがあります。**
- **アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下を通してください。**



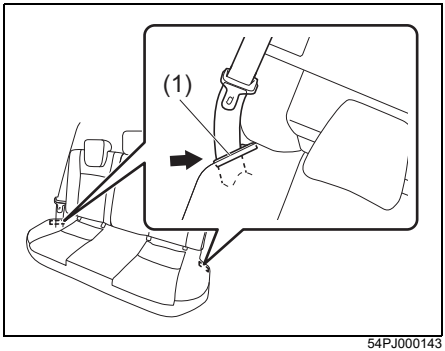
59RN02130

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

- 後席に人を乗せないときは、シートベルトを次の図のようにベルトガイド（1）にかけてください。
- 中央席のシートベルトを荷室天井のホルダーに収納してください。

→ **3-38ページ（収納のしかた）**



54PJ000143

⚠ 警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。**
- **ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ **6-6ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）**

⚠ 警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

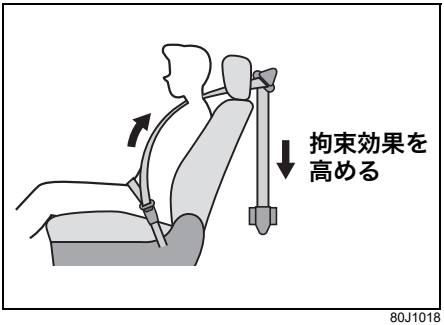
シートベルトプリテンショナー（前席および後席左右）

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席 SRS エアバッグシステムと連動しています。
- 車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けたとき。SRSサイド／カーテンエアバッグシステムと連動しています。

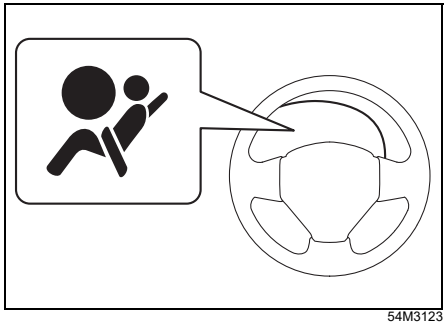
→ **3-50ページ（SRSエアバッグシステムの作動）**



80J1018

- メーター内の SRS エアバッグ警告灯は、エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると点灯します。点灯した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・シートベルトプリテンショナーが作動したとき
  - ・シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があるとき

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**



54M3123

アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ **2-35 ページ（部品の取り付け、取り外し、修理をするときは）**

廃棄や廃車

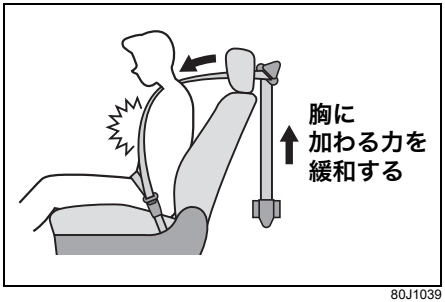
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

シートベルト可変フォースリミッター（前席のみ）

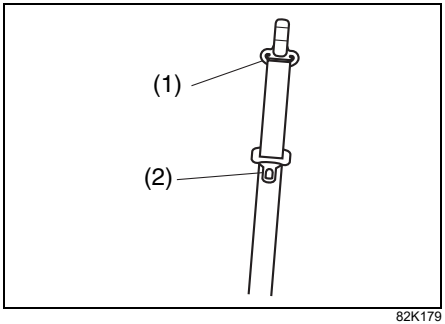
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルト可変フォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを２段階に繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠ 警告

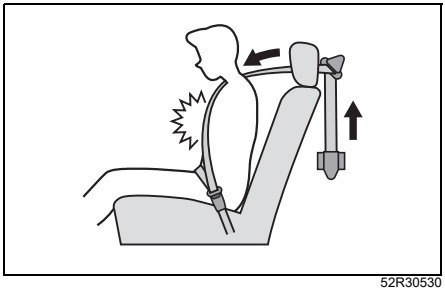
強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。スズキサービス工場で交換してください。



82K179

シートベルトフォースリミッター（後席左右）

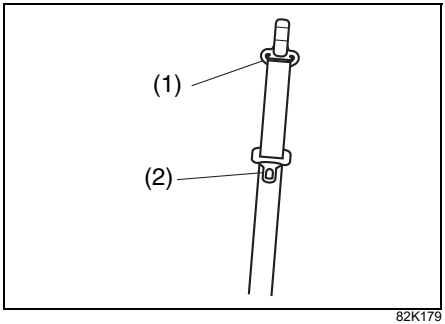
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻き取り装置内のシートベルトフォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを繰り出して、衝撃を暖和します。後席のシートベルトフォースリミッターは左席・右席に装備されており、後席の中央には装備されていません。



52R30530

⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。スズキサービス工場で交換してください。



82K179

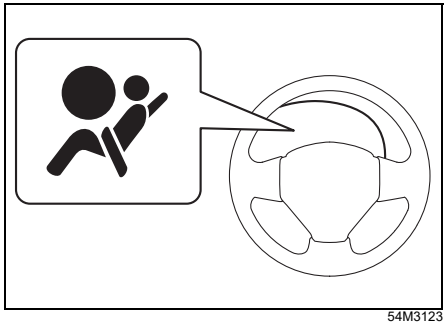
SRSエアバッグ車を運転するときは

SRSエアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

- メーター内の SRS エアバッグ警告灯は、エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると点灯します。点灯した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・SRSエアバッグが作動したとき
  - ・SRSエアバッグの電子制御システムに異常があるとき

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**



54M3123

アドバイス

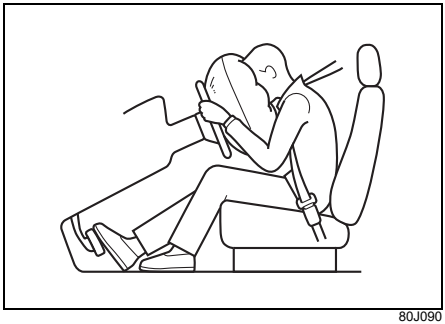
この車は、イベントデータレコーダー(EDR)システムにより、SRSエアバッグが作動したときのデータを記録・蓄積します。

→ **データの記録について**

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した運転席・助手席乗員の主に顔面への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。



80J090

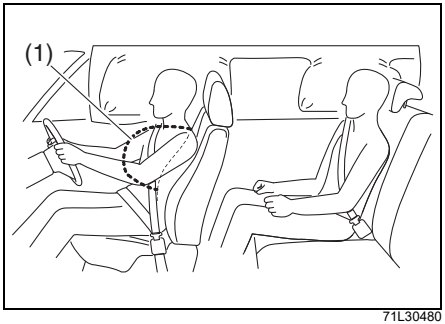
- シートベルトは必ず着用してください。

→ **3-35ページ（シートベルトの着用のしかた）**

■ SRSサイドエアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席乗員の胸部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSサイドエアバッグがSRSカーテンエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS サイドエアバッグシステムは、ふくらんだSRSサイドエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席乗員の主に胸部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。
  → **3-35ページ（シートベルトの着用のしかた）**



71L30480

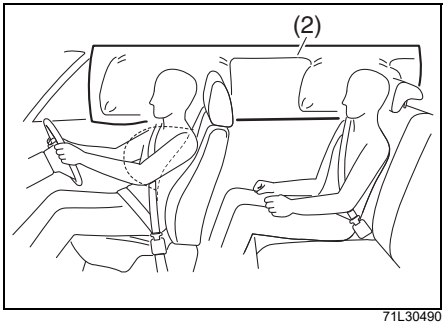
(1) SRSサイドエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

■ SRS カーテンエアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席および後席外側乗員の頭部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSカーテンエアバッグがSRSサイドエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS カーテンエアバッグシステムは、ふくらんだSRSカーテンエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席および後席外側乗員の主に頭部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。
  → **3-35ページ（シートベルトの着用のしかた）**



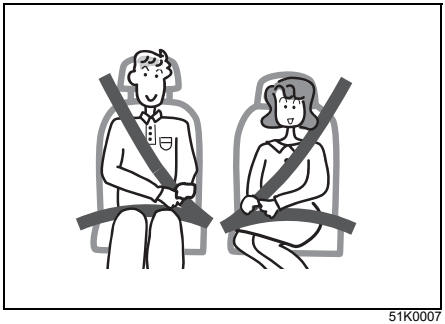
71L30490

(2) SRSカーテンエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

⚠ 警告

- SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。



51K0007

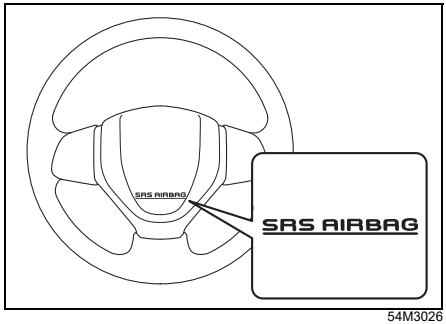
アドバイス

- 助手席 SRS エアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席 SRS エアバッグと同時にふくらみます。
- SRS サイド／カーテンエアバッグ装備車の場合、乗員の有無に関係なく、衝撃を受けた側の SRS サイド／カーテンエアバッグがふくらみます。

表示と収納場所

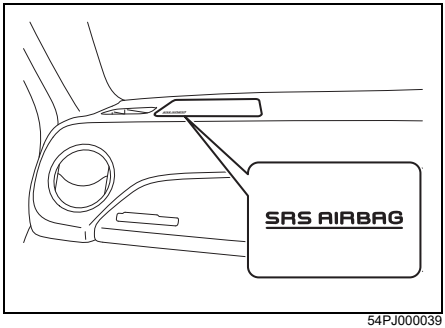
“SRS AIRBAG” の表示がある付近に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



54M3026

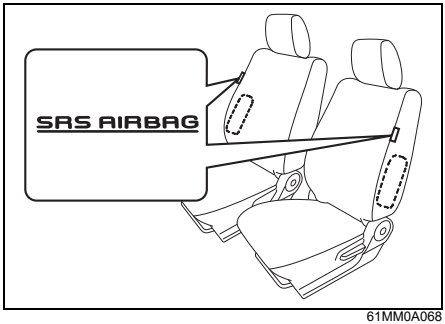
■ 助手席SRSエアバッグ



54PJ000039

■ SRSサイドエアバッグ

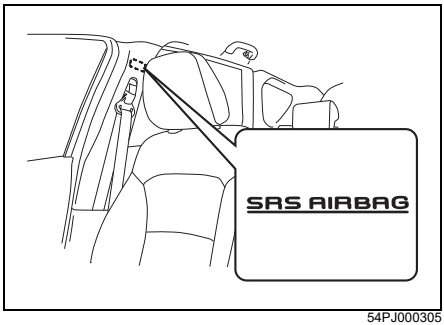
前席背もたれのドア側に収納されています。装備車の前席シートには、図のようなタグがついています。



61MM0A068

■ SRSカーテンエアバッグ

運転席側および助手席側のルーフサイドに収納されています。また、装備車のピラーには図（運転席側を代表）のような表示がついています。



54PJ000305

⚠ 警告

●エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

●エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。また、前席ドアを窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

着座姿勢

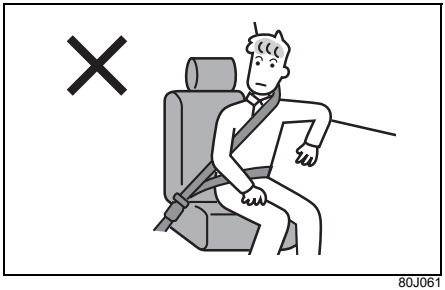
運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。

→ **2-12ページ（正しい運転姿勢）**

⚠ 警告

SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。とくにお子さまには注意してください。



80J061



80J062

お子さま用シートの取り付け

→ 2-8ページ
（お子さま用シートの使用について）
→ 3-56ページ
（お子さま用シートの選択 について）
→ 3-62 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたり SRS エアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

⚠ 警告

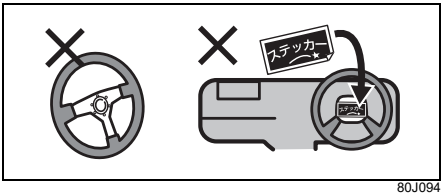
●サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。
●車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
●無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などが SRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。
●SRS エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときに SRS エアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
●SRS エアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

・ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
・インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
・オーディオ用品などの取り付け
・ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
・前席の交換およびシートまわりの修理
・センターピラーまわりの修理
・フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

●ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
●ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。万一のときに SRS エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。

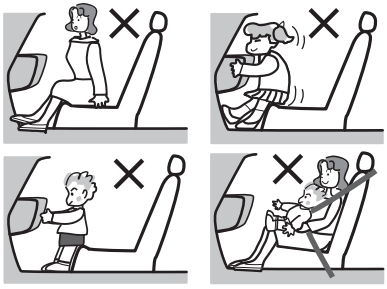


80J094

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

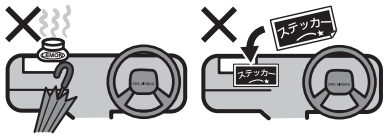
●助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
・インパネのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
・お子さまをSRSエアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



80J095

・シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。
→ 2-8 ページ（お子さま用シートの使用について）
→ 3-56 ページ（お子さま用シートの選択 について）

●エアバッグ収納部およびその周辺には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

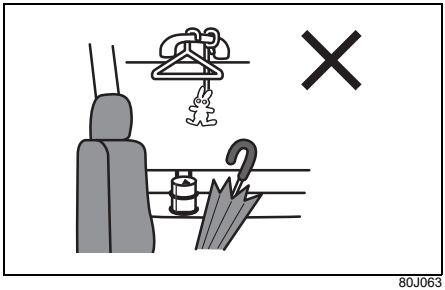
●フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

■ SRS　サイド／カーテンエアバッグについて

⚠ 警告

●前席にシートカバーを取り付けないでください。SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

●ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、これらのものが飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。



80J063

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

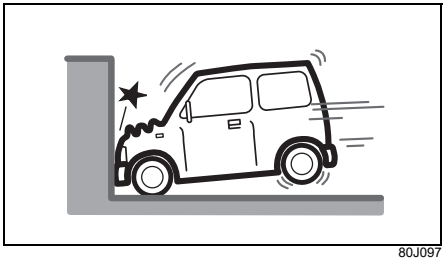
アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

運転席・助手席SRSエアバッグ

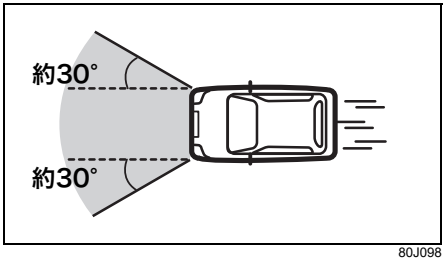
■ こんなとき作動します

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約 30˚以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき

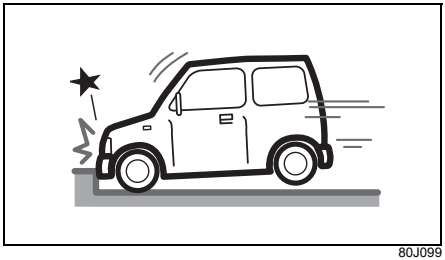


80J098

■ こんなとき作動することがあります

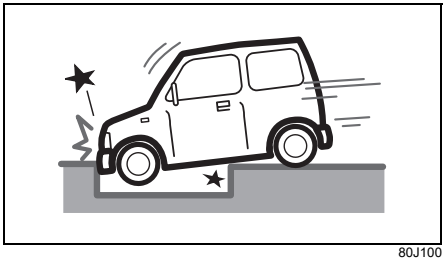
車体下部に強い衝撃を受けると、作動することがあります。

- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



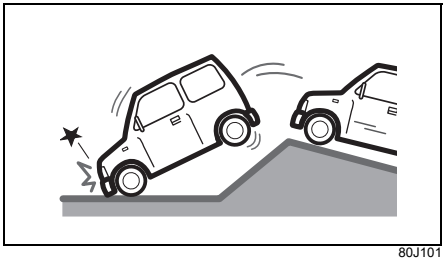
80J099

- 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき

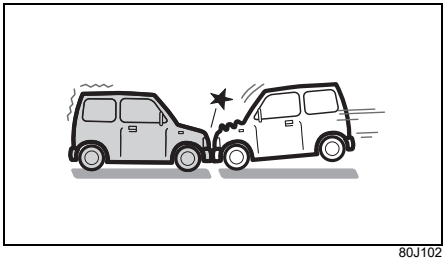


80J101

■ こんなとき作動しないことがあります

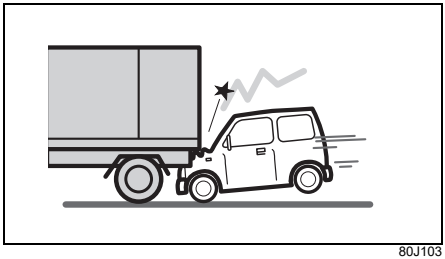
衝突の相手が変形または移動しやすかったり、自車の衝突部位が変形しやすかったりして強い衝撃が発生しない場合は作動しません。
また、衝突の角度が車両前方左右約 30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、50km/h 程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



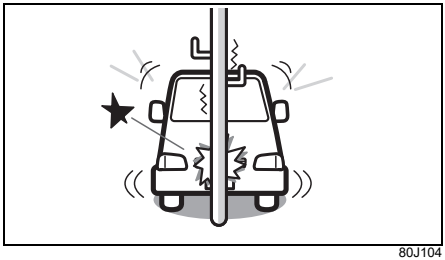
80J102

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



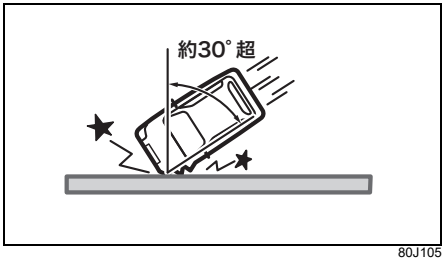
80J103

- 電柱や立木などに衝突したとき



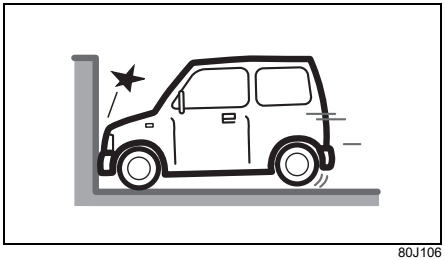
80J104

● 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



80J105

● 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25km/h よりも低いとき

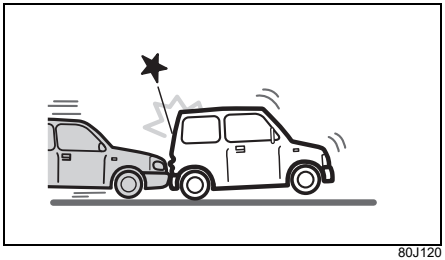


80J106

■ こんなときは作動しません

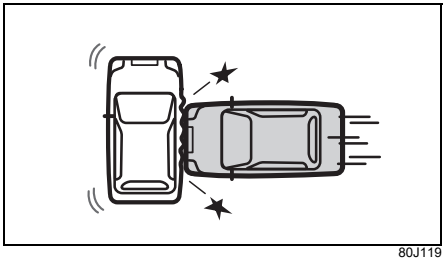
後方、横方向からの衝突、横転などでは作動しません。衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



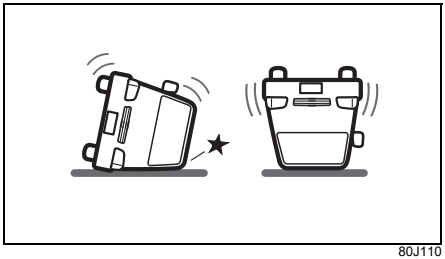
80J120

● 横方向からの衝突



80J119

● 横転や転覆をしたとき

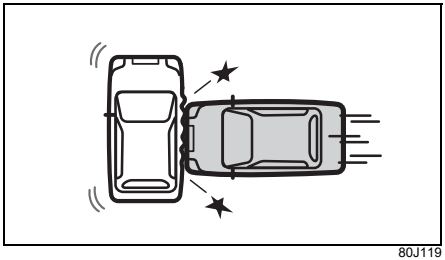


80J110

SRSサイド／カーテンエアバッグ

■ こんなとき作動します

一般的な乗用車に約30km/h以上の速度で真横から客席部に衝突されたとき、またはそれと同等以上の衝撃を受けたとき

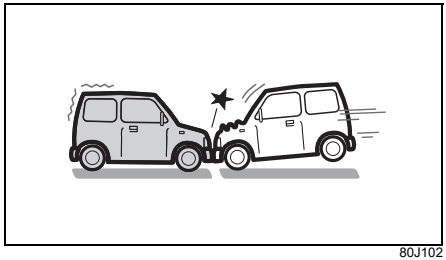


80J119

■ こんなとき作動することがあります

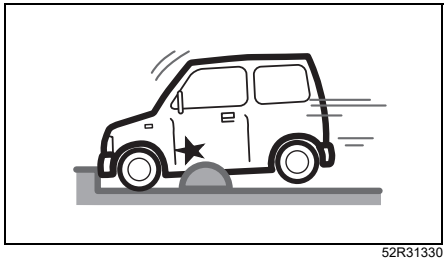
前面衝突でも横方向への衝撃が強いときは作動する場合があります。
また、車両下部に強い衝撃を受けたときに作動する場合があります。

- 前方からの衝突



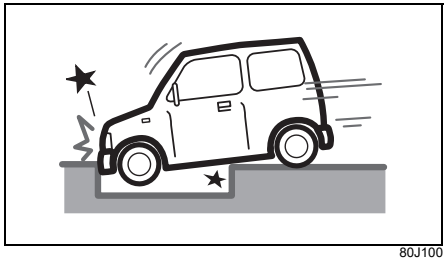
80J102

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき



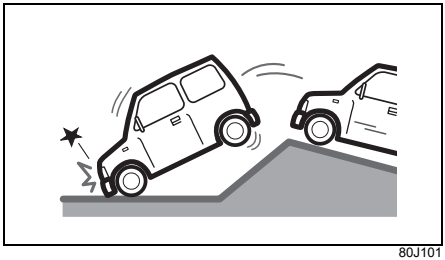
52R31330

- 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

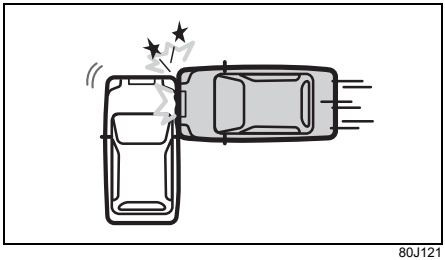
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



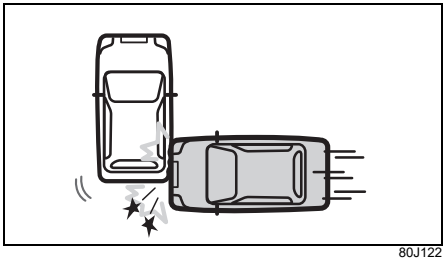
80J101

■ こんなとき作動しないことがあります

- 客室部以外（エンジンルームや荷室部）に側面から衝突されたとき

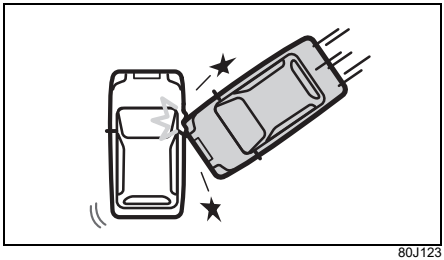


80J121



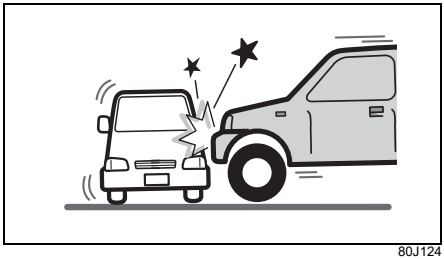
80J122

● 側面の斜め方向から衝突されたとき



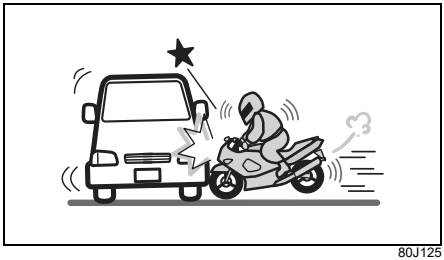
80J123

● 車高の高い車に側面から衝突されたとき



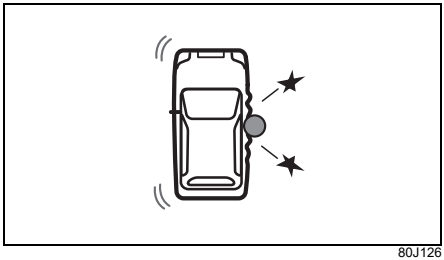
80J124

● 二輪車に側面から衝突されたとき



80J125

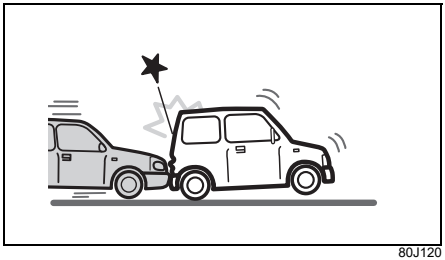
● 電柱、立ち木などに衝突したとき



80J126

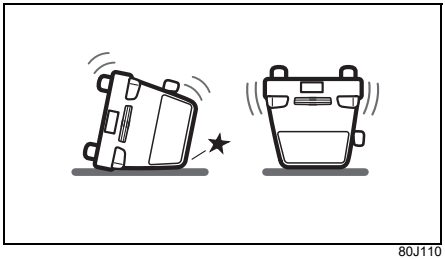
■ こんなときは作動しません

● 後方からの衝突



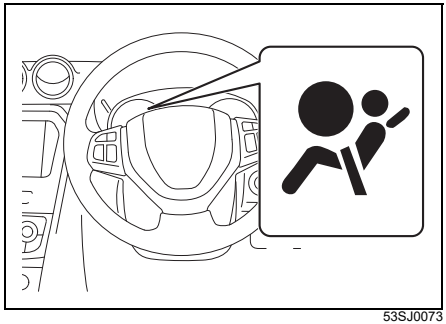
80J120

● 横転または転覆したとき



80J110

SRSエアバッグ警告灯



53SJ0073

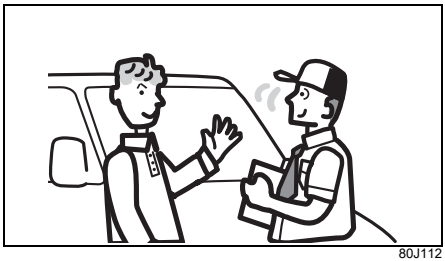
メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したとき、または電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **3-73ページ（SRSエアバッグ警告灯）**

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。



80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

お子さま用シートの選択について

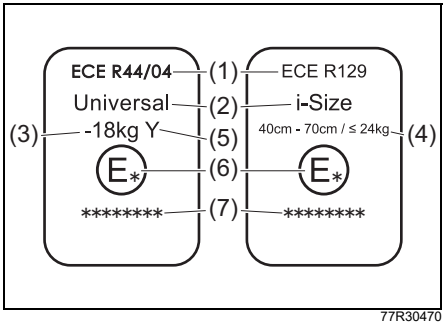
お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

- **2-6 ページ**の「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。

→ **3-64 ページ（ISOFIX 対応 お子さま用シートの固定）**

UN R44/R129の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

UN R44（※1）およびUN R129（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



77R30470

(1) 法規番号(※2)
(2) お子さま用シートのカテゴリー(※3)
(3) 対象となるお子さまの体重範囲
(4) 対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重
(5) 装置の仕様
(6) お子さま用シートを認可した国番号
(7) お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 UN R44およびUN R129とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 お子さま用シート本体の認証マークにECEとありますが、内容はUNと同じです。
※3 上図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、UN R44 またはUN R129 の基準に適合しています。

UN R44 の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ 3-58ページ
（座席位置別のお子さま用シート適合性について）

■ 質量グループについて

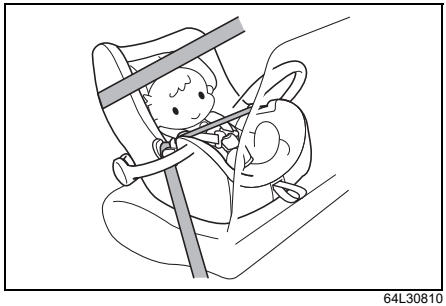
- UN R44 の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。UN R44 基準のグループ**0、0+**に相当します。



64L30810

チャイルドシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。UN R44 基準のグループ**Ⅰ**に相当します。



64L30820

ジュニアシート

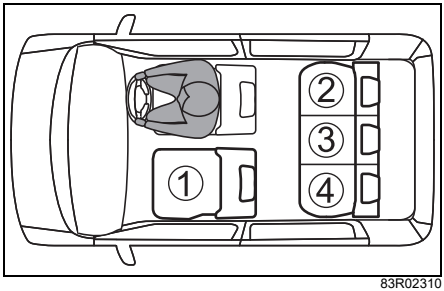
前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。UN R44基準のグループ**Ⅱ**、**Ⅲ**に相当します。



64L30830

座席位置別のお子さま用シート適合性について

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性



83R02310

シート位置番号	マーク
① (※1、※2、※3)	U
② (※3)	U
③	
④ (※3)	U

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

i-Sizeお子さま用シートおよびISOFIX お子さま用シートに適しています。

テザーアンカーが装備されています。

前部の作動可能なエアバッグで保護されているシートには、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを絶対に使用しないでください。

お子さま用シートの取り付けに適していません。

※1 お子さま用シートを取り付けるときは、シートを一番後ろに下げてください。

※2 前向きお子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節してください。

※3 ヘッドレストとお子さま用シートが干渉するときは、ヘッドレストをお子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外してください。

■ 座席位置別のお子さま用シート適合性の詳細情報

	着席位置			
シート位置番号	①	②	③	④
シートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	有 （※1）	有	無	有
i-Sizeお子さま用シートに適する着席位置（有 / 無）	無	有	無	有
横向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：L1/L2）	無	X	無	X
後ろ向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：R1/R2X/R2/R3）	無	R1, R2X, R2	無	R1, R2X, R2
		R3（※3）		R3（※3）
前向きお子さま用シートに適する着席位置（治具：F2X/F2/F3）	無	F2X, F2, F3	無	F2X, F2, F3
ジュニアシートに適する着席位置（治具：B2/B3）	B2, B3 （※2）	B2, B3	無	B2, B3

※1　前向きお子さま用シートのみ取り付けができます。取り付けるときはシートを一番後ろに下げてください。
※2　取り付けるときはシートを一番後ろに下げてください。
※3　R3を取り付けるときは前席と接触しないよう前席のシートを一番前から9段目までの範囲に調節してください。

＜上表に記入する文字の説明＞
有　：お子さま用シートを取り付けることができます。
無　：お子さま用シートを取り付けることができません。
X　：この治具に対応するISOFIX対応お子さま用シートの取り付けには適していません。

お子さま用シートはいくつかの「治具」の種類に分けられます。上表に示す「治具」の着席位置でお子さま用シートを使用することができます。「治具」の種類は次のページをお読みください。

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートのサイズ等級と治具について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。サイズ等級と治具の関係は次の一覧表をご覧ください。
お子さま用シートの「サイズ等級」を確認するために、お子さま用シートに付属の取扱説明書をお読みください。お手持ちのお子さま用シートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、お子さま用シートの「車種別適合表」を参照するか、製造元または販売店にご相談のうえ、適合性を確認してください。

質量グループ（体重）	サイズ等級	治具	説明
0（10kgまで）	F	L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
	G	L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
	E	R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
0+（13kgまで）	E	R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
	D	R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	–	R2X	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート(R2とは別形状)
	C	R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
I（9～18kg）	D	R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	–	R2X	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート(R2とは別形状)
	C	R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
	B	F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
	B1	F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート(F2とは別形状)
	A	F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
II（15～25kg）	–	–	–
III（22～36kg）	–	–	–

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

■ ジュニアシートタイプのお子さま用シートの治具について

治具	説明
B2	幅が440 mmのジュニアシート
B3	幅が520 mmのジュニアシート

お子さま用シートのシートベルトによる固定

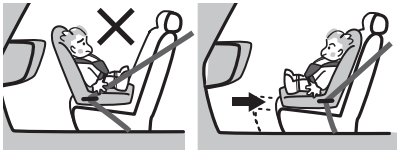
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

  → **3-56 ページ（お子さま用シートの選択 について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-64ページ**の「**ISOFIX 対応 お子さま用シートの固定**」をお読みください。

⚠ 警告

●お子さま用シートが確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時にお子さま用シートが飛び出し、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
必ずお子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
●助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。
●やむをえず助手席にチャイルドシートおよびジュニアシートを取り付けるときは、助手席を一番後ろに下げ、前向きに取り付けてください。

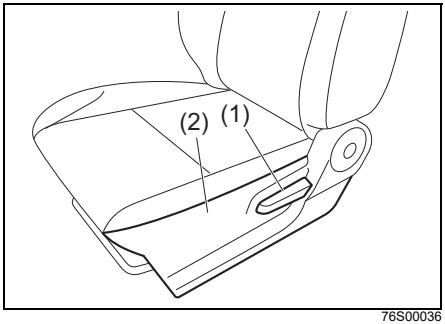


80J027

固定のしかた

この項目では、お子さま用シートを後席に取り付ける手順を説明しています。助手席に取り付ける場合は、次のこともあわせて確認してください。

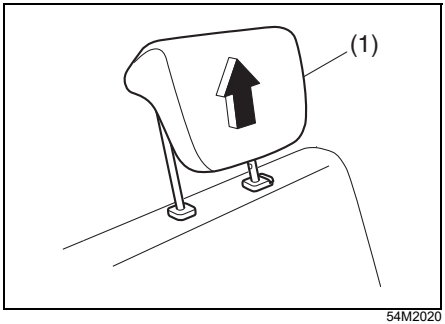
- 助手席は、一番後ろに下げてください。
- 下図のリクライニングレバー（1）とカバー（2）の間にシートベルトを通さないでください。



76S00036

1 ヘッドレスト（1）を、取り外します。

→ **3-30 ページ（ヘッドレストの高さ調節と 取り外し・取り付け）**



54M2020

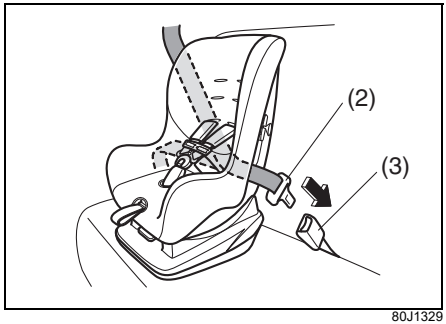
⚠ 警告

ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

2 お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節し、座席が確実に固定されているか確認します。

3 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

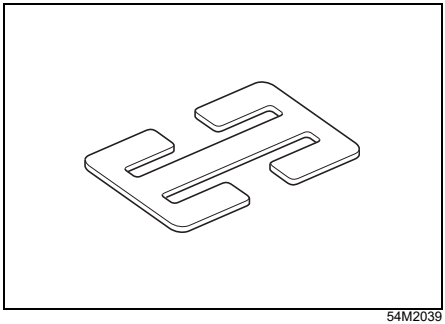
4 カチッと音がするまで、タングプレート（2）をバックル（3）にしっかりと差し込みます。



80J1329

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

5 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップも備わっていない場合は、ロッキングクリップ（市販品）を使用してしっかりと固定します。



54M2039

- 上図のロッキングクリップ（市販品）は代表例です。

⚠ 警告

シートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

6 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

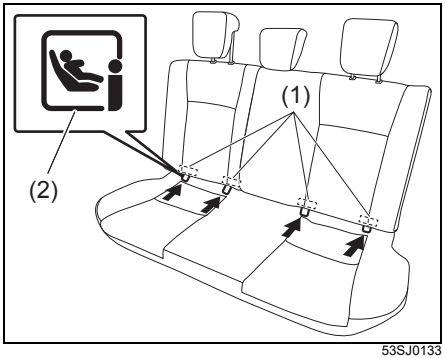
3

ISOFIX対応 お子さま用シートの固定

ISOFIX お子さま用シート固定対応取付装置

後席の左右席には、UN R44 または UN R129（**3-56ページ**参照）の基準に適合した ISOFIX（※1）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための取付装置が装備されています。

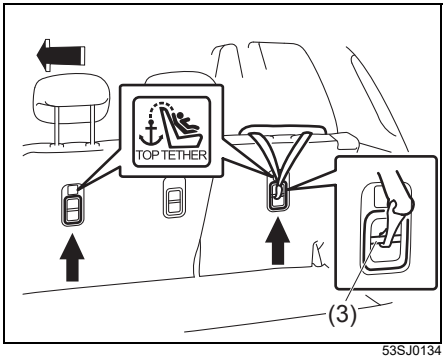
- 座面と背もたれのすきまにある金具が、ISOFIX対応お子さま用シート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。



53SJ0133

(1) ISOFIXアンカー
(2)マーク

- 背もたれ裏側にある金具が、お子さま用シート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。



53SJ0134

(3) テザーアンカー

※1 ISOFIX とは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取り付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※2)】の規格です。
※2 ISO とは、International Organization for Standardizationの略で国際標準化機構のことです。

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **3-56ページ（お子さま用シートの選択 について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-62ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

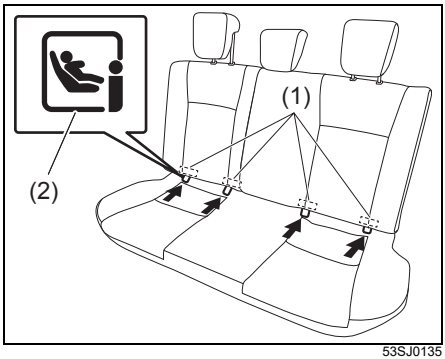
■ 固定のしかた

⚠警告

- **お子さま用シートが確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時にお子さま用シートが飛び出し、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  必ずお子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- **シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺に異物やシートベルトなどがないか確認してください。
- **荷物の固定をするときに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用すると、アンカーが曲がったり損傷したりして、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。

お子さま用シートの ISOFIX アンカーによる固定

1 ISOFIX アンカー（1）の位置を確認します。
- 座面と背もたれのすきまにあります。



53SJ0135

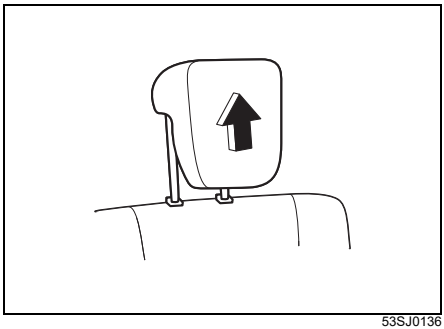
(1) ISOFIXアンカー
(2)マーク

アドバイス

ISOFIXアンカーがある付近には、前図のようなマーク（2）がついています。

2 後席のヘッドレストがお子さま用シートに当たるときは、ヘッドレストの高さを調節するか取り外します。

→ **3-27ページ(ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け)**



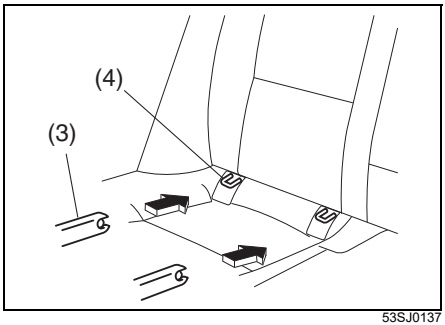
53SJ0136

⚠警告

ヘッドレストが当たった状態では、お子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。

3 座席が確実に固定されているか確認します。

4 お子さま用シートのコネクター(3)を ISOFIX アンカー(4)へ差し込みます。



53SJ0137

(3) コネクター　　(4)ISOFIXアンカー

5 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

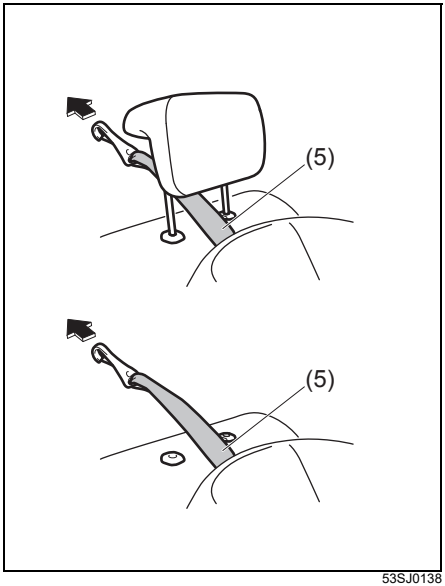
お子さま用シートのテザーアンカーによる固定

1 お子さま用シートがISOFIX アンカーで確実に取り付けられているか確認します。

→ **3-65ページ（お子さま用シートのISOFIXアンカーによる固定）**

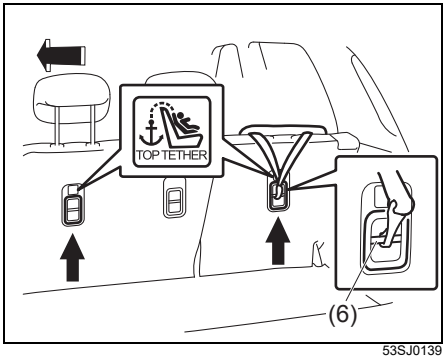
2 テザーベルトを、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

- ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間をテザーベルト（5）がねじれないように通します。



53SJ0138

3 背もたれ裏側にあるテザーアンカー（6）にテザーベルトを取り付けます。



53SJ0139

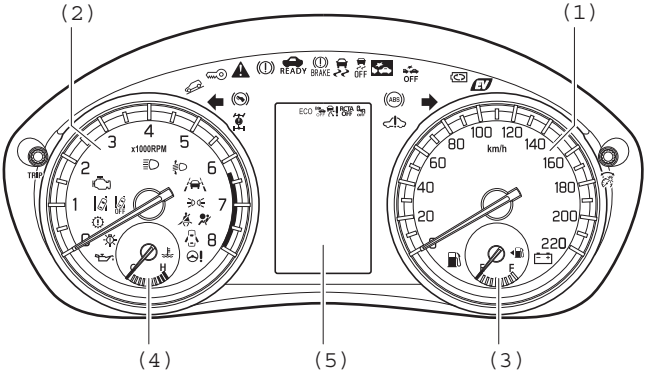
(6) テザーアンカー

アドバイス

中央のテザーアンカーは使用しません

4 テザーベルトにねじれやたるみが無く確実に取り付けられているか確認します。

メーターの見かた



76S00006

(1)スピードメーター(速度計)
(2)タコメーター(エンジン回転計)
(3)燃料計
(4)水温計
(5)マルチインフォメーションディスプレイ

スピードメーター（速度計）

走行速度がkm/hで示されます。

タコメーター（エンジン回転計）

1 分間あたりのエンジン回転速度（回転数）が示されます。

⚠警告

●エンジン保護のため、指針がレッドゾーン（※）に入らないように運転してください。
※エンジンの許容回転を超えていることを示す赤色表示範囲

●シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。

燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量の目安が示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから指針または表示が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽の左にある◀印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側の車両後方にあることを示します。

水温計

エンジンスイッチが ON のときに、エンジン冷却水の温度が示されます。

注 記

指針が“H”側に近づいたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
→ 7-27ページ（オーバーヒートしたときは）

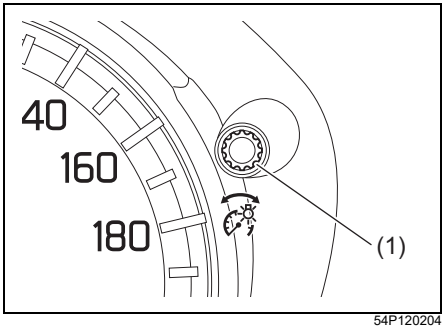
照度コントロール

メーターの照明は、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、ACC または LOCK（OFF）にすると消灯します。

■ 明るさ調整

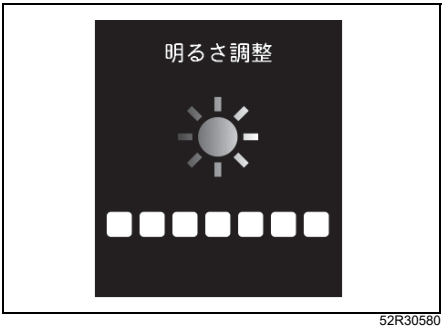
- エンジンスイッチが ON のときに、ヘッドライトおよび車幅灯が点灯している状態で、メーター右側の表示切替ノブ（1）を左右に回すと明るさ調整の画面が表示されます。

→ **3-118ページ**
（ライトの点灯・消灯）



54P120204

- 表示切替ノブを左右にまわしてお好みの明るさに調節します。7 段階に調節できます。
- 連続して調節するときは、ノブをまわしたままにします。
- オートエアコンのスイッチ照明は同時に明るさ調整されます。



52R30580

⚠警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブを5秒以上まわさないでいると、マルチインフォメーションディスプレイはもとの表示にもどります。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調節をやり直す必要があります。

警告灯・表示灯の見かた

次に示す警告灯・表示灯のメーター内の位置については、**1-19 ページ**をご覧ください。

警告灯

	**(1) ブレーキ警告灯(赤色)**

65D477

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  - ・ブレーキ液が不足している
  - ・パーキングブレーキをかけている
  - ・ブレーキシステムに異常がある
- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠ 警告

●次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

・パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。

・ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したままのとき。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

●パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

→ 4-14ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）



(2) シートベルト警告灯

80J221

運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
また、ハイブリッドシステムを起動して走行を開始してから、最初に車速が約15 km/h以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切替わります。

- シートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- シートに水や飲み物をこぼさないように気をつけてください。
  → **2-36ページ（飲み物などをこぼしたときは）**

アドバイス

- シートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーはシートベルトを着用しなくても、約95秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にするまで消灯しません。
- 助手席側の場合、助手席に乗員がすわっていないときは点灯しません。ただし、助手席の座面に荷物などを載せていると作動する場合があります。
- 警告灯は運転席側・助手席側兼用です。



(3) SRSエアバッグ警告灯

80J111

- 次のような場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯します。
  - ・SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
  - ・SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

次のような場合、ただちに使用を止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **エンジンスイッチを ON にしても点灯しない**
- **エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない**
- **運転中に点灯**



(4) 燃料残量警告灯

80J225

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。
  - ・点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。また、そのまま給油しないでいると、エンジンスイッチを ON にするごとに警告ブザーが鳴ります。
- システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

→ **3-69ページ（燃料計）**

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。



(5) ABS警告灯

80J127

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。

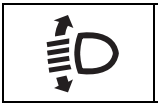
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

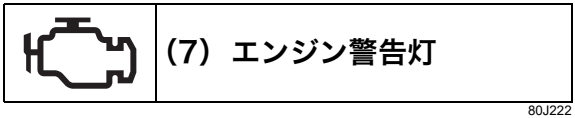


(6) オートレベリング警告灯

80J217

オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。
  再びエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。
  消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



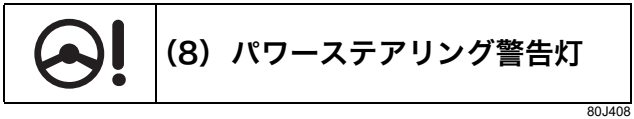
(7) エンジン警告灯

80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。
●枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する
●やむをえず走行する場合はアクセルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する



(8) パワーステアリング警告灯

80J408

電動パワーステアリングシステムに異常があると、READY 表示灯が点灯中に点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

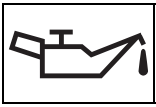
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、ハイブリッドシステムが起動すると消灯します。

⚠注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



(9) 油圧警告灯

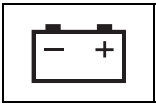
80J223

READY 表示灯が点灯中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、ハイブリッドシステムが起動すると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- READY 表示灯が点灯中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



(10) 充電警告灯

80J226

充電系統に異常があると、READY表示灯が点灯中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、ハイブリッドシステムが起動すると消灯します。
- READY 表示灯が点灯中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためハイブリッドシステムを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。



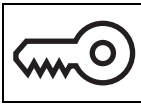
(11) トランスミッション警告灯

80J219

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- AGS（※）のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・点灯しているとき次のようになることがあります。
    - ・セレクトレバーを操作しても変速できない
    - ・車速が10 km/h以下になると、自動でN（ニュートラル）になり、メーター内のセレクトレバー位置表示がNで点滅し、警告ブザーが鳴る
    - ・停車時にエンジンが停止する
    - ・ハイブリッドシステムが起動できない

- 次のような操作をすると、トランスミッションに負荷がかかってトランスミッションが高温になります。警告灯が点滅するとともに、警告ブザーが鳴ります。安全な場所に停車して、しばらくハイブリッドシステムを停止し、トランスミッションを冷やしてください。再度、エンジンスイッチを ON にして、警告灯の点滅と警告ブザーが止まっていることを確認してから走行してください。
  - ・上り坂で発進と停止を繰り返している
  - ・上り坂でブレーキペダルを踏まずに、クリープ機能を利用して停車している
  - ・ブレーキペダルを踏みながらアクセルペダルを踏み続けている
  - ・パーキングブレーキをかけた状態でアクセルペダルを踏み続けている
  - → **1-23ページ（警告ブザーが鳴ったときは）**

※AGS とは、Auto Gear Shift（オートギヤシフト）の略です。6 速マニュアルトランスミッションに、クラッチおよびシフト操作を自動で行なう電動油圧方式アクチュエーターを搭載したスズキのオートメイテッドマニュアルトランスミッション（Automated Manual Transmission：AMT)です。



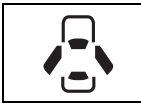
(12) イモビライザー警告灯

80J216

- ハンドルロックが解除できない場合、または車体電子制御システムに異常がある場合、エンジンスイッチが ON のときに点滅することがあります。
  - ・ハンドルを左右に軽く動かしながらエンジンスイッチを押してください。
  - ・それでも消灯しない場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。

  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**
- イモビライザー／キーレスプッシュスタートシステムの異常が考えられます。鉛バッテリー電圧が正常な状況での操作でこの表示がされたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**



(13) 半ドア警告灯

82K274

いずれかのドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。

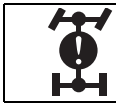
⚠ 警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、半ドア警告灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- エンジンスイッチが LOCK（OFF）の位置
- 点灯したまま15分が経過

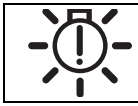


(14) 4WD警告灯

57L30042

- 4WDシステムに異常または問題があると、エンジンスイッチを ON のときに点灯または点滅します。点灯したときはスズキサービス工場で点検を受けてください。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON のときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

→ **4-28ページ（ALLGRIP（4WD）モードの切替え）**



(15) LEDヘッドライト警告灯

54P000234

LEDヘッドライトに異常があると、エンジンスイッチが ON でライトスイッチを ≡D またはAUTOの位置にしたときに点灯します。点灯した場合、ライトスイッチをOFFの位置にもどしても、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまで点灯し続けます。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。
- ライトスイッチがAUTO位置であっても、日中など明るい状態ではヘッドライトが点灯しないため、警告灯は点灯しません。
- エンジン回転中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。



(16) アダプティブクルーズコントロール警告灯

54P000233

アダプティブクルーズコントロールシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

→ **4-75ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

ESP® OFF 表示灯の点灯中は、アダプティブクルーズコントロール警告灯も点灯します。

→ **4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）**



(17) 車線逸脱抑制機能警告灯

53S02002

- 車線逸脱抑制機能がアクティブ状態のとき点灯します。
- 車線逸脱抑制機能に異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。
  → **4-63ページ（車線逸脱抑制機能）**

アドバイス

このランプが点灯しないときは車線逸脱抑制機能の作動を確認できません。
車線逸脱抑制機能を使用しないでください。
点灯しないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。



(18) ブレーキリクエストインジケーター

81Ph30030

ブレーキペダルを踏まずに次のような操作をすると、インジケーターが点灯し、ブレーキペダルを踏んで操作する必要があることをお知らせします。

- 車両が前進している状態で、ブレーキペダルを踏まないでセレクトレバーを D 、M 、N から R へ操作した、または車両が後退している状態で、ブレーキペダルを踏まないでセレクトレバーを R 、N から D または M へ操作した
  ・警告ブザーが約1秒間鳴り、セレクトレバー位置表示が点滅します。ブレーキペダルを踏んで完全に停車してから、セレクトレバーの操作をやり直してください。



(19) ハイブリッドシステム警告灯

81Ph30040

ハイブリッドシステムや高電圧システム、ブレーキへの負圧供給システムに異常があると点灯または点滅します。点灯または点滅した場合はとくに慎重に運転し、すみやかにお近くのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- ハイブリッドシステム警告灯が点灯すると、一部の電装品の電源が停止することがあります。
  電源が停止すると思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のことにご注意ください。
  ・この電源につながったETC車載器あるいはDSRC車載器が停止して機能しなくなります。
  有料道路料金所のETCレーン通過の際にゲートが開かないため、ETCレーンは使用しないでください。
  ・ナビゲーションやオーディオなどが停止して機能しなくなります。
  ・ドライブレコーダ、バックアイカメラを装着している場合、電源が停止して機能しなくなります。

- ハイブリッドシステム警告灯が点灯すると、クリープ機能が作動しない場合があります。坂道での発進はパーキングブレーキを使用してください。
  → **4-24ページ（急な上り坂での発進）**

- インテグレーテッドスタータージェネレーターに故障が発生している場合、ハイブリッドシステム警告灯は点灯します。
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。



(20) 車両接近通報装置警告灯

81Ph30080

- 車両接近通報装置に異常があると、警告灯が点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。



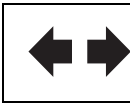
(21) ブレーキシステム警告灯

76S00001

ブレーキシステムやヒルホールドコントロールシステムに異常があると、点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。

表示灯



(22) 方向指示器表示灯

72M00170

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

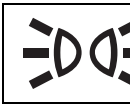
→ **7-21ページ（電球を交換するときは）**



(23) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

80J212

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。



(24) ライト点灯表示灯

82K096

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。



(25) ESP®作動表示灯

79K019

- トラクションコントロールまたはスタビリティコントロールが作動すると、小刻みに点滅します。
- ESP®のシステムに異常があると点灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

→ **4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）**



(26) ESP® OFF表示灯

57L30045

- ESP® OFFスイッチを長押しすると点灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

→ **4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）**

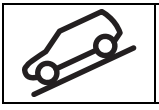


(27) マスターウォーニング

78K049

- メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージがあるとき、同時に点滅する場合があります。

→ **3-106ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**



(28) ヒルディセントコントロール表示灯

79K050

- エンジンスイッチが ON のときにに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると点灯します。点滅した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。次の作動条件がみたされているか確認してください。
  - ・ALLGRIPモードスイッチがLOCKモード
  - ・セレクトレバーが前進または後退の位置（ P N 以外）
  - ・車速が25 km/h以下
  - ・ブレーキ装置が過熱していない

- システムが正常でヒルディセントコントロールスイッチが押されていないときは、エンジンスイッチを ON にすると約２秒間点灯したあと消灯します。
- 次のような場合はシステムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・エンジンスイッチを ON にしても点灯しない
  - ・ヒルディセントコントロールスイッチが押されていないときに、エンジンスイッチ ON にし、約２秒間たっても消灯しない
  - ・エンジンスイッチが ON のときにヒルディセントコントロールスイッチを押しても点灯または点滅しない



(29) デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯

54P000255

- デュアルセンサーブレーキサポートまたは誤発進抑制機能が作動中に点滅します。

  → **4-54ページ（デュアルセンサーブレーキサポート）**

  → **4-59ページ（誤発進抑制機能）**

- レーザーレーダーと単眼カメラのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。
- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・デュアルセンサーブレーキサポート

    → **4-54ページ（デュアルセンサーブレーキサポート）**
  - ・誤発進抑制機能

    → **4-59ページ（誤発進抑制機能）**
  - ・先行車発進お知らせ機能

    → **4-69ページ（先行車発進お知らせ機能）**
  - ・標識認識機能

    → **4-71ページ（標識認識機能）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約４ 秒間点灯したあと消灯します。



(30) デュアルセンサーブレーキサポートOFF表示灯

54P000254

- デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチを長押しすると点灯します。

  → **4-70ページ（デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ）**

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約４秒間点灯したあと消灯します。



(31) 車線逸脱警報作動表示灯

81M31080

- 車線逸脱警報またはふらつき警報が作動中に点滅します。
  → **4-62ページ（車線逸脱警報）**
  → **4-68ページ（ふらつき警報）**
- レーザーレーダーと単眼カメラのシステムが一時停止のときに点灯します。同時にマスターウォーニングが点滅します。
- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  ・車線逸脱警報
  → **4-62ページ（車線逸脱警報）**
  ・ふらつき警報
  → **4-68ページ（ふらつき警報）**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約4 秒間点灯したあと消灯します。



(32) 車線逸脱警報OFF表示灯

62R0317

- 車線逸脱警報OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  → **4-71ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約4 秒間点灯したあと消灯します。



(33) ブラインドスポットモニタOFF表示灯

53SJ0074

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、BSM OFF を設定すると点灯します。
  → **3-102ページ（セッティングモード）**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。



(34) リヤクロストラフィックアラートOFF表示灯

53SJ0075

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、RCTA　OFF を設定すると点灯します。
  → **3-102ページ（セッティングモード）**
- ブラインドスポットモニタOFF表示灯の点灯中は、リヤクロストラフィックアラートOFF表示も点灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。



(35) エコモード表示灯

81Ph30070

エコモードがONのとき点灯します。
→ **3-126ページ（エコモードスイッチ）**



(36) EV表示灯

81Ph30060

EV走行中などエンジンが自動停止しているとき点灯します。



(37) READY表示灯

81Ph30050

次の状態でエンジンスイッチを押すとハイブリッドシステムが起動し、走行可能な状態になると点灯します。

- セレクトレバーが P の位置
- ブレーキペダルを踏んでいる

⚠警告

走行中に READY 表示灯が消灯すると次の状態になります。安全な場所に停車し、エンジンスイッチの操作をやり直してください。
●パワーステアリング装置がはたらかないため、ハンドルが重くなる
●ABSが作動しない（ABS警告灯が同時に点灯したとき）

エンジンスイッチの操作をやり直しても READY 表示灯が再点灯しない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

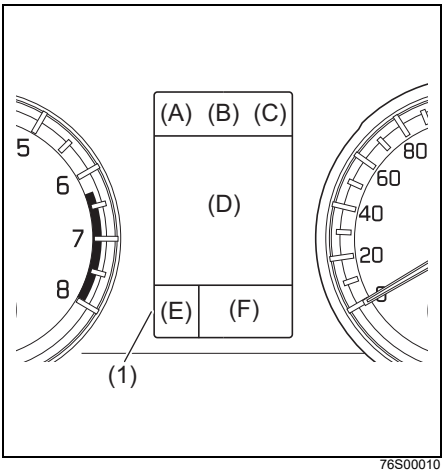


(38) 回生エネルギー表示灯

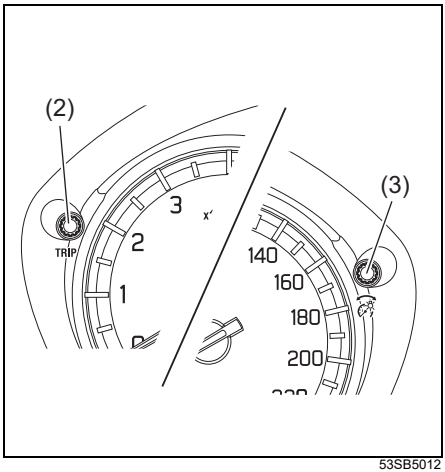
76S00009

- 減速エネルギー回生機能が作動しているとき点灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを「ON」にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。
- セレクトレバーが「N」の位置にあるときは、点灯しません。

マルチインフォメーションディスプレイ



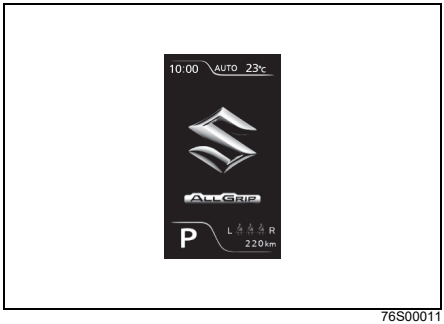
76S00010



53SB5012

(1)マルチインフォメーションディスプレイ　(2)トリップノブ
(3)表示切替ノブ

エンジンスイッチを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに少しの間、次のメッセージが表示されます。またそのあと各表示位置に、次の表のいずれかが表示されます。



76S00011

表示位置	表示される内容
(A)	時計 → **3-90ページ**
(B)	ALLGRIP（4WD）モード → **3-92ページ**
(C)	外気温 → **3-92ページ**

表示位置	表示される内容
(D)	●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ → **3-106ページ** ●アダプティブクルーズコントロール画面表示 → **3-92ページ** ●瞬間燃費／平均燃費／5分毎平均燃費／運転1回毎平均燃費 → **3-95ページ** ●航続可能距離表示 → **3-96ページ** ●平均車速／5分毎平均車速／積算走行時間表示 → **3-97ページ** ●時計表示 → **3-90ページ** ●モーション表示 → **3-98ページ** ●エネルギーフロー表示 → **3-98ページ** ●パワーメータ表示 → **3-100ページ** ●車速表示 → **3-100ページ** ●ブランク表示 → **3-93ページ**
(E)	セレクトレバー位置／ギヤポジション／M モード表示 → **3-101ページ**
(F)	●トリップメーター（区間距離計） → **3-101ページ** ●オドメーター（積算距離計） → **3-101ページ**

アドバイス

メッセージの種類によっては、エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときでも表示される場合があります。

時計

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（A）と（D）に時計が表示されます。



52R30750

■ 時刻の設定

1 メーター左側のトリップノブ（2）と右側の表示切替ノブ（3）を「時」表示が点滅するまで同時に長押しします。

2 「時」表示が点滅したら、表示切替ノブ（3）を左右にまわしながら「時」を合わせます。調整後に表示切替ノブを短押しすると「時」が決定され、「分」の設定に進みます。

3 「分」表示が点滅したら、表示切替ノブ（3）を左右にまわしながら「分」を合わせます。調整後に表示切替ノブ（3）を短押しすると「分」が決定され、時刻の設定が終了します。

⚠ 警告

走行中は、時刻の設定をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、設定をやり直す必要があります。
- 表示位置（D）で表示される時計も同時に時刻設定されます。メーターの時刻を調整すると、連動してインパネセンターのアナログ時計も時刻をあわせることができます。
- メーターの時計とインパネセンターのアナログ時計は同期していますが、ずれた場合にはエンジンスイッチを ON にしたときに、アナログ時計の時刻を自動で調整します。そのためエンジンスイッチを ON にしたときに、場合によってアナログ時計が数分動く可能性があります。

■ 日付およびカレンダー表示

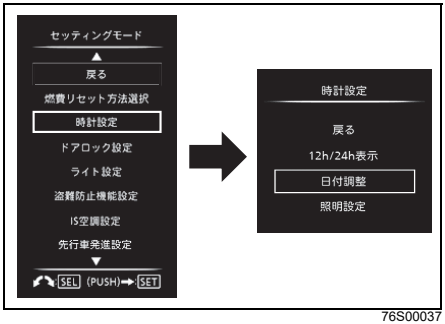
エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（D）の時計の下側にカレンダーが表示されます。



52R3075

■ 日付調整

1 メーター右側の表示切替ノブ（3）を長押ししてセッティングモードの画面に切り替えます。「時計設定」、「日付調整」の順に表示切替ノブを短押しします。



76S00037

2 下図のように画面が表示されます。表示切替ノブ（3）を左右にまわしながら「YYYY（年（西暦））」表示を合わせます。調整後に表示切替ノブを短押しすると「YYYY（年（西暦））」表示が決定され、「MM（月）」表示の設定に進みます。



53SJ0113

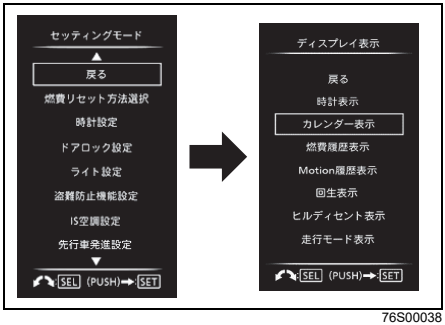
3 「MM（月）」表示が点滅したら、表示切替ノブ（3）を左右にまわしながら「MM （月）」を合わせます。調整後に表示切替ノブ（3）を短押しすると「MM（月）」が決定され、「ＤＤ（日）」表示に進みます。

4 「DD（日）」表示が点滅したら、表示切替ノブ（3）を左右にまわしながら「D D（日）」を合わせます。調整後に表示切替ノブを短押しすると「DD（日）」が決定され、「日付調整」の画面に戻ります。日付の設定が終了します。そのあと「戻る」に表示切替ノブ（3）をまわして短押しするとセッティングモードの「時計選択」の表示に切り替わります。

5 セッティングモードの表示で「戻る」を選択するともとの画面に戻ります。

■ カレンダー表示

1 メーター右側の表示切替ノブ（3）を長押ししてセッティングモードの画面に切り替えます。「ディスプレイ表示」、「カレンダー表示」の順に表示切替ノブを短押しします。



76S00038

2 下図のように画面が表示されます。



53SJ0084

- DD.MM.YYYY （日 . 月 . 年（西暦）、例：16.12.2016）
- YYYY.MM.DD （年（西暦）. 月 . 日、例：2016.12.16）※
- MM.DD.YYYY （月 . 日 . 年（西暦）、例：12.16.2016）

※初期状態（工場出荷時）

お好みの表示を選択したあと表示切替ノブを短押しするとカレンダー表示切替が完了します。そのあと「ディスプレイ表示」の「カレンダー表示」に画面がもどります。表示切替ノブ（3）を左右にまわして「戻る」を選択します。

3 セッティングモードの表示で「戻る」を選択するともとの画面に戻ります。

ALLGRIP（4WD）モード表示

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（B）に現在の ALLGRIP（4WD）モードが表示されます。

→ **4-28 ページ（ALLGRIP（4WD）モードの切替え）**

外気温

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（C）に外気温が℃単位で表示されます。

- 外気温が氷点下近くになると、次のメッセージが表示されます。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。

→ **6-18ページ（雪道を走行するとき）**

表示例



68PJ30052

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）画面表示

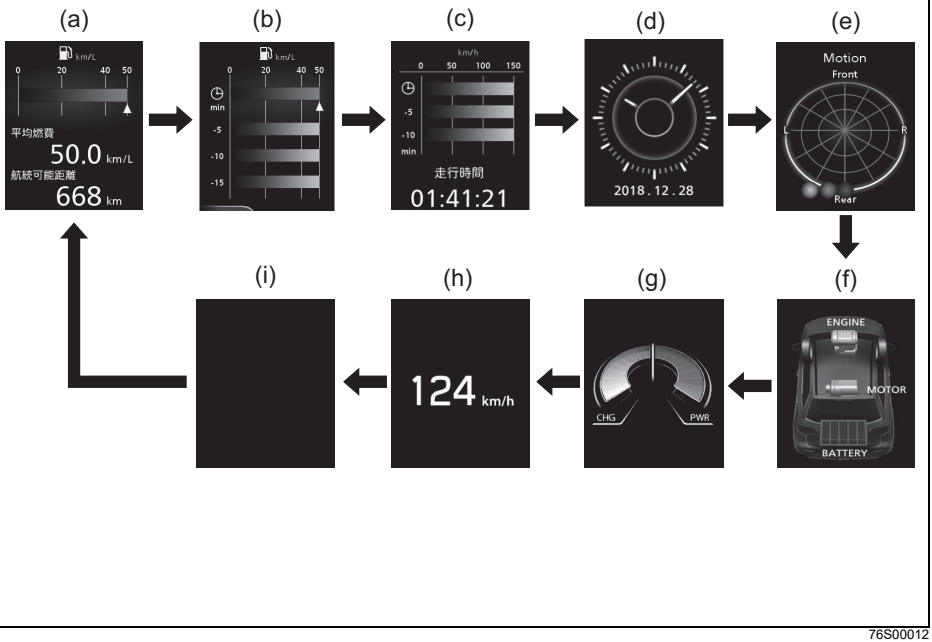
アダプティブクルーズコントロール機能を使用する際の作動状況／設定画面が表示位置 （D）に表示されます。

→ **4-75ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

表示の切替え

メッセージがない場合は、エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（C）に次のいずれかが表示されます。
また、表示切替ノブを短押しすると、次のように表示が切替わります。

表示例



76S00012

(a)瞬間燃費／平均燃費／航続可能距離表示
(b)瞬間燃費／平均燃費／5分毎平均燃費／運転1回毎平均燃費
(c)平均車速／5分毎平均車速／積算走行時間表示
(d)時計表示
(e)モーション表示
(f) エネルギーフロー表示
(g)パワーメータ表示
(h)車速表示
(i) ブランク表示(画面にはなにも表示されない状態)

⚠ 警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

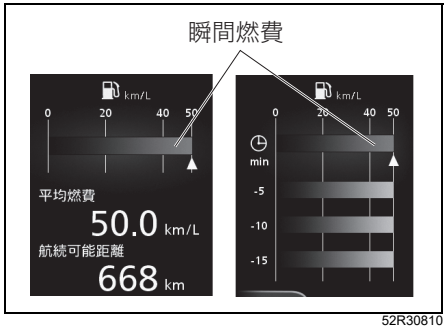
アドバイス

- 表示は、スイッチから手を離したときに切替わります。
- 表示される値は目安です。実際の値とは異なる場合があります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。

→ **3-75ページ（エンジン警告灯）**

■ 瞬間燃費

走行中の瞬間燃費が表示されます。

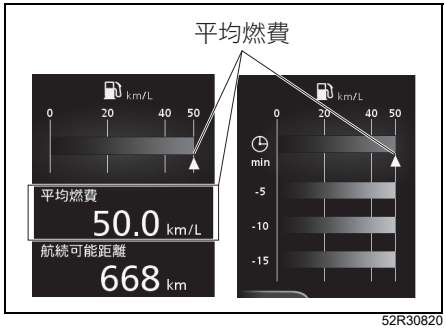


52R30810

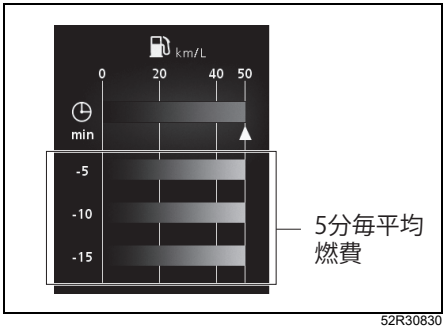
アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は 50 km/L です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。
- 燃費が大きく変化する走行をすると、表示に遅れが発生します。

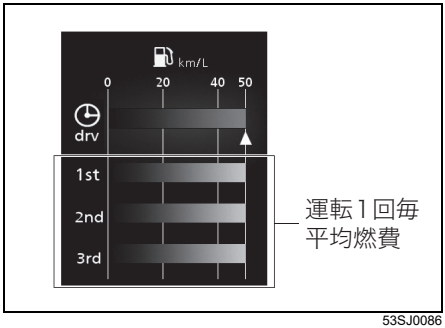
■ 平均燃費／ 5 分毎平均燃費／運転1回毎平均燃費



52R30820



52R30830



53SJ0086

表示をリセットしてからの平均燃費と走行15分前から5分毎に5分間の平均燃費もしくは、運転3 回前から1 回の運転毎の平均燃費が表示されます。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。
- 5 分毎平均燃費表示と運転 1 回平均燃費表示の切替えは、セッティングモードで選択できます。

→ **3-102ページ（セッティングモード）**

- リセット方法は、セッティングモードで次の３つから選択できます。

→ **3-102ページ（セッティングモード）**

〔給油連動〕

給油するごとに自動的にリセットされます。

アドバイス

給油量が少ないと、自動的にリセットされない場合があります。

〔TRIP A連動〕

トリップメーター A のリセットと連動してリセットされます。

→ **3-101ページ（トリップメーター（区間距離計））**

〔非連動〕

平均燃費の表示中に表示切替ノブを長押しするとリセットされます。

■ 航続可能距離



52R30850

現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

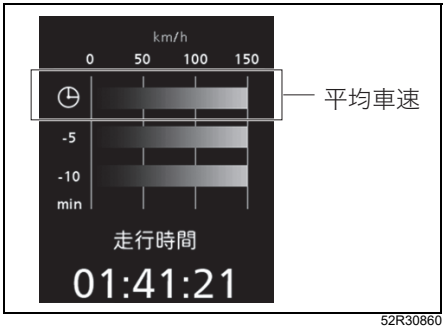
- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

アドバイス

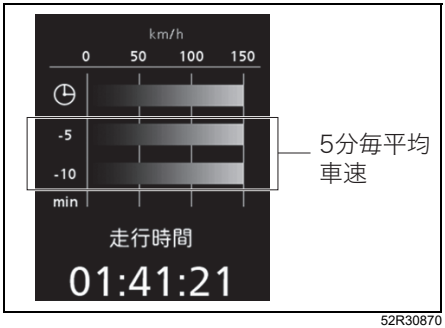
- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- 鉛バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。
- エンジンスイッチを ON のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  - ・バッテリー接続後しばらくの間
  - ・燃料残量警告灯の点灯中

→ **3-73ページ（燃料残量警告灯）**

■ 平均車速／5分毎平均車速



52R30860



52R30870

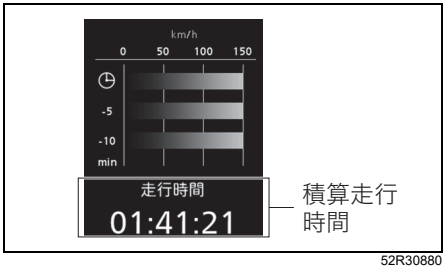
表示をリセットしてからの平均車速と走行10分前から5分毎に5分間の平均車速が表示されます。

- リセットするときは、平均車速の表示中に表示切替ノブを長押しします。
- 表示される値は、目安です。実際の値とは、異なる場合があります。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均車速の表示はリセットされます。

■ 積算走行時間



52R30880

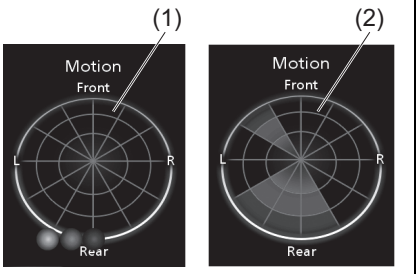
表示をリセットしてからの走行時間が表示されます。

- リセットするときは、走行時間の表示中に表示切替ノブを長押しします。

アドバイス

- 走行時間の最大値は、99：59：59（時/分/秒）で、リセットするまで固定されます。
- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、積算走行時間の表示はリセットされます。

■ モーション表示



52R30890

車体にどのような重心変化があるのかをリアルタイムで表示します。
最大加速度や減速度を感知した際、G（加速度）センサー（球上アイコン（1）が画面に表示されます。
車体を停止した際、運転中に記録されたG センサー位置に関する履歴はグラフ（2）で表示が可能です。

- 表示される画面は目安です。実際の値とは、異なる場合があります。

⚠ 警告

走行中は画面を注視しないでください。画面に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- モーション履歴表示は、設定の切替え（カスタマイズ）をすると表示させなくすることもできます。
  → **3-102ページ（セッティングモード）**
- モーション履歴表示　OFF　にしてもモーション表示は表示されます。

■ エネルギーフロー表示

高電圧バッテリーの残量や車の状態によるエネルギーの流れを表示します。

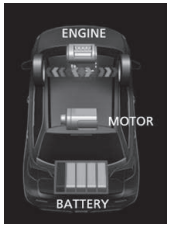
図は表示例です



76S00013

- エンジンでの走行時。

図は表示例です



76S00014

- 通常走行の減速時に、減速エネルギー回生機能が作動しているとき。バッテリーへ充電しています。

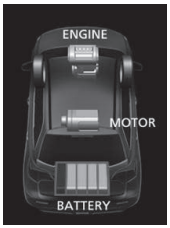
図は表示例です



76S00013

● 停車中にエンジンが自動停止しているとき。

図は表示例です

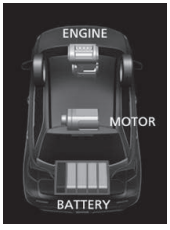


76S00015

● エンジン自動停止時にスターターモーター機能が作動したとき。バッテリーへの充電は行なわれず、蓄積した電気で ISG のスターターモーター機能を作動させます。

スターターモーター機能
ISG とは、Integrated Starter Generator（インテグレーテッド スターター ジェネレーター）の略でモーター機能付き発電機です。ハイブリッドシステムによるエンジンの自動停止から再始動するときに、ISG がベルトを介してエンジンを再始動させます。

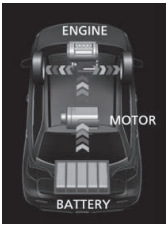
図は表示例です



76S00015

● 加速時にモーターアシストが作動しているとき。エンジン出力にモーター出力を上乗せしてアシストしています。

図は表示例です



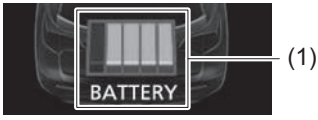
76S00016

モーターアシスト機能
走行時に駆動用モーターがエンジンをアシストし、エンジンの負担を低減することで、燃費向上を図ります。

バッテリー表示について

バッテリー表示（1）の目盛りは、高電圧バッテリーの充電量の目安を示します。充電状態によって、表示内の目盛りが増減します。

図は表示例です

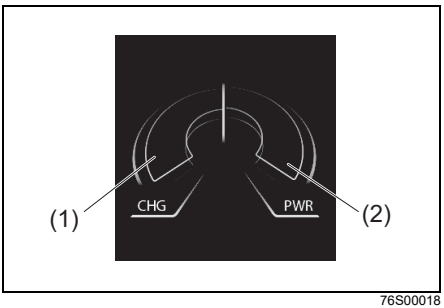


76S00017

アドバイス

- エネルギーフローインジケーター表示は目安です。外気温が低いときなど、状況によっては表示が遅れたり、実際とは異なる表示になったりする場合があります。
- 車速が低い場合などはエネルギー回生機能が作動しない場合があります。

■ パワーメータ表示

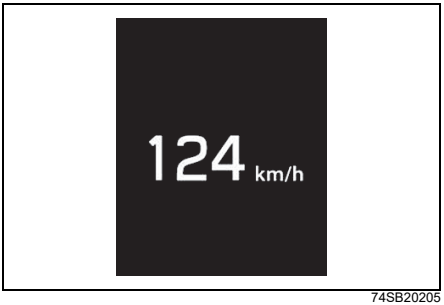


76S00018

駆動用モーターの作動状態を表示します。

- 回生ブレーキ（1）とモーターアシスト（2）の作動状態が表示されます。

■ 車速表示



74SB20205

現在の車速を表示します。

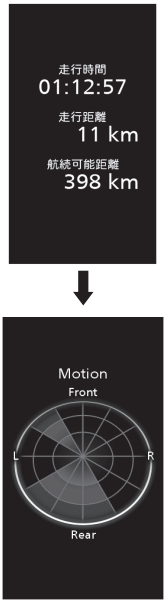
アドバイス

停車中でも、車体の揺れや振動により、車速が表示される場合があります。

■ エンディングモード

エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、1 回の運転での走行時間／走行距離／航続可能距離が表示位置（D）に数秒間表示されます。その後、モーション履歴の表示が数秒間表示されます。

表示例



53SJ0087

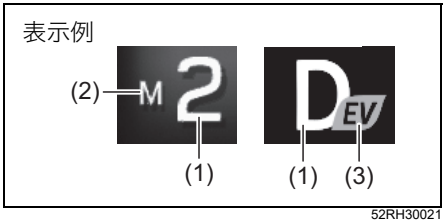
アドバイス

- モーション履歴表示は、設定の切替え（カスタマイズ）をすると表示させなくすることもできます。

  → **3-102ページ（セッティングモード）**

- モーション履歴表示 OFF にしてもモーション表示は表示されます。

セレクトレバー位置／ギヤポジション／M モード表示



52RH30021

(1)セレクトレバー表示／ギヤポジション表示
(2)Mモード表示
(3)EV走行表示

- エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（E）に走行状況にあわせて表示されます。
- EV 走行のとき、EV 走行表示（3）が表示されます。

■ セレクトレバー位置表示

セレクトレバーの位置が表示されます。（マニュアルモード時を除く）

→ **4-15ページ**
（セレクトレバーの各位置のはたらき）

■ ギヤポジション／M（マニュアル）モード表示

マニュアルモードのときに、M モード表示と現在のギヤポジションが表示されます。

→ **4-18ページ**
（マニュアルモードの使いかた）

トリップメーター（区間距離計）

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（F）に、リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- A および B の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞

A: 出発時にリセットして、出発後の距離を計測
B: 給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまでトリップノブを長押しします。

アドバイス

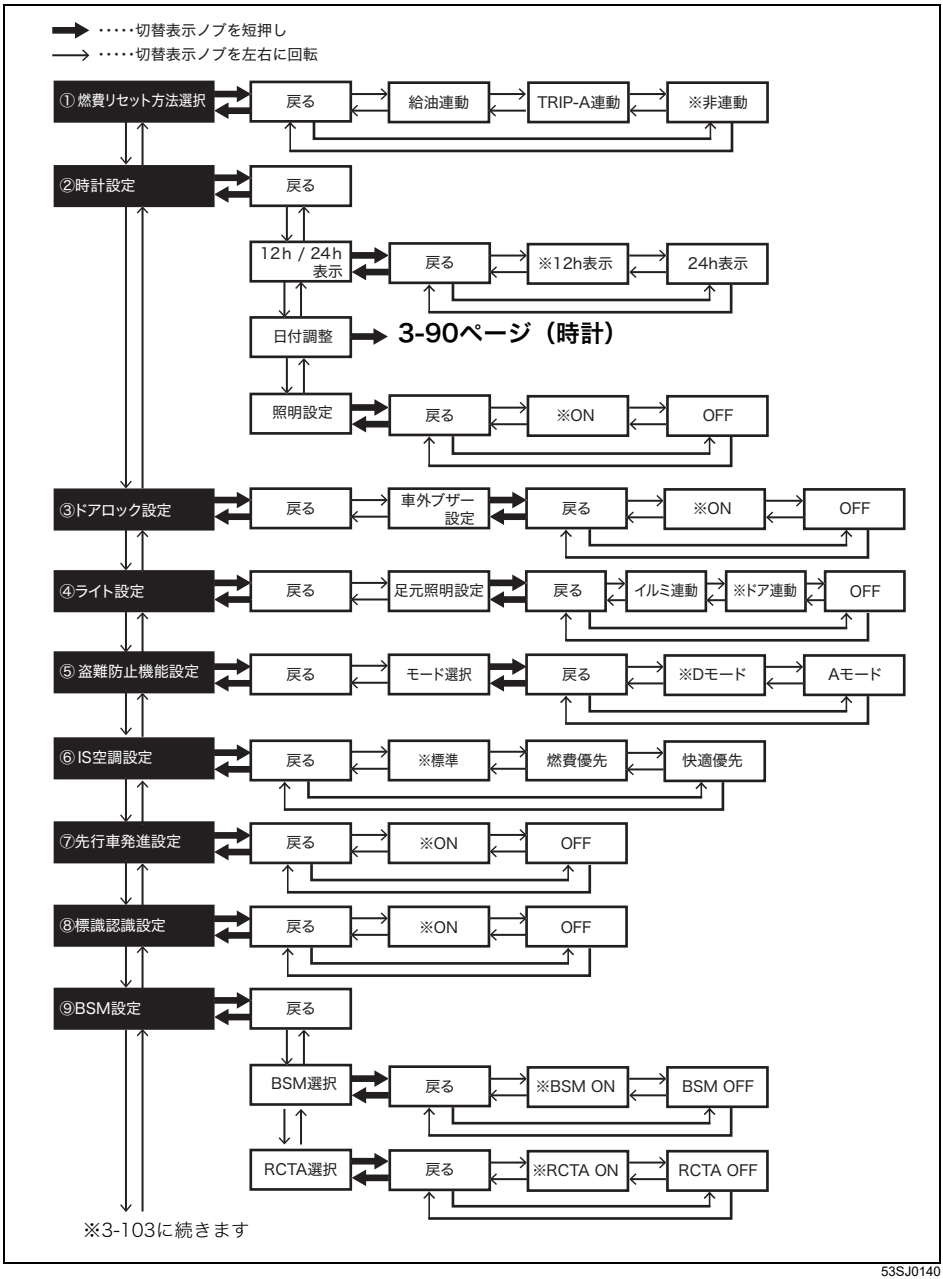
トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

オドメーター（積算距離計）

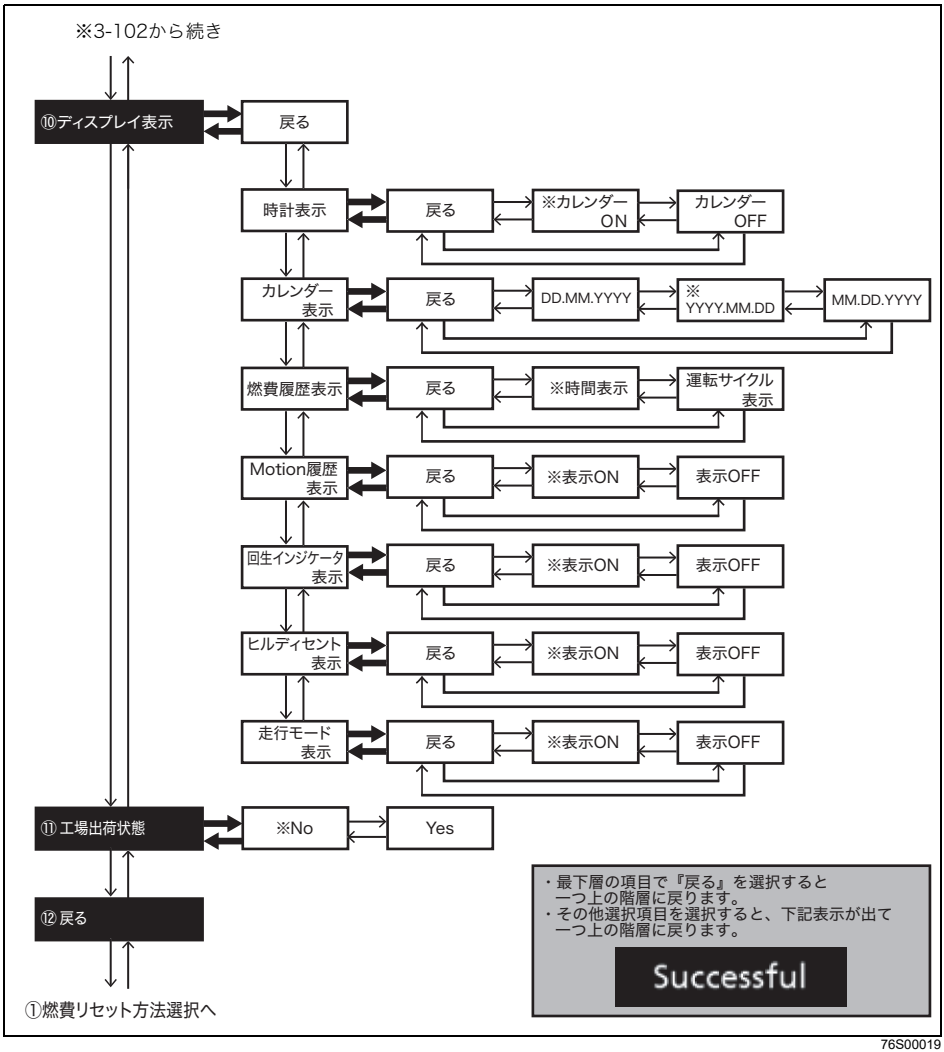
エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（F）に新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

セッティングモード

セッティングモードでは次の設定切替え（カスタマイズ）ができます。



53SJ0140



76S00019

※初期状態（工場出荷時）

■ セッティングモードへの切替えのしかた

切替えは、エンジンスイッチが ON のときの停車中にできます。（走行中はできません）

1 表示切替ノブを3 秒以上長押しします。マルチインフォメーションディスプレイ全体がセッティングモードに切替わります。

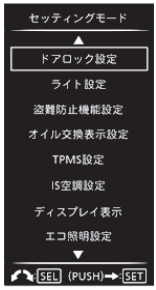
アドバイス

下記の表示中にセッティングモードにすると、同時に現在の値がリセットされてしまいます。リセットしたくないときは、先に表示切替ノブを短押しして、ほかの表示に切替えてください。
- ●平均燃費
- ●平均車速
- ●走行時間

2 設定を切り替えたい表示を選択します。

- ●表示切替ノブ（3）をまわして表示を切り替えます。

表示例



53SJ0088

アドバイス

現在選択されている設定は、文字が枠で囲まれて表示されます。

3 設定切替え表示に移動します。

下記の①～⑫の設定切替え表示において更に選択肢がある場合、表示切替ノブを短押しします。

① 燃費リセット方法選択
平均燃費のリセット方法を、「給油連動」、「TRIP-A 連動」、「非連動」から選択できます。

→ **3-95ページ（平均燃費／5分毎平均燃費／運転1回毎平均燃費）**

② 時計設定

〔時計表示〕
時計表示で「12h 表示」、「24h 表示」から選択できます。
- ●セッティングモードで時刻の設定はできません。

〔日付調整〕
年（西暦）、月、日の日付調整ができます。

→ **3-90ページ（時計）**

〔照明設定〕
夜間照明「ON」、「OFF」の切替えができます。

③ ドアロック設定

〔車外ブザー設定〕
アンサーバック機能の車外ブザーによる合図の設定を「ON」、「OFF」から選択できます。

→ **3-4ページ（アンサーバック機能）**

④ ライト設定
足元照明の設定を、「イルミ連動」、「ドア連動」から選択できます。

⑤ 盗難防止機能設定
セキュリティアラームのモード設定切替えを「A モード」、「D モード」から選択できます。

→ **3-16 ページ（セキュリティアラーム （警報装置））**

⑥ IS空調設定
エンジン自動停止に関する空調設定を「標準」、「燃費優先」、「快適優先」から選択できます。

→ **5-9 ページ（エンジン自動停止に関する 空調設定）**

⑦ 先行車発進設定
先行車発進お知らせ機能の設定を、「ON」、「OFF」から選択できます。

→ **4-69ページ（先行車発進お知らせ機能）**

⑧ 標識認識設定
標識認識機能の設定を、「ON」、「OFF」から選択できます。

→ **4-71ページ（標識認識機能）**

⑨ BSM設定

〔BSM設定〕
ブラインドスポットモニタ（車線変更サポート付）の作動「ON」、「OFF」の切替えができます。

→ **4-90ページ (ブラインドスポットモニタ (BSM) (車線変更サポート付))**

〔RCTA設定〕
リヤクロストラフィックアラートの作動「ON」、「OFF」の切替えができます。

→ **4-96ページ (リヤクロストラフィック アラート（RCTA))**

⑩ ディスプレイ表示

〔時計表示〕
カレンダー表示で「カレンダーON」で表示、「カレンダーOFF」で表示しない切替が選択できます。

→ **3-90ページ（時計）**

〔カレンダー表示〕
カレンダー表示で「DD.MM.YYYY (日 . 月.年 (西暦))」、「YYYY.MM.DD (年 (西暦) .月.日)」、「MM.DD.YYYY (月.日.年 (西暦))」から選択できます。

→ **3-90ページ（時計）**

〔燃費履歴表示〕
平均燃費/5分毎平均燃費/運転1回毎平均燃費の表示において、「時間表示」、「運転サイクル表示」から選択することができます。

→ **3-95ページ（平均燃費／5分毎平均燃費／運転1回毎平均燃費）**

〔Motion履歴表示〕
エンディングモードのモーション履歴表示において「表示 ON」、「表示 OFF」の切替えができます。

→ **3-98ページ（モーション表示）**
→ **3-100ページ（エンディングモード）**

〔回生インジケータ表示〕
回生インジケータ表示において、「表示 ON」、「表示 OFF」の切替えができます。

→ **3-87ページ（回生エネルギー表示灯）**

〔ヒルディセント表示〕
ヒルディセント表示において「表示 ON」、「表示 OFF」の切替えができます。

→ **4-44 ページ（ヒルディセントコントロールの使いかた）**

〔走行モード表示〕
ALLGRIP（4WD）モード切替表示において「表示 ON」、「表示 OFF」の切替えができます。

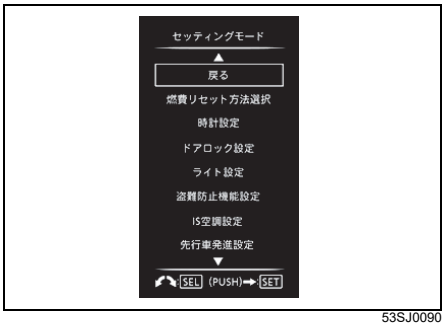
→ **3-92ページ**
（ALLGRIP（4WD）モード表示）

⑪ 工場出荷状態
工場出荷時の初期設定にもどせます。

⑫ 戻る
セッティングモードを終了します。

セッティングモードの終了のしかた

表示切替ノブをまわして「戻る」を選択し、ノブを短押しします。



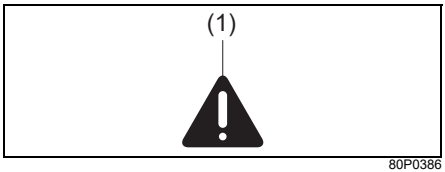
53SJ0090

- 次のような操作でも終了できます。
  - ・エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にする。
  - ・走行を開始する。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

各システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されます。また、メッセージの種類によっては、同時に室内／車外ブザーが鳴る場合があります。

- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。詳しくは、次のページの「**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ一覧**」をお読みください。また、その一覧に案内されている参照ページもあわせてお読みください。
- 表示されるメッセージの種類によっては、メーター内のマスターウォーニング（1）が同時に点滅する場合があります。



80P0386

アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、約5秒ごとに表示が切替わります。
- メッセージが表示されているときに、表示切替ノブを長押しすると、もとの画面にもどります。ただし、メッセージの種類によっては、要因が解消されるまでは、ふたたび表示される場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ一覧

●エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のとき

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー	説明
 （停車中は※1）	消灯	なし	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 ●安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 → **3-78ページ（半ドア警告灯）**
 （※1）	消灯	なし	電源の状態が ACC のときに表示されます。 → **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**
	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**
	消灯	なし	セレクトレバーが P N 以外の位置、またはブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。 → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**

※1　印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	消灯	なし	次の状況でエンジンスイッチを押しています。 ●セレクトレバー位置がPまたはN以外 ●ブレーキペダルを踏んでいない エンジンをかけるときは、メッセージの指示にしたがってください。 → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	ハンドルロックに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-12 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	イモビライザー／キーレスプッシュスタートシステムの異常または鉛バッテリーの電圧が低いことが考えられます。 鉛バッテリーの電圧が正常な状態でもこのメッセージが表示されたときはスズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-5 ページ（キーレスプッシュスタートシステム）**
 	点滅	●ポーン ●2回 ●室内ブザー	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れている状態で、エンジンスイッチ操作をしています。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**

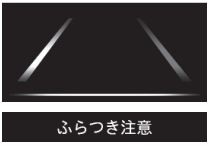
メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
 	点滅	●ピー、ピー ●5回 ●室内／車外ブザー そのあとに ●ポーン ●1回 ●室内ブザー	エンジンスイッチを ACC または ON にしたときは携帯リモコンを検知していたが、始動時に検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置で、エンジンスイッチを操作してください。 → **4-5ページ（車内の作動範囲）** → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**
	点滅	●ピー、ピー ●5回 ●室内／車外ブザー	エンジンをかけた状態、またはエンジンスイッチが ACC または ON のときに、ドアのいずれかを開閉して、携帯リモコンが検知外（車外など）になりました。リモコンを車内の検知できる位置にもどしてください。 → **4-8 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**
	点滅	●ピーーー ●室内ブザー	エンジンスイッチが LOCK（OFF）のときに、ヘッドライトまたは車幅灯を点灯した状態で運転席ドアを開けています。ヘッドライトまたは車幅灯を消してください。 → **3-120 ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）**

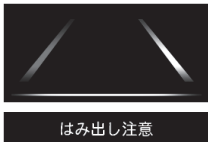
● エンジンスイッチが ON のとき

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
 （停車中は※1）	点滅（走行中のみ）	（走行中のみ） ● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	いずれかのドアが開いています。安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 → **3-78ページ（半ドア警告灯）**
 （※1）	消灯	なし	電源の状態が ON のときに表示されます。 → **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**
	点滅	● ピピピッ、ピピピッ、 ● 室内ブザー	走行中に、パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → **4-14ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）**
 （※1）	消灯	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → **3-73ページ（燃料残量警告灯）**
	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**

※1　印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	消灯	なし	セレクトレバーが P N 以外の位置でブレーキペダルを踏んで、エンジンスイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。 → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	ハンドルロックに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-12 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左右にまわしながら、エンジンスイッチの操作をやり直してください。 → **4-4ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	AT オイルの過熱が考えられます。安全な場所に停車して、アイドリング状態にしてください。 → **3-77ページ（トランスミッション警告灯）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	イモビライザー／キーレスプッシュスタートシステムの異常または鉛バッテリーの電圧が低いことが考えられます。 鉛バッテリーの電圧が正常な状態でもこのメッセージが表示されたときはスズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-5 ページ（キーレスプッシュスタートシステム）**

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー	説明
	消灯	なし	携帯リモコンの電池切れが近いです。電池を交換してください。 → **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**
 	点滅	●ピー、ピー ●5回 ●室内／車外ブザー そのあとに ●ポーン ●1回 ●室内ブザー	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → **4-8 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）** → **4-9 ページ（ハイブリッドシステムの起動）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	ESP® のシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-43ページ（ヒルホールドコントロール）**
	消灯	●ピピピピピ ●断続的 ●室内ブザー	ふらつき警報が作動しています。 → **4-68ページ（ふらつき警報）**

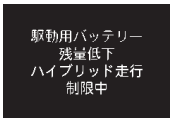
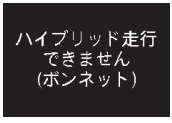
メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー	説明
	消灯	●ピピピピピ ●断続的 ●室内ブザー	車線逸脱警報が作動しています。 → **4-62ページ（車線逸脱警報）**
	消灯	●ピピッ ● 1回 ●室内ブザー	先行車発進お知らせ機能が作動しています。 → **4-69 ページ（先行車発進お知らせ機能）**
	点滅	●ピピピピピ ●断続的 ●室内ブザー	誤発進抑制機能が作動しています。 → **4-59 ページ（誤発進抑制機能）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	レーザーレーダーと単眼カメラの機能が一時停止しています。 → **4-47　ページ（レーザーレーダーと単眼カメラ）**
			カメラ本体の高温により、レーザーレーダーと単眼カメラの機能が一時停止しています。 → **4-47　ページ（レーザーレーダーと単眼カメラ）**
			カメラの視界不良により、レーザーレーダーと単眼カメラの機能が一時停止しています。 → **4-47　ページ（レーザーレーダーと単眼カメラ）**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	レーザーレーダーと単眼カメラの異常が考えられます。エンジンを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 → **4-49 ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**
	消灯	●ピピピピピ ●断続的 ●室内ブザー	前方衝突警報が作動しています。 → **4-56ページ（前方衝突警報）**
		●ピピピピピ ●断続的 ●室内ブザー	前方衝突被害軽減ブレーキアシストが作動しています。 → **4-57 ページ（前方衝突被害軽減ブレーキアシスト）**
		●ピーーーー ●連続 ●室内ブザー	自動ブレーキが作動しています。 → **4-57ページ（自動ブレーキ）**
 ※2	消灯	●ピピピピピ または ●ピーーーー ●室内ブザー	ハンドルを持っていない、またはハンドル操作がありません。ハンドルを持って操作してください。 → **4-63ページ（車線逸脱抑制機能）**

※2 しばらくの間ハンドルを持たないままにするとブザーが鳴りメッセージ内の手の色が白から赤に変わります。赤のときはハンドルを持ってもブザーおよびメッセージが消えるまで時間がかかるときがあります。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー	説明
 	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	車線逸脱抑制機能の異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-63ページ（車線逸脱抑制機能）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	BSM機能とRCTA機能が一時停止しています。 エンジンを再始動しても、メッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 → **4-95ページ（ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）／リヤクロストラフィックアラート（RCTA）のメッセージ）**
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	BSM機能とRCTA機能の異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-95ページ（ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）／リヤクロストラフィックアラート（RCTA）のメッセージ）**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	点滅	●ピー、ピー、 ●約5秒間 ●室内ブザー	高電圧遮断機能が作動した、またはハイブリッドシステムに重大な故障が発生しています。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
	点滅	●ピピピッ、ピピピッ ●室内ブザー	ハイブリッドシステムに重大な故障が発生しています。ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。走行を続けた場合、お車の損傷や思わぬ事故につながるおそれがあります。このメッセージ表示から約２分後にエンジンが停止します。
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	ハイブリッドシステムに故障が発生しています。ただちにスズキ販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。（※3）
	点滅	●ポーン ●1回 ●室内ブザー	高電圧バッテリーの残量がありません。D レンジで走行し、高電圧バッテリーを充電してください。（※3）

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	消灯	なし	駆動用モーターや高電圧バッテリーが高温となり、駆動用モーターの出力を制限しています。急な加速や減速を控えてください。（※3）
	消灯	なし	高電圧バッテリーの残量が低下したため、駆動用モーターの出力を制限しています。セレクトレバーの位置を D にして走行し、高電圧バッテリーを充電してください。（※3）
	消灯	なし	車が動いている状態で、ハイブリッドシステムの起動を行なったなどの理由により、システムが起動できずハイブリッド走行ができません。ハイブリッドシステムを再起動してください。（※3）
	消灯	なし	ハイブリッドシステムの起動時ボンネットが完全に閉まっていなかった、またはエンジンスイッチを ON にしたあと、ボンネットの開閉をしたため、ハイブリッド走行ができません。
	消灯	なし	高電圧バッテリーの温度が低いため、ハイブリッドシステムを起動できません。高電圧バッテリーが温まった状態でハイブリッドシステムを再起動してください。なお、エンジンのみでの走行は可能です。(※3)

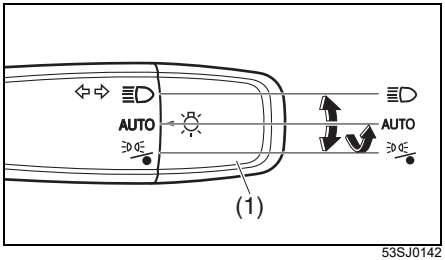
※3 クリープ機能が働かない場合があります。坂道での発進はパーキングブレーキを使用してください。

→ **4-24ページ（急な上り坂での発進）**

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

ヘッドライトなどを自動で点灯・消灯できます。自動で点灯または消灯しているとき手動で消灯または点灯できます。



53SJ0142

≡D
ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を点灯できます。

AUTO
オートライトシステムによりヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を自動で点灯・消灯します。

≡D
ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯を消灯します。車幅灯、尾灯、番号灯を点灯します。ライトスイッチのツマミ（1）から手を離すと AUTO の位置に戻ります。

注記

●エンジン停止中に長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
エンジン停止中は、ライトを長時間点灯させないでください。
●AUTO 位置のままエンジンスイッチを ON にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯するため、そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となります。
AUTO 位置で、エンジンスイッチを ON にしたままにしないでください。

アドバイス

●ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。
→ **3-82ページ**
（ライト点灯表示灯）

■ ≡D の位置

ライトスイッチのツマミ（1）を ≡D にするとヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
- エンジンスイッチが ON から ACC または LOCK（OFF）にしても点灯したままです。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）でも点灯します。

■ AUTOの位置（オートライトシステム）

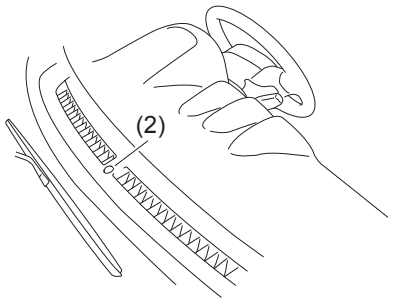
オートライトシステムにより車外の明るさに応じて自動的に点灯・消灯します。

- ライトスイッチのツマミ（1）がAUTOの位置でエンジンスイッチが ON のときに機能します。
- ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が同時に点灯・消灯します。
- 薄暗くなったときやトンネルなど急に暗くなったときに自動で点灯します。
- 自動で点灯しているとき
  - ・走行時は消灯できません。
  - ・エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）にすると消灯します。

アドバイス

オートライトセンサー（2）の上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ中央



■ の位置

ライトスイッチのツマミ（1）を まで まわす、またはまわして保持すると点灯・消灯します。

- 自動でヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯していて、停車しているとき

の操作	ヘッドライト	車幅灯、尾灯、番号灯
まわす	消灯	点灯
まわして保持※	消灯（先に消灯）	消灯（後に消灯）

※ヘッドライト点灯時

- ヘッドライトが消灯しているとき まで操作するたびに点灯、消灯が切り替わります。

の操作	車幅灯、尾灯、番号灯
まわす	消灯 ⇔ 点灯
まわして保持	消灯 ⇔ 点灯

  - ・エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）でも点灯・消灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯していたとき、エンジンスイッチを ON から ACC または LOCK（OFF）にしても点灯したままになります。
- 車外がヘッドライトなどが自動で点灯する明るさの場合、走行をはじめると停車中に消灯させた全てのライトが再び点灯します。

■ LEDイルミネーションランプ

フロントフォグランプの外側にあります。

- 車幅灯が点灯している間、点灯します。

ライト自動消灯システム

鉛バッテリーあがりを防ぐため、次の場合点灯しているライトは自動で消灯します。

- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）したときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯が点灯している場合、運転席ドアを開けるまたは約10分経過すると、ライトは自動で消灯します。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときにヘッドライトまたは車幅灯、尾灯、番号灯を点灯した場合、約10分経過すると、ライトは自動で消灯します。
  ヘッドライトが自動消灯した後、ライトスイッチのツマミ（1）が ≡D のままで運転席ドアを開けるとヘッドライトなどが再点灯します。

自動で消灯したあと再びライトを点灯させる場合は、ライトスイッチのツマミ（1）を AUTO の位置にしてから、 AUTO または ≡D へ操作してください。

→ **3-118ページ（≡D の位置）**
→ **3-119ページ（AUTO の位置）**

ライト自動消灯システムは、エンジンスイッチを ON にすると停止し、自動または手動で点灯・消灯します。

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあとに、ヘッドライトや車幅灯を点灯したまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

ヘッドライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

- 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

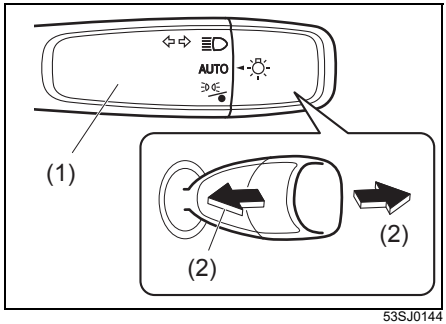
→ **3-106 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（1）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。（2）
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**



53SJ0144

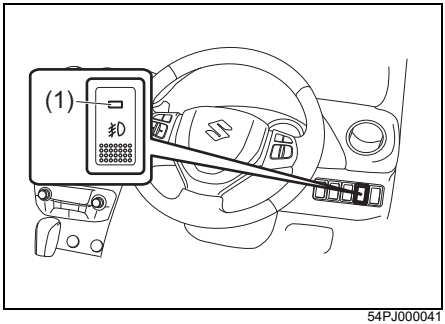
アドバイス

対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



54PJ000041

注記

鉛バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

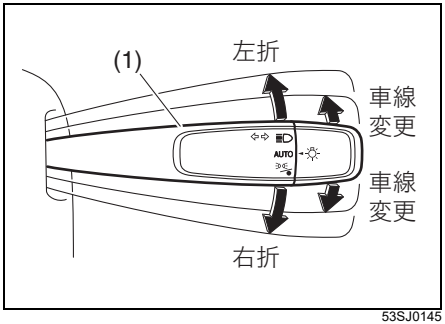
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



53SJ0145

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

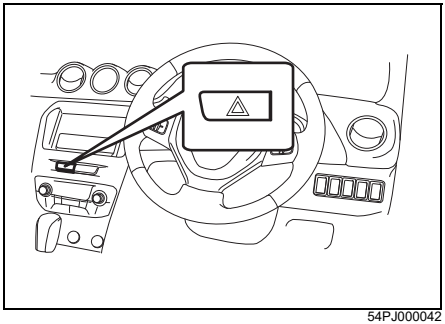
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



54PJ000042

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。鉛バッテリーがあがる原因となります。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。
→ 5-8ページ（デフロスタースイッチ）

注記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

■ ワイパーが作動中に停止したときは

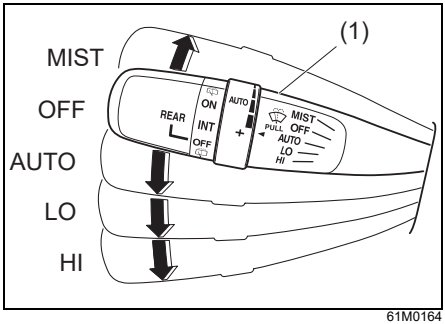
積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度があがると、モーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にします。
2. ワイパースイッチをOFFにします。
3. ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
4. しばらくしてモーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。

- しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

フロントワイパースイッチ

レバー（1）を上下に操作します。



61M0164

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO	自動作動
LO	低速作動
HI	高速作動

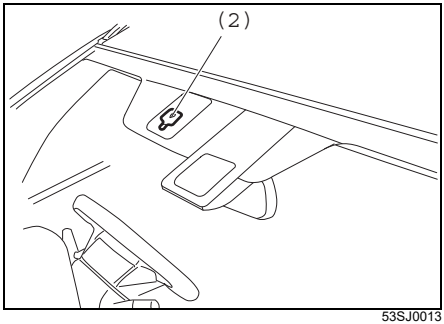
アドバイス

レバーを OFF から AUTO に操作したときは、ワイパーが1回作動したあと、自動作動になります。

■ オートワイパーシステム

ワイパースイッチを AUTO 位置にしていると、次の状況に応じてワイパーが自動で作動します。

- フロントガラスの上部にあるレインセンサーが感知した雨の程度（雪やそのほかの液体、ほこりなどを含む）
- 車速



53SJ0013

(2) レインセンサー

〔オートワイパーの作動の目安〕

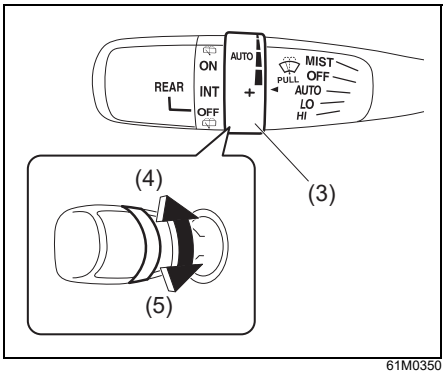
雨の程度	作動状態
なし	停止
小雨	間欠作動
普通の雨	低速作動
大雨	高速作動

次のような場合は故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- 雨の程度が変化しても、オートワイパーの作動が変化しないとき
- 雨や雪が降っていても、オートワイパーが作動しないとき

〔レインセンサーの感度調節〕

リングをまわします。



61M0350

(3) リング

リング位置	感度
(4) ＋側	敏感（雨に反応しやすい）
(5) －側	鈍感（雨に反応しにくい）

⚠注意

●ワイパースイッチが AUTO 位置でエンジンスイッチを ON にしているときは、次のことをお守りください。守らないと、不意にワイパーが作動することがあり、けがのおそれがあります。また、ワイパーが故障する原因となります。
- **フロントガラスのセンサー部に触れたり、布などでふいたりしない**
- **フロントガラスやセンサーに衝撃をあたえない**

●自動洗車機を使うときや、フロントガラスのお手入れをするときは、ワイパースイッチを OFF にしてください。

アドバイス

次のような状況では、レインセンサーが雨や雪を正確に感知できず、正常に作動しない場合があります。

- フロントガラスのセンサー部に、雨や雪が当たらないとき、もしくは当たっても感知しにくい種類の雪のとき
- センサー部に、泥や氷などの異物が付着しているとき
- ワイパーを作動させる前からフロントガラスに雨滴が付着しているとき
- センサーの温度が炎天下で80℃以上のとき、または寒冷時で－10℃以下のとき
- フロントガラスに撥水加工をしているとき（雨滴が流れやすいため雨量が多いと判断し、作動回数が多くなる場合があります）
- フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼って、センサーを覆っているとき
- ワイパーブレードのゴム部が傷ついているとき

■ オートワイパーシステムの設定切替え

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、AUTO 位置での作動を次のように変更できます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

〔セミオートモード〕

間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。（停止しません）

〔間欠ワイパーモード〕

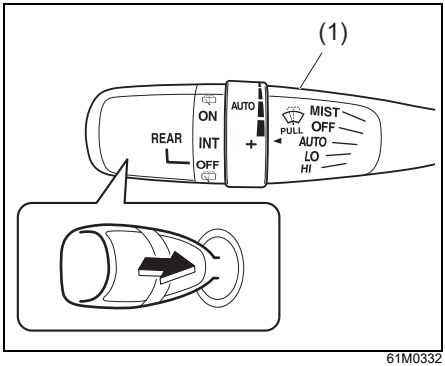
間欠作動だけします。作動間隔は、リングで調節できます。

〔フルオートモード〕（工場出荷時）

停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

フロントウォッシャースイッチ

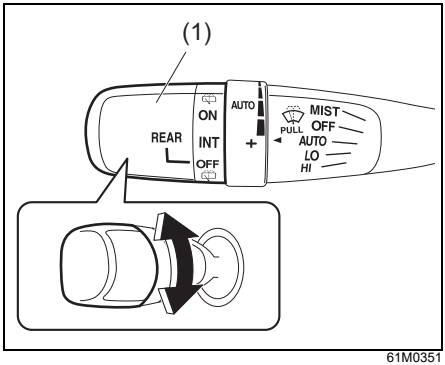
レバー(1)を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



61M0332

リヤワイパー／ウォッシャースイッチ

ツマミ（1）をまわすと、リヤワイパー／ウォッシャーが次表のように作動します。



61M0351

位置	ワイパー	ウォッシャー
（上側）	ツマミをまわしている間作動	
ON	連続作動	停止
INT	間欠作動	停止
OFF	停止	
（下側）	ツマミをまわしている間作動	

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。



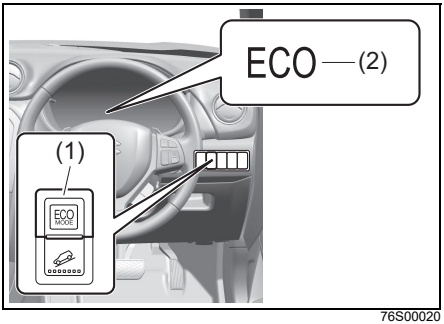
51K0187

エコモードスイッチ

エコモードにすると、次のようになり燃費向上につながります。

- アクセルペダルの踏み込みに対する駆動力の発生がゆるやかになります。
- 空調の作動を抑えます。

エコモードスイッチ（1）を押すとエコモードとなり、メーター内のエコモード表示灯（2）が点灯します。もう一度スイッチを押すとエコモードが解除され、表示灯が消灯します。



76S00020

アドバイス

- エコモードにすると、空調設定を選択することができません。
- ALLGRIP(4WD) モードを AUTO モード以外に設定すると、エコモードは解除されます。

MEMO

4. 運転するときは

● **ハイブリッドシステム起動・停止**
エンジンスイッチのはたらき ····· 4-2
イモビライザーシステム ····· 4-4
キーレスプッシュスタートシステム ····· 4-5
ハイブリッドシステムの起動 ····· 4-9
ハイブリッドシステムの止めかた ····· 4-11

● **パーキングブレーキ**
パーキングブレーキの操作 ····· 4-13

● **オートマチック車**
セレクトレバーの操作 ····· 4-15
オートマチック車の特性 ····· 4-20
オートマチック車を運転するとき ····· 4-21
オートマチック車の運転のしかた ····· 4-23

● **4WD車**
ALLGRIP（4WD）モードの切替え ····· 4-28
4WD車を運転するときは ····· 4-34

● **ESP®**
ESP® 装備車の取扱い ····· 4-34

● **ABS**
ABS装備車の取扱い ····· 4-38

● **ヒルホールドコントロール**
ヒルホールドコントロール ····· 4-43

● **ヒルディセントコントロール**
ヒルディセントコントロール ····· 4-44

● スズキ セーフティ サポート

スズキ セーフティ サポート ····· 4-47
レーザーレーダーと単眼カメラ ····· 4-47
デュアルセンサーブレーキサポート ····· 4-54
誤発進抑制機能 ····· 4-59
車線逸脱警報 ····· 4-62
車線逸脱抑制機能 ····· 4-63
ふらつき警報 ····· 4-68
先行車発進お知らせ機能 ····· 4-69
デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチ ····· 4-70
車線逸脱警報 OFF スイッチ ····· 4-71
標識認識機能 ····· 4-71
アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）····· 4-75
ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）····· 4-90
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）··· 4-96

● 車両接近通報装置

車両接近通報装置 ····· 4-98

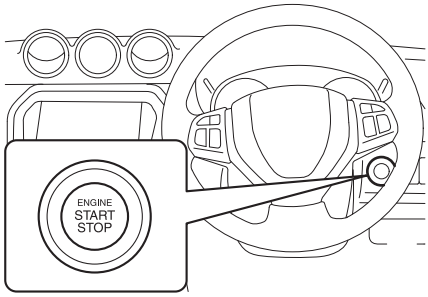
● ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステム ····· 4-99

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、ESP®、SRS エアバッグシステム、スズキセーフティサポートなどの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

エンジンスイッチのはたらき



54PJ000044

エンジンスイッチ	エンジンの状態	はたらき
LOCK（OFF）	停止	駐車するときの位置です。エンジンスイッチをLOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	ハイブリッドシステムを起動せずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、アクセサリーソケットなどの電装品を使用するときの位置です。
ON	停止	ハイブリッドシステムを起動せずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーターが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	携帯リモコンを所持してセレクトレバーをPに入れ、ブレーキペダルを踏んでエンジンスイッチを押すと、自動的に起動します。

※エンジンスイッチの切替えについては、**4-5 ページ**の「**キーレスプッシュスタートシステム**」をお読みください。

- エンジンスイッチの位置によって、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。詳しくは **3-106 ページ**の「**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ**」をご覧ください。

注 記

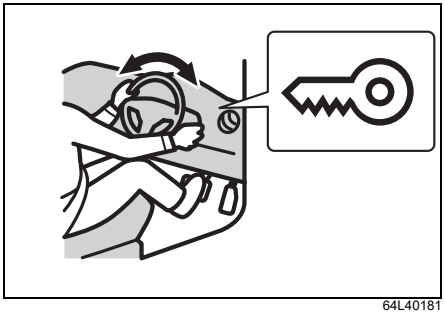
ハイブリッドシステムを停止しているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーションまたはオーディオなどを使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- 高電圧バッテリーは、READY表示灯を点灯させずにエンジンスイッチを ON にしたまま放置していると、バッテリーを消費します。また、エンジンが回転していても停車状態で放置すると、バッテリーを消費します。
  高電圧バッテリーの充電が少なくなると、高電圧システムを停止しバッテリーの消費を抑えます。そのため、一時的にEV走行ができなくなります。復帰するには、一度エンジンスイッチを LOCK (OFF) にし、ハイブリッドシステムを起動し直す必要があります。
- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを LOCK (OFF) から ACC または ON にしたときに解除されます。
- 強い電波やノイズの影響を受けると、メーター内のプッシュ表示灯の点滅、またはメッセージが表示され、電源の切替えやハイブリッドシステムの起動ができない場合があります。

ハンドルロックが解除できないときは

イモビライザー警告灯が点滅し、エンジンの始動ができません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。



64L40181

■ ハンドルロック未解除警告

エンジンスイッチが ON のときに、ハンドルロックが未解除の場合、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **3-106ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたリモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

- エンジンの始動が可能な場合は、携帯リモコンを所持してエンジンスイッチを ON にすると、イモビライザーシステムが解除され、メーター内のイモビライザー警告灯が約2 秒間点灯したあと消灯します。

注 記

イモビライザーシステムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

アドバイス

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

イモビライザー警告灯



64L30690

メーター内にあります。

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- ハイブリッドシステムの起動が可能な場合は、エンジンをかけるときに、約2秒間点灯したあと消灯します。点滅または約5秒間点灯すると、エンジンがかからない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしてから、操作をやり直してください。
- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。

  → **4-8ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**

キーレスプッシュスタートシステム

所持している携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5 ページ**参照）に入っていると、エンジンスイッチによる始動および電源の切替えが可能となります。

→ **4-9ページ（ハイブリッドシステムの起動）**

→ **4-6ページ（電源の切替えのしかた）**

また、そのほかに次の機能があります。

- キーレスエントリー

  → **3-3ページ（キーレスエントリー）**

- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

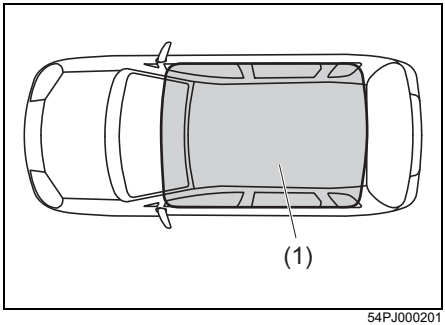
  → **3-5ページ（携帯リモコン）**

- イモビライザー（車両盗難防止装置）

  → **4-4ページ（イモビライザーシステム）**

エンジン始動／電源切替え／携帯リモコン車外持ち出し警告の作動範囲（車内）

「**車内の作動範囲**」（1）は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



54PJ000201

アドバイス

●「**車内の作動範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
- 携帯リモコンの電池が消耗している
- 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
- 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
- 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある

→ **5-24 ページ（ドリンクホルダー・収納スペース）**

- 携帯リモコンがメーターの手前やサンバイザー、床にある

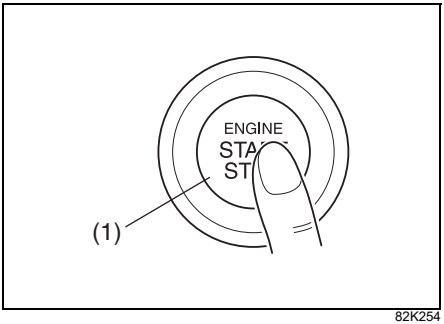
●「**車内の作動範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、ハイブリッドシステムの起動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
- 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
- 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

電源の切替えのしかた

ハイブリッドシステムを起動させずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切替えます。
なお、この切替えのことを「**電源の切替え**」といいます。

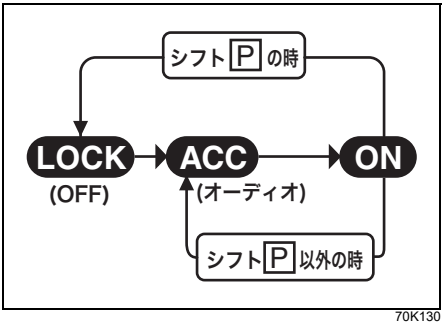
1 携帯リモコンを所持して運転席にすわります。

2 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。



82K254

● 押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切替わります。



70K130

アドバイス

- セレクトレバーが P 以外に入っていると、LOCK（OFF）にはもどせません。
- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。
  → **4-12 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

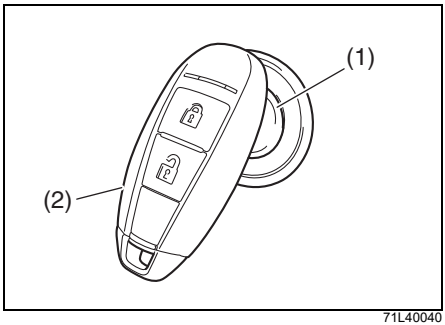
■ ⚠（マスターウォーニング）が点滅して電源が切替わらないときは

携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5 ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでも切替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切替えてください。

1 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。

2 メーター内の ⚠（マスターウォーニング）が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- ⚠（マスターウォーニング）の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。



71L40040

※前記の手順を行なっても切替わらないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

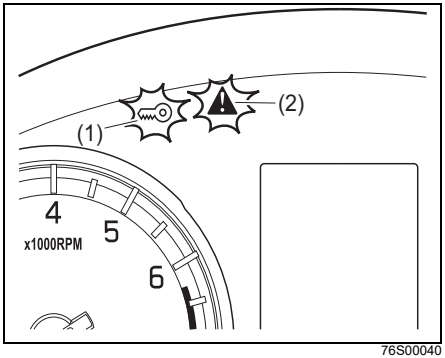
アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  → **3-8ページ（携帯リモコン電池消耗警告）**
  → **6-9ページ（携帯リモコンの電池交換）**

携帯リモコン車外持ち出し警告

次のような場合、室内／車外ブザーが約2秒間断続的に鳴るとともに、メーター内のイモビライザー警告灯およびマスターウォーニングが点滅し、携帯リモコンの車外持ち出しを警告します。

- ハイブリッドシステムが作動中、またはエンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、いずれかのドアを開け、そのあとすべてのドアを閉めたときに携帯リモコンが車内にない場合
- エンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、エンジンを始動しようとしたときに携帯リモコンが車内にない場合



76S00040

(1) イモビライザー警告灯(点滅)
(2) マスターウォーニング(点滅)

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

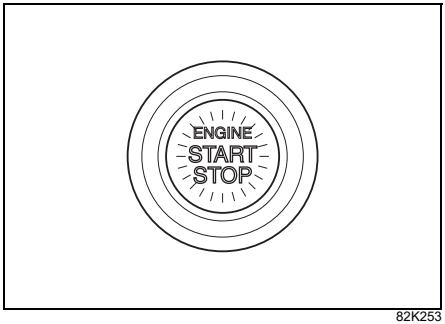
- 警告の作動中は、ハイブリッドシステムの再始動ができません。また、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- イモビライザー警告灯の点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしてから再操作してください。

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジンスイッチ照明

- エンジン停止中に運転席ドアを開けると点灯します。運転席ドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。



82K253

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)

- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 運転席ドアを開けたまま約 15 分が経過

ハイブリッドシステムの起動

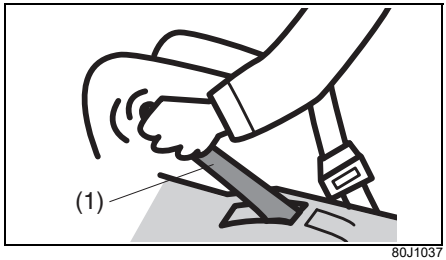
エンジンがかかったあと、ハイブリッドシステムが起動して READY 表示灯が点灯します。READY 表示灯が点灯すると走行することができます。

- **2-14 ページ**の「**ハイブリッドシステムを起動するときは**」もあわせてお読みください。

アドバイス

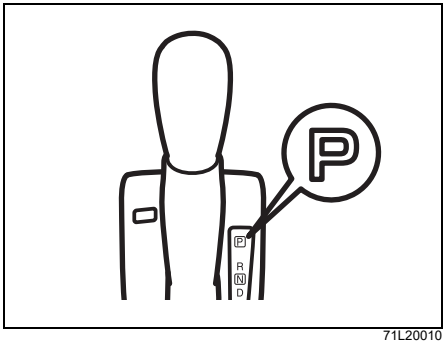
- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。
  → **4-4 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**
- エンジンスイッチを操作してエンジンをかけるときは、通常のスターターモーターが作動するため、ギヤの噛み込み音が聞こえます。

1 パーキングブレーキ（1）がしっかりかかっていることを確認します。



80J1037

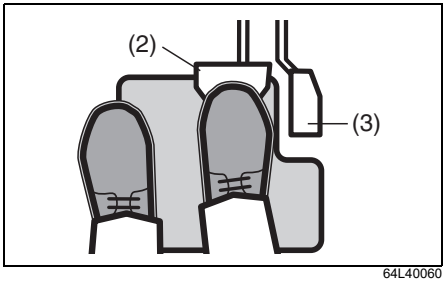
2 セレクトレバーが P になっていることを確認します。



71L20010

3 右足でブレーキペダル（2）をしっかり踏み続けます。

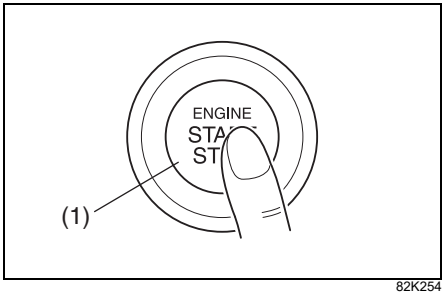
- アクセルペダル（3）は踏まないでください。



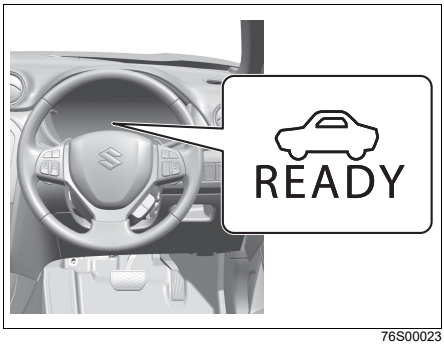
64L40060

4 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「スタートスイッチを押して下さい」が表示されたらエンジンスイッチ（1）を押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。

- メーター内の READY 表示灯が点灯するとハイブリッドシステムは作動しています。



82K254



76S00023

- エンジンがかからなくても、スターターは約12秒で自動的に停止します。この場合は、一度エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどし、再度エンジンをかけてください。
- システムに異常があると、エンジンスイッチを押しても自動でエンジンがかからない場合があります。スターターがまわらない、またはすぐに停止してエンジンがかからない場合は、次の手順でエンジンをかけてください。
  a. エンジンスイッチをONの状態にします。
  b. **4-9～4-10ページ**の「**ハイブリッドシステムの起動**」の手順 1 ～ 4 を行います。
  c. エンジンがかかるまでエンジンスイッチを押し続けます。
  エンジンがかかったら、すみやかにエンジンスイッチから指を離します。

注 記

鉛バッテリーおよびスターター保護のため、エンジンがかからないときは、一度 LOCK（OFF）にもどし、30秒以上待ってから再びかけてください。前記の手順を数回繰り返してもエンジンがかからない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■ ⚠（マスターウォーニング）が点滅してエンジンがかからないときは

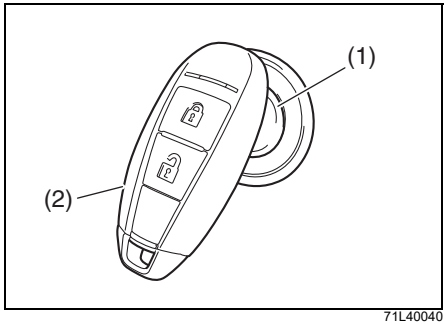
携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-5ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

1 セレクトレバーが P に入っていることを再確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

2 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「スタートスイッチを押して下さい」が表示されたらエンジンスイッチ（1）を押します。

3 メーター内の ⚠（マスターウォーニング）が点滅している約10秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- ⚠（マスターウォーニング）の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。



71L40040

※前記の手順を行なってもエンジンがかからないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **3-8ページ**
（携帯リモコン電池消耗警告）
→ **6-9ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

ハイブリッドシステムの止めかた

ハイブリッドシステムを止めるときは

⚠ 警告

緊急時以外は、走行中にハイブリッドシステムを止めないでください。

- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **次の機能が作動しません。**
  - ABS
  - エマージェンシーストップシグナル（ESS）
  - ESP®
  - デュアルセンサーブレーキサポート
  - **誤発進抑制機能**
  - **車線逸脱抑制機能**
  - アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）

注 記

走行中にハイブリッドシステムを止めると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

車両の状態	ハイブリッドシステム停止方法
停車中	エンジンスイッチを押す
走行中（緊急時）	エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押しする

- 停車中にハイブリッドシステムを停止できないときは、エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。

エンジンスイッチをもどすときは

1 セレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。
→ **4-15ページ（セレクトレバーの操作）**

2 エンジンスイッチを押して LOCK（OFF）にもどします。

アドバイス

エンジンスイッチをもどすときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。
→ **3-106 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
- 誤操作防止のため、次のようなときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせません。
  - セレクトレバーの位置が P 以外
  - セレクトレバーの位置が P に入っていても、セレクトレバーのボタンを押しているとき
  → **4-26ページ（駐車）**

- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。スズキサービス工場で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
  - 盗難を防ぐため、エマージェンシーキー操作にてドアを施錠してください。（リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません）
  - 鉛バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。（10 mmスパナなどの市販工具が必要です）

■ エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンスイッチを ACC にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- セレクトレバーが P 以外のときはセレクトレバーを P に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。エンジンスイッチを2回押して LOCK（OFF）にもどすと、室内ブザーが止まります。
- LOCK（OFF）にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

■ ハンドルロック未作動警告ブザー

故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどして、いずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。スズキサービス工場で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

⚠警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

→ 3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）

⚠注意

パーキングブレーキをかけると、ヒルホールドコントロールが作動しません。

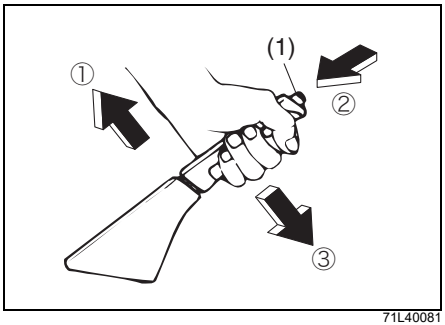
→ 4-43 ページ（ヒルホールドコントロール）

駐車するときは

ボタン（1）を押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。

解除するときは

- レバーを少し引き上げながら（①）レバー先端のボタン（1）を押し込み（②）、そのまま下まで完全におろします（③）。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



71L40081

■ パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

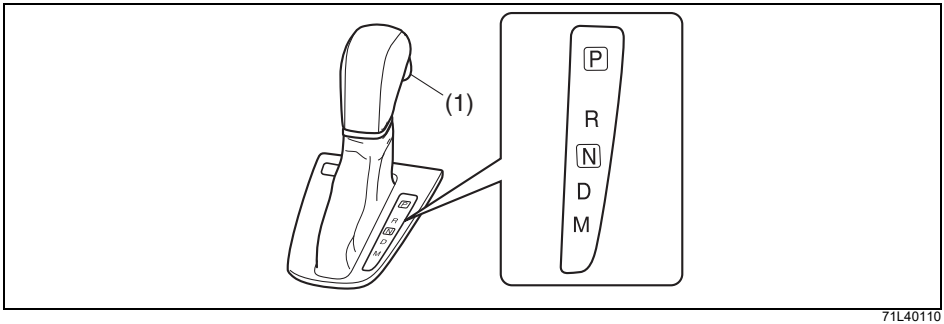
⚠ 警告

警告ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキを解除してください。走行中の解除は、操作に気を取られて思わぬ事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの操作

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合は、「AGS（オートギヤシフト）車」を示しています。

セレクトレバーの各位置のはたらき

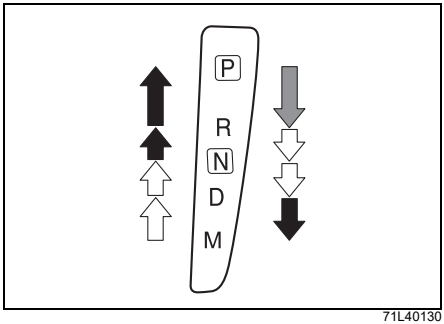


71L40110

(1) ボタン

P パーキング	駐車するとき、ハイブリッドシステムを起動・停止するときの位置 ●駆動輪（前輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●ハイブリッドシステムを起動できますが、安全のため P の位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
M マニュアル	マニュアルモードで走行するときの位置 ●マニュアル感覚で走行したいとき、坂道や山間路を走行するときなどに使用します。 → **4-18ページ（マニュアルモードの使いかた）**

セレクトレバーの動かしかた



71L40130

⇩	ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。
⇧ ⇩	ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

- セレクトレバーを操作したときは、必ずメーター内のセレクトレバー位置表示を確認してください。
- エンジンスイッチが ON でも、READY 表示灯が点灯していない状態では、セレクトレバーを操作しても実際のギヤポジションは切り替わりません。また傾斜がある場所では、ブレーキを放したときに傾斜によって意図しない方向に車が動いてしまうことがあります。

アドバイス

⇧⇩ の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣を付けてください。常にボタンを押して操作していると、間違って P、R、M の位置へ入れてしまうおそれがあります。

- 次のような操作をすると、メーター内の表示や警告ブザーでお知らせします。
  - 車両が前進している状態で、ブレーキペダルを踏まないでセレクトレバーを D 、M 、N から R へ操作、または車両が後退している状態で、ブレーキペダルを踏まないでセレクトレバーを R 、N から D 、M へ操作すると、メーター内のブレーキリクエストインジケーターが点灯、セレクトレバー位置表示が点滅し、警告ブザーが鳴ります。ブレーキペダルを踏んで完全に停車してから、セレクトレバーの操作をやり直してください。
  - セレクトレバーを操作したとき、セレクトレバーの位置と実際のギアが異なる場合、セレクトレバー位置表示が点滅し、警告ブザーが鳴ります。そのまま少し（2～3秒）待ってもセレクトレバー位置表示が切り替わらないときは、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作をやり直してください。

⚠注意

運転席および助手席にお乗りの方の乗車姿勢によってはひざなどが当たって、セレクトレバーを動かしてしまうことがあります。

注記

●完全に停車させてから、セレクトレバーを D 、M または R に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。

●トランスミッション警告灯が点灯したときは、ただちに運転をやめて、スズキサービス工場で点検を受けてください。警告灯が点灯しているとき、次のようになることがあります。

→ 3-77ページ
（トランスミッション警告灯）

- **セレクトレバーを操作しても変速できない**
- **車速が10 km/h以下になると、自動でN（ニュートラル）になり、メーター内のセレクトレバー位置表示がNに点滅し、警告ブザーが鳴る**
- **停車時にエンジンが停止**
- **ハイブリッドシステムが起動できない**

アドバイス

⇧⇩ の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣を付けてください。常にボタンを押して操作していると、間違って P、R、M の位置へ入れてしまうおそれがあります。

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P からほかの位置に動かせません。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせない場合、次のページの手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 注意

発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

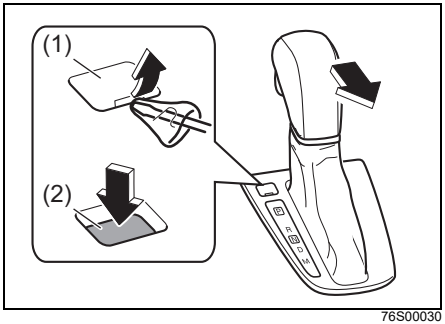
シフトロックシステムの故障や鉛バッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、パーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。

2 メーター内の READY 表示灯が点灯していないことを確認します。
→ **3-86ページ（READY表示灯）**

3 ダミーカバー（1）の切り欠き部に、先端に布をかぶせたマイナスドライバーを差し込み、カバーをこじって外します。

4 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタン（2）をキーや先端に布をかぶせたマイナスドライバーで押しながら、セレクトレバーを操作します。

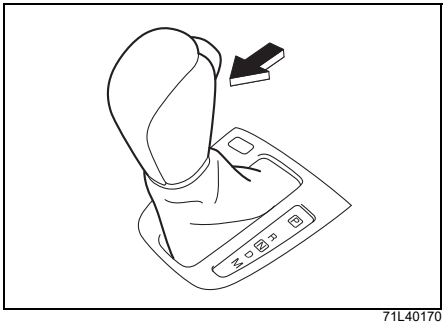


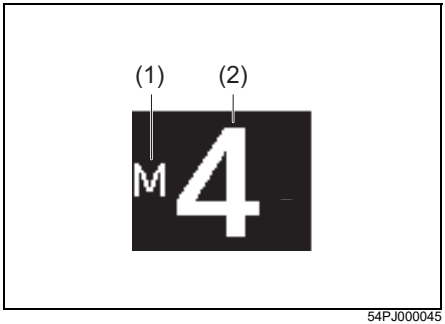
76S00030

マニュアルモードの使いかた

D で走行中、オートマチック車は自動的に変速しますが、マニュアルモード（手動変速モード）にすると、任意に変速することができます。マニュアルモードにするときは、セレクトレバーを D から M に動かします。

- メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、M（マニュアル）モード表示（1）と現在のギヤポジションが表示されます
- セレクトレバーを D から M に動かした直後のギヤポジションは、D のときに自動的に選択されていたギヤポジションです。


71L40170



54PJ000045

(1) M(マニュアル)モード表示
(2) ギヤポジション表示

- セレクトレバーを M に動かさなくても、走行中 D のままパドルシフトスイッチを手前に引くと、一時的にマニュアルモードにすることができます。

  → **4-20 ページ（一時的にマニュアルモードにするときは）**

■ マニュアルモード時のシフト操作

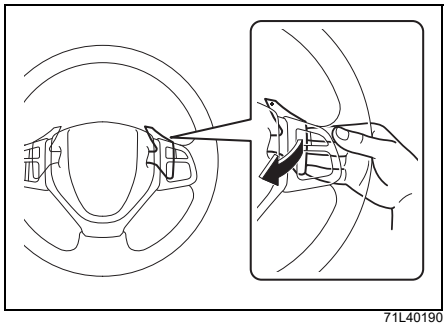
ギヤポジションは、走行速度に応じて 1 速から6速まで選択できます。

- エンジンおよびトランスミッション保護のため、シフト操作をしなくてもエンジンが高回転になると、自動的にシフトアップします。
- シフト操作をしなくても車のスピードが低下すると、自動的にシフトダウンし、停車するとギヤポジションは **1** になります。
- アクセルペダルを大きく踏み込むと、マニュアルモード時でもキックダウンすることがあります。

  → **4-20ページ（キックダウン）**

シフトアップしたいとき

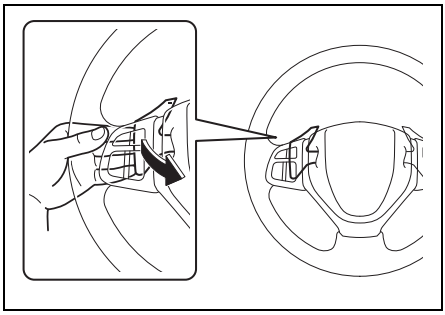
ハンドルの右側にあるパドルシフトスイッチ（**+**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



71L40190

シフトダウンしたいとき

ハンドルの左側にあるパドルシフトスイッチ（**−**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



71L40200

アドバイス

- 連続して変速したいときは、パドルシフトスイッチから手を離してから、スイッチを引き直す必要があります。スイッチを引いた状態のままでは、連続して変速できません。
- 左右のパドルシフトスイッチを同時に操作すると、変速しないことがあります。

■ マニュアルモードシフト警告

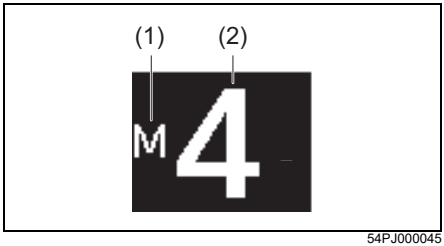
走行性能を確保するため、またはトランスミッションの保護のため、シフト操作をしても希望するギヤポジションに変速されない場合があります。
このようなときは、警告ブザーが「ピピッ」と鳴ります。

■ マニュアルモードを解除するときは

セレクトレバーを M から D にもどすと、マニュアルモードが解除されます。

■ 一時的にマニュアルモードにするときは

D で走行中（低車速時を除く）に、パドルシフトスイッチを手前に引きます。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、M（マニュアル）モード表示（1）と現在のギヤポジションが表示されます。



54PJ000045

(2) ギヤポジション表示

- 次のような操作または状況になると、マニュアルモードが自動的に解除され、もとの制御にもどります。
  - ・変速しないで、一定時間アクセルペダルを踏み続けたとき
  - ・低車速になったとき

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

ハイブリッドシステムを起動した状態で停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

ブレーキペダルを踏んでいるときは、クリープ機能は働きません。

⚠注意

●セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
●ハイブリッドシステム起動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

トランスミッション警告灯が点灯したり、点滅したりしているときはクリープ機能が働かない場合があります。
→ **3-77ページ（トランスミッション警告灯）**

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速のおそれがあります。

登降坂変速制御

セレクトレバーが D の位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。
- 降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯



80J219

メーター内にあります。

- AGSのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯または点滅し、次のようになることがあります。点灯または点滅したままの場合は、落ち着いてただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、警告灯が消灯した後、再度点灯または点滅した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・セレクトレバーを操作しても変速できない
  - ・車速が10 km/h以下になると、自動でN（ニュートラル）になり、メーター内のセレクトレバー位置表示がNで点滅し、警告ブザーが鳴る
  - ・停車時にエンジンが停止
  - ・ハイブリッドシステムが起動できない
- 次のような操作をすると、トランスミッションに負荷がかかってトランスミッションが高温になります。警告灯が点滅するとともに、警告ブザーが鳴ります。安全な場所に停車して、しばらくハイブリッドシステムを停止し、トランスミッションを冷やしてください。再度、エンジンスイッチを ON にして、警告灯の点滅と警告ブザーが止まっていることを確認してから走行してください。
  - ・上り坂で発進と停止を繰り返している
  - ・上り坂でブレーキペダルを踏まずに、クリープ機能を利用して停車している
  - ・ブレーキペダルを踏みながらアクセルペダルを踏み続けている
  - ・パーキングブレーキをかけた状態でアクセルペダルを踏み続けている

→ **1-23ページ（警告ブザーが鳴ったときは）**
→ **1-19ページ（警告灯・表示灯）**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

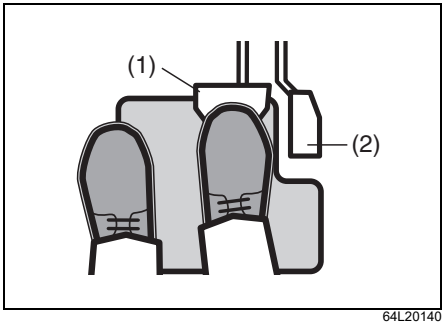
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

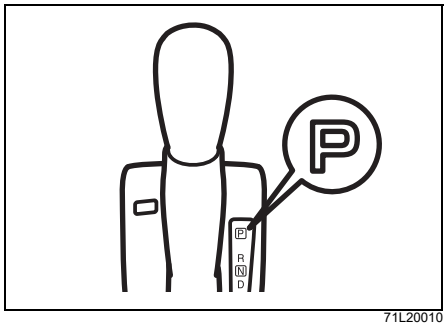
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



71L20010

⚠警告

ハイブリッドシステムを作動させたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

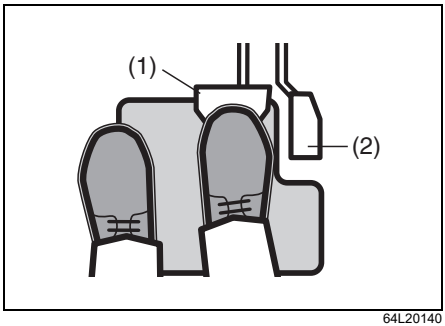
オートマチック車の運転のしかた

4-15 ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートやハンドルを調節します。
- → **3-26ページ（前席シート）**
- → **3-25 ページ（テレスコピック & チルトステアリング）**

2 アクセルペダル（2）とブレーキペダル（1）の位置を右足で確認します。



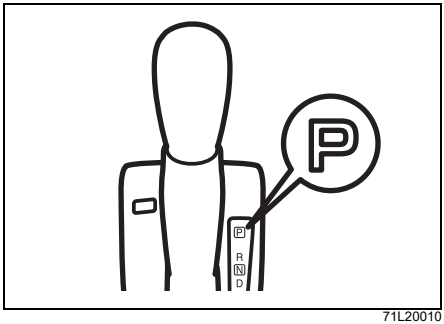
64L20140

ハイブリッドシステムの起動

ハイブリッドシステムの起動の詳細は、**4-9 ページ**の「**ハイブリッドシステムの起動**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



71L20010

アドバイス

セレクトレバーが N の位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 ハイブリッドシステムを起動します。

⚠注意

キーレスプッシュスタートシステム装備車は、エンジンスイッチを確実に押せていない場合、エンジンがかかっていないことがあります。エンジンがかかっていない状態でセレクトレバーを R または D に入れても車は動きません。この状態で発進しようとすると、坂道などで意図しない方向に車が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
エンジンを始動するときは、エンジンスイッチを確実に押し、エンジン音や警告灯などで、エンジンがかかっていることを確認してください。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

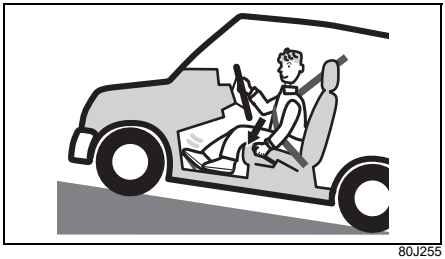
4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

1 、2 は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキレバーを解除して発進します。



80J255

アドバイス

パーキングブレーキをかけると、ヒルホールドコントロールが作動しません。

→ **4-43ページ（ヒルホールドコントロール）**

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N にしないでください。回生ブレーキ（エンジンブレーキ）がまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

注 記

空ぶかし状態でセレクトレバーを D 、M または R に操作するとクラッチが故障または破損するおそれがあります。

アドバイス

セレクトレバーを D へ操作したとき、正常に変速できないと再度システムが自動で変速します。このとき作動音が聞こえたり、変速時の衝撃を感じたりすることがありますが異常ではありません。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 坂道走行（登降坂変速制御）

〔上り坂走行〕

登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。

- スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

アドバイス

EV走行中のとき、平坦路から急な上り坂になるとエンジンが自動再始動することがあります。

〔下り坂走行〕

降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

- エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。
  - ・坂の勾配に応じて、あらかじめパドルシフトスイッチ（－側）を操作して適切なギヤポジションにし、エンジンブレーキを併用します。

→ **4-18ページ（マニュアルモードの使いかた）**

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（ D M ）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

上り坂などで、アクセル操作またはクリープ機能を利用して車を停止し続けると、トランスミッションが高温になりトランスミッション警告灯が点滅し、警告ブザーが鳴り続けます。トランスミッションが故障または破損するおそれがあります。安全な場所に停車して、しばらくハイブリッドシステムを停止し、トランスミッションを冷やしてください。再度、エンジンスイッチを ON にして、警告灯の点滅と警告ブザーが止まっていることを確認してから走行してください。

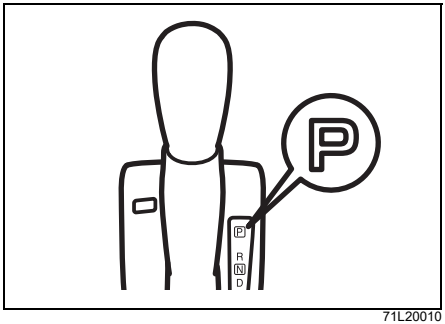
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからハイブリッドシステムを停止し、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- セレクトレバーが P の位置になっているか目で確かめます。



71L20010

⚠ 警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れてからハイブリッドシステムを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

パーキングブレーキをかける前にセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めた場合、エンジンを再始動後にレバーを P 以外の位置へ操作しようとすると、レバー操作が重い、あるいはいつもと違う音やショックが発生することがありますが、異常ではありません。

4 エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしハイブリッドシステムを停止します。

→ **4-12ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

- ハイブリッドシステムを停止したあと、セレクトレバーを操作しないでください。もし、操作してしまった場合は、P にもどしておいてください。

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

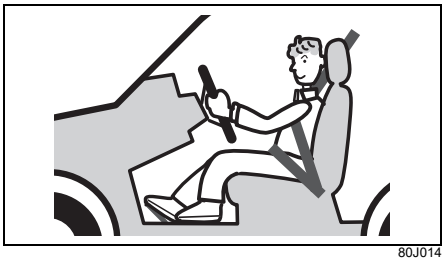
アドバイス

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- セレクトレバーを R へ操作したとき、作動音が聞こえたり、変速時の衝撃を感じたりすることがありますが、異常ではありません。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（ D M ）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

■ 停車するとき

注 記

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

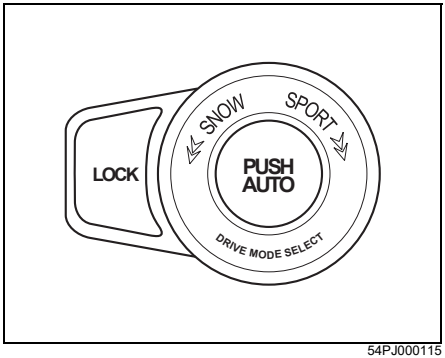
ALLGRIP（4WD）モードの切替え

4-34ページの「**4WD車を運転するときは**」もあわせてお読みいただき、ALLGRIP（4WD）車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

- ALLGRIP（4WD）とは、走行状況に応じて任意のモードをスイッチ操作で選択できるシステムです。

ALLGRIPモードスイッチ

エンジンスイッチが ON のときにALLGRIPモードスイッチを操作すると、ALLGRIP（4WD）モードの切替えができます。



54PJ000115

- ALLGRIPモードスイッチを操作して切替えたALLGRIP（4WD）モードは、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

→ **3-92 ページ（ALLGRIP（4WD）モード表示）**

ALLGRIPモードスイッチの各位置のはたらき

■ AUTOモード

通常はこのモードを選択してください。乾燥した舗装路では前輪駆動に近い状態とすることで経済性を高めます。滑りやすい路面では、前輪のスリップを検知し、自動的に 4WD に切替わることで、走行安定性を補助します。

■ SPORTモード

このモードは、AUTO モードと比較して、状況に合わせて積極的に 4WD に切替わるため、ハンドル操作や速度変化が多くなるカーブの多い道や山道などの走行に適しています。また、エンジン回転数をより高く保つため、高速道路での合流や追い越しなどにも適しています。

■ SNOWモード

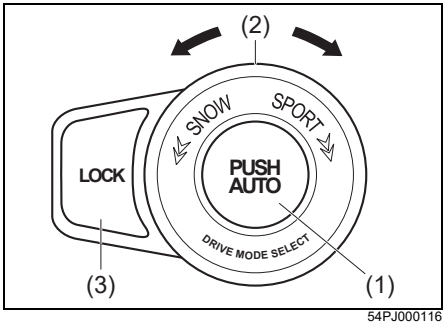
凍結路や雪道などの滑りやすい路面で走行安定性を確保したい場合は、このモードを選択してください。前後輪に適切な駆動力を発生させることで、カーブ走行時でも挙動が乱れることを抑制します。

■ LOCKモード

ぬかるみや砂地、雪道などでの立ち往生（スタック）から脱出する場合に、このモードを選択してください。
空転している車輪以外に駆動力を再配分することで、脱出しやすくなります。

ALLGRIPモードスイッチの操作

停車中でも走行中でも ALLGRIP（4WD）モードの切替えは可能です。走行中に切替える場合は、ハンドルを直進状態にします。



54PJ000116

(1) AUTOスイッチ
(2) ダイヤル
(3) LOCKスイッチ

■ AUTOモード

AUTOスイッチを押します

■ SPORTモード

ダイヤルを時計方向（SPORT 側）にまわします。

■ SNOWモード

ダイヤルを反時計方向（SNOW側）にまわします。

■ LOCKモード

車速約60 km/h以下で切替えできます。

1 ダイヤルを反時計方向（SNOW側）にまわして、SNOW モードに切替えます。

2 LOCKスイッチを押します。

⚠注意

走行中の切替え操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行なってください。

●雪道などで前輪を空転させたまま、スイッチ操作をしないでください。

車両が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。

注 記

●スタックしたときは、LOCK モードに切替えてください。LOCK モード以外でスタックから脱出しようとすると、駆動装置などが損傷するおそれがあります。ぬかるみなどでは、ESP® OFFスイッチを操作した方が脱出しやすい場合があります。

→ 4-34ページ（ESP® 装備車の取扱い）

●タイヤの摩耗程度が 4 輪で著しく異なると、駆動装置に悪影響をあたえるおそれがあります。タイヤがかたよって摩耗するのを防ぐために、タイヤのローテーションを行なってください。

→ 6-7ページ（タイヤのローテーション）

アドバイス

●一度ハイブリッドシステムを停止し、再起動するとAUTO モードにもどります。

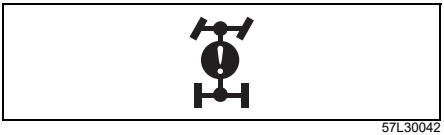
●LOCK モードで走行中、車速約 60 km/h 以上になると自動的に SNOW モードに切替わります。そのあと減速しても、自動的に LOCK モードにもどりません。

●次のような操作をすると、ショックが発生することがありますが異常ではありません。

・ブレーキや加速、旋回のときなどにスイッチを操作する

・エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にする

4WD警告灯



57L30042

メーター内にあります

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

●4WD システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。このとき、システムは作動停止し、2WD 状態になります。スズキサービス工場で点検を受けてください。

●次のような状況になると点滅します。このとき、システムは作動停止し、2WD状態になります。

・異径タイヤの装着またはタイヤの空気圧不足の状態で、一定時間走行したとき

・スタックなどで駆動輪が空転し、駆動系部品が過熱したとき。同時にメーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム高温 2WD（強制）」と表示された場合は、駆動系部品保護のため、すみやかに安全な場所に停車し、アイドリング状態にしてください。しばらくしてシステムが正常な状態にもどると、警告灯が消灯し、メッセージが消えます。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約２秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

点灯したときは、4WD のシステムに異常が考えられます。高速走行を避けてスズキサービス工場に行き、すみやかに点検を受けてください。

アドバイス

点灯または点滅すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **4-31 ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

→ **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

4WD システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 同時に ⚠ （マスターウォーニング）が点滅し、室内ブザー（ポーン、1回）が鳴ります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、約5 秒ごとに表示が切替わります。
- メッセージが表示されているときに、メーター右側の表示切替えノブをしばらく長押しすると、もとの画面にもどります。ただし、メッセージの種類によっては、要因が解消されるまでは、約 5秒後にふたたび表示されます。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音 (室内ブザー)	説明
 53SJ0061	 点滅	ポーン (1回)	4WDのシステムに異常が考えられます。 ●スズキサービス工場で点検を受けてください。
 53SJ0062	 点滅	ポーン (1回)	異径タイヤの装着またはタイヤの空気圧不足が考えられます。 ●スズキサービス工場で点検を受けてください。
 53SJ0063	 点滅	ポーン (1回)	駆動系部品の過熱が考えられます。 ●安全な場所に停車して、アイドリング状態にしてください。
 53SJ0064	 点滅	ポーン (1回)	このメッセージが表示されたら、スズキサービス工場で点検を受けてください。
 53SJ0065	 点滅	ポーン (1回)	車速約 60 km/h 以上で LOCK モードを選択しようとしています。 ●**4-29ページ**の「**ALLGRIP モードスイッチの 操作**」をお読みください。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音 (室内ブザー)	説明
 53SJ0066	 点滅	ポーン (1回)	AUTOモード、SPORTモードのときに、LOCK スイッチを押しています。 ● 「**4-29ページ**の「**ALLGRIP モードスイッチの 操作**」をお読みください。
 53SJ0067	 点滅	ポーン (1回)	ALLGRIP モードスイッチに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。

4WD車を運転するときは

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD 車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や水中走行をしないでください。**



61M0075

ESP® 装備車の取扱い

ESP®（※）は、ABS、ブレーキアシスト、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※ESP®は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AG の登録商標です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-38ページをお読みください。

■ ブレーキアシスト

ABSのブレーキアシストと同様です。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP®による制御には限界があります。

⚠注意

●次のことをお守りください。
守らないとESP®が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
- **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  → 8-4ページ（タイヤの空気圧）
- **タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
- **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
- **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
- **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
- **LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**

●タイヤチェーンやスペアタイヤ（市販品）を装着したときなどには、ESP®が正常に作動しない場合があります。

アドバイス

●次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
- ハイブリッドシステムを起動したとき
- ハイブリッドシステムを起動し、最初の発進時

●エンジン回転が高いときにESP®が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

ESP®作動表示灯



79K019

メーターパネル内にあります。

→ **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- ESP® の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 次の機能が作動しません。
  - ・トラクションコントロール
  - ・スタビリティコントロール
  - ・デュアルセンサーブレーキサポート
    → **4-54 ページ（デュアルセンサーブレーキサポート）**
  - ・誤発進抑制機能
  - ・車線逸脱警報
  - ・車線逸脱抑制機能
  - ・ふらつき警報
  - ・先行車発進お知らせ機能
  - ・標識認識機能
  - ・ヒルディセントコントロール
  - ・アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）
  - ・エンジンの自動停止
    → **4-99ページ（ハイブリッドシステム）**
- ABSは作動します。
- ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。
- 次のような状況になると、0.2 秒間隔で小刻みに点滅します。
  - ・発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
  - ・急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

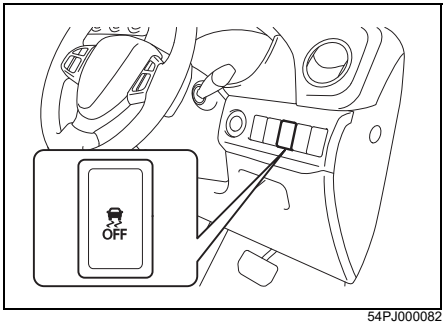
小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

アドバイス

点灯中はトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しませんが、ABSは使用することができます。

ESP®OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内のESP®OFF　表示灯が点灯するまでESP®OFF スイッチを押し続けてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。
  - ・車検を受けるときなどテスターに載せる場合。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止の状態にする必要があります。
  - ・スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。
- 次のような操作をすると、ESP®OFF表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。
  - ・もう一度ESP®OFFスイッチを押す
  - ・一度ハイブリッドシステムを止め、再起動する



54PJ000082

- スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、ESP®OFF スイッチを再度押してESP®OFF 表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは自動復帰しません。（一度ハイブリッドシステムを止め、再起動したときを除く）

アドバイス

- 安全のため、ESP®　OFF スイッチを操作しても、ABS およびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- ESP® を作動停止（OFF）にすると、デュアルセンサーブレーキサポート OFF 表示灯、車線逸脱警報OFF表示灯およびアダプティブクルーズコントロール警告灯が点灯し、次の機能が停止します。
  - ・デュアルセンサーブレーキサポート
  - ・誤発進抑制機能
  - ・車線逸脱警報
  - ・車線逸脱抑制機能
  - ・ふらつき警報
  - ・先行車発進お知らせ機能
  - ・標識認識機能
  - ・アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）

→ **4-54 ページ（デュアルセンサーブレーキサポート）**
→ **4-75 ページ（アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付））**

ESP® OFF表示灯



57L30045

メーター内にあります。

→ 3-71ページ
（警告灯・表示灯の見かた）

- エンジンスイッチが ON のときに、ESP® OFF スイッチを長押しすると点灯します。点灯中は、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

4

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠警告

- **常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABS による制御には限界があります。**
- **ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。**

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

●急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。

●次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。

- 凸凹道や石だたみなどの悪路
- じゃり道、新雪路
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
- マンホールなど鉄板の上を通過するとき
- タイヤチェーンの装着時

●急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた

●路面の状況によりますが、約10km/h以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

ハイブリッドシステムを起動して発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

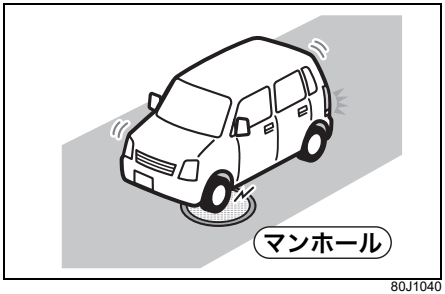
タイヤについて

⚠警告

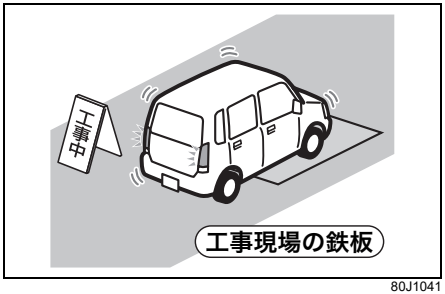
ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は指定のサイズで、４輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転数が検出できなくなって、ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

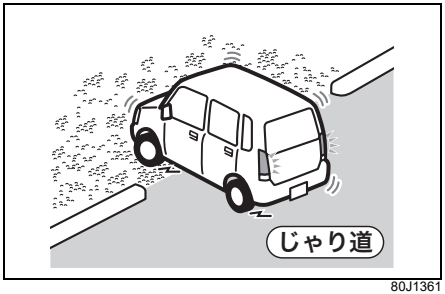
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

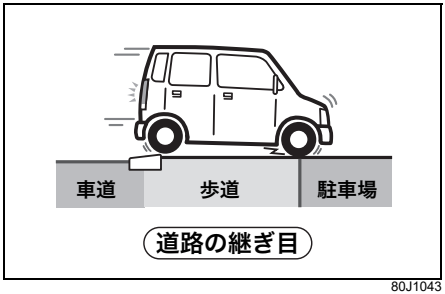


80J1041

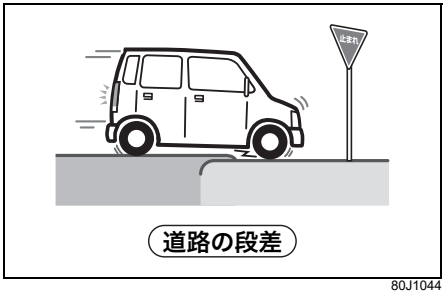


80J1361

- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

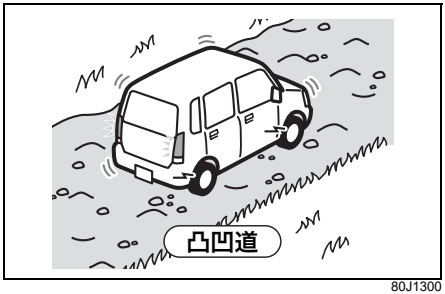


80J1043

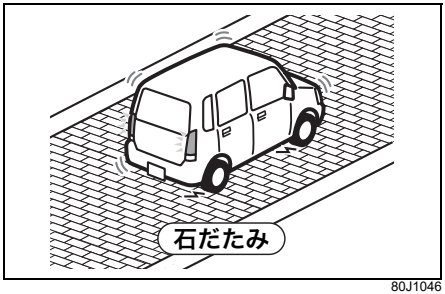


80J1044

- 悪路を走行しているとき



80J1300



80J1046

4

ABS警告灯



80J127

メーターパネル内にあります。

- ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **3-71ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

ブレーキアシスト

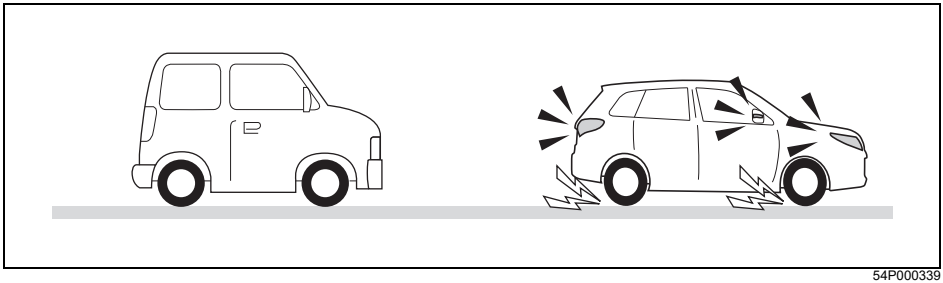
ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

エマージェンシーストップシグナル（ESS）

ESS とは Emergency Stop Signal（エマージェンシーストップシグナル）の略です。ESSは次の条件をすべてみたしているときに、非常点滅表示灯を通常よりも速く点滅させることで、後続車へ注意をうながす機能です。またその際、メーター内の方向指示器表示灯もあわせて点滅します。

- ブレーキペダルを勢いよく踏み込んだときの車速が約55 km/h以上のとき
- ABSが作動しているとき、またはABSが作動するような急ブレーキのとき



54P000339

ESSは次の状態になると機能が停止します。

- 車速が十分に低下したとき
- ブレーキペダルを離したとき
- ABSの作動が終了したとき
- 非常点滅表示灯スイッチの位置を ON にしたとき

⚠警告

ESS は走行中の急ブレーキ時に、後続車に注意をうながすことで追突を軽減する機能で、すべての追突を防ぐものではありません。減速や停車するときは不要な急ブレーキは避け、常に安全運転に努めてください。

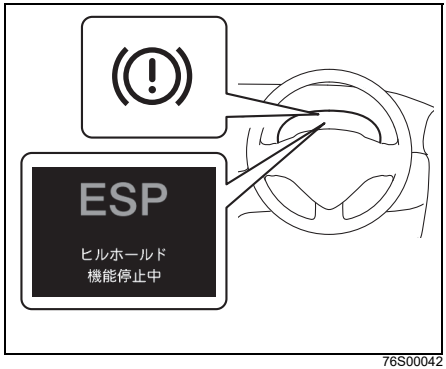
アドバイス

- ESSの機能を停止させることはできません。
- ESSの機能よりも、非常点滅表示灯スイッチの操作が優先されます。
- 次のような路面を走行中に、一瞬しかABSが作動しなかったときは、ESS は作動しないことがあります。
  - ・滑りやすい路面を走行しているとき
  - ・道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約 2 秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。
- 本システムに異常があると、メーター内のブレーキシステム警告灯が点灯し、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。また、エンジンは自動停止しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。



76S00042

⚠ 警告

●常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。

●極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。

●ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま 2 秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るとき、ヒルホールドコントロールが作動するとタイヤがロックし、車両がコントロールできない場合があります。

■ ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約 2 秒間、車が後退することを防ぎます。

- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

アドバイス

作動中に下記のような状態になることがありますが、異常ではありません。

- エンジンルームから音が聞こえる
- ブレーキペダルが硬くなり踏み込めないことがある

ヒルディセントコントロール

ヒルディセントコントロールは、エンジンブレーキだけでは十分減速できないような急な坂道や凹凸が激しい路面、オフロードのような滑りやすい坂道などを下るときに、一定の低車速を保ち、走行を補助するシステムです。このため、ブレーキやアクセル操作に気をつかうことなく、ハンドル操作に集中することができます。

⚠ 警告

ヒルディセントコントロールを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道を下るときや、積載重量によっては、下り坂走行で一定の低車速を維持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏み、安全運転に心がけてください。

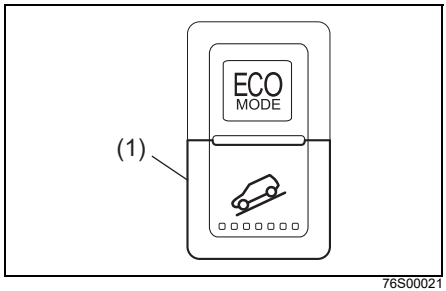
ヒルディセントコントロールの使いかた

1 ALLGRIP（4WD）モードの切替え操作をして、LOCK モードにします。

→ **4-28　ページ（ALLGRIP（4WD）モードの切替え）**

2 セレクトレバーを前進または後退の位置に入れます。

3 車速が約25km/h以下のときにヒルディセントコントロールスイッチ（1）を押します。メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点灯するとともに、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になります。



76S00021

- 作動中は、メーター内の ESP® 作動表示灯が小刻みに点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。
  - ・ALLGLIP（4WD）モードが LOCK モードのときは、車速を 10km/h に保ちます。

→ **4-36ページ（ESP®作動表示灯）**

- 作動中にアクセルペダルやブレーキペダルを踏むと、一時的に作動停止します。アクセルペダルやブレーキペダルから足を離すと、再び作動します。
- 車速が 25km/h 以上になると、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに、自動的に作動停止します。

⚠注意

●長時間連続して使うと、ブレーキ装置が過熱する場合があります。この場合は装置保護のため、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに自動的に作動停止します。ブレーキペダルを踏んで安全な場所に停車してください。
しばらくしてブレーキ装置の温度が下がると、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅から点灯に切り替わると共に作動可能な状態にもどります。
●セレクトレバーが N 位置でも、ヒルディセントコントロールが作動する場合がありますが、エンジンブレーキが効きません。セレクトレバーを前進または後退の位置に入れてください。
●ヒルディセントコントロールを作動させるときは、ヒルディセントコントロールスイッチを押してヒルディセントコントロール表示灯の点灯およびマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認してください。

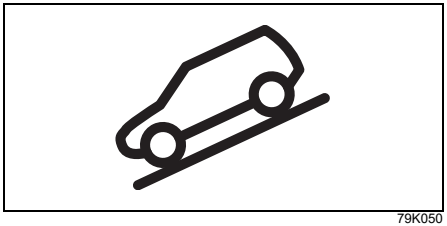
アドバイス

作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ システムを解除をするときは

もう一度ヒルディセントコントロールスイッチ（1）を押し、ヒルディセントコントロール表示灯を消灯させます。

ヒルディセントコントロール表示灯



79K050

メーターパネル内にあります。

- エンジンスイッチが ON のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると点灯します。点滅した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。次の作動条件がみたされているか確認してください。
  - ・ALLGLIP(4WD)モードがLOCKモード
  - ・セレクトレバーが前進または後退の位置（ P N 以外）
  - ・車速が約25km/h以下
  - ・ブレーキ装置が過熱していない
- システムが正常で、ヒルディセントコントロールスイッチが押されていないときは、エンジンスイッチを ON にすると約２秒間点灯したあと消灯します。
- 次のような場合はシステムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ・エンジンスイッチを ON にしても点灯しない。
  - ・ヒルディセントコントロールスイッチが押されていないときに、エンジンスイッチを ON にし、約２秒間たっても消灯しない。
  - ・エンジンスイッチが ON のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押しても点灯または点滅しない。

ヒルディセントコントロールのメッセージ

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたときは、ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



52R31060

アドバイス

メッセージの表示中はヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールは使用できません。

スズキ セーフティ サポート

スズキ セーフティ サポートの各機能により事故の予防、回避、または被害の軽減を図ります。

スズキ セーフティ サポートの各機能

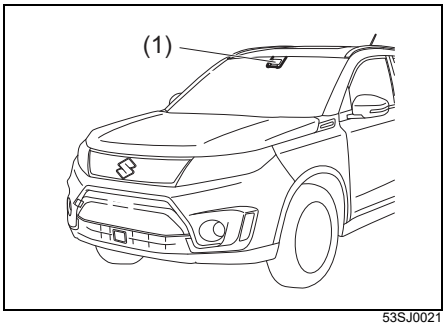
- レーザーレーダーと単眼カメラ
  → **4-47ページ**
- デュアルセンサーブレーキサポート
  → **4-54ページ**
- 誤発進抑制機能
  → **4-59ページ**
- 車線逸脱警報
  → **4-62ページ**
- 車線逸脱抑制機能
  → **4-63ページ**
- ふらつき警報
  → **4-68ページ**
- 先行車発進お知らせ機能
  → **4-69ページ**
- 標識認識機能
  → **4-71ページ**
- アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）
  → **4-75ページ**
- ブラインドスポットモニター
  → **4-90ページ**
- リヤクロストラフィックアラート
  → **4-96ページ**

次の項目もあわせてお読みください。

→ **2-33ページ**
（車検を受けるときの注意）
→ **7-30ページ**
（けん引してもらうときは）

レーザーレーダーと単眼カメラ

前方のスズキ セーフティ サポート各機能のために障害物や区画線などを検知します。



53SJ0021

(1) レーザーレーダーと単眼カメラ

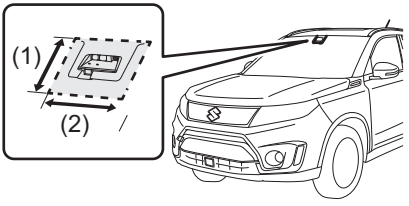
⚠警告

レーザーレーダーと単眼カメラによる検知機能には限界があり、すべての車両や障害物、区画線、道路標識を検知できるわけではありません。走行中は常に周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルなどを操作して安全運転に努めてください。

- **レーザーレーダーと単眼カメラを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、前方障害物や区画線を正しく検知できなくなり、誤作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **レーザーレーダーと単眼カメラ本体、およびその周辺部に強い衝撃や力を加えない**

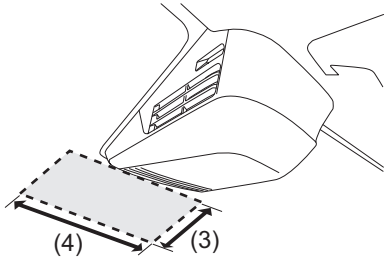
・レーザーレーダーと単眼カメラを取り外したり、分解したりしない
・フロントワイパー本体やブレードを交換するときは、指定のものを使用する（詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください）

●接触事故などでレーザーレーダーと単眼カメラ周辺部が変形・損傷した場合や、レーザーレーダーと単眼カメラ前面のフロントガラスにひび割れなどの傷がある状態で走行すると、レーザーレーダーと単眼カメラが前方障害物や区画線、道路標識を正しく検知できないため、誤作動して思わぬ事故につながるおそれがあります。デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチを操作して、デュアルセンサーブレーキサポートを停止させ、スズキサービス工場で点検を受けてください。
●フロントウインドーガラス外側のレーザーレーダーと単眼カメラの前部にステッカーやフィルム (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。
(1) フロントウインドーガラス上端からレーザーレーダーと単眼カメラ下端より下約10cmまで
(2)約20cm（レーザーレーダーと単眼カメラ中心から左右約10cmまで)



53SJ0081

●フロントウインドーガラス内側のレーザーレーダーと単眼カメラの下部（図に示した範囲内）にステッカーやフィルム (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。
(3)レーザーレーダーと単眼カメラ下端より下約10cmまで
(4)約20cm（レーザーレーダーと単眼カメラ中心から左右約10cmまで）
※ 検査標章（車検ステッカー）は、前図と下図の禁止エリア内に貼らないでください。また、ETC アンテナなどを貼り付けるときは、カメラの前面に貼らないようにしてください。



52R40240

●フロントガラスの前方付近に、単眼カメラの視界を遮ったり、レーザーを反射したりする可能性のあるものを置かないでください。
●レーザーレーダーと単眼カメラのレンズ部に触れないでください。
●レーザーレーダーと単眼カメラのレンズ部を自分で掃除しないでください。

⚠ 警告

エンジンスイッチが ON のときにレーダーから 10cm 以内の距離で、拡大鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、照射部をのぞき込まないでください。レーダーから照射される赤外線で目を傷めるおそれがあります。

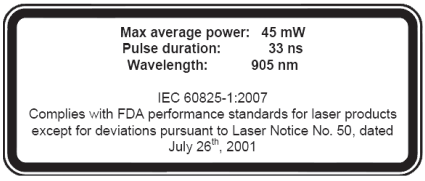
アドバイス

このレーダーは、IEC 60825-1規格におけるレーザー等級 1M に相当します。

レーザー等級ラベル



レーザー説明ラベル



52R40560

最大平均出力：45mW
パルス幅：33ns
波長：905nm
発散角（水平 × 垂直）：28°× 12°

アドバイス

単眼カメラによる前方車両や障害物、区画線、道路標識の検知は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御、警報の対象となるまでには数秒間かかります。

■ レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障

次の表のようになったとき、レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しています。

		レーザーレーダーと単眼カメラ	
		システム一時停止	故障
(1)		点灯	
(2)		点灯	
(3)	一時機能停止中	点灯	消灯
	システム要点検	消灯	点灯

(1) デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯
(2) 車線逸脱警報作動表示灯
(3) マルチインフォメーションディスプレイの表示

⚠ 警告

冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドーガラスが曇りやすくなります。フロントウインドーガラスのレーザーレーダーと単眼カメラの前部が曇ったり、結露したり、凍結したりするとシステムが一時的に作動しなくなることがあります。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。

アドバイス

システム一時停止または故障のときは下記の機能が停止します
- デュアルセンサーブレーキサポート
- 誤発進抑制機能
- 車線逸脱警報
- 車線逸脱抑制機能
- ふらつき警報
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能

レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止

次のようなときレーザーレーダーと単眼カメラが一時停止します。
状況が改善されれば、レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止は解除されます。

- レーザーレーダーと単眼カメラの視界不良のとき
  → **4-52ページ（こんな場合は検知できないことがあります）**
- レーザーレーダーと単眼カメラ本体が高温のとき
- 鉛バッテリーの電圧が一時的に異常になったとき

レーザーレーダーと単眼カメラの故障

故障したときは、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が点灯し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にするまでシステムが停止します。
安全な場所に停車して、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、ハイブリッドシステムを止めてください。再度、ハイブリッドシステムを起動したとき、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が消灯していることを確認します。

- ハイブリッドシステムを再起動しても表示灯が点灯している場合、レーザーレーダーと単眼カメラの故障が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- ハイブリッドシステムを起動したあと、次のようなときにもデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が点灯しますが、これは故障ではありません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、ハイブリッドシステムを再起動すれば表示灯が消灯します。
  - 自動ブレーキが3回作動したとき
  - 自動ブレーキが長時間作動したとき
- デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

■ ガラス汚れを検知したときは

レーザーレーダーと単眼カメラがフロントウインドーガラスの汚れを検知した場合は、デュアルセンサーブレーキサポートを停止させるとともに、メーター内のデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ内にシステム一時停止表示が点灯します。次の手順で対処してください。

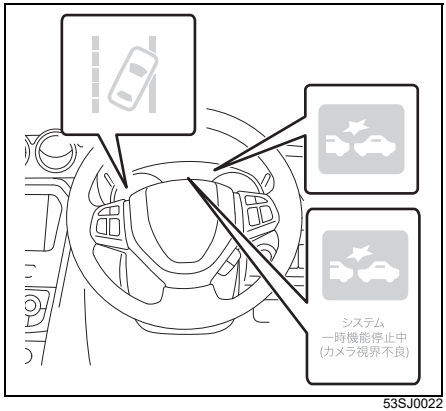
1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にします。

2 レーザーレーダーと単眼カメラ前方のフロントウインドーガラスをきれいにします。

3 エンジンスイッチを ON にします。

4 デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびシステム一時停止表示の消灯を確認します。

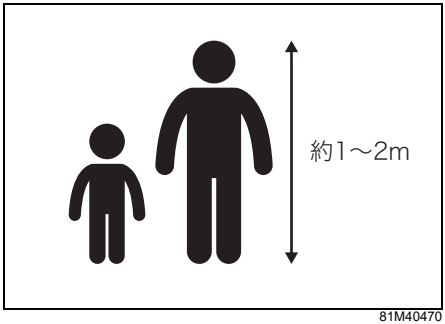
- デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯、車線逸脱警報作動表示灯およびシステム一時停止表示が消灯しないときは、ガラスの汚れ以外の異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。



53SJ0022

■ 歩行者の検知

対象物の大きさや形状、動きから歩行者の検知を行なっています。



81M40470

⚠ 警告

検知条件を満たしていても、必ず歩行者を検知できるわけではありません。次のような状況では、検知ができない、または検知が遅れる可能性が高くなります。常に安全運転に努めてください。

- **集団で歩いている**
- **壁際や別の障害物のそばにいる**
- **傘をさしている**
- **背景と似た色合いで風景に溶け込んでいる**
- **大きな荷物をもっている**
- **前かがみやしゃがんだ姿勢でいる**
- **横たわっている**
- **夜間やトンネルなど暗い所にいる**
- **横から急に、目の前に飛び出してきた**

■ こんな場合は検知できないことがあります

● 次のようなとき、レーザーレーダーと単眼カメラが前方の障害物や区画線、道路標識を検知できない可能性が高くなります。
また、レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止になる場合があります。状況が改善されると再び機能は作動します。
- ・大雨、濃霧および吹雪などの悪天候時
- ・前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
- ・雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
- ・真っ暗で周囲にものがないとき
- ・前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
- ・夕方、朝方の薄暗いときや、屋内駐車場などの暗い場所で対象物に接近するとき
- ・フロントガラスにくもり、雪、氷、土埃などが付着して汚れているとき
- ・フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分にふき取れてないとき
- ・フロントウォッシャーの使用中
- ・スズキ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

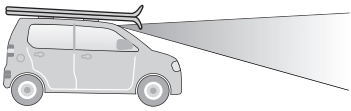
例



81M40380

- ・レンズを汚したり傷をつけたとき
- ・次のように、レーザーレーダーと単眼カメラの視界をさまたげたとき
  - ・フロントガラスにステッカーやフィルムを貼った
  - ・フロントガラスにアクセサリーを取り付けた
  - ・フロントガラスに傷、ひびなどが生じた
  - ・ルーフキャリアやスキー板などの長尺物を搭載した

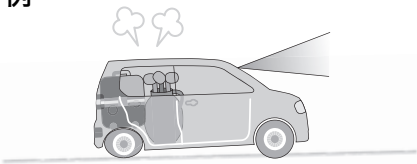
例



72M20423

- ・重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

例

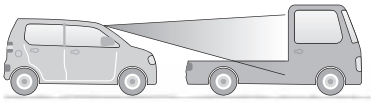


72M20405

・タイヤの空気圧が適正でない、または摩耗したタイヤのとき
・タイヤチェーンを装着したり、指定サイズ以外のタイヤを装着したりしたとき
・ホイールアライメントがずれているとき
・パンクを応急修理したとき
・サスペンションを改造したとき
・トンネルの出入り口を通過するなど、明るさが極端に変化するとき
・夜間やトンネル内でヘッドライトを点灯せずに走行しているとき
・急な坂道や急なカーブ、道路の継ぎ目を走行しているとき
・ヘッドライトの光軸がずれているとき
・ヘッドライトやフロントフォグランプを改造したとき
・ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき

● 次のような車両や障害物、状況は、レーザーレーダーと単眼カメラが前方の障害物を検知できなかったり、検知に時間がかかったりする場合があります。
・前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸がある
・荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなど
・後端から積荷が飛び出している車両など
・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
・車高の低い車両など

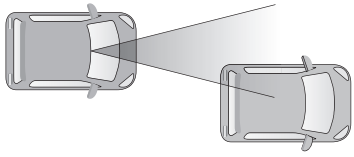
例



72M20407

・ふらつき運転をしているとき
・先行車の最低地上高が高いとき
・先行車が太陽光などを強く反射しているとき
・対向車両やバックしてくる車両
・横向きの車両
・夜間またはトンネル内で、テールランプが点灯していない先行車
・停車している車両の前に壁などがある
・車両の近くに別の障害物がある
・標識や街灯、電柱、木などポール状のもの
・高さの低い障害物
・鏡の壁や扉、ガラスなどのとき
・小動物や幼児などの高さの低い対象物
・ガードレール
・自車バンパーの近い位置に対象物が存在する
・前方車両の一部しかレーザーレーダーと単眼カメラの検知範囲内に入っていないとき

例



72M20406

・先行車がレーザー光を反射しにくい状態のとき
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間
・前方車両との速度差が大きい場合
・前方車両と近距離の場合
・前方車両が急ハンドル、急加速、急減速した
・ヘッドライト照射範囲外に対象物がある場合
・横からすぐ目の前に飛び出してきた
・自車が車線変更を行ない、先行車のすぐ後ろに接近した

- 次のような区画線や状況は、レーザーレーダーと単眼カメラが区画線を検知できなかったり、検知に時間がかかったりする場合があります。
  - ・車線の幅が狭いとき
  - ・車線が検知しづらいとき
    - ・区画線がない、または消えている
    - ・区画線の色が路面の色と似ている
    - ・区画線の幅が狭い
    - ・区画線がかすれている、または道路鋲や置き石などがあるとき
    - ・区画線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
    - ・雨天、雨上がり、水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
    - ・区画線が縁石等の上に引かれているとき
    - ・照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
  - ・前方車両と近距離の場合
  - ・車線変更した直後、または交差点を通過した直後

デュアルセンサーブレーキサポート

デュアルセンサーブレーキサポートは、走行中レーザーレーダーと単眼カメラなどにより前方車両や歩行者などを検知し、警報によって衝突の回避をうながしたり、ブレーキ制御によって衝突時の被害軽減を図ったりします。

- デュアルセンサーブレーキサポートが作動したとき、アクセルペダルの操作をしても作動を継続します。ただし、アクセルペダルを強く踏み込むと作動を解除します。
- ブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドル操作をしていたりすると、操作状態によっては回避操作と判断され、デュアルセンサーブレーキサポートが作動しない場合があります。
- デュアルセンサーブレーキサポートは、主に車両や歩行者への衝突の回避、あるいは衝突の被害を軽減することを目的としていますが、すべての状況において車両や歩行者を検知できるわけではありません。
- デュアルセンサーブレーキサポートは作動停止状態にすることができます。
  → **4-70ページ（デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ）**

⚠警告

●デュアルセンサーブレーキサポートの検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。デュアルセンサーブレーキサポートにたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。

●お客様自身でデュアルセンサーブレーキサポートの作動確認を行なわないでください。周囲の状況によってはデュアルセンサーブレーキサポートが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●自動ブレーキ機能作動時は、強いブレーキがかかります。運転前に全ての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。

⚠注意

自動ブレーキによる車両停止後は、すみやかにブレーキをかけてください。オートマチック車は自動ブレーキが解除されるとクリープ現象により車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

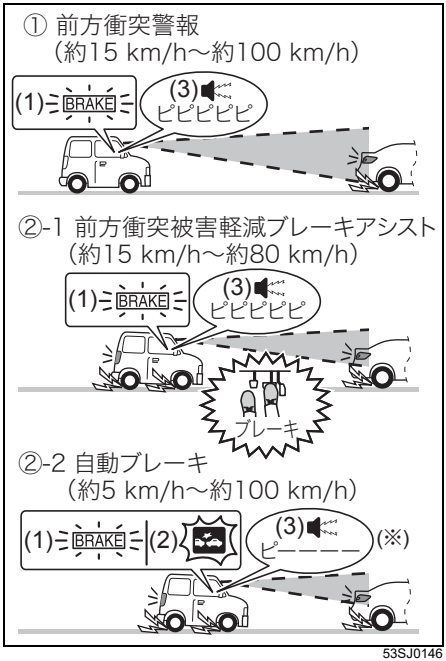
アドバイス

前方衝突被害軽減ブレーキアシストまたは自動ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

アドバイス

●デュアルセンサーブレーキサポート作動中に、前方障害物が検知範囲外に移動するなど、検知できなくなったときは、途中で作動が解除されることがあります。
●デュアルセンサーブレーキサポート作動中にブレーキペダルを踏んでいなくてもブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
●エンジンを始動したあと、次のようなときにもデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯が点灯しますが、これは故障ではありません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、エンジンを再始動すれば表示灯が消灯します。
・自動ブレーキが３回作動したとき
・自動ブレーキが長時間作動したとき
●デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

■ 作動イメージ



53SJ0146

(1) 前方衝突警告表示
(2) デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯
(3) 室内ブザー

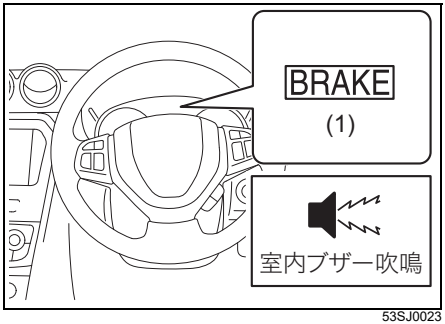
※自動ブレーキ機能による車両停止後、自動ブレーキ機能が解除されるまでの間、ブザー音は継続されます。また、前方衝突警告機能表示およびデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯は、ブレーキ制御終了後、約 3 秒後に消灯します。

■ 前方衝突警報

下記の作動速度のときに、前方車両や歩行者に衝突する可能性があると室内ブザーとメーター内の表示で運転車に警報を発します。

- 自車速度約 15 ～約 100km/h（対象が歩行者の場合は約 15 ～約 60km/h）で走行中
- 自車から見た前方車両または歩行者との相対速度が約15km/h以上

● 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ内の前方衝突警告表示（1）が点灯します。



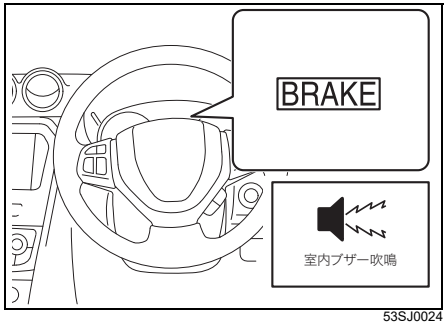
53SJ0023

● 前方衝突警報が鳴ったときは、前方や周囲の状況に応じて、ブレーキ、ハンドル操作などの回避行動をしてください。

■ 前方衝突被害軽減ブレーキアシスト

下記の作動速度のときに、前方車両や歩行者に衝突する可能性が高いときにブレーキペダルを踏むと、制動力を増強します。前方衝突被害軽減ブレーキアシストが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

- 自車速度約15～約80km/h（対象が歩行者の場合は約15～約60km/h）で走行中
- 自車から見た前方車両または歩行者との相対速度が約15km/h以上



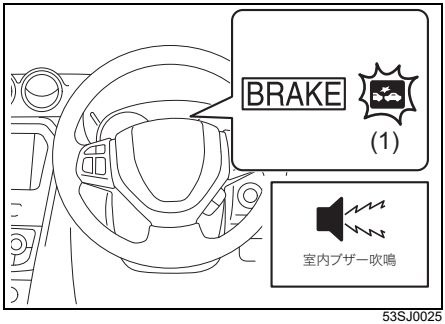
53SJ0024

■ 自動ブレーキ

前方車両などとの衝突が避けられないとシステムが判断した場合、自動的に強いブレーキがかかります。自動ブレーキが作動した場合、同時に前方衝突警報も作動します。

- 自車速度約5～約100km/h（対象が歩行者の場合は約 5 ～約 60km/h）で走行中
- 自車から見た前方車両または歩行者との相対速度が約5km/h以上

- 自動ブレーキの作動中は、室内ブザーが“ピーーーー”と鳴り、メーター内のデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯（1）が点滅し、制動灯が点灯します。



53SJ0025

アドバイス

前方衝突警告表示の点灯およびデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯の点滅は、機能が解除してから約 3 秒後に消灯します。

■ こんな場合は作動しません

次のようなとき、デュアルセンサーブレーキサポートは作動しません。

- ハイブリッドシステムが起動していないとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルセンサーブレーキ作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-84ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が R のとき
- ESP®が作動しているとき（前方衝突警報を除く）
- 次のスイッチを操作して、デュアルセンサーブレーキサポートを停止させているとき
  ・デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ
  → **4-70ページ（デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチ）**
  ・ESP® OFFスイッチ
  → **4-37ページ（ESP®OFFスイッチ）**
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-49 ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなとき、デュアルセンサーブレーキサポートが作動しない場合があります。

- 前方障害物を正しく検知できないとき
  → **4-51ページ（歩行者の検知）**
  → **4-52ページ（こんな場合は検知できないことがあります）**
- アクセルペダルやハンドルの操作などから、回避操作をしたと判断したとき

■ こんな場合は作動しても十分に減速できないことがあります

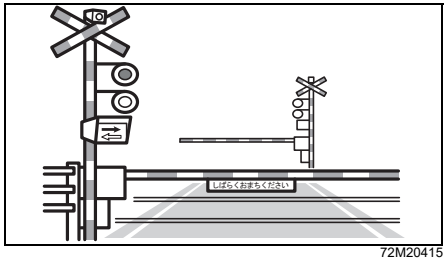
次のようなとき、デュアルセンサーブレーキサポートが作動しても十分に減速できない場合があります。

- 外気温が低いときや走行開始直後でブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱され、ブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れて効きが悪くなっているとき
- 次のような路面を走行しているとき
  ・急カーブや、凸凹の激しい路面
  ・急な勾配
- 次のような滑りやすい路面を走行しているとき
  ・凍結路や積雪路
  ・マンホールや工事用の鉄板の上
  ・砂利道
- 降雨時に走行しているとき

■ こんな場合にも作動することがあります

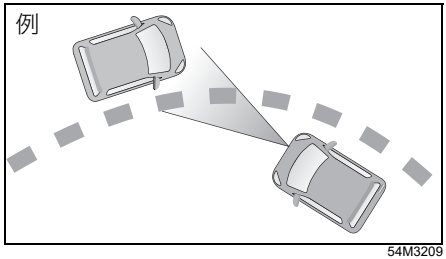
次のようなとき、レーザーレーダーと単眼カメラが衝突の可能性のある前方車両や歩行者と判断してデュアルセンサーブレーキサポートが作動する場合があります。あわてず注意して走行してください。

- 規定速度を超えて ETC ゲートを通過するとき
- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき



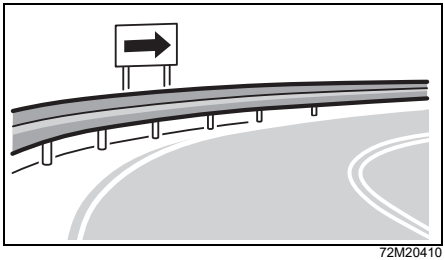
72M20415

- 路面の勾配が急に変化するような坂道を走行するとき
- 前方車両や隣車線の先行車に急接近したとき
- 前方および対向車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき
- 車両や障害物のすぐ横を通過するとき
- カーブ路で対向車とすれ違うとき



54M3209

- カーブ入口にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき


72M20410

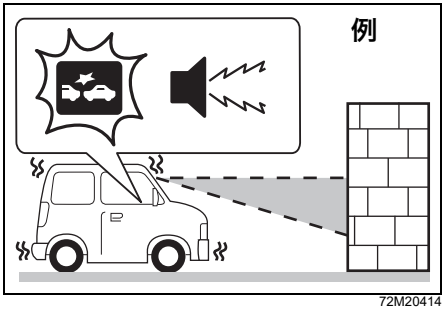
- 路面または壁面に車両と見分けがつきにくいペイントや模様などがあるとき

誤発進抑制機能

誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）中に、車体前端から前方約4 m以内に車両や障害物を検知すると、アクセルペダルの急激な踏み込みによるエンジン出力の上昇を自動的に最大約５秒間抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々にもどります。
作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内のデュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯が点滅
  → **3-84ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示
  → **3-88ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**
- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る

デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯の点滅は、機能が解除されてから約3秒後に消灯します。



72M20414

4

⚠警告

●誤発進抑制機能は、運転者による安全運転をサポートし、衝突を回避したり衝突時の被害を軽減したりすることを目的としていますが、その検知・制御性能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。誤発進抑制機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。

●お客様自身で誤発進抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な上り坂などで機能が作動すると、自重により後退し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

前輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。

■ こんな場合は作動しません

- ハイブリッドシステムが起動していないとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-84ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が P R N のとき
- ハンドルを操作しているとき
- 次のスイッチを操作して、誤発進抑制機能を停止させているとき
  ・デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ
  → **4-70ページ（デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチ）**
  ・ESP® OFFスイッチ
  → **4-37ページ（ESP®OFFスイッチ）**
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-49ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

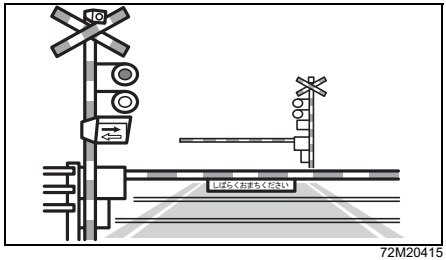
前方障害物を正しく検知できないとき、誤発進抑制機能が作動しない場合があります。

→ **4-51ページ（歩行者の検知）**
→ **4-52 ページ（こんな場合は検知できないことがあります）**

■ こんな場合にも作動することがあります

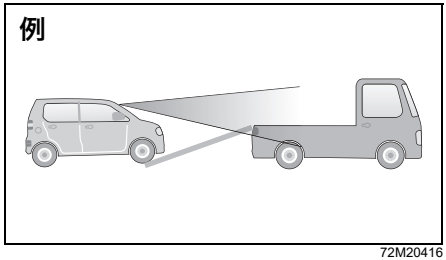
次のようなとき、レーザーレーダーと単眼カメラが前方障害物と判断して誤発進抑制機能が作動する場合があります。

- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき



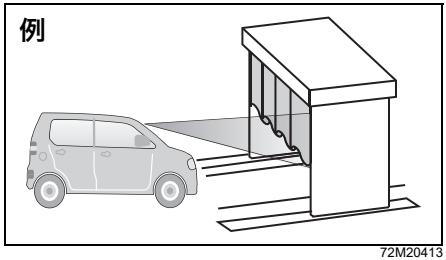
72M20415

- キャリアカーに積載するとき



72M20416

- ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



72M20413

- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 路面の勾配が急に変化するような坂道を走行するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などを通過するとき
- カーブ入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- 車両や障害物のすぐ横を通過するとき
- 前方障害物のすぐ近くに停車するとき

■ 踏切内などで作動した場合は

誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行ない、機能を解除または停止させて、踏切内からすみやかに脱出してください。

- アクセルペダルを5秒以上踏み続ける
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- ハンドルを大きくまわす
- デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチを長押しする

→ **4-70ページ（デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ）**

⚠ 警告

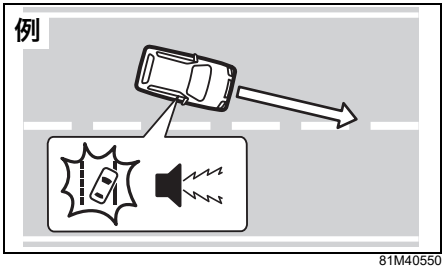
遮断機が下がる直前に無理に踏切内に進入しないでください。踏切内でデュアルセンサーブレーキサポートや誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ **7-29 ページ（踏切内で動けなくなったときは）**

車線逸脱警報

走行時（約60 km/h～約100 km/h）、レーザーレーダーと単眼カメラが車線の左右区画線を検知し、車線を逸脱すると判断した場合、次の方法により注意をうながします。

- メーター内の車線逸脱警報作動表示灯が点滅
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示
  → **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**



81M40550

⚠ 警告

●車線逸脱警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものではありません。車線逸脱警報にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で車線逸脱警報の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては車線逸脱警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ こんな場合は作動しません

次のときは、車線逸脱警報が作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-84ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 次のスイッチを操作して、車線逸脱警報を停止させているとき
  ・車線逸脱警報OFFスイッチ
  → **4-71ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
  ・ESP® OFFスイッチ
  → **4-37ページ（ESP®OFFスイッチ）**
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-49ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**
- 方向指示器作動中および作動後などの意図的な車線変更と判断したとき
- 非常点滅表示灯スイッチを操作したとき

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、車線逸脱警報が作動しない場合があります。

- 区画線に急に接近する場合
- 急なカーブを走行しているとき
- 車線逸脱警報が作動したあと、車線の内側にもどっていないとき

※上記以外にもレーザーレーダーと単眼カメラが区画線を検知できないときは作動しない場合があります。

→ **4-52ページ（こんな場合は検知できないことがあります）**

■ こんな場合は作動することがあります

次のときは、車線逸脱警報が作動する場合があります。

- ガードレールの影のような区画線に並行する影があるときや区画線が影の中にあるとき
- 区画線が2重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- 積雪路や濡れた路面で、タイヤの跡などがあるとき
- 車線内に複数の線が引かれているとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など白線または黄線がない場所を走行するとき
- 分岐路または合流路などを走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

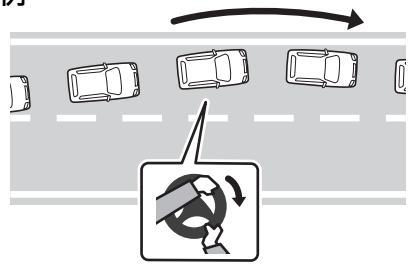
アドバイス

- ハイブリッドシステムを起動したあと、次のようなときにも車線逸脱警報作動表示灯が点灯しますが、これは故障ではありません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、ハイブリッドシステムを再起動すれば表示灯が消灯します。
  - ・自動ブレーキが３回作動したとき
  - ・自動ブレーキが長時間作動したとき
- 車線逸脱警報作動表示灯が点灯し、故障が考えられる場合、システムが停止しますが、通常の走行には支障ありません。

車線逸脱抑制機能

高速道路や自動車専用道路などで、車線が整備された道路を走行中、単眼カメラが車線の左右区画線を検知し、車線を逸脱すると判断した場合、逸脱を防ぐ方向にハンドル操作をアシストします。

例



52R0024

⚠ 警告

●車線逸脱抑制機能はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。車線逸脱抑制機能にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。
●お客様自身で車線逸脱抑制機能の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては車線逸脱抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

●しばらくの間、手放し運転をつづけると短い室内ブザーが鳴り注意をうながします。さらに手放し運転を続けると同じ間隔で室内ブザーが繰り返し鳴り、繰り返すごとに1回の室内ブザーが長くなっていきます。ブザーが鳴り始めると、ハンドルを握ったり機能をOFFにしても、ブザーを中断させることができません。
●車線逸脱抑制機能が約9秒作動すると機能が停止するまで断続的に室内ブザーが鳴ります。

■ 車線逸脱抑制機能の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動できます。

- 車線逸脱抑制機能を ON にしているとき
- 車速が約65 km/h～約100 km/hのとき
- システムが左右区画線を認識しているとき
- 車線の幅が約3 m～約4 mのとき

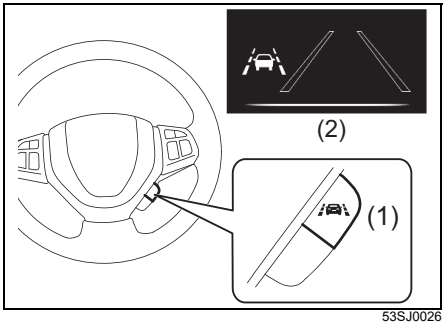
車線を逸脱しそうになると作動しハンドル操作をアシストします。

アドバイス

ハンドル操作がアシストされているときでも運転者がハンドルを操作できます。

■ 車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチ

車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチはハンドルの右側下方にあります。



53SJ0026

(1) 車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチ
(2) 車線逸脱抑制機能表示

- 車線逸脱抑制機能を ON（スタンバイ状態）にするときは、車線逸脱抑制機能 ON/OFF スイッチ（1）を手前に引きます。マルチインフォメーションディスプレイ内の車線逸脱抑制機能表示（2）が表示されます。
- 機能を停止させるときは、もう一度車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチを手前に引きます。車線逸脱抑制機能表示が消えます。

アドバイス

- エンジンを停止させても ON/OFF の設定は記憶されます。
- 次のような状況では、システムの初期学習が完了していないため、車線逸脱抑制機能を ON（スタンバイ状態）にしても、作動するまでに時間がかかる場合があります。
  - ・納車直後で走行距離が少ない
  - ・お車の点検、整備を行なった直後

■ 車線逸脱抑制機能表示

マルチインフォメーションディスプレイ内の車線逸脱抑制機能表示が次の表のようになったとき、以下の作動状態を表します。

	表示	表示色
(1)		白色
(2)		
(3)		オレンジ色
(4)		
(5)		内側が黒色
(6)		内側が白色
(7)		内側が白色 (逸脱側が点滅)

(1) 車線逸脱抑制機能がスタンバイ状態です。機能は作動しません。
(2) 車線逸脱抑制機能がレディ状態です。機能が作動できます。
(3) 車線逸脱抑制機能がアクティブ状態です。機能が作動しています。
(4) 車線逸脱抑制機能の異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
(5) 車線逸脱抑制機能がスタンバイ状態です。機能は作動しません。
(6) 車線逸脱抑制機能がレディ状態です。機能が作動できます。
内側が左右で白色と黒色の場合があります。
(7) 車線逸脱抑制機能がアクティブ状態です。機能が作動しています。
内側が左右で白色と黒色の場合があります。

アドバイス

車線逸脱抑制機能の作動状態によりマルチインフォメーションディスプレイ内にメッセージが表示される場合があります。

→ **3-88ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

■ こんな場合は機能が停止します

次のときは、車線逸脱抑制機能が停止します。

- 車線逸脱抑制機能ON/OFFスイッチを操作して、車線逸脱抑制機能を停止させているとき
  → **4-64 ページ（車線逸脱抑制機能 ON/OFF スイッチ）**
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-49ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**
- パワーステアリング警告灯が点灯しているとき
  → **3-75ページ（パワーステアリング警告灯）**
- ESP® 作動表示灯が点灯しているとき作動しない場合があります。
- 手放し運転に関する警告メッセージが表示されたあと、ハンドル操作を行わなかったとき
  → **3-88ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**

■ こんな場合は十分に性能を発揮できないことがあります

次のようなときは、車線逸脱抑制機能が十分に性能を発揮できないことがあります。

- 横風を受けているとき
- 急なカーブ、またはカーブの形状が急激に変化しているとき
- 次のような路面を走行しているとき
  - ・凸凹、うねり、つなぎ目がある
  - ・勾配が大きい、または急激に変化している
  - ・積雪路や濡れた路面で、タイヤの跡などがある
  - ・一般道（自動車専用道路以外）
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールを装着したとき
- スタッドレスタイヤやスズキ純正品以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤが著しく摩耗しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ホイールバランスが異常なとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- パンクを応急修理したとき
- サスペンションを改造したとき
- サスペンションやパワーステアリング装置を修理、交換したとき
- ハンドルに異常な振動を感じる、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- 事故や故障によって、まっすぐ走行できないとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 急な加速、または減速を行なっているとき
- 高速でカーブを曲がっているとき
- 区画線に急に接近するとき
- 牽引しているとき、または牽引されているとき

■ こんな場合は正常に作動しないことがあります

次のときは、車線逸脱抑制機能が正常に作動しないときがあります。

- 雨天や、降雪のとき
- 夕方、朝方の薄暗いときや道路に十分な照明がないとき
- トンネルの出入り口、高架下など明るさが極端に変化するとき
- 次のような路面を走行しているとき
  - ・雪や凍結防止剤が残っている
  - ・ひび割れや補修の跡がある
  - ・舗装されていない、荒れている
  - ・コンクリート路や照り返しなどにより明るくなっている

・雨天、雨上がり、水たまりなどによりぬれている

- 料金所や検札所の手前や交差点など区画線がない場所を走行するとき
- 分岐路または合流路などを走行しているとき
- 様々な路面標示や形状のレーンマーカーがあるとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- 前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
- ガードレールの影のような区画線に並行する影があるときや区画線が影の中にあるとき
- 路面の凹凸やつなぎ目などで車両が上下に大きく揺れているとき
- 前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
- 車間距離が短く、区画線が見えにくくなっているとき
- 前方車両や隣車線の先行車が車線変更したとき
- 区画線がない、または消えかかっているとき
- 区画線が二重に引かれているとき
- 車線内に複数の線が引かれているとき
- 区画線の幅が狭いとき
- 区画線の色が路面の色と似ているとき
- 区画線の形状が急激に変化しているとき
- 路肩に縁石や側壁があるとき
- 区画線が壁やポールに隣接して引かれているとき
- 区画線が縁石等の上に引かれているとき
- ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき
- 夜間やトンネル内でヘッドライトを点灯せずに走行しているとき
- ヘッドライトの光軸がずれているとき
- ヘッドライトやフォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 表示灯、警告灯が正常に点灯消灯しない、ブザーが鳴らない、マルチインフォメーション表示が通常と異なるなど、何らかの異常があるとき
- レーザーレーダーと単眼カメラ付近のフロントガラスがくもったり、遮蔽物があったりしてカメラの視界がさまたげられたとき
- レーザーレーダーと単眼カメラの調整・修理または交換をした直後

■ こんな場合は一時的に作動が停止します

次のようなときは、車線逸脱抑制機能が一時的に作動が停止します。再び作動条件が満たされると作動します。

- 回避行動などのために、運転者自身がハンドル操作をしたとき
- 方向指示器作動中および作動後などの意図的な車線変更があったとき
- ESP®が作動したとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 両側、または片側の車線を認識できなくなったとき

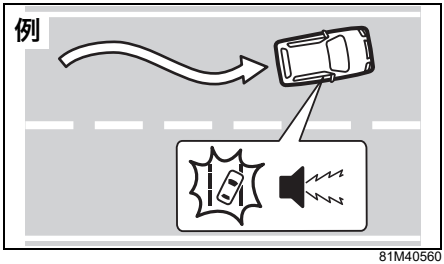
アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイ内に「LDPシステム要点検」のメッセージが表示された場合、車線逸脱抑制機能は停止しますが、通常の走行に支障ありません。

ふらつき警報

走行時（約60 km/h～約100 km/h）、システムが車線内での車両の蛇行パターンまたは短時間に連続で車線逸脱警報が作動したことにより、ふらつきと判断した場合、次の方法により注意をうながします。

- メーター内の車線逸脱警報作動表示灯が点滅
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 室内ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示
  → **3-88ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**



81M40560

⚠警告

●ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものでありません。また、運転者に注意をうながす機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。ふらつき警報にたよった運転はせず、走行中は常に安全運転に努めてください。

●お客様自身でふらつき警報の作動確認を行なわないでください。周囲の状況によってはふらつき警報が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

車線内でのお車の蛇行パターンによるふらつき警報は、過去数十分程度の走行データをもとにふらつきと判断しています。ふらつきはじめてもすぐに判断されません。

■ こんな場合は作動しません

次のときは、ふらつき警報が作動しません。

- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-84ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- 次のスイッチを操作して、ふらつき警報を停止させているとき
  ・車線逸脱警報OFFスイッチ
  → **4-71ページ（車線逸脱警報OFFスイッチ）**
  ・ESP® OFFスイッチ
  → **4-37ページ（ESP®OFFスイッチ）**
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-49 ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**

■ こんな場合は作動しないことがあります

次のようなときは、ふらつき警報が作動しない場合あります。

- 車線変更をした直後のとき

※上記以外にもレーザーレーダーと単眼カメラが区画線を検知できないとき、作動しない場合があります。

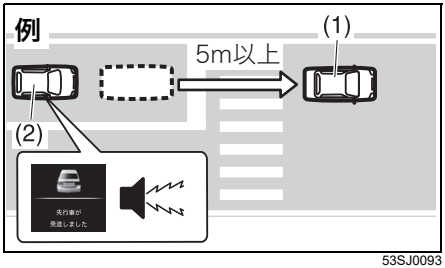
→ **4-52ページ（こんな場合は検知できないことがあります）**

先行車発進お知らせ機能

先行車（1）から約 7 m以内に停車し、そのあと先行車が発進して約5 m以上離れても、自車（2）が停止し続けた場合、次の方法により先行車が発進したことをお知らせします。

- 室内ブザーが“ピピ”と鳴る
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示

→ **3-88 ページ（マルチインフォメーションディスプレイ）**



53SJ0093

アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、先行車発進お知らせ機能を停止することができます。

→ **3-102 ページ（セッティングモード）**

■ こんな場合は作動しません

次のときは、先行車発進お知らせ機能が作動しません。

- ハイブリッドシステムが起動していないとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき

→ **3-84ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
→ **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**

- セレクトレバーの位置が P R のとき
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき

→ **4-49ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**

- ESP® OFFスイッチを操作して、ESP®を停止させているとき

→ **4-37ページ（ESP®OFFスイッチ）**

- 設定の切替え（カスタマイズ）により先行車発進お知らせ機能を停止させているとき

→ **3-102ページ（セッティングモード）**

- パーキングブレーキが解除され、ブレーキペダルを踏んでいないとき

■ こんな場合は作動しないことがあります

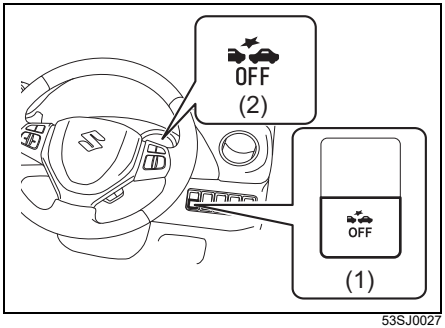
次のようなときは、先行車発進お知らせ機能が作動しない場合があります。

- 先行車が検知範囲外に移動したとき
- 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき

デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチ

デュアルセンサーブレーキサポートおよび誤発進抑制機能を停止できます。

- 機能を停止させるときは、メーター内のデュアルセンサーブレーキサポート OFF 表示灯（2）が点灯するまでデュアルセンサーブレーキサポート OFFスイッチ（1）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチを長押ししてデュアルセンサーブレーキサポート OFF表示灯を消灯させます。
- 手動でエンジンを停止するたびに機能は復帰し、デュアルセンサーブレーキサポート OFF表示灯は消灯します。
- デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチを押すたびに、室内ブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



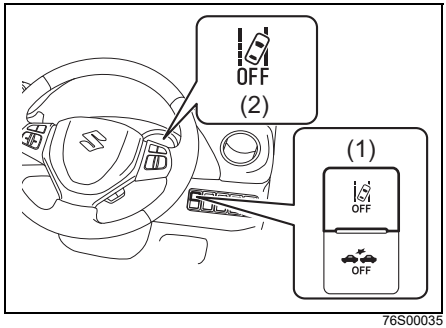
53SJ0027

- 次のような状況では、デュアルセンサーブレーキサポートおよび誤発進抑制機能が予期せず作動するおそれがあるため、事前にデュアルセンサーブレーキサポート OFFスイッチを操作して作動停止の状態にしてください。
  - ・車検などでテスターに載せるとき
  - ・車をリフトで上げて、タイヤを空転させるとき
  - ・けん引されるとき
  - ・キャリアカーなどに積載するとき
  - ・サーキット場などでスポーツ走行するとき
  - ・ビニールカーテンや垂れ下がった枝があるとき
  - ・生い茂った草むらなどを走行するとき
  - ・洗車機を使用するとき
  - ・スペアタイヤ（市販品）やタイヤチェーンを装着したとき
  - ・パンクを応急修理したとき
  - ・事故にあったときや、故障などで走行が不安定なとき
  - ・自動ブレーキが何回も予期せず作動したとき
  - ・タイヤの空気圧が適正でないとき
  - ・タイヤが著しく摩耗しているとき
  - ・指定サイズ以外のタイヤやホイールを装着したとき
  - ・サスペンションを改造したとき
  - ・レーザーレーダーと単眼カメラの視界をさまたげるようなものを取り付けたとき
  - ・重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

車線逸脱警報OFFスイッチ

車線逸脱警報およびふらつき警報を停止できます。

- 機能を停止させるときは、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯（2）が点灯するまで車線逸脱警報 OFF スイッチ（1）を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度車線逸脱警報 OFF スイッチを長押しして車線逸脱警報OFF表示灯を消灯させます。
- 車線逸脱警報 OFF スイッチを押すたびに、室内ブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。



76S00035

アドバイス

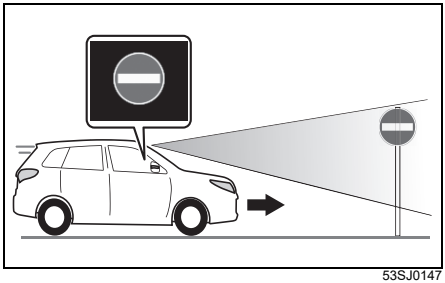
一度エンジンを止め、再始動しても作動可能な状態にもどりません。エンジンスイッチを LOCK（OFF）にする前の作動状態を維持します。

標識認識機能

レーザーレーダーと単眼カメラが走行中に認識した標識を、マルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者へお知らせします。

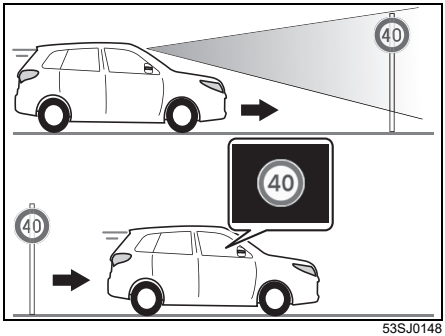
■ 車両進入禁止標識を認識したときは

走行時（約5 km/h～約60 km/h）、対象の標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイへ表示し、運転者へお知らせします。


53SJ0147

■ 最高速度またははみ出し通行禁止標識を認識したときは

標識を通過したあと、マルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者へお知らせします。



53SJ0148

⚠ 警告

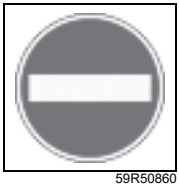
標識認識機能には限界がありますので、周囲の状況によっては作動しない可能性があります。標識認識機能にたよった運転はせず、常に安全運転に努めてください。

アドバイス

- 周囲の状況や車両の状態などにより、マルチインフォメーションディスプレイへの表示が遅れる場合があります。
- 標識認識機能は、最大2つまでマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- 次の状況になると、マルチインフォメーションディスプレイの表示は消えます。
  - ・表示されたあと、一定の距離を走行したとき
  - ・方向指示器を点滅させて、右折または左折するとき
  - ・セレクトレバーの位置が P、R のとき（最高速度標識を除く）
  - ・最高速度やはみ出し通行禁止標識の上にある規制区間の終わりを示す標識を通過したとき
- 最高速度標識が表示された状態でエンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたとき、再度エンジンを始動させると、前回と同じ標識が表示されます。
- 最高速度標識は、実際よりも高い速度を表示したり、低い速度を表示することがあります。
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、標識認識機能を停止することができます。

→ **3-102ページ（セッティングモード）**

■ 標識認識機能の種類

マルチインフォメーションディスプレイの表示	表示条件
 59R50840	最高速度標識を認識し、標識を通過すると表示
 59R50850	はみ出し通行禁止標識を認識し、標識を通過すると表示
 59R50860	車両進入禁止標識を認識すると同時に表示

■ こんな場合は作動しません

次のときは、標識認識機能が作動しません。

- ハイブリッドシステムが起動していないとき
- エンジンスイッチを ON にした直後の、デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯および車線逸脱警報作動表示灯が初期点灯しているとき
  → **3-84 ページ（デュアルセンサーブレーキサポート作動表示灯）**
  → **3-85ページ（車線逸脱警報作動表示灯）**
- セレクトレバーの位置が P R N のとき
- レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止または故障しているとき
  → **4-49ページ（レーザーレーダーと単眼カメラの一時停止・故障）**
- ESP® OFFスイッチを操作して、ESP®を停止させているとき
  → **4-37ページ（ESP®OFFスイッチ）**
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、標識認識機能を停止させているとき
  → **3-102ページ（セッティングモード）**
- パーキングブレーキが解除されていないとき
- 最高速度標識はないが、最高速度が定められた区間を走行するとき

■ こんな場合は正しく検知できないことがあります

- 次のようなとき、レーザーレーダーと単眼カメラが標識を正しくを検知できない可能性が高くなります。
  また、レーザーレーダーと単眼カメラが一時停止になる場合があります。状況が改善されると再び機能は作動します。
  - 車速約60 km/h以上で車両進入禁止標識に接近するとき
  - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候時
  - 前方から強い光（逆光、対向車のヘッドライトの光など）を受けたとき
  - 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
  - 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
  - 真っ暗で周囲に街灯などの照明がないとき
  - 前方車両の排気ガスや水、雪の巻上げ、水蒸気、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
  - 夕方、朝方、夜間など暗くて見えづらい時間帯や、屋内駐車場などの暗い場所にいるとき
  - 標識の手前で減速もしくは加速するときや、車線変更や右折または左折をした場合など、車両進行方向または車両位置が大きく変化したとき
  - フロントガラスにくもり、雪、氷、土埃などが付着して汚れているとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分にふき取れてないとき

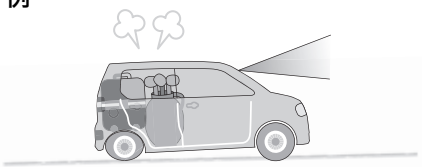
例



81M40380

・フロントウォッシャーの使用中
・スズキ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
・指定サイズ以外のタイヤを装着したときやタイヤの空気圧が適正ではないとき
・重い荷物を積んで、車両が傾いているとき

例



72M20405

・ヘッドライトに汚れ、氷雪、泥などが付着しているとき
・ヘッドライトの光軸がずれているとき
・トンネルの出入り口を通過するなど、明るさが極端に変化するとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路で車両が揺れ、単眼カメラの視界が安定しないとき

● 次のようなとき、標識認識が正しく作動せず、自車に関係のない標識を表示したり、その場に存在しない標識を表示したりすることがあります。
・自車が進行する道路に対して隣接する側道や、分岐地点、合流地点に標識があるとき
・標識の色や形に似たものがあるとき（類似の標識、看板、構造物など）
・ロータリーや環状交差点（ラウンドアバウト）を走行中、前方に標識があるとき
・標識のステッカーが貼られている車両が前方にある、もしくはそれらの車両を追い越すとき

アドバイス

次のような場合は、インフォメーションディスプレイに表示されている標識を継続して表示し続けることがあります。実際の交通規則にしたがって運転してください。
●最高速度標識はないが、異なる速度制限が定められたエリアを走行するとき
●車線や文字などの道路（路面）標示や、規制区間の終わりを示す矢印の補助標識などがあるエリアを走行するとき

■ 標識の位置や状態により正しく検知できないことがあります

● 次のようなときは、標識の検知が遅れたり、正しく検知しないまたは誤って検知することがあります。
・標識の一部が汚れていたり、樹木や前方の車両などによって隠れて不明瞭なとき
・標識の周りがごみ入って見つけにくいとき
・標識が遠く離れた位置にあるとき
・標識が折れ曲がっているときなど形状が変わってしまっているとき
・標識が色あせているとき
・標識の向きが変わっていたり、破損しているとき
・数字の一部が隠れていたり、かすれていたりして数字の判別がつきにくいとき
・強い光（逆光やヘッドライトの光など）が標識に反射して、正しく認識できないとき
・標識の上や下に、看板、ポスター、案内板などが設置されているとき
・標識に泥、雪、氷などの異物が付着しているとき
・標識が曲がり角やカーブ路にあるとき

・異なる最高速度標識が複数設置されているとき
・ヘッドライトの光が届きにくい位置にあるとき
・標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
・小さいサイズの標識のとき（規制区間の終了を示す補助標識など）
・標識が電光式のとき
・背景の建物などに同化して、標識を判別しにくいとき

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）

アクセルペダルから足を離しても、設定した車速で走行できます。また、先行車が現れたときは、車速に応じて設定した車間距離を保ち、追従できます。
高速道路や自動車専用道路でご使用ください。

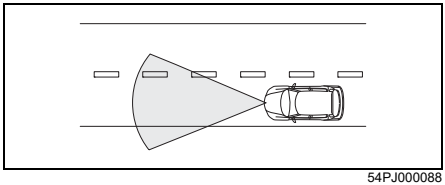
⚠ 警告

システムを過信しない

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）は操作負担を軽減するためのシステムで、あらゆる状況で追突を防止するシステムではありません。
運転中は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルやアクセルペダルを操作して安全運転に努めてください。

① 定速制御（先行車がいないとき）

設定した車速で定速走行します。

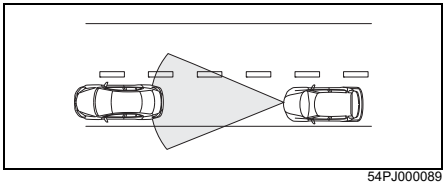


54PJ000088

- 約40 km/h以上で設定できます。

② 減速制御（設定車速より遅い先行車が現れたとき）

レーダーが先行車を検知すると、先行車の車速に応じて、設定した車間距離を保ちながら自動で減速し、先行車に追従します。

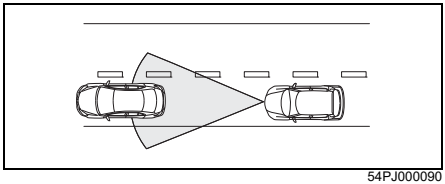


54PJ000089

- レーダーが検知可能な先行車との車間距離は、前方約100m以内です。

③ 追従制御（設定車速より遅い先行車に追従するとき）

- 先行車の車速に応じて、設定した車間を保ちながら自動減速・自動加速し、先行車に追従します。
- 0 km/hまで追従し、停止2秒後にシステムが一時的に解除されます。解除される前に前車が発進すれば、追従を継続します。



54PJ000090

⚠ 警告

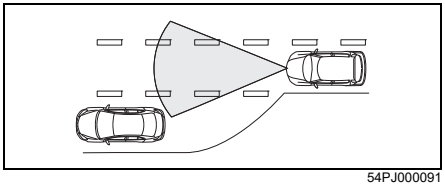
**追従制御時に、坂道で停車中にパーキングブレーキをかけると、システムが解除され、意図しない方向に車が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
しっかりブレーキペダルを踏んだ状態でパーキングブレーキをかけてください。**

アドバイス

減速・追従制御時に、先行車に接近した場合は、前方衝突警報が作動します。
→ **4-82ページ（前方衝突警報）**

④ 加速制御（設定車速より遅い先行車がいなくなったとき）

設定車速までゆっくり加速し、定速走行します。



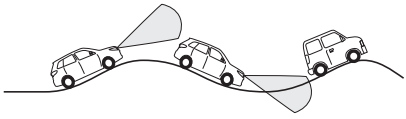
54PJ000091

⚠ 警告

次のような状況では使用しない

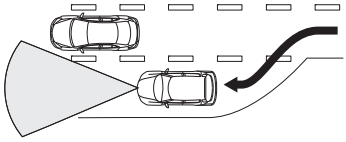
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります

- **交通量の多い道や頻繁に加減速を繰り返すような道。交通状況にあった速度で走行できないおそれがあります。**
- **急カーブのある道。道路状況にあった速度で走行できないおそれがあります。**
- **凍結や積雪などで滑りやすい道。タイヤが空転し、コントロールを失うおそれがあります。**
- **急な下り坂。設定した車速を超えるおそれがあります。また、追従制御時は十分に減速できず、先行車に接近するおそれがあります。**
- **急な上り坂、下り坂が繰り返される道。レーダーが先行車を検知できず、先行車に接近するおそれがあります。**



54P000376

- **けん引されているとき、またはけん引するとき**
- **高速道路の出口など。本線で設定車速より遅い車に追従している場合、出口に向けて本線を外れて先行車がいない状態になると、設定車速まで加速をはじめます。**



54PJ000092

- **事故や故障によって、まっすぐ走行できないとき**
- **前方衝突警報が頻繁に作動するとき**

→ **4-82ページ（前方衝突警報）**

- **雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候時や、ミリ波レーダー周辺に水滴や雪、汚れなどが付着しているとき、およびラジエーターグリルやフロントバンパーなど、ミリ波レーダー周辺部が衝突し損傷しているとき。レーダーが先行車との車間距離を正確に測定できないおそれがあります。**

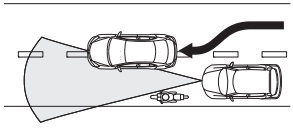
→ **4-88ページ
（ミリ波レーダーの取扱い）**

●トンネル等の電波が悪くなる状況では、先行車を正しく認識できずに、先行車に急接近するおそれがあります。
●右折、または左折するとき。先行車を正しく認識できず、適切な速度で走行できない恐れがあります。必要に応じてブレーキを踏み、減速してください。
●道路工事区間や、凹凸がある道を走行しているとき、およびマンホールや工事用の鉄板の上、道路上の落下物付近を走行する時。先行車の検知が遅れたり、正しく検知ができず、前方衝突警報が作動するおそれがあります。

⚠警告

次のような状況に注意してください

●料金所や渋滞の最後尾などで先行車が停車中または低速走行中のときは、レーダーが先行車を検知できず、前方衝突警報も作動しません。ブレーキで減速してください。
●次のようなときは、レーダーが先行車を正しく検知できないおそれがあります。また、前方衝突警報が作動しないおそれもあります。必要に応じてブレーキで減速してください。
・先行車などが路上の水や雪を巻き上げて走行しているとき
・先行車が空荷のトレーラーなど車両の後部が小さすぎるとき
・荷室や後席に重い荷物を積むなどして、自車が傾いているとき
●次のようなときは、レーダーが隣車線の車両や路側などを検知して、前方衝突警報が作動するおそれがあります。
・カーブ路や、車線幅が狭いとき
・ハンドル操作などにより、自車の車線内の位置が不安定なとき
●近距離ではレーダーの検知範囲が狭いため、次のようなときは、先行車の検知が遅れたり検知できなかったりするおそれがあります。必要に応じてブレーキで減速してください。
・先行車が急に割り込んできたとき
・自車または前方の車両が、車線の片側に偏って走行しているとき
・前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき



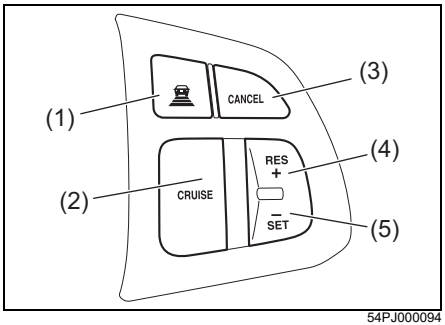
54PJ000093

アドバイス

● 先行車が停車したときは、自車も追従して停車します。ただし停車状態を保持する機能はありませんので、停車したら速やかにブレーキを踏んでください。
● アダプティブクルーズコントロールによるブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。

■ アダプティブクルーズコントロールスイッチ

アダプティブクルーズコントロールスイッチはハンドルの右側にあります。



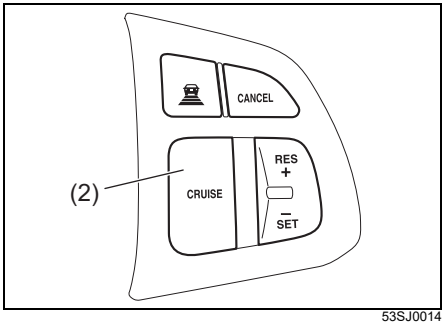
54PJ000094

(1) 車間距離設定スイッチ
(2) クルーズスイッチ
(3) キャンセルスイッチ
(4) RES ＋スイッチ
(5) SET －スイッチ

■ 車速設定のしかた

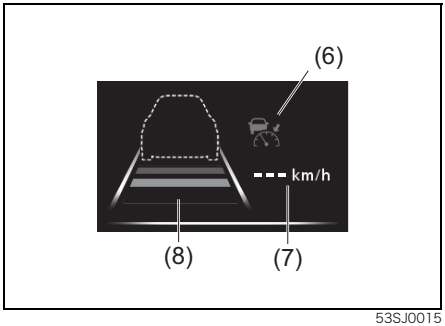
定速走行時の車速を設定します。

1 クルーズスイッチ (2) を押して、システムをON（待機状態）にします。



53SJ0014

マルチインフォメーションディスプレイにアダプティブクルーズコントロール表示灯（6）が点灯し、「- - - km/h」（7）が表示され、車間距離設定表示（8）が表示されます。



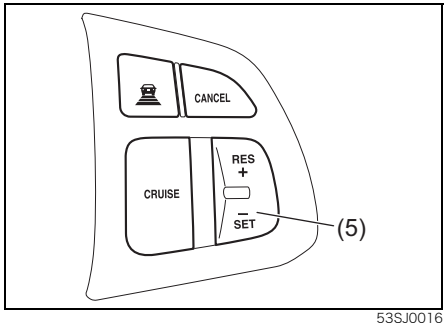
53SJ0015

2 アクセルペダルで加速／減速しながら、希望の車速に調節します。

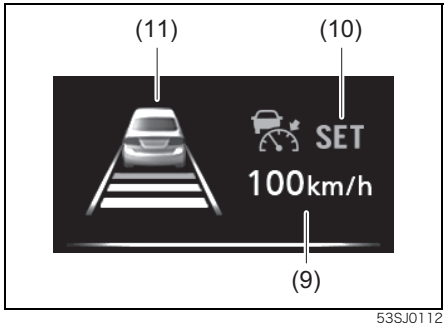
- 先行車を検知していない場合、約 40 km/h 以上の車速で走行していることにより設定可能です。
- 先行車を検知している場合、約 1 km/h 以上の車速で走行していることにより設定可能です。

3 SET −スイッチ（5）を押します。マルチインフォメーションディスプレイに設定車速（9）とSET表示灯（10）が表示されると、設定した車速または先行車に追従して走行できます。
約40 km/h 以上で走行している場合は、走行している車速で設定されます。先行車を検知していて約40 km/h 以下で走行している場合は約40km/hで車速が設定されます。

- 先行車検知表示（11）は先行車が検知されている場合と検知されていない場合の表示があります。



53SJ0016



53SJ0112

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用しないときは、必ずクルーズスイッチ（2）を押してシステムを解除してください。誤ってアダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 標識や標示で指定された最高速度を超えないように車速を設定してください。
  → **4-81ページ（設定車速の変えかた）**
- 次のいづれかのときは、設定できません。
  - 車速が約1 km/h 以下のとき
  - 車速が約40 km/h 以下で、先行車を検知していないとき
  - セレクトレバーが P R および N のとき
  - ミリ波レーダーが故障または一時停止したとき
  - ESP® OFF スイッチが押されているとき
  - シートベルトを着用していないとき
  - 半ドア警告灯が点灯しているとき
  - パーキングブレーキが解除されていないとき
  - ブレーキパッドが高温のとき
- エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、自動的にシステムが解除されます。

先行車検知表示の見かた

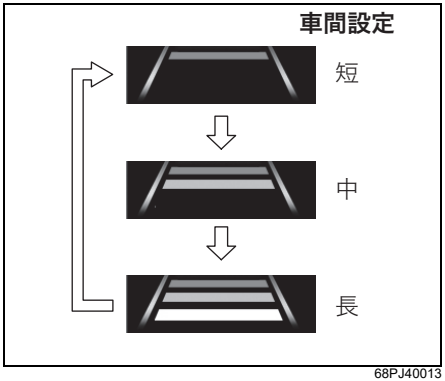
表示	状況
 53SB3050	先行車が検知されていないとき（定速制御になります）
 53SB3051	先行車が検知されているとき（減速・追従制御になります）

4

■ 車間距離設定の切替えかた

先行車の車間距離は、交通状況に応じて「短」、「中」、「長」の３段階から選択できます。

- アダプティブクルーズコントロール表示灯（6）が点灯中に、車間距離設定スイッチ（1）を押すと、車間距離設定表示（8）が次のように切替わります。



68PJ40013

アドバイス

- ハイブリッドシステムを停止すると記憶が消去され、初期状態にもどります。
- 車速や道路状況に応じて適切な車間距離は増減しますが、次の表を参考に設定してください。

＜車速80 km/h走行時の目安＞

車間設定	車間距離
「短」	約35 m
「中」	約45 m
「長」	約55 m

■ 一時的に加減速したいときは

加速したいとき

アクセルペダルを踏んでください。制御が一時的に解除され、通常走行と同様に加速できます。

- アクセルペダルから足を離すと、自動的にもとの制御にもどります。

減速したいとき

ブレーキペダルを踏んでください。制御が一時的に解除され、マルチインフォメーションディスプレイの SET 表示灯（10）が消えて、待機状態になります。

一時的に解除した制御を復帰できます。
→ **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**

アドバイス

Mモードで走行中、減速するときは車速に応じてシフトダウンしますが、加速時に自動シフトアップしないので、手動で行なう必要があります。

■ 設定車速の変えかた

現在車速にあわせる

- 速度を上げるとき
  アクセルペダルで希望の車速まで加速し、SET －スイッチ（5）を押します。
- 速度を下げるとき
  ブレーキペダルで希望の車速まで減速し、SET －スイッチ（5）を押します。

アドバイス

ブレーキペダルを踏むと制御がキャンセルされ、SET 表示灯（10）が消灯します。（待機状態）

RES / SET ボタンを使って

- 速度を上げるとき
  RES + スイッチ（4）を押します。
  微調整（1 km/h ずつ）：小刻みに押します。
  大幅調整（5 km/h ずつ）：押したままにし、希望の速度になったら手を離します。
- 速度を下げるとき
  SET －スイッチ（5）を押します。
  微調整（1 km/h ずつ）：小刻みに押します。
  大幅調整（5 km/h ずつ）：押したままにし、希望の速度になったら手を離します。

アドバイス

先行車を検知している減速・追従制御時は、RES + スイッチ（4）を押し続けて設定車速を上げても加速しません。ただし、先行車がいなくなると、自動的に設定車速まで加速しますので気をつけてください。

■ 一時的な解除のしかた

操作による解除

- キャンセルスイッチ（3）を押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

同時にマルチインフォメーションディスプレイのSET表示灯（10）が消えて、待機状態になります。

一時的に解除した制御を復帰できます。
→ **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**

制御の自動解除

- 車速が0 km/hになるまで追従し、2秒間以上停止したとき

⚠警告

減速・追従制御中に先行車が停車した場合は、自車も追従して停車します。停止して約2秒後に、制御が自動的に解除されます。制御の解除後はクリープ現象により車両が動き出すため、停車後は速やかにブレーキを踏んでください。

停車後は、室内ブザーが“ピッピッピ”と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。



53SJ0129

- 車が横滑りしそうになったとき（ESP®作動時を含む）
- セレクトレバーが P R および N のとき

- 車速が 40km/h 以下で先行車を検知しなくなったとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 運転席のドアを開けたとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- ブレーキパッドが高温のとき
- クラッチが高温のとき
- 制御による停車時に急坂路を検知したとき

解除された制御を復帰できます。制御が解除されたときの状況が改善されるなどしてから、行ってください。

→ **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**

4

■ 一時的な解除の復帰

RES + スイッチ（4）を押します。マルチインフォメーションディスプレイのSET表示灯（10）が表示され、制御が復帰します。

ただし以下のときは復帰しません。

- 車速が約 40 km/h 以下で、先行車を検知していないとき
- 先行車を検知しているが、車速が約 1 km/h 以下のとき

■ システムの解除

- クルーズスイッチ（2）を押したとき

アドバイス

システム異常があると自動的に解除され、同時にアダプティブクルーズコントロール警告灯が点灯します。

→ **4-80 ページ（先行車検知表示の見かた）**

■ 前方衝突警報

減速・追従制御中に先行車が急減速したり、他車が割り込んできたりして、十分に自動減速ができず先行車に接近すると、前方衝突警報が作動して注意を促します。

室内ブザーが、“ピピピピッ”と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。



53SJ0018

- 前方衝突警報が作動したときは、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

⚠警告

- **前方衝突警報が頻繁に作動するような状況では、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用しないでください。**
- **次のようなときは、短い車間距離でも前方衝突警報が作動しない場合があります。**
  - **先行車とほぼ同じ速度で走行しているとき**
  - **先行車の方が速く、次第に離れていくとき**
  - **アクセルペダルを踏んでいるときや離した直後**
- **4-77ページの「次のような状況に注意してください」もあわせてお読みください。**

アダプティブクルーズコントロール警告灯



68PJ40029

マルチインフォメーションディスプレイ内にあります。

→ **4-84 ページ（アダプティブクルーズコントロールのメッセージ）**

- アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときにマルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約3秒間点灯したあと消灯します。
- ESP® を作動停止（OFF）にすると、ESP®OFF 表示灯、デュアルセンサーブレーキサポートOFF表示灯、車線逸脱 OFF 表示灯およびアダプティブクルーズコントロール警告灯が点灯します。このとき、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）の機能も作動停止します。

■ アダプティブクルーズコントロールのメッセージ

システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メーター内またはマルチインフォメーションディスプレイに警告灯もしくはメッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音(室内ブザー)	原因と対処方法
 52R40520	 点滅	ポーン (1回)	アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）のシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-83 ページ（アダプティブクルーズコントロール警告灯）(**
 53SJ0114	 点滅	ポーン (1回)	アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）の機能が一時停止状態です。エンジンを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。 → **4-83 ページ（アダプティブクルーズコントロール警告灯）**

- アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）が設定できないとき。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音(室内ブザー)	原因と対処方法
 53SJ0115	消灯	なし	ブレーキパッドが高温のため設定できません。安全な場所に停車して、ブレーキパッドの温度が下がるまで待ってください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**
 53SJ0116	消灯	なし	車速が約40 km/h 以下のため設定できません。40 km/h 以上の速度まで加速して設定してください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音 (室内ブザー)	原因と対処方法
 53SJ0117	消灯	なし	先行車がいないため設定できません。40 km/h 以上の速度まで加速して設定してください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**
 53SJ0118	消灯	なし	運転席のシートベルトが外れているため、設定できません。運転席のシートベルトを着用して設定してください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**
 53SJ0119	消灯	なし	急勾配を走行しているため設定できません。平坦な道で設定してください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**
 53SJ0120	消灯	なし	セレクトレバーが D または M の位置にないため設定できません。セレクトレバーを D または M の位置にして設定してください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**
 53SJ0121	消灯	なし	上記以外で設定できないとき。説明に従い車速設定を再度行ってください。 → **4-78ページ（車速設定のしかた）**

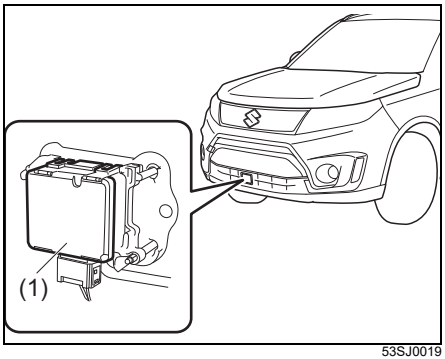
● アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）が自動解除したとき。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音 (室内ブザー)	原因と対処方法
 53SJ0122	消灯	ポーン (1回)	ブレーキパッドが高温になったため自動解除しました。安全な場所に停車して、ブレーキパッドの温度が下がるまで待ってください。
 52R41510	消灯	なし	車速が約40 km/h 以下のため自動解除しました。40 km/h 以上の速度まで加速して復帰してください。 → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-81ページ（操作による解除）**
 53SJ0125	消灯	なし	運転席のシートベルトが外れたため自動解除しました。運転席のシートベルトを着用して復帰してください。 → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**
 53SJ0126	消灯	ポーン (1回)	急勾配を走行していたため自動解除しました。平坦な道で復帰してください。 → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**
 53SJ0127	消灯	なし	セレクトレバーが D または M 以外になったため自動解除しました。D または M の位置にして復帰してください。 → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音 (室内ブザー)	原因と対処方法
 52R41500	消灯	なし	車速が低い状況で、先行車がいなくなったため自動解除しました。先行車に追従して走行する、または約 40 km/h 以上の速度まで加速して復帰してください。 → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**
 53SJ0128	消灯	なし	キャンセルスイッチを押した、ブレーキペダルを踏んだなどの操作により解除しました。また、運転席のドアが開いたなどの理由により自動解除しました。 原因を改善して復帰してください。 → **4-81ページ（操作による解除）** → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**
	消灯	ポーン (1回)	上記以外で自動解除したとき。原因を改善して復帰してください。 → **4-81ページ（制御の自動解除）** → **4-82ページ（一時的な解除の復帰）**

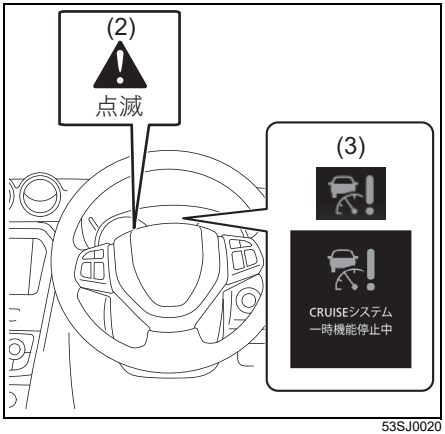
■ ミリ波レーダーの取扱い

ミリ波レーダー（1）は、バンパーグリル内にあります。



53SJ0019

ミリ波レーダーが汚れを検知すると、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）は停止状態になり、次の警告灯、表示が点灯また点滅して注意をうながします。



53SJ0020

(2) メーター内表示
(3) マルチインフォメーションディスプレイ表示

⚠ 警告

ミリ波レーダー周辺は、常にきれいな状態を保ってください。汚れたときは、傷つけないようにやわらかい布でふいてください。また、次のようなものが付着しているときは、汚れとして検知するのに時間がかかったり、検知できなかったりする場合があります。このようなときはアダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）が正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ビニール袋（透明、半透明、有色、金属コーティング品など）**
- **氷や雪など**

●以下の状況において、センサーが汚れていなくても、電波異常を検知して、安全のためにシステムを一時停止することがあります。

- **雨天時、トンネルや高架道路の下等を走行するとき**
- **道路両側が高いコンクリートの壁や金属のフェンスがある道路を走行するとき**
- **トンネルの中を走行するとき**
- **積雪道路を走行しているとき**

電波の異常が改善され次第、一時停止状態が自動的に解除されます。

⚠ 警告

●ミリ波レーダーを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、ミリ波レーダーが前方車両を正しく検知できなくなり、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）が正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・ミリ波レーダーに強い衝撃をあたえないでください。接触事故などでミリ波レーダー周辺部が変形・損傷した場合は、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用せず、スズキサービス工場で点検を受けてください。

・ミリ波レーダー周辺にステッカーなどを貼ったり、ものを取り付けたりしないでください。透明のものでも貼らないでください。

・ラジエーターグリルやフロントバンパーなど、ミリ波レーダー周辺部の改造や塗装、純正部品以外への交換はしないでください。修理や交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

・ミリ波レーダーや周辺部品を取り外したり、分解したりしないでください。

・フロントバンパーに腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●高圧洗浄機を使うときは、洗車ノズルをミリ波レーダー付近に向けないでください。

ミリ波レーダーが汚れを検知したときは

アダプティブクルーズコントロール一時停止中が表示された状態が解消されないときは、次のようにしてください。

1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にします。

2 ミリ波レーダー周辺をきれいにします。

3 エンジンスイッチを ON にします。

4 アダプティブクルーズコントロール警告灯が約3秒間表示されたあと、消灯することを確認します。

- ミリ波レーダー周辺をきれいにして再びエンジンをかけたとき、CRUISE システム一時機能停止中表示が再度表示される場合は、別の異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

ミリ波レーダー周辺が汚れていなくても、次のような状況ではアダプティブクルーズコントロール警告灯、CRUISE システム一時機能停止中表示（3）が点灯し、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）が停止状態になる場合があります。

- トンネル内
- 両側にコンクリート壁がある道路
- 金属製のフェンスがある道路
- 高架橋、立体交差の下や付近
- 大雨や、大雪などの悪天候時
- 水たまりがある路面や、積雪路

これらの状況下では、ミリ波レーダーから発する電波が乱反射して、前方車両の位置が正しく検知できなくなるため、一時的に機能を停止する場合があります。上記のような状況が改善したあと約2分間走行すると、警告灯および表示が消えて、アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）は作動可能な状態にもどります。

ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）

ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）は、自車の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認をサポートするシステムです。

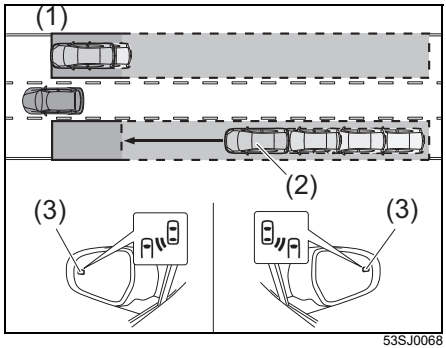
BSM は、車速が約15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したインジケーターを点灯させます。インジケーターが点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、インジケーターが点滅し、室内ブザーにより運転者に危険を知らせます。

⚠ 警告

- **BSM は、車線変更時の後方確認をサポートするシステムです。実際の車線変更時には､必ず目視やドアミラーで周辺状況を確認してください。**
- **周辺の状況によっては、システムが作動しないことがあります。システムを過信せず、常に安全運転に努めてください。システムを過信すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

BSM は、レーダーセンサーにより隣の車線を走行する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターを点灯させることによってその車両の存在を運転者に知らせます。

- ドアミラーのインジケーターが点灯する

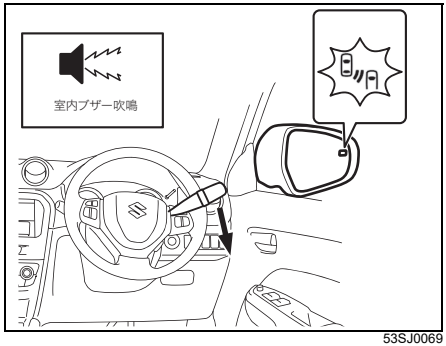


53SJ0068

(1) ドアミラーに映らない範囲(死角)を併走する車両
(2) 後方からドアミラーに映らない範囲(死角)に急速に接近してくる車両
(3) インジケーター

ドアミラーに映らない範囲（死角）を併走する車両や、後方から死角に急速に接近してくる車両を検知してドアミラーのインジケーターが点灯しているとき、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、インジケーターが点滅し、室内ブザーにより運転者に危険を知らせます。

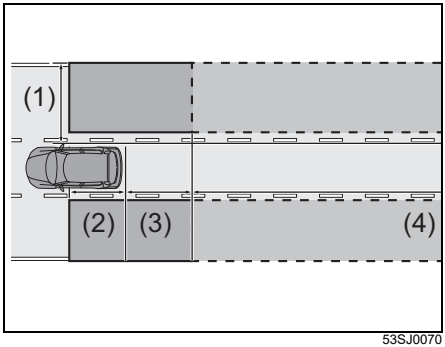
- 室内ブザーが“ピピピッ”と鳴る
- ドアミラーのインジケーターが点滅する



53SJ0069

■ BSM で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



53SJ0070

(1) 車両両側の側面から約0.5～3.5 m
(2) リヤバンパーと運転席付近
(3) リヤバンパーの後方4 m
(4) リヤバンパーの後方4～50 m

⚠注意

自車と検知された他車の速度の差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

■ BSM の作動条件

BSM は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM の機能を停止していないとき
- セレクトレバーの位置が R 以外のとき
- 車速が15 km/h 以上のとき
- エンジンが作動しているとき

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、BSM の機能を停止することができます。

■ こんな場合は作動しません

BSM は、次のような車両や車両以外のものを検知できないため作動しません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など（※）
- 対向車
- 同じ車線を走行する後続車（※）
- 2 つ隣の車線を走行する他車（※）
- ガードレール、壁、標識、駐車車両などの静止物（※）

※状況によっては検知することがあります。

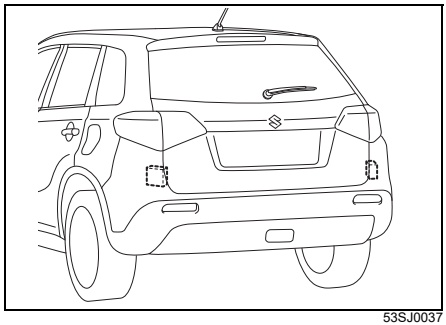
■ こんな場合は作動しないことがあります

BSM は、次のような状況では車両を正確に検知できないため、正しく作動しない場合があります。

- レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺のリヤバンパーに汚れ、雪、氷などが付着しているとき
- センサーまたはその周辺に強い衝撃が加えられたとき
- タイヤが滑っているか空転しているとき
- ガードレールや壁などとの距離が近い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- サスペンションを変更したとき
- 荷室に重いものが置かれているとき
- バッテリーに電圧異常があるとき
- センサー周辺の温度が高すぎる、または低すぎるとき
- トンネルの入り口、または出口付近を走行しているとき
- 排気ガス、水滴、雪、飛沫、砂、煙などのために後方の視界が悪いとき
- 2 台以上の車両が連続して接近しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど同じとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り、下りが連続した坂道や、舗装の継ぎ目等を走行しているとき
- 凹凸がある道路や砂利道を走行しているとき
- 自車と他車の速度差に変化があったとき
- 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 車両後部にキャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

■ レーダーセンサーの取扱い

レーダーセンサーは、リヤバンパー内側の左右にそれぞれ１つずつ配置されています。



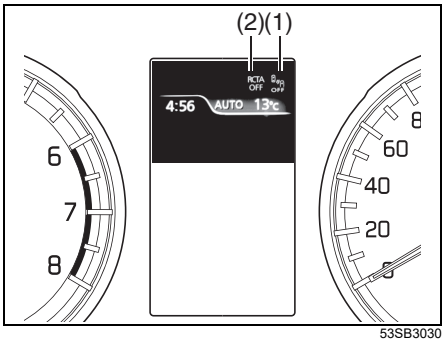
53SJ0037

⚠ 警告

レーダーセンサーを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、レーダーセンサーが車両を正しく検知できなくなり、ブラインドスポットモニタが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **レーダーセンサー周辺のリヤバンパーは常にきれいな状態を保ってください。汚れや着雪によりレーダーセンサーが正常に作動しない場合があります。**
- **レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺のリヤバンパーに強い衝撃をあたえないでください。接触事故などでレーダーセンサーやリヤバンパーなどのレーダーセンサー周辺部が変形・損傷した場合は、ブラインドスポットモニタを使用せず、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーなどを貼ったり、ものを取り付けたりしないでください。透明のものでも貼らないでください。**
- **レーダーセンサーやリヤバンパーなどのレーダーセンサー周辺部の改造や塗装、純正部品以外への交換はしないでください。修理や交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
- **レーダーセンサーや周辺部品を取り外したり、分解したりしないでください。**

■ ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）／リヤクロストラフィックアラート（RCTA）の停止



53SB3030

(1) ブラインドスポットモニタOFF 表示灯
(2) リヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯

マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、BSM の機能を停止することができます。BSM の機能を停止すると、ブラインドスポットモニタ OFF 表示灯（1）とリヤクロストラフィックアラート OFF 表示灯（2）が点灯します。

アドバイス

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、BSM の機能を停止すると、リヤクロストラフィックアラートも同時に停止します。
- BSM 機能が ON のとき、リヤクロストラフィックアラートを個別に停止することができます。

■ ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）／リヤクロストラフィックアラート（RCTA）のメッセージ

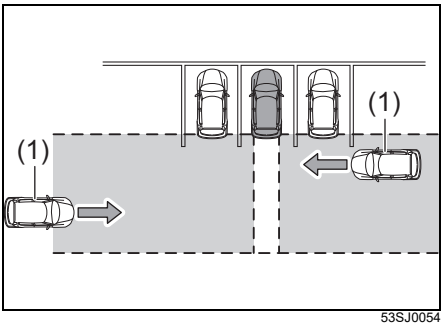
システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メーター内またはマルチインフォメーションディスプレイに警告灯もしくはメッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

メッセージ	表示灯	マスターウォーニング	ブザー音（室内ブザー）	原因と対処方法
 53S02007	 点滅	 点滅	ポーン（1回）	BSM と RCTA の機能が一時停止状態です。エンジンを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
 53S02007	 点滅	 点滅	ポーン（1回）	BSM と RCTA はセンサーまたはセンサー周辺の汚れを検知しています。汚れを取り除き、エンジンを再始動してもメッセージが表示される場合、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
 53S02008	 点滅	 点滅	ポーン（1回）	BSM と RCTA のシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

リヤクロストラフィック アラート（RCTA）

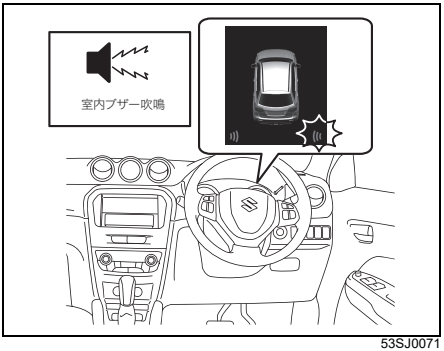
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）は、自車が低速で後退時、レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、衝突の可能性が高いときは室内ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの画面表示によって、その車両の存在を運転者に知らせます。



53SJ0054

(1) 接近車両

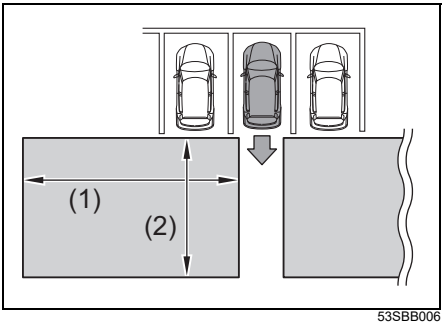
- 室内ブザーが“ピピピッ”と断続的に鳴る
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される



53SJ0071

■ RCTA で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



53SBB006

(1) 20 m
(2) 8 m

■ RCTA の作動条件

RCTA は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニタ（車線変更サポート付）の機能を停止していないとき
- RCTA の機能を停止していないとき
- セレクトレバーの位置が R のとき
- 自車の後退時の車速が 8 km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が3.6 ～ 90 km/h のとき

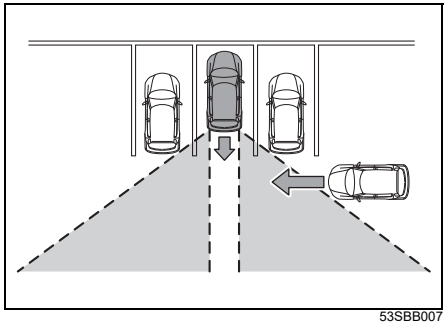
アドバイス

- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、ブラインドスポットモニタ（車線変更サポート付）の機能を停止すると、RCTA も同時に停止します。
- マルチインフォメーションディスプレイのセッティングモードで、リヤクロストラフィックアラートを停止することができます。

■ こんな場合は作動しません

リヤクロストラフィックアラートは、次のような車両や車両以外のものを検知できないため、作動しません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが感知できない車両



53SBB007

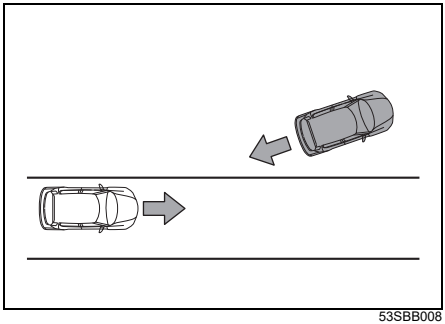
- 駐車車両および同様の静止物（※）
- 小型の二輪車、自転車、歩行者（※）
- 自車から遠ざかる車両

※状況によっては検知することがあります。

■ こんな場合は作動しないことがあります

リヤクロストラフィックアラートは、次のような状況では車両を正確に検知できないため、正しく作動しない場合があります。

- リヤバンパーのセンサーやセンサー周辺に汚れ、雪、氷などが付着しているとき
- 大雨、濃い霧、吹雪などの悪天候のとき
- 排気ガス、水滴、雪、飛沫、砂、煙などのために後方の視界が悪いとき
- 2 台以上の車両が連続して接近しているとき
- 高速で接近してくる車両がいるとき
- 浅い角度で駐車している車両がいるとき



53SBB008

■ レーダーセンサーの取扱い

→ 4-93ページ
（レーダーセンサーの取扱い）

■ リヤクロストラフィックアラート（RCTA）の停止

→ 4-94 ページ(ブラインドスポットモニタ(BSM)(車線変更サポート付)／リヤクロストラフィックアラート(RCTA)の停止)

■ ブラインドスポットモニタ（BSM）（車線変更サポート付）とリヤクロストラフィックアラート（RCTA）のメッセージ

→ 4-95ページ (ブラインドスポットモニタ（BSM）(車線変更サポート付)／リヤクロストラフィックアラート(RCTA）のメッセージ)

車両接近通報装置

モーターによるEV 走行時などにおいて、車両の接近を周囲の人に知らせるために通報音を鳴らします。
周囲の騒音が大きいときや、大雨や強風のときは通報音が周囲の人に聞こえにくい場合があります。また、車両接近通報装置は車両の前方に装着されているため、車両後方は車両前方に比べ聞こえにくい場合があります。なお、走行中に車内でも通報音が聞こえることがありますが、車両接近を周囲の人に知らせるための音なので異常ではありません。

⚠警告

通報音が鳴っていても、周囲の騒音などが大きい場合には車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

■ 車両接近通報装置の異常のとき

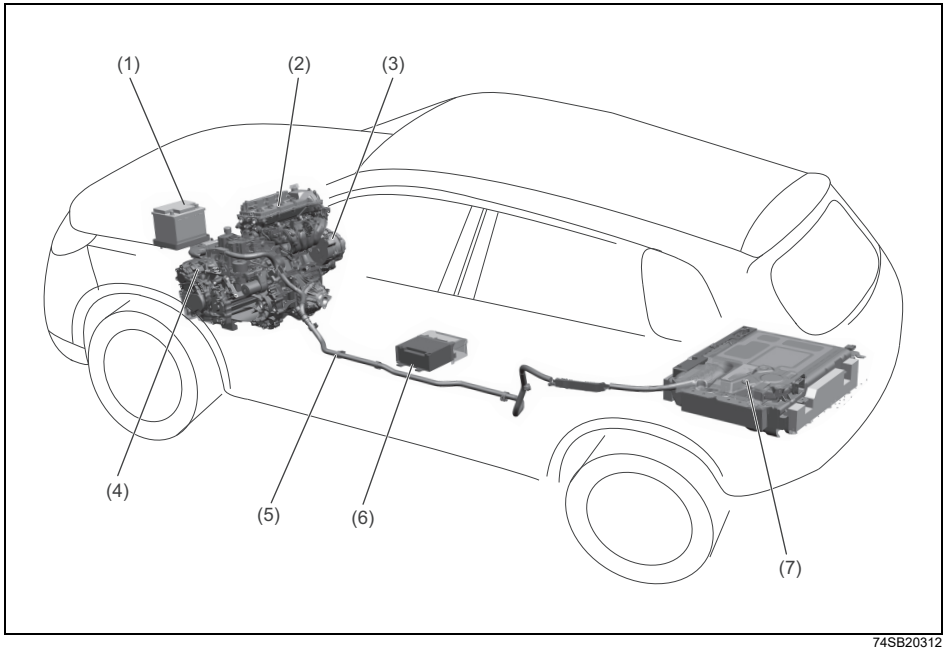


76S00022

- 車両接近通報装置に異常があると、上図の表示灯が点滅します。
  → 1-19ページ（警告灯・表示灯）
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムとは、ガソリンエンジンを主動力とし、状況に合わせて駆動用モーターがエンジンを力強くアシストしたり、駆動用モーターのみで走行したりすることで高い走行性能と燃費向上、排出ガスの低減を実現したシステムです。
また、減速時には、回生ブレーキにより回転するタイヤの力で駆動用モーターを発電機として利用し、高電圧バッテリーを充電します。



74SB20312

(1) 鉛バッテリー
(2) ガソリンエンジン
(3) インテグレーテッドスタータージェネレーター
(4) 駆動用モーター
(5) 高電圧配線(オレンジ色)
(6) リチウムイオンバッテリー
(7) パワーパック(高電圧バッテリー、インバーター)

ハイブリッドシステムの作動

アクセルペダル、ブレーキペダルの操作や車速など、車の状況に合わせて、ガソリンエンジンは自動的に停止・再始動します。

- エンジンが自動停止しているとき、メーター内のEV表示灯が点灯します。
  → **3-86ページ（EV表示灯）**

アドバイス

高電圧バッテリーの残量によって、EV 走行可能車速やモーターアシスト量が変わります。

■ 発進時

エンジン回転中はエンジンを使って発進します。エンジンが自動停止中のときにブレーキペダルを離すと、駆動用モーターのみを使用して車がゆっくり動きます。

→ **3-126ページ（エコモードスイッチ）**

■ 通常走行時

EV走行（エンジンは使用せず、駆動用モーターのみを使用して走行）が可能です。

- 車や道路の状況によっては、EV走行をしない場合があります。
- 道路状況や高電圧バッテリーの残量によって、EV走行できる車速は変化します。

■ 加速時

エンジン走行を駆動用モーターがアシストします。（モーターアシスト走行）

- EV走行中のときにアクセルペダルを深く踏み込むと、エンジンが自動再始動し力強く加速します。
- ハイブリッドシステムの状態によって、モーターアシスト量は変化します。

■ 減速時

エンジンを自動停止し、タイヤの回転力で駆動用モーターを発電機として動かし、高電圧バッテリーを充電します。（回生ブレーキ）

■ 停車時

エンジンを自動停止します。車の状況によっては、エンジンが自動停止しない場合があります。

エンジンの自動停止・再始動

お車の状態により、エンジンが自動的に停止または始動したりします。次のときは自動停止しません。

- セレクトレバーの位置がMである
- エアコンの設定が次のいずれかになっている
  - ・設定温度がLOかつ、エアコンスイッチを入れている
  - ・設定温度がHIである
- デフロスタースイッチが作動状態（ON）になっている
- 運転席シートベルトを外した
- 運転席ドアが完全に閉まっていない
- ボンネットが完全に閉まっていない（※1）
- エンジン冷却水の温度が低い
- 鉛バッテリー、リチウムイオンバッテリー、高電圧バッテリーの残量が不足している
- 鉛バッテリー、リチウムイオンバッテリー、高電圧バッテリーの温度が所定温度内にない
- 空調設定で「快適優先」を選択し、空調を使用している

上記以外でも、状況によりエンジンを自動停止しない場合があります。

アドバイス

- 鉛バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの充電状態は、メーター内のエネルギーフローインジケーターで確認できません。
  → **3-98ページ（エネルギーフロー表示）**
- 鉛バッテリーの接続を外したときは、エンジン自動停止するまでにいつもより時間がかかります。

※1 エンジンスイッチを ON にしたあとボンネットの開閉をすると、エンジンは自動停止しません。

EV走行

お車の状態により、エンジンが自動的に停止しモーターの駆動力だけで走行します。次のときにEV走行します。

- セレクトレバーの位置が D または R である
- アクセルペダルを低開度で一定に踏んでいる
- デフロスタースイッチが停止状態（OFF）になっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 運転席ドアが完全に閉まっている
- ボンネットが完全に閉まっている（※1）
- エンジン冷却水の温度が所定温度内にある
- 鉛バッテリー、リチウムイオンバッテリー、高電圧バッテリーの充電量が所定範囲内になっている
- 鉛バッテリー、リチウムイオンバッテリー、高電圧バッテリーの温度が所定温度内になっている
- エアコンの設定が次のいずれかになっている
  - 「設定温度がLOかつ、エアコンスイッチを入れている」以外になっている
  - 「設定温度がHI」以外になっている
- 空調設定で「快適優先」を選択し、空調を使用している以外のとき
- ALLGRIP(4WD)モードがAUTOモードになっている

上記の条件を満たしていても、状況によりEV走行しない場合があります。

※1 エンジンスイッチを ON にしたあとボンネットの開閉をすると、エンジンは自動停止しません。

回生ブレーキ

タイヤの回転力で駆動用モーターを発電機として利用するときに発生するブレーキ力のことで、エンジンブレーキと同様の減速力を得ることができます。
セレクトレバーが D または M で走行中、次のとき回生ブレーキが作動します。

- アクセルペダルから足を離したとき
- ブレーキペダルを操作したとき

アドバイス

- エンジンが回転しているとき、エンジンブレーキによるブレーキ力も発生します。
- EV 走行、エンジン走行に関わらず、ブレーキペダルを踏むと回生ブレーキの効きが強くなります。
- 高電圧バッテリーが満充電に近いときや、高電圧バッテリーの温度が高いまたは低いときは、回生ブレーキの効きが弱かったり回生ブレーキが作動しないことがあります。
- 回生ブレーキが作動する場合と作動しない場合では、ブレーキペダルを同じように踏み込んだときのフィーリング（感覚）が異なります。減速力がいつもより弱いと感じたときは、ブレーキペダルを踏み増してください。
- ヒルディセントコントロールが作動可能な状態のときは回生ブレーキが作動しません。

省燃費運転について

燃費を良くするため、急加速または急減速を避けて省燃費運転を心がけましょう。緩やかな加速または減速をすることでガソリン消費を低下することができます。

ハイブリッドシステムの取扱い

■ ハイブリッドシステムの起動

エンジンがかかると、ハイブリッドシステムが起動し、メーター内のREADY表示灯が点灯します。

→ **4-9ページ（ハイブリッドシステムの起動）**



76S00023

⚠ 警告

駐車時はパーキングブレーキをかけて、セレクトレバーを P に入れてください。ハイブリッド車は通常の車のようなエンジン音や振動がないことがあるため、走行できる状態であることに気づかず、思わぬ事故につながる可能性があります。

アドバイス

READY表示灯が点灯しているときに、ボンネットを開けると次のようになります。

- エンジンが回転している場合、エンジンの自動停止を禁止します。
- エンジンが自動停止している場合、エンスト状態になります。

■ 高電圧バッテリー

高電圧バッテリーは少しずつ放電します。バッテリーあがりを防ぐためには、1か月に一度は連続して30 分以上走行して充電する必要があります。
高電圧バッテリーがバッテリーあがりのときは、ハイブリッドシステム警告灯が点灯します。ハイブリッドシステム警告灯が点灯したときはスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡のうえ点検を受けてください。
→ **3-81ページ（ハイブリッドシステム警告灯）**

- セレクトレバーが P 、N の位置では、高電圧バッテリーへの充電が行なわれません。セレクトレバーは D または M で運転するようにしてください。
- 高電圧バッテリーには寿命があります。寿命はお車の使いかたや走行条件により異なります。

⚠警告

高電圧バッテリーの取扱いを誤ると、火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
●整備や分解、修理したりしない
●高電圧バッテリーを改造、転売または譲渡しない
●高電圧バッテリーをもともと搭載された車以外に使用しない

アドバイス

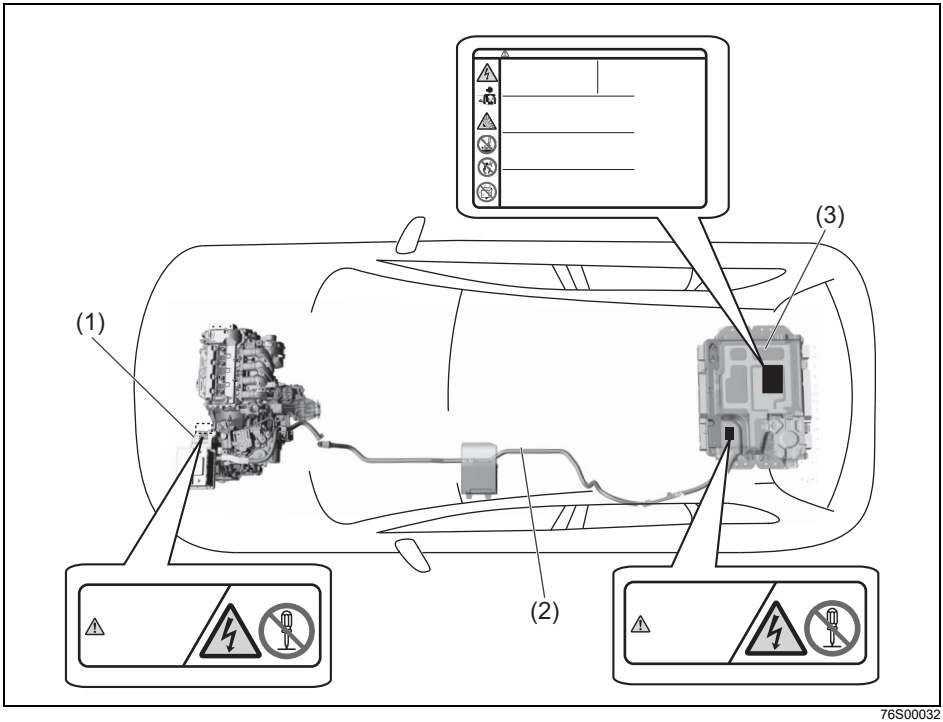
高電圧バッテリーは、READY 表示灯を点灯させずにエンジンスイッチを ON にしたまま放置していると、バッテリーを消費します。また、エンジンが回転していても停車状態で放置すると、バッテリーを消費します。
高電圧バッテリーの充電が少なくなると、高電圧システムを停止しバッテリーの消費を抑えます。そのため、一時的に EV 走行ができなくなります。復帰するには、一度エンジンスイッチを LOCK（OFF）にし、ハイブリッドシステムを起動し直す必要があります。

■ 高電圧部位に触れない

- 高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行なうと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ずスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- ハイブリッドシステムには、高電圧バッテリー、インバーター、駆動用モーター、オレンジ色の高電圧配線などの高電圧部位や、ラジエーターなどの高温部位があります。取扱い上の注意を記載したラベルが、高電圧部位などに貼り付けてあります。

⚠ 警告

次のことをお守りください。守らないとやけどや感電など生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **高電圧部位やラジエーターなどの高温部位には触れないでください。**
- **高電圧部位、高電圧配線（オレンジ色）およびそのコネクター、駆動用モーター、パワーパック（高電圧バッテリー、インバーター）の取り外しや分解など絶対に行なわないでください。**



76S00032

(1) 駆動用モーター
(2) 高電圧配線（オレンジ色）
(3) パワーパック（高電圧バッテリー、インバーター）

■ 電磁波について

高電圧部位や高電圧配線は電磁シールド構造です。従来の車や家電製品と比べ、電磁波が多いということはありません。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車では、次のような特有の音や振動がありますが、異常ではありません。

- 高電圧バッテリー、インバーター冷却用空気取り入れ口および荷室から聞こえるファンの作動音
- 荷室から聞こえるインバーター音
- エンジンルーム（トランスミッション付近）から聞こえるハイブリッドシステム部品音
- ブレーキペダルを踏んだときに聞こえる作動音やハイブリッドシステム部品音

■ 車両接近通報装置について

車速が約23 km/h以下のEV走行時、車両の接近を歩行者などに知らせるために走行音を鳴らします。

- モーターによるクリープ走行時などにおいて、車両の接近を周囲の人に知らせるために通報音を鳴らします。周囲の騒音が大きいときや、大雨や強風のときは通報音が周囲の人に聞こえにくい場合があります。また、車両接近通報装置は車両の前方に装着されているため、車両後方は車両前方に比べ聞こえにくい場合があります。なお、走行中に車内でも通報音が聞こえることがありますが、車両接近を周囲の人に知らせるための音なので異常ではありません。

⚠ 警告

通報音が鳴っていても、周囲の騒音などが大きい場合には車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

■ メンテナンスや修理について

お車のメンテナンスや修理についてはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アドバイス

高電圧バッテリーの取扱いには専門的な知識と技術が必要です。

■ 廃車や高電圧バッテリーの廃棄について

廃棄処分については特別な取扱いが必要です。廃車や高電圧バッテリーを廃棄するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店に必ずご相談ください。

⚠ 警告

高電圧バッテリーは適切に処理してください。高電圧バッテリーを放置または不法投棄するなど適切に処理しないと、第三者が高電圧部位に触れる感電事故を引き起こし、命に関わる重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 高電圧遮断機能

事故などにより車体が衝撃を受けたとき、自動的に高電圧が遮断され、走行不能になる場合があります。
このとき、お客様がハイブリッドシステムを再起動させることはできないため、スズキ販売店またはスズキ代理店に連絡してください。

- 高電圧が遮断されたとき、次のもので警告します。
  - ・ハイブリッドシステム警告灯
    → **3-81ページ（ハイブリッドシステム警告灯）**
  - ・メッセージ
    → **3-106ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）**
  - ・室内ブザー
    → **1-23ページ（警告ブザーが鳴ったときは）**

■ 万一、事故が起きたときは

⚠ 警告

万一、事故が起きたときは、次のことをお守りください。守らないとやけどや感電など生命に関わる重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）には絶対に触れないでください。
- 液体の付着や漏れがある場合は絶対に触れないでください。高電圧バッテリーの電解液は目や皮膚に付くと重大な傷害を受けるおそれがあります。万一付着したときはすぐに大量の水で洗い流し、ただちに医師の診察を受けてください。
- 高電圧バッテリーの電解液が漏れている場合はお車に近づかないでください。
- 火気や高温のものを絶対に近づけないでください。高電圧バッテリーの電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 火災が発生したときは、電気火災用消火器で消火してください。少量の水による消火はかえって危険な場合があるため、消火栓などから大量に放水するか、消防隊の到着を待ってください。

MEMO

5. 装備の取扱い

● **エアコン、ヒーター**

吹出し口 ····· 5-2
オートエアコン ····· 5-3
リヤデフォッガースイッチ ····· 5-10
エアコンの上手な使いかた ····· 5-10

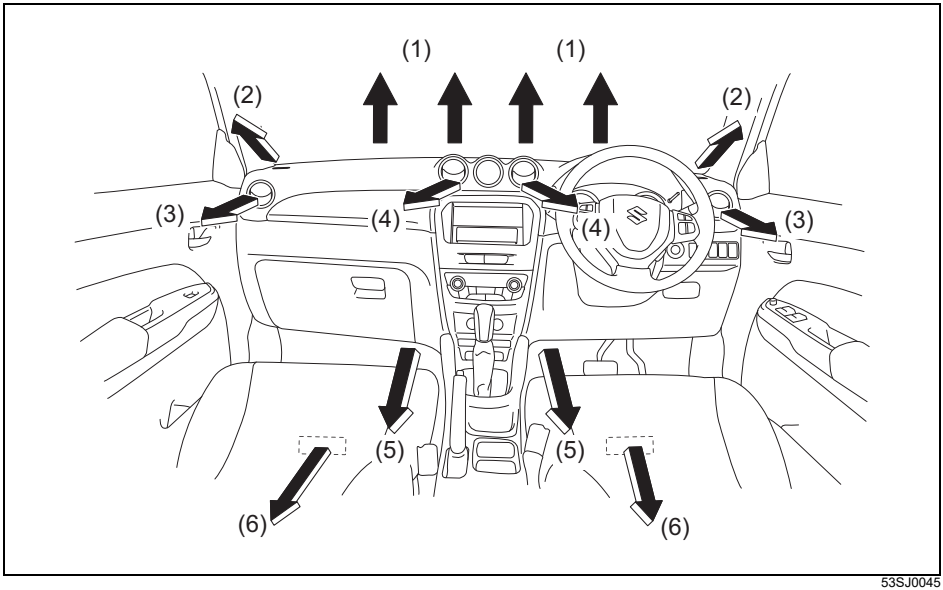
● **オーディオ**

オーディオ機能について ····· 5-13
アンテナ ····· 5-14
ステアリングオーディオスイッチ ····· 5-15

● **そのほかの装備**

燃料給油口 ····· 5-16
ボンネット ····· 5-17
サンバイザー ····· 5-19
室内灯 ····· 5-20
ラゲッジルームランプ ····· 5-21
フロントマップランプ ····· 5-22
アクセサリーソケット ····· 5-22
ドリンクホルダー・収納スペース ····· 5-24
可動式アシストグリップ ····· 5-29
コートフック ····· 5-29
フットレスト ····· 5-29
センタークロック ····· 5-29
荷室フック ····· 5-30
ラゲッジシェルフ（荷室カバー） ····· 5-31
ラゲッジボード ····· 5-31
ルーフ ····· 5-32

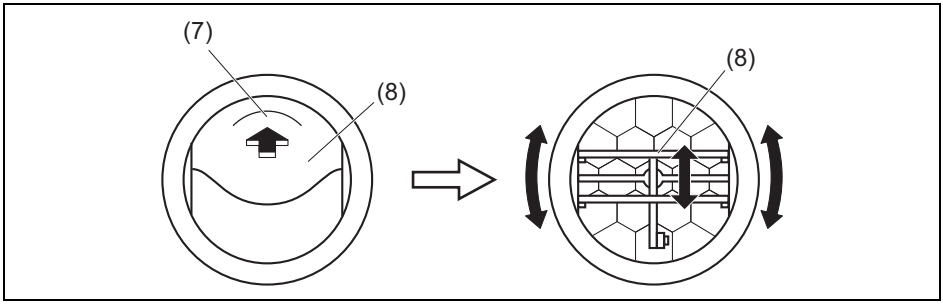
吹出し口



53SJ0045

(1) デフロスター　(2) サイドデミスター　(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口　(5) 足元吹出し口
(6) 後席足元吹出し口

中央吹出し口・サイド吹出し口



54PJ000047

- 中央吹出し口（4）、サイド吹出し口（3）は、凹部（7）を押して開いたルーバー（8）を上下または回転させると、風の向きが調節できます。
- 送風ゼロ以外のときは、サイド吹出し口から常に風を出し、サイドウィンドウをくもりにくくします。送風が不要な場合は、吹出し口を閉めてください。

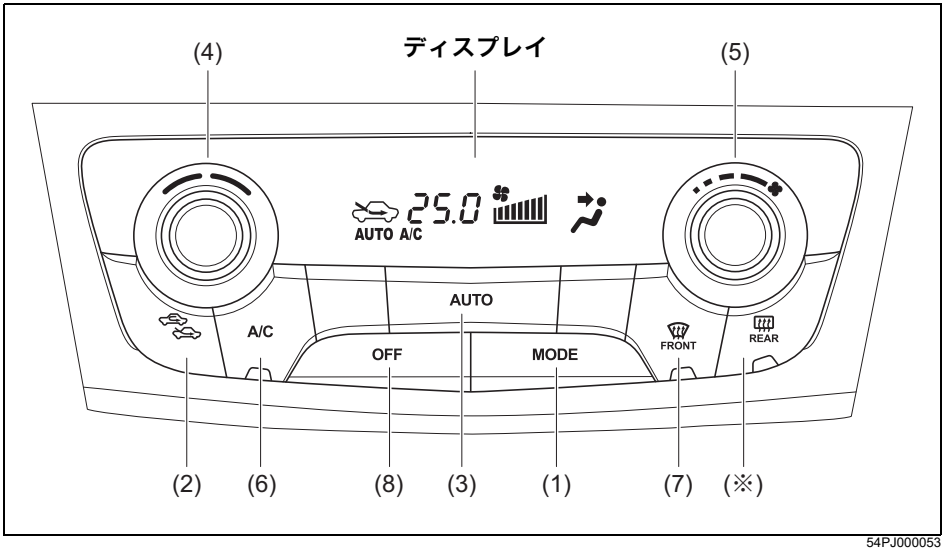
⚠注意

エアコンやヒーターからの温風に長時間さらされると低温やけどのおそれがあります。とくにお子さま、お年寄り、皮膚の弱い方や体の不自由な方が乗車される場合や、同乗者が仮眠される場合には、足元の吹出し口からの温風に長時間さらされないように注意してください。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

オートエアコン



54PJ000053

(1) モード(吹出し口)切替えスイッチ
(2) 内外気切替えスイッチ
(3) オートスイッチ
(4) 温度調節ダイヤル
(5) ファン(風量)調節ダイヤル
(6) エアコンスイッチ
(7) デフロスタースイッチ
(8) OFFスイッチ

※リヤデフォッガースイッチについては、**5-10ページ**をお読みください。

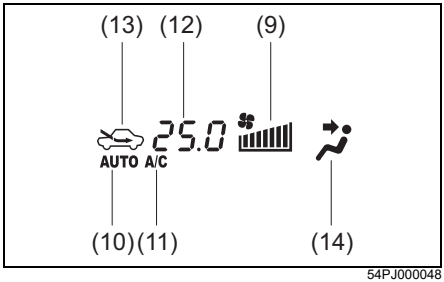
オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた（自動で使うとき）

オートスイッチ（3）を押して温度調節ダイヤル（4）で希望の温度を設定すると、各機能が自動制御されます。ただし、デフロスター位置へは自動で切替わりません。

→ **5-7ページ（オートスイッチ）**

1 エンジンをかけ、オートスイッチ（3）を押します。ディスプレイに次のように表示（代表例）されます。



54PJ000048

(9) 風量　(10)**AUTO**表示
(11)**A/C**表示　(12)設定温度
(13)内外気切替え表示
(14)吹出し口

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチ（6）を押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。
- フロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチ を 押すか、モード（吹出し口）切替えスイッチを押して 「デフロスター／足元」位置へ切替えてください。

→ **5-6 ページ（モード（吹出し口）切替えスイッチ）**
→ **5-8ページ（デフロスタースイッチ）**

2 温度調節ダイヤル（4）をまわして希望の温度を設定します。設定温度はLO、18℃～32℃、HIの間で、0.5℃間隔で設定できます。

- 25℃を基準に、希望の温度を設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

3 作動を停止するときは、OFFスイッチ（8）を押します。

アドバイス

- ハイブリッドシステムを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO 作動中に、ファン（風量）調節ダイヤル（5）、モード（吹出し口）切替えスイッチ（1）のいずれかを操作すると、操作したスイッチの機能が優先されて **AUTO** 表示（10）が消えます。ただし、操作したスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO 作動中にデフロスタースイッチ（7）を押すと、**AUTO**表示（10）が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。

●外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さないことがあります。
●エンジンスイッチが ON のときに **AUTO** 表示（10）が点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ 手動で使うとき

好みにあわせてスイッチを操作してください。

- AUTO 作動中でも、操作したスイッチの機能が優先され、操作したスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチ（3）を押します。
- 止めるときは、OFF スイッチ（8）を押します。

■ エンジン自動停止中

エンジン自動停止中は送風に切り替わります。

- 設定を切り替えることで、エンジン自動停止中の空調を変更できます。
  → **3-102ページ（セッティングモード）**

アドバイス

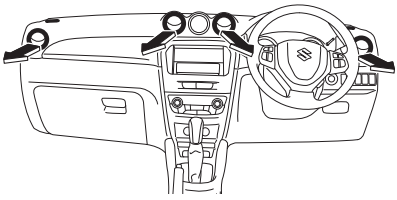
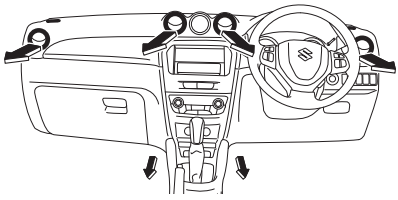
●走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。
●エンジン自動停止により、冷暖房性能が十分でなくなった場合は、セッティングモードの空調設定を「快適優先」にすることでエンジンが自動停止しなくなり、快適性を向上させることができます。
→ **3-102ページ（セッティングモード）**

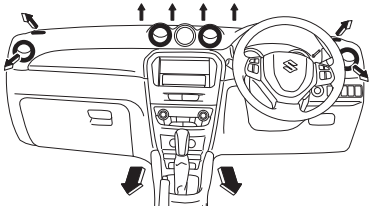
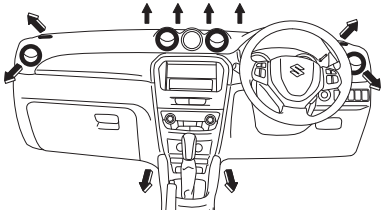
●エンジン自動停止中にフロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押してください。（デフロスタースイッチを押すとエンジンが自動再始動し、デフロスターが作動します。）
→ **4-99ページ（ハイブリッドシステム）**
→ **5-8ページ（デフロスタースイッチ）**

各スイッチ、ダイヤルの使いかた

■ モード（吹出し口）切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切替わり、ディスプレイの表示も切替わります。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
表示		
吹出し口	 53SJ0046	 53SJ0047

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示		
吹出し口	 53SJ0048	 53SJ0049

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチ（2）を押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切替わり、ディスプレイの表示も切替わります。

表　示	状　態
 （外気導入）	外気を導入しています。 ●通常はこの位置でお使いください。
 （内気循環）	外気をしゃ断しています。 ●トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切替えてください。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

■ オートスイッチ

オートスイッチ（3）を押すと、ディスプレイに **AUTO A/C** が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え

内気循環／外気導入の自動制御

手動で内気循環を選択しているときは、オートスイッチを押しても内気循環はそのままで自動制御されません。内気循環／外気導入の切替えを自動制御にもどすには、次のようにします。

1 内外気切替えスイッチ（2）、またはデフロスタースイッチ（7）を押して外気導入に切替えます。

2 オートスイッチを押します。

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹出し口切替え表示が のときに、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤル（4）をまわすと、LO、18℃～32℃、HIの間で設定温度を変更できます。設定温度は、ディスプレイに表示されます。

- 温度を高くするときは、温度調整ダイヤルを右にまわしながら希望の温度に設定します。
- 温度を低くするときは、温度調整ダイヤルを左にまわしながら希望の温度に設定します。
- ダイヤルを 18 ℃から反時計方向にまわすと、ディスプレイに **LO** が表示され、最大冷房となります。また、ダイヤルを 32 ℃から時計方向にまわすと、ディスプレイに **HI** が表示され、最大暖房となります。

アドバイス

LO または **HI** が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

■ ファン（風量）調節ダイヤル

ファン（風量）調節ダイヤル（5）をまわすと、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- 風量を大きくするときは、ファン（風量）調節ダイヤルを右にまわします。
- 風量を小さくするときは、ファン（風量）調節ダイヤルを左にまわします。
- ファンを停止するときは、OFF スイッチ（8）を押します。

■ エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチ（6）を押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切替わり、ディスプレイの表示も切替わります。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

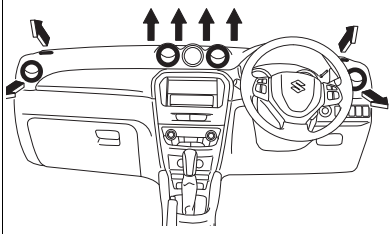
- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温度が0℃近くまで下がっているとき外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

■ デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチ（7）を押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切替わります。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン（風量）調節スイッチを操作して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示	
吹出し口	 53SJ0050

アドバイス

- 内気循環に切替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチ内の表示灯は吹出し口表示がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ OFFスイッチ

OFF スイッチ（8）を押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

エンジン自動停止に関する空調設定

ノーマルモードでは、エンジン自動停止中の空調設定を「標準」、「燃費優先」、「快適優先」から選択できます。

→ **3-102ページ(セッティングモード)**

- 「燃費優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるエンジンの自動停止条件が緩和され、エンジン自動停止になりやすく、自動停止時間も長くなります。（燃料の消費を抑えます。）
  「快適優先」を選択すると、エアコンのファンが作動しているとき、エンジンの自動停止を禁止して快適性を優先させます。（快適性が向上します。）

アドバイス

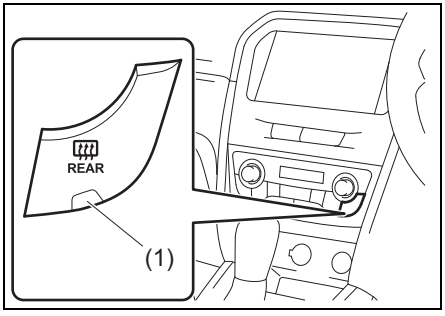
- エンジン自動停止により、冷暖房性能が十分でなくなった場合は、エアコンの設定温度を変更すると、エンジンが自動再始動し、冷暖房性能が復帰します。
- エコモードのとき、ノーマルモードの「燃費優先」に対して空調によるエンジンの自動停止条件がさらに緩和され、エンジン自動停止になりやすく、自動停止時間も長くなります。（ノーマルモードの「燃費優先」よりも燃料の消費を抑えます。）

→ **3-126ページ（エコモードスイッチ）**

リヤデフォッガースイッチ

バックウインドーガラスの内側のくもりを取ります。メーター内の READY 表示灯が点灯中のときに使用できます。
→ **4-99ページ（ハイブリッドシステム）**

- スイッチを押すとバックウインドーガラスが暖められて、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。
- 同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。
  → **3-25ページ（ドアミラーヒータースイッチ）**
- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。



54PJ000043

注記

●鉛バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりする目的で使用しないでください。
●バックウインドーガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

アドバイス

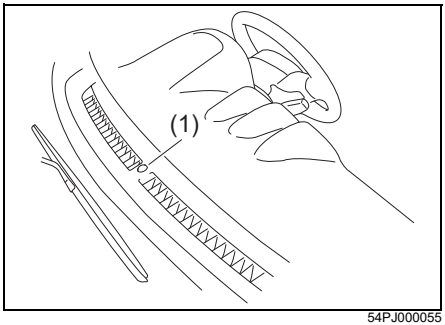
READY 表示灯が点灯していないときはスイッチが入りません。（エンジンの自動停止中を除く）

エアコンの上手な使いかた

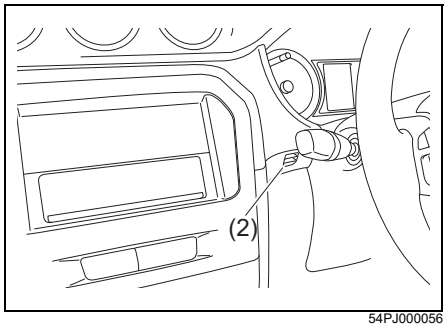
温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー（1）、室温センサー（2）、外気温センサーなどによって周囲の状況を感知し、自動制御しています。

インパネ中央



54PJ000055



54PJ000056

アドバイス

日射センサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないでください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充填するときは

エアコンガスは、必ず冷媒HFO-1234yf（R-1234yf）を使用してください。

- エアコンガスを充填するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1 回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを清掃、交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

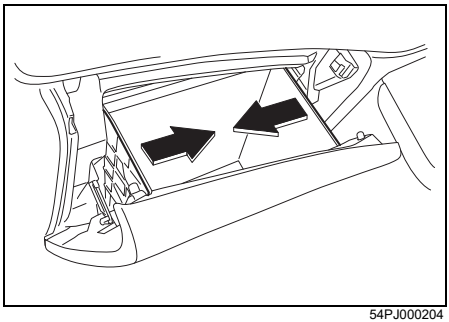
地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	**5,000km**ごと、または**6か月**ごと	車検ごと
上記以外の地域	**10,000km**ごと、または**12か月**ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

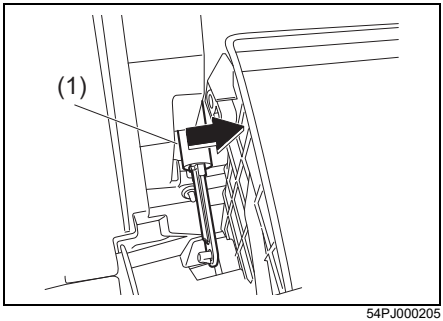
■ エアフィルターの取り外し

1 グローブボックスの側面を矢印の方向に押し込み、グローブボックス上部の固定を外します。



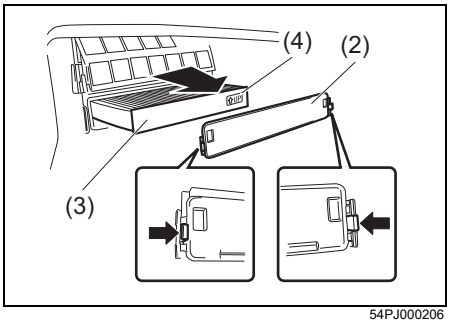
54PJ000204

2 グローブボックス下部外側にあるダンパー（1）を矢印の方向に押して、取り外します。



54PJ000205

3 ホルダー（2）を外し、エアフィルター（3）を引き抜きます。
・ホルダー（2）は、両側のつめを矢印の方向に押して外します。



54PJ000206

■ エアフィルターの取り付け

「エアフィルターの取り外し」と逆の手順で行ないます。

- エアフィルターは、取り付け方向マーク（4）の矢印を上向きにして挿入してください。

オーディオ機能について

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- 音楽などを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- ナビゲーションまたはオーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- ナビゲーションまたはオーディオの機能については、付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警告

走行中はナビゲーションまたはオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注 記

エンジンを停止したまま長時間ナビゲーションまたはオーディオを使うと、鉛バッテリーあがりの原因となります。

アンテナ

アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

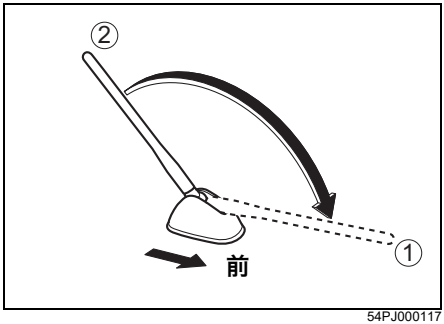
ルーフアンテナ

車両後部にあります。

■ アンテナの調節

アンテナの位置は 2 段階（①、②）に調節できます。

- 調節はアンテナを手で動かして行ないます。
- ラジオを聞くときは、②の位置に固定してください。①の位置に倒れていると、電波の受信が正常にできないことがあります。



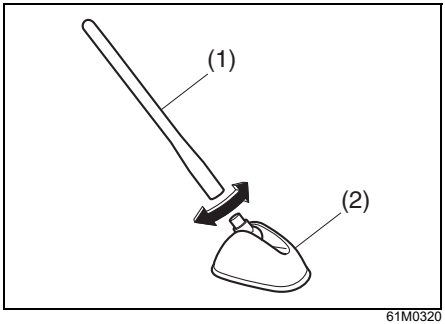
54PJ000117

注 記

車庫の天井などにアンテナが当たるときは、①の位置に倒してください。

■ アンテナの脱着

- 取り外すときはアンテナ（1）を反時計方向にまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部（2）にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



61M0320

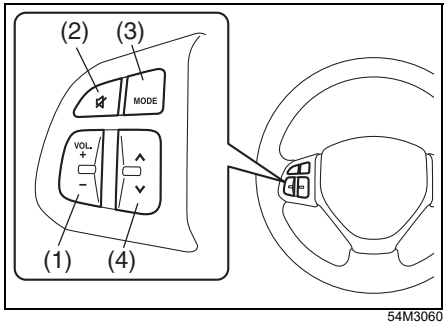
注 記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。
●自動洗車機にかけるとき
●ボディカバーをかけるとき
●降雪時に長時間駐車するとき

ステアリング オーディオスイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、手元でオーディオまたはナビゲーションの操作ができます。

- ご使用のオーディオまたはナビゲーション本体による操作については、付属の取扱説明書をお読みください。
- ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、操作内容が異なる場合があります。



54M3060

(1) 音量調節スイッチ
(2) ミュートスイッチ
(3) モードスイッチ
(4) 選局(選曲)スイッチ

音量調節スイッチ（1）

音量が調節できます。

- 大きくするときは、＋側を押します
- 小さくするときは、－側を押します
- 連続調節するときは、＋または－側を長押しします

ミュートスイッチ（2）

ミュートスイッチを押すと、ラジオを消音できたり、CDやUSBなどの演奏を一時停止できたりします。

- もう一度押すと、消音が解除されたり、演奏が再開されたりします。

モードスイッチ（3）

モードスイッチを押すたびに、モード（ラジオやCDなど）が切替わります。

- オーディオまたはナビゲーション本体の電源が切れているときにスイッチを押すと、電源が入ります。

選局（選曲）スイッチ（4）

次の表のように、各モードの操作ができます。

使用モード	スイッチの短押し	スイッチの長押し
ラジオ	プリセット選局（P.CH）（※1）	自動選局（SEEK）（※2）
CD USB （iPod®）	トラック(曲）の選択	早送り／早戻し（※3）

※1 プリセットメモリー（放送局のメモリー）については、オーディオまたはナビゲーションに付属の取扱説明書をお読みください。

※2 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。自動選局を取り消したいときは、選局スイッチをもう一度押してください。

※3 ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、長押ししても早送り／早戻しされないことがあります。

燃料給油口

2-26 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

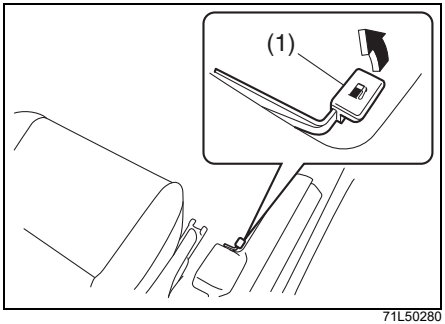
⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。
- **ハイブリッドシステムを止めてください。**
- **給油中はドアや窓を閉めてください。**
- **ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。**

フューエルリッド

助手席側の車両後方にあります。

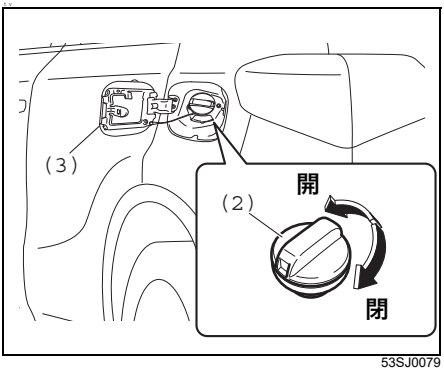
- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナー（1）を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押し付けます。



71L50280

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは、カチッという音が 2 回以上するまで時計方向にまわします。



53SJ0079

(2) フューエルキャップ
(3) フューエルリッド

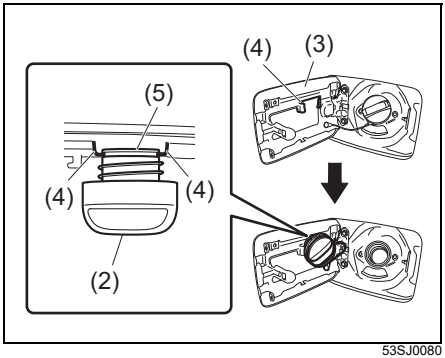
⚠ 警告

- **フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。**
- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、フューエルキャップをカチッという音が 2 回以上するまで閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。**

キャップホルダー

フューエルリッド(3)の裏側にあります。

- 給油中は、外したキャップ（2）が車体に当たらないように、キャップホルダー（4）にキャップ先端の溝部（5）を差し込んでください。



53SJ0080

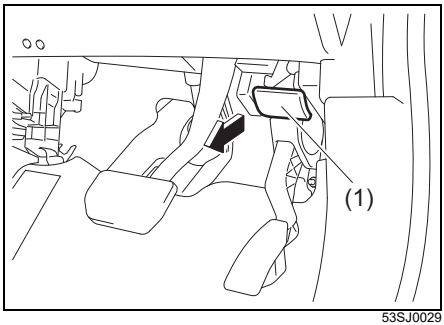
ボンネット

⚠警告

●お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
●ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
●エンジンルーム内の作業をするときは、メーター内の READY 表示灯が消灯していることを確認してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
●点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。
●動いているドライブベルトや冷却ファン（ラジエーターファン）に近づかないでください、手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

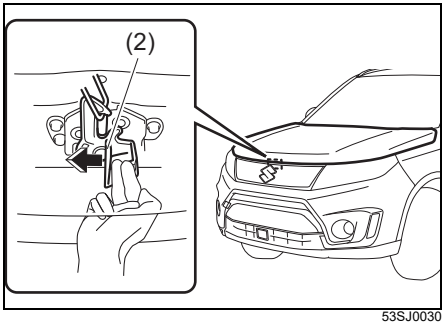
開けかた

1 運転席足元のボンネットオープナー（1）を引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



53SJ0029

2 浮き上がったボンネットのすきまからロックレバー（2）の位置を確認し、すきまから手を入れ、ロックレバーを左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



53SJ0030

⚠注意

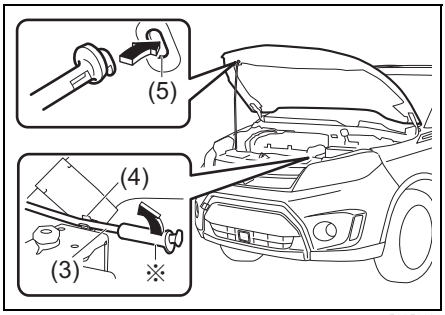
エンジン回転中や停止直後は、ボンネットやロックレバーおよびその周辺部品が熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注 記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

3 ボンネットを固定します。

- 車体側にあるステー（3）をホルダー（4）から外し、ボンネット側の固定穴（5）に差し込みます。



53SJ0031

⚠注意

- **エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。**
- **ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。**
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。**

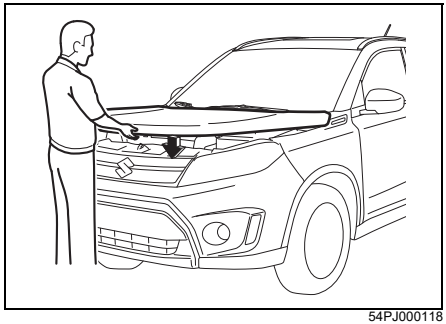
注 記

ステーをホルダーから外すときは、※部を持ってください。

閉めかた

1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外して、もとのホルダーに固定します。

2 ボンネットを閉めます。
- ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



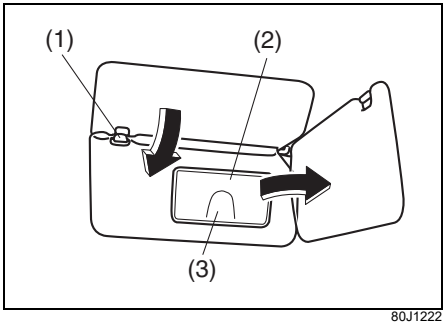
54PJ000118

⚠注意

●ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。
●ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。



80J1222

(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

チケットホルダー

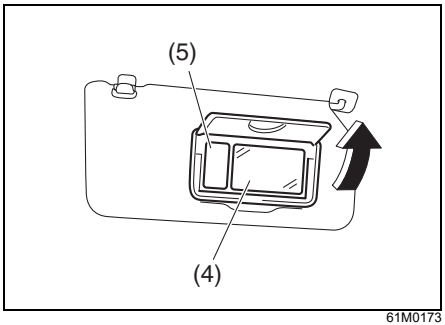
サンバイザーの裏側（ミラーカバーの外側）にあります。有料道路の通行券などがはさめます。

注 記

炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。
→ 2-25 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

バニティーミラー

ミラーカバーを開けた場所にあります。



61M0173

(4) バニティーミラー
(5) 照明

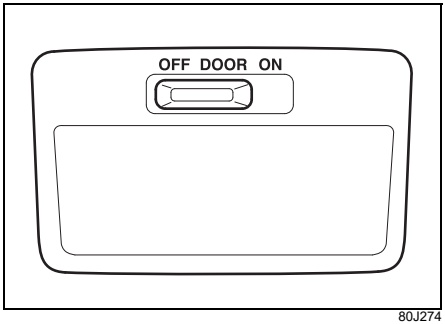
⚠ 警告

●走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。
●バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。

注 記

エンジン停止中にミラーカバーを開けたまま放置しないでください。照明が点灯したままとなり、鉛バッテリーあがりの原因となります。

室内灯



80J274

ON

ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR

いずれかのドアを開けると点灯します。

- すべてのドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- すべてのドアが閉まっているとき、エンジンスイッチの位置を ON から LOCK（OFF）に切替えると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。

また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。

- エンジンスイッチを ACC または ON の位置にする
- リクエストスイッチ、キーレスエントリーまたはキーによる施錠

OFF

ドアの開閉に関係なく消灯します。

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

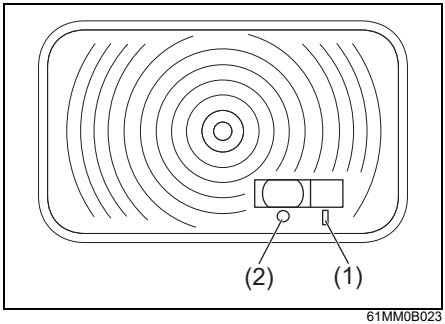
アドバイス

- 鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、室内灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）
  - エンジンスイッチが LOCK (OFF) の位置
  - 室内灯スイッチがDOOR位置
  - いずれかのドアを開けて点灯させたまま、約15分が経過
- 室内灯スイッチが DOOR 位置のときに、リクエストスイッチまたはキーレスエントリーを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。

  → **3-4ページ（アンサーバック機能）**
- 室内灯スイッチが ON の位置で点灯し続け、車両操作がない状態が15分続くと自動で消灯します。

ラゲッジルームランプ

スイッチを ON の位置（1）にすると、バックドアを開けたときに点灯し、閉めると消灯します。
スイッチを OFF の位置（2）にすると、バックドアの開閉に関係なく消灯します。



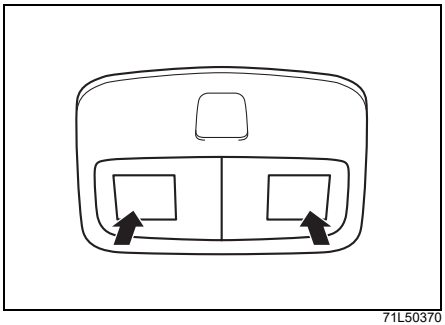
61MM0B023

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

フロントマップランプ

ランプを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



71L50370

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

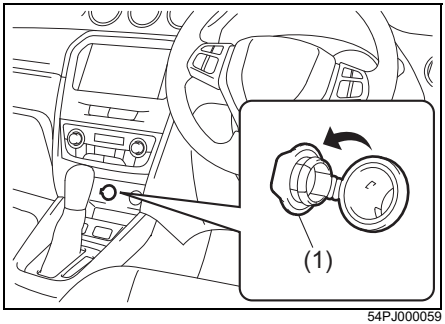
アクセサリーソケット

インパネポケット内に1か所、荷室に1か所ありま。

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電気製品の電源（規定容量12V 120W以下）として使用できます。

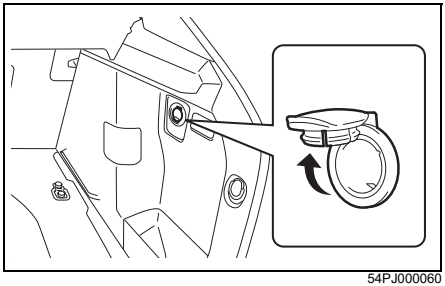
● 使用するときは、ふた (1) を開けます。

インパネポケット内



54PJ000059

荷室



54PJ000060

⚠警告

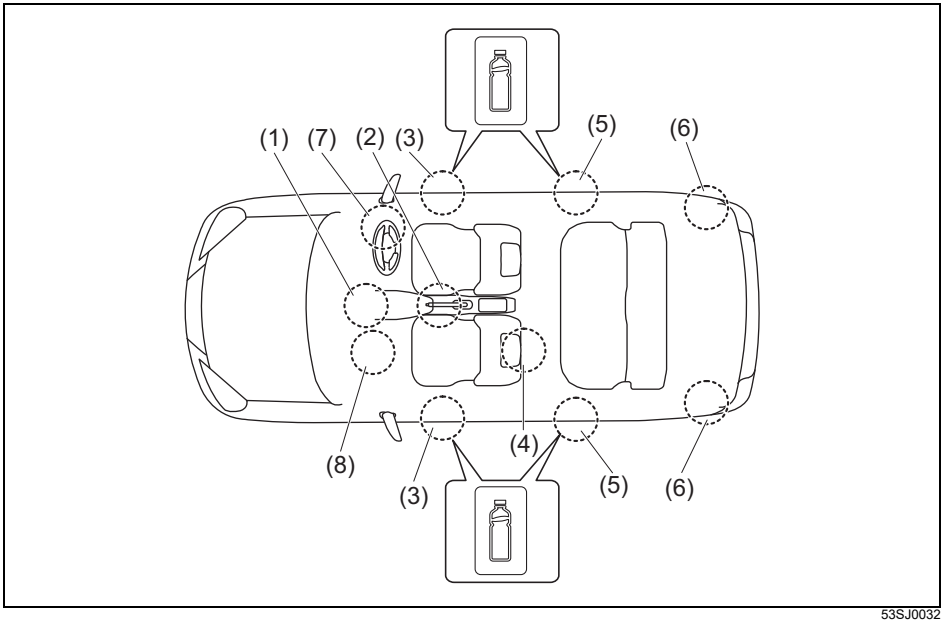
●使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。

●事故防止のため、スズキ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。

注 記

- 規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。
- エンジン停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- エンジンスイッチが LOCK (OFF) の状態で、オーディオまたはナビゲーション機器本体の電源が切れなかったり、キーレスエントリーが作動しなかったりする場合は、アクセサリーソケットに接続された機器が影響している可能性があります。アクセサリーソケットから機器を取り外して、状況が改善されるか確認してください。改善されない場合は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

ドリンクホルダー・収納スペース



53SJ0032

(1) インパネポケット
(2) 前席ドリンクホルダー
(3) ペットボトルホルダー(前席)
(4) シートバックポケット(助手席)
(5) ペットボトルホルダー(後席)
(6) ラゲッジポケット
(7) インパネロアポケット
(8) グローブボックス

アドバイス

携帯リモコンをいずれかのドリンクホルダー・収納スペースに置いた場合、検知できないことがあります。

ドリンク／ペットボトルホルダーの取扱い

- 前席ドリンクホルダー
- ペットボトルホルダー（前席／後席）

⚠警告

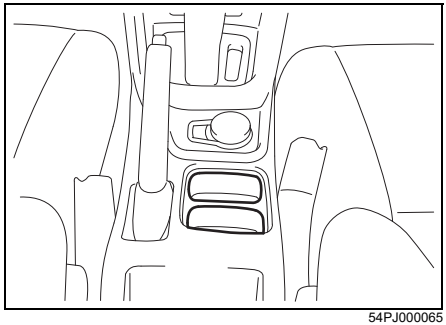
飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

- **ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類**
- **フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部**
- **シートベルトバックル**

缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。さらに、鋭利なものや硬いもの、割れやすいものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。

■前席ドリンクホルダー

缶ジュースやカップが置けます。

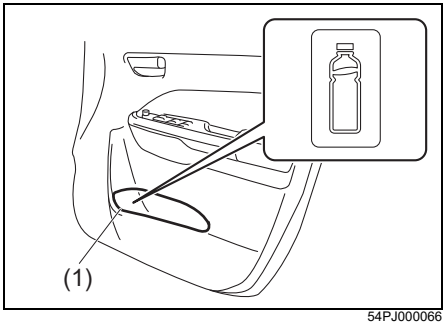


54PJ000065

■ドアポケット（前席ドア）

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

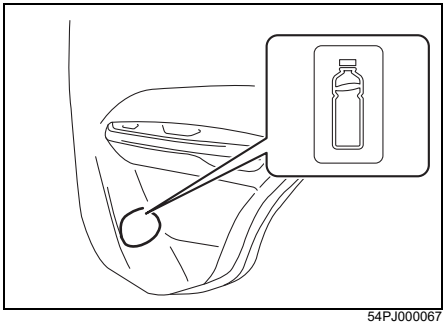
■ ペットボトルホルダー（前席）



54PJ000066

(1) ペットボトルホルダー

■ ペットボトルホルダー（後席）



54PJ000067

5

ふたがない収納スペースの取扱い

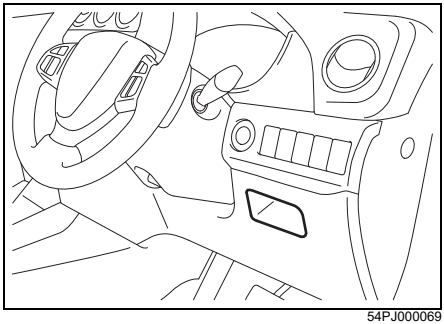
- インパネロアポケット
- シートバックポケット（助手席)

⚠警告

ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

■ インパネロアポケット

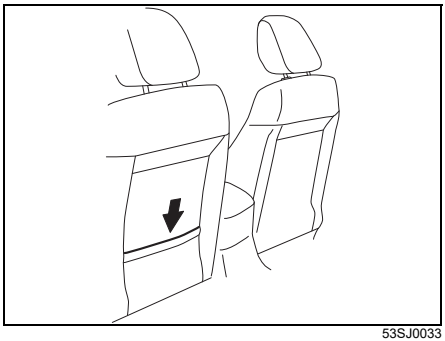
手回り品や小物などの収納にご使用ください。



54PJ000069

■ シートバックポケット（助手席）

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。



53SJ0033

注 記

シート表皮を破損するような鋭利なものや、重たいものを収納しないでください。

ふた付収納スペースの取扱い

- アームレスト機能付コンソールボックス
- ラゲッジポケット
- グローブボックス

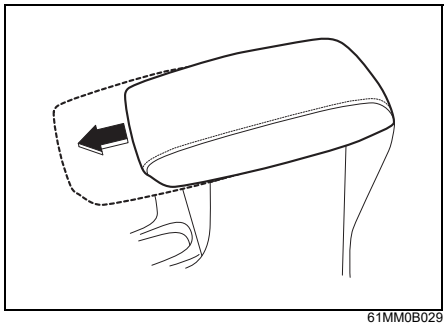
⚠注意

ふた付収納スペースの場合、ふたを開けたまま走行しないでください。（ラゲッジポケットを除く）ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

■ アームレスト機能付コンソールボックス

アームレスト

前方にスライドできます。

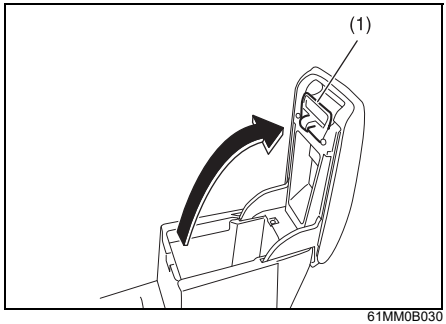


61MM0B029

コンソールボックス

手回り品や小物などの収納にお使いください。

・開けるときは、レバーを引き上げたまま、ふたを持ち上げます。
・ものを出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。



61MM0B030

(1)レバー

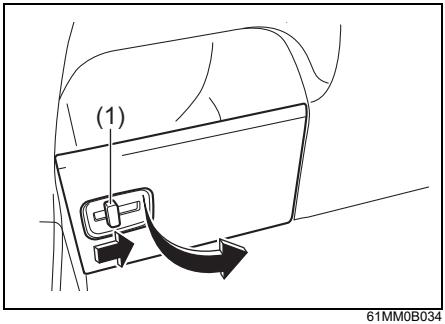
■ ラゲッジポケット

荷室の左右側面にあります。手回り品などの収納にお使いください。

- 仕切り板を外すと、より長い荷物が横方向に積めます。

〔仕切り板の外しかた〕

レバーを車の前方向にスライドさせて固定を解除してから外します。



61MM0B034

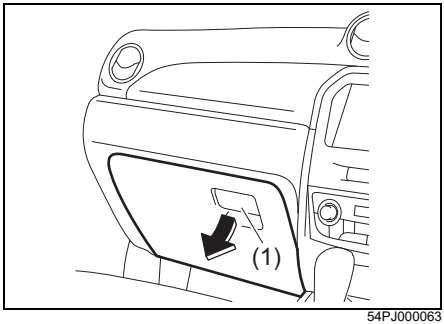
(1)レバー

〔もとにもどしたときは〕

レバーを車の後ろ方向にスライドさせて固定します。

- もどしたら軽くゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。

■ グローブボックス



54PJ000063

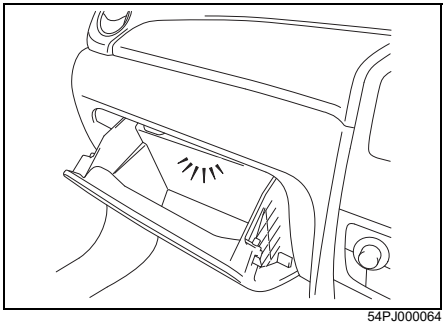
- レバー（1）を手前に引いてふたを開けます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。
- ものを出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

⚠注意

ふたを開けたまま走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

〔グローブボックスランプ〕

- ふたを開けている間、点灯します。



54PJ000064

注 記

エンジン停止中に、ふたを開けたまま放置しないでください。ランプが点灯したままとなり、鉛バッテリーあがりの原因となります

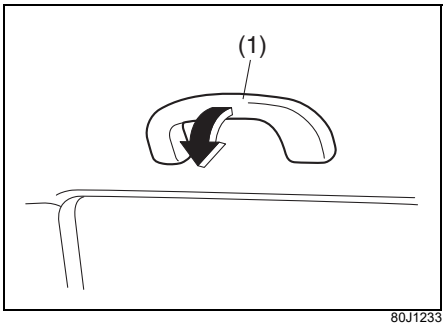
アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- エンジンスイッチが“OFF”の位置
- 非常点滅灯スイッチがOFF位置
- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 点灯したまま15分が経過

可動式アシストグリップ

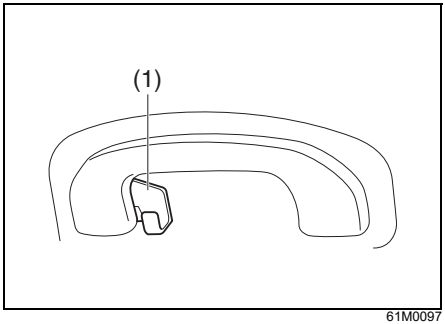
アシストグリップ（1）を手前に倒して使用します。



80J1233

コートフック

後席左右のアシスタントグリップの内側にあります。洋服など軽いものをかけるときにご使用ください。



61M0097

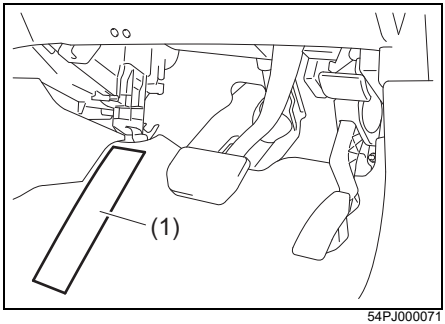
(1) コートフック

注 記

フックにかけるものは、2kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

フットレスト

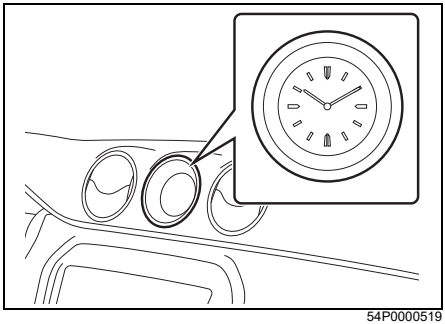
左足のささえとして使用します。



54PJ000071

(1) フットレスト

センタークロック



54P0000519

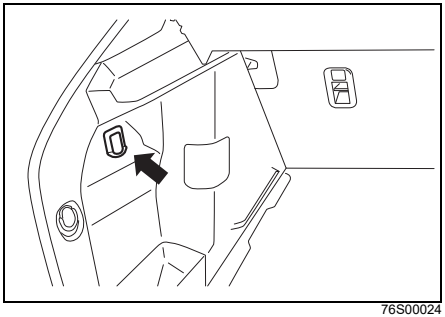
マルチインフォメーションディスプレイで時刻を変更すると、自動的にセンターアナログ時計の時刻も変更されます。

→ **3-90ページ（時刻の設定）**

荷室フック

■ ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。



76S00024

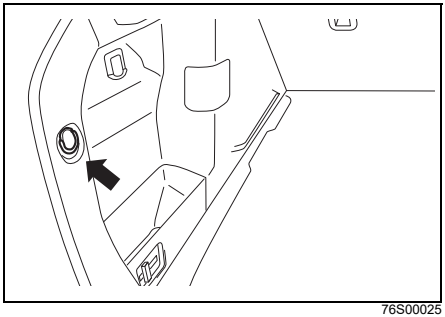
注 記

フックにかけるものは、2kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

■ ラゲッジフック（ラゲッジサイド）

ネット（別売り）などで荷物を固定するときにご使用ください。

- バックドア開口部側面に2個あります。
- 使用するときは、フックを引き出します。
- 使用しないときは、フックを格納してください。



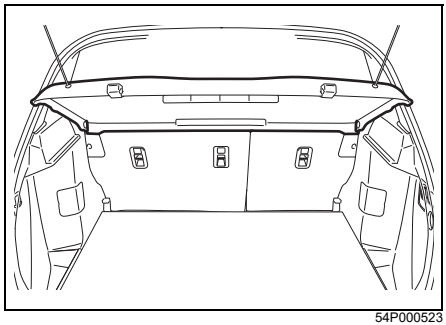
76S00025

注 記

フックにかける荷物は、ネットを含めて 10 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

ラゲッジシェルフ（荷室カバー）

後席の後ろにあります。



54P000523

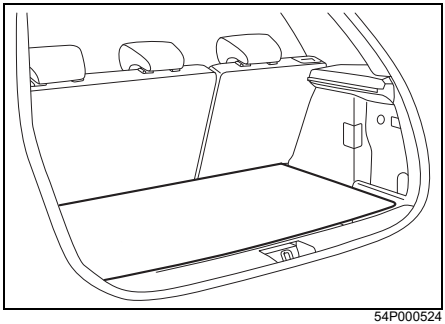
⚠注意

たとえ小さいものや軽いものであっても、ラゲッジシェルフにものを載せないでください。後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキのときなどにものが飛び出して、身体に当たるおそれがあります。

ラゲッジボード

荷室にあります。

● ボードの下にも荷物が収納できます。ボードを取り外すと、背の高い荷物が積めます。



54P000524

⚠注意

後席よりも高い位置に荷物を積み重ねないでください。後方視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出して、身体に当たるおそれがあります。

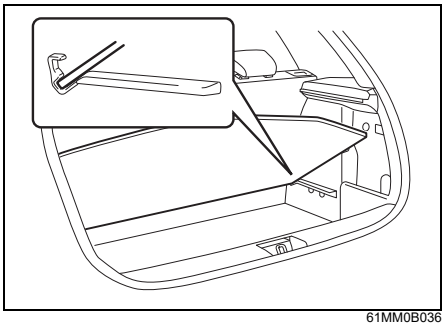


61M0316

●バックドアを閉めるときに、ドアに当たらないように荷物を積んでください。ドアや荷物が破損するおそれがあります。

■ 持ち上げたままにするときは

ボード下の荷物を出し入れするときに便利です。
ボードを荷室前方の両側にある溝に沿って差し込みます。



61MM0B036

注 記

持ち上げたボードに無理に力をかけたり、持ち上げたまま走行したりしないでください。ボードや内装が破損するおそれがあります。

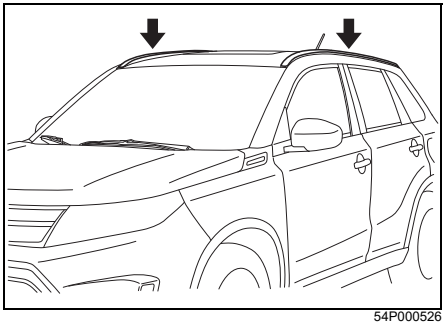
ルーフ

スズキ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は 30 kg（ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取り付けおよび使用上の注意についての詳細は、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

注 記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

■ ルーフレール



54P000526

ルーフレールに別売りのベースキャリアおよびアタッチメントを装着すると、ルーフの上にスキーや自転車などの荷物が積めます。

6. お車との上手なつきあいかた

● **お手入れ**
外装のお手入れ ····· 6-2
内装のお手入れ ····· 6-5
タイヤの交換 ····· 6-7
携帯リモコンの電池交換 ····· 6-9
ワイパーブレードラバーの交換 ····· 6-11

● **寒冷時の取扱い**
冬期に入る前の準備 ····· 6-15
出発の前に ····· 6-16
雪道を走行するとき ····· 6-18
駐車するとき ····· 6-19
タイヤチェーンを装着するとき ····· 6-20

外装のお手入れ

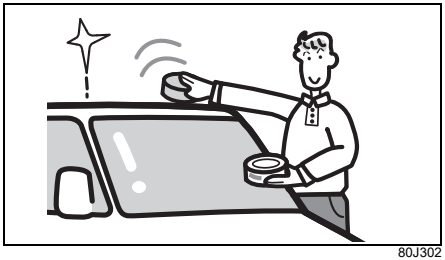
塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - ・海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - ・鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ・ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。

アドバイス

ワックスがけのときに塗装されていない樹脂部品にワックスを使わないでください。ワックスが付着すると白くなったりムラになったりするおそれがあります。



80J302

- 飛び石の傷や、ひっかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  - **→ 2-19ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）**

注 記

- **エンジンルームに水をかけると、エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。**
  洗車のときは、エンジンルームに水などをかけないでください。
- **洗車やワックスがけをするとき、車体に寄りかかったり強い力で押したりしないでください。**
  車体が変形するおそれがあります。



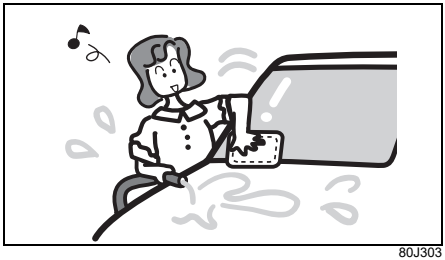
84S09240

手洗い洗車をするとき

1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。

2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

3 やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うとき

注 記

- **ドアミラーを格納し、アンテナを取り外してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。**
- **ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。**
- **自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。**

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

●洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。
●洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。
●洗車ノズルをミリ波レーダー付近に向けないでください。

フロントガラスの手入れ

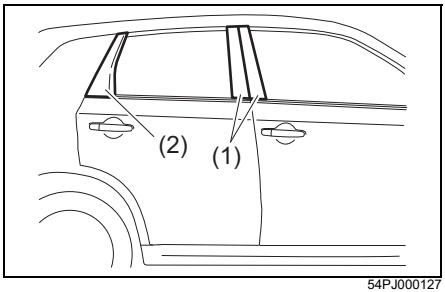
油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

注 記

フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士が当たって傷つきの原因となります。

ガーニッシュの手入れ

6-3 ページの「**手洗い洗車をするときは**」をお読みください。



54PJ000127

(1) センターピラーガーニッシュ
(2) リヤアウターガーニッシュ

アドバイス

●ガーニッシュは傷つきやすいので、メガネふきなどのようなやわらかい布を使用してください。ティッシュでも傷つく場合があります。
●傷ついた場合、ヘッドライトポリッシュ（市販品）などを使用すると、ある程度の修復ができます。
●次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。亀裂や変形などの原因となります。容器に記載の注意事項をよくお読みください。
・ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤
・ヤシ油系洗剤

アルミホイールの手入れ

6-3 ページの「手洗い洗車をするときは」をお読みください。

注 記

●酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびセンターキャップの損傷の原因となります。
●硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠ 警告

●車内に水などをかけないでください。ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
●助手席下には、リチウムイオンバッテリー、荷室のラゲッジボード下にはパワーパック（高電圧バッテリー、インバーター）があります。バッテリーを水などで濡らさないでください。火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあります。

注 記

●次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
・ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤
・酸性、アルカリ性の洗剤
・漂白剤や染料
●エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが付着した場合、故障の原因となるおそれがあります。
●色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。

2 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。

3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

本革ハンドルの手入れ

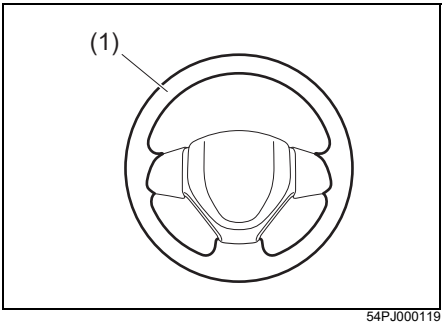
1 ウール用中性洗剤を次の比率でうすめたものをやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
ウール用中性洗剤：水＝1：20

2 真水を含ませたやわらかい布を固くしぼり、残った洗剤分をふき取ります。

注 記

洗剤のふき残しがあると、本革部分を傷めるおそれがあります。

3 乾いたやわらかい布で乾ぶきし、風通しの良い日陰で乾燥させます。



54PJ000119

(1) 本革部分

注 記

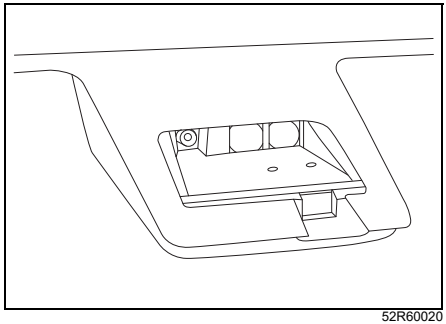
化粧液やハンドクリームなどに含まれるオレイン酸は変色、しみの原因となります。万一、ハンドクリームなどがハンドルの本革部分に付着した際は、すみやかにティッシュペーパーや、やわらかい布でふき取り、前記手順でお手入れをしてください。

アドバイス

- 外観品質を長く保つため、年に2回程度は定期的にお手入れをしてください。
- 水が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。ぬれたままにしておくと、硬くなって縮むことがあります。
- 炎天下に駐車するときは、日よけなどを使用してください。直射日光に長時間さらすと、色あせや縮みの原因となります。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、皮革本来の傷などがあっても、皮革としての物性に影響はありません。

フロントガラスの室内側の手入れ

フロントガラスの内側を清掃するときは、単眼カメラカバーのレンズ部にほこりやガラスクリーナーなどが付着しないように保護してください。



52R60020

バックウインドーガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

タイヤの交換

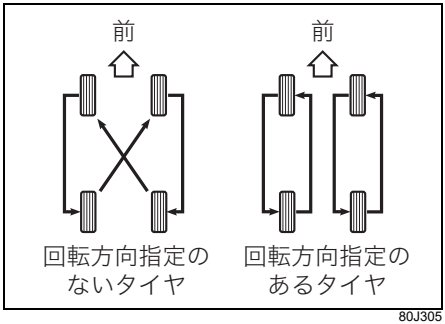
タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約 **5,000km** 走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、スペアタイヤ（市販品）などを使用して 1 輪ずつ交換します。

  → **7-9ページ（ジャッキアップ）**

- タイヤパンク応急修理セット装備車には、応急用スペアタイヤが装備されていないため、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



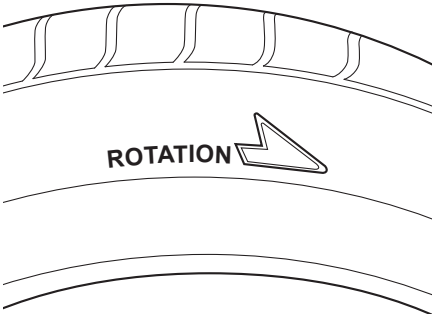
80J305

⚠注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

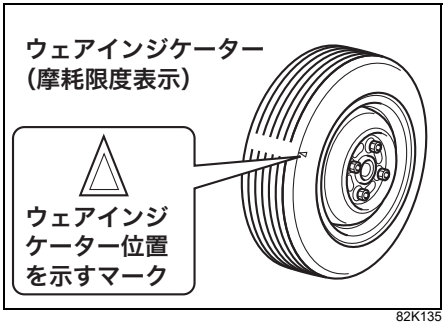
回転方向指定のあるタイヤは、側面に図のような "**ROTATION**" の文字と、回転方向を示す矢印が刻印されています。



- 上図のタイヤは代表例です。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが 1.6mm 浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、ほかのタイヤと交換してください。



⚠警告

指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)

- **タイヤ回転速度に悪影響をあたえて、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **ABS**
  - **ESP®**
  - **デュアルセンサーブレーキサポート**
  - **エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **誤発進抑制機能**
  - **アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）**
  - **車線逸脱抑制機能**
- **4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

携帯リモコンの電池交換

⚠警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

注 記

●故障を防ぐため、次のことをお守りください。
・濡れた手で電池交換しない
・電池以外の端子や電子部品に触れない
・端子を曲げない
・油や異物を付着させない

●お客様ご自身で電池を交換される場合は、静電気により携帯リモコンが破損するおそれがあるため、金属物に触れて身体や衣服の静電気を除去してください。

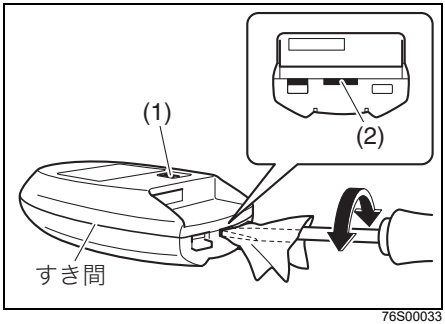
アドバイス

- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、製造年をお確かめのうえ、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

使用電池	リチウム電池CR2032

1 携帯リモコンからキーを取り出します。
→ **3-2ページ（キー）**

2 携帯リモコンのケースを分割します。
- ケースは、ロック解除レバー（1）側を上にします。（内部ユニットの落下防止のため）
- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。リモコンの側面中央にある溝（2）へ差し込み、ケースを分割します。このとき、ケースのあわせ部分のすきまへつめを差し込むと、分割しやすくなります。



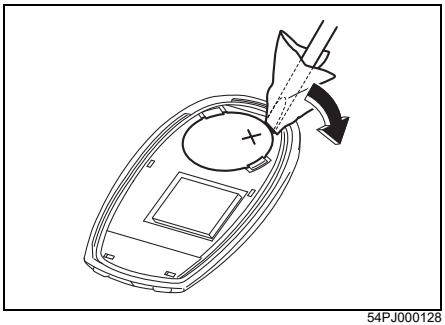
76S00033

注 記

●ケースを分割するときは、ロック解除レバー（1）側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。
●ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。
●お客様ご自身で電池を交換される場合は、静電気により携帯リモコンが破損するおそれがあるため、金属部分に触れて身体や衣類の静電気を除去してください。

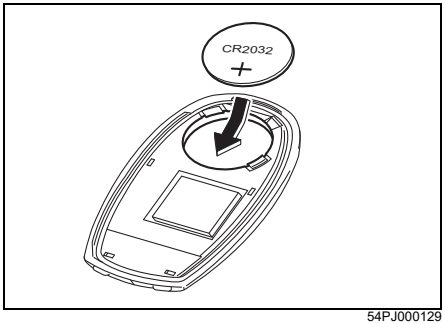
3 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。



54PJ000128

- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



54PJ000129

4 ケースを組み付けます。

- ケースのあわせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。

5 キーを格納します。

6 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

■ 携帯リモコン電池消耗警告のリセットのしかた

電池交換前に携帯リモコン電池消耗警告が表示されていた場合は、電池交換後に次の操作を行なって警告をリセットしてください。

- キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を2回以上繰り返す

→ **3-3ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-8ページ（携帯リモコン電池消耗警告）**

アドバイス

所持している予備の携帯リモコンの電池が正常な場合、予備の携帯リモコンで上記の操作を行なっても警告をリセットできます。

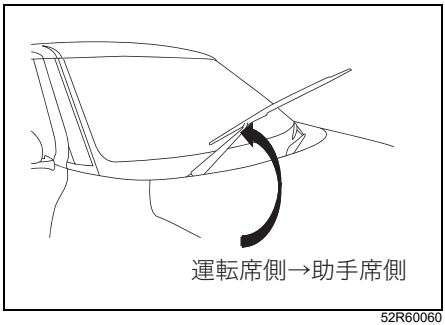
ワイパーブレードラバーの交換

注記

- ワイパーブレード、ブレードラバーはスズキ純正品の使用をおすすめします。スズキ純正品以外のものを使用すると適切に取り付けできないおそれがあります。
- ワイパーブレードラバーが傷んでいると、ふき取りがきれいにできなかったり、ガラスに傷がついたりするおそれがあります。定期的にワイパーブレードラバーを点検し、傷んでいる場合は交換してください。
- ワイパーブレード、ブレードラバーを交換するときはワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないようにしてください。ガラスに当たるとガラスが破損したり傷がついたりするおそれがあります。

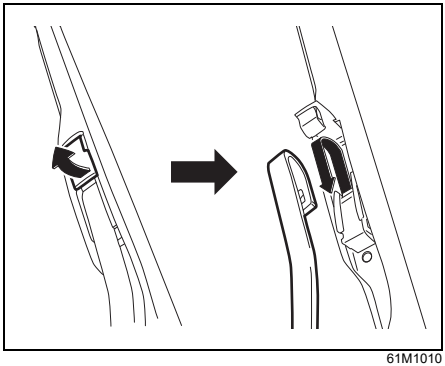
フロントワイパー

1 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こします。



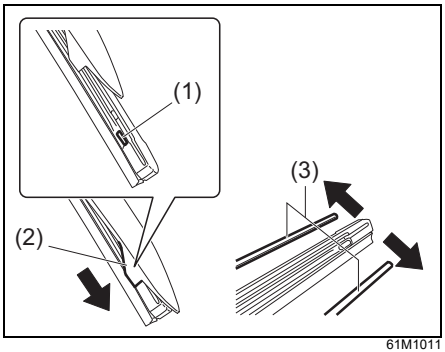
52R60060

2 脱着用のツメを引き上げ、ワイパーブレードをワイパーアームから外します。



61M1010

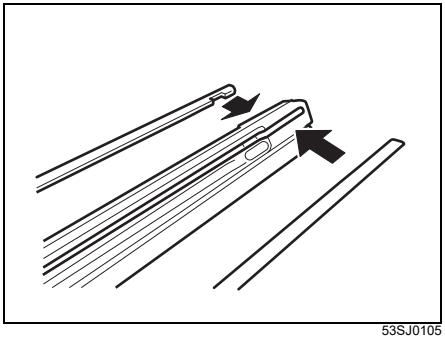
3 ブレードラバーのストッパー（1）がツメから外れるまで引っ張り出し、そのままブレードから引き抜きます。ブレードラバーからリテーナーを引き抜きます。



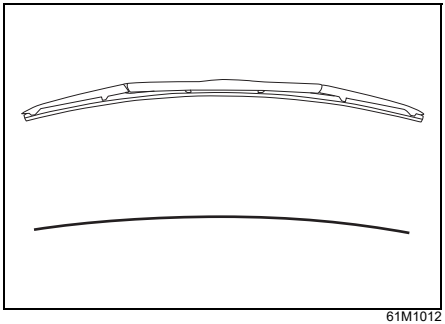
61M1011

(1) ストッパー　(2) ツメ
(3) リテーナー

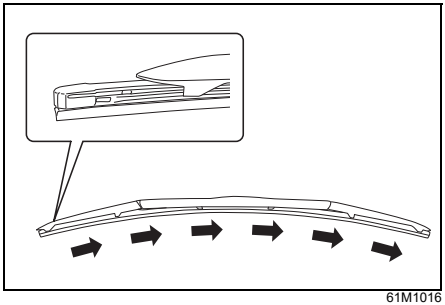
4 新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。


53SJ0105

●リテーナーは、反りの向きを次の図のように合わせて取り付けてください。

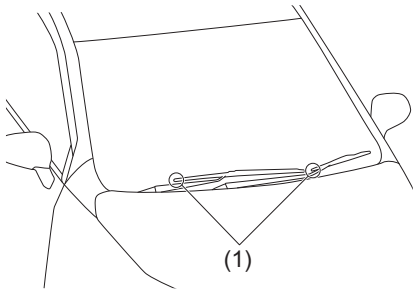

61M1012

5 ブレードラバーをワイパーブレードに差し込みます。ブレードラバーを取り付けるときは、ストッパーのない方からワイパーブレードに差し込みます。

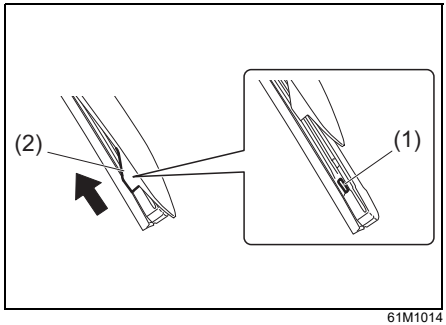

61M1016

注 記

ブレードラバーは、ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。ワイパーの作動中にブレードラバーがずれるおそれがあります。



6 ワイパーブレードのツメをストッパーに押し込んでブレードラバーを確実に固定します。



61M1014

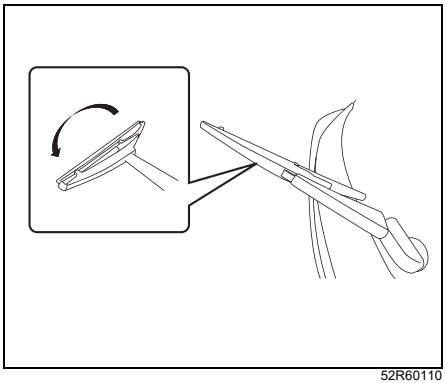
(1) ストッパー　　(2) ツメ

7 ワイパーアームにワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。

8 助手席側、運転席側の順にワイパーアームを戻します。

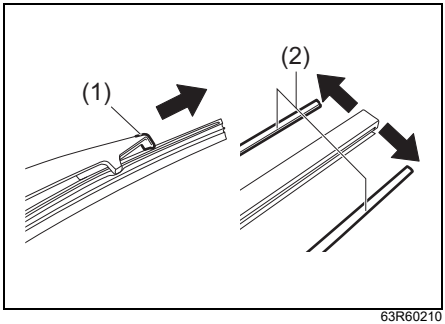
リヤワイパー

1 ワイパーアームを起こします。起こしたあと、ワイパーブレードを回転させてワイパーブレードをワイパーアームから外します。



52R60110

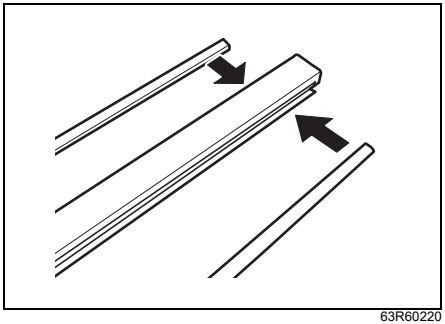
2 ブレードラバーの先端を引っ張りワイパーブレードのストッパーから外し、そのまま引き抜きます。取り外したブレードラバーからリテーナーを取り外します。



63R60210

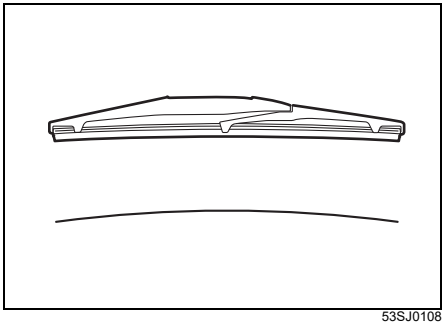
(1) ストッパー　　(2) リテーナー

3 新品のブレードラバーにリテーナーを取り付けます。



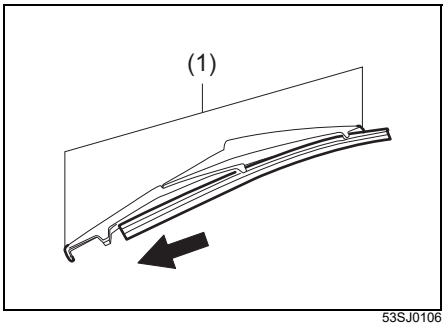
63R60220

●リテーナーは、反りの向きを次の図のように合わせて取り付けてください。



53SJ0108

4 ブレードラバーをワイパーブレードに差し込みます。ブレードラバーの両端がワイパーブレードの両端のストッパー(1) 内に収まるように確実に取り付けます。



53SJ0106

5 ワイパーアームにワイパーブレードを取り外したときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードがワイパーアームに確実に固定されていることを確認してください。そのあと、ワイパーアームを戻します。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈スズキエクスターウインドーウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−5 ℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−9 ℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−15 ℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−40 ℃

鉛バッテリー

鉛バッテリーの状態を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-3ページ（バッテリーについて）**

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

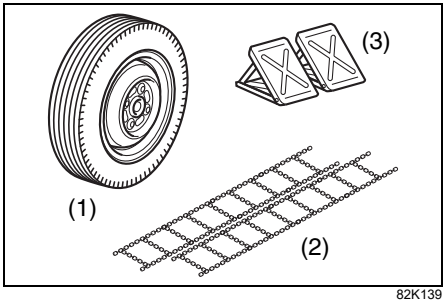
スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。
標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

アドバイス

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。
- 雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。
- スノーブレードはスズキ純正品の使用をおすすめします。スズキ純正品以外のものを使用すると適切に機能しないおそれがあります。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



82K139

(1) 冬用タイヤ(市販品)
(2) タイヤチェーン(別売り)
(3) 輪止め(市販品)

出発の前に

車体に付着した雪や氷

出発の前に取り除いてください。

- 屋根に積もった雪をそのままにしておくと、走行時に落下して視界をさまたげるおそれがあります。
- フロントガラスに雪や霜などが付着していると、単眼カメラが正常に作動しない場合があります。

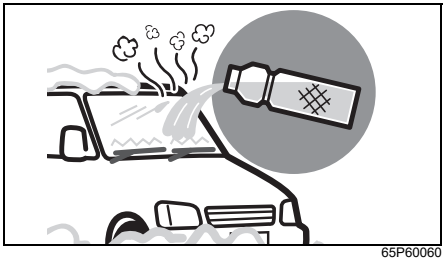
→ **4-47 ページ（レーザーレーダーと単眼カメラ）**



80J308

ワイパーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。

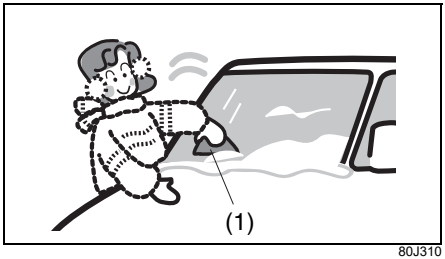


65P60060

ガラス面の雪や霜

プラスチックの板（1）を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。

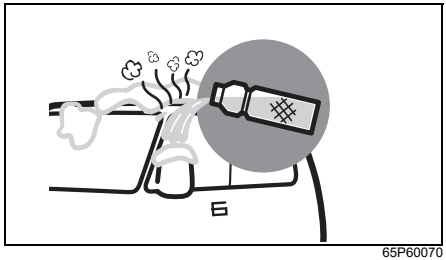
- フロントガラスに雪や霜などが付着していると、単眼カメラが正常に作動しない場合があります。



80J310

ドアミラーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障のおそれがあります。



65P60070

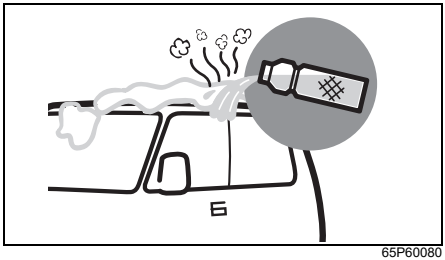
注 記

ドアミラー格納スイッチの場合、ミラーを手で動かすことが可能かを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。

→ 3-24ページ（ドアミラー格納スイッチ）

ドアの凍結

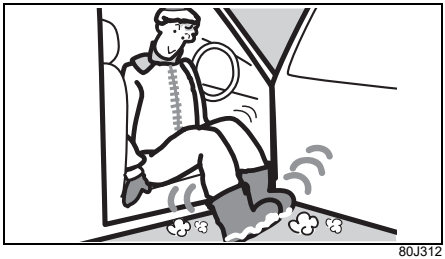
ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



65P60080

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



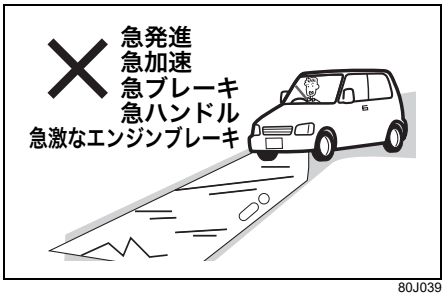
80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



80J039

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

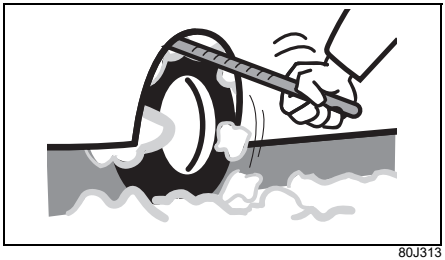
- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。

→ **6-8ページ(タイヤ交換するときは)**
→ **6-20ページ (タイヤチェーンを装着するとき)**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

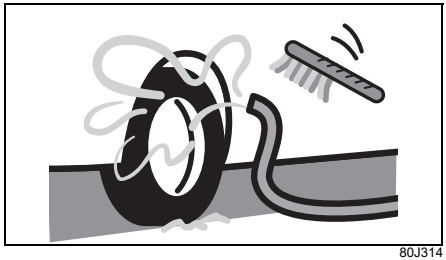
パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときはパーキングブレーキをかけず、セレクトレバーを P に入れ、輪止め（市販品）をします。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。



80J314

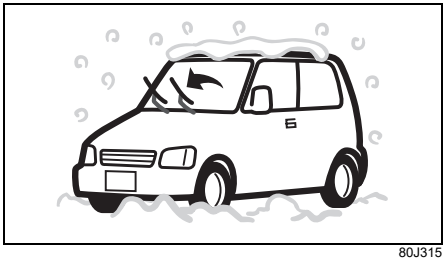
屋外に駐車するときは

注 記

●軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
●ルーフアンテナの場合、降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。

→ 5-14ページ（アンテナの脱着）

●駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。
●フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士が当たって傷つきの原因となります。

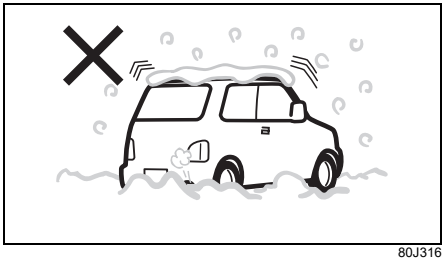


80J315

排気管のまわりが雪で覆われたときは

⚠警告

排気管のまわりが雪で覆われたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠警告

- **適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**
- **走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**

⚠注意

- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30km/h以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。**
- **タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度に悪影響をあたえて、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  - **・ABS**
  - **・ESP®**
  - **・エマージェンシーストップシグナル（ESS）**
  - **・デュアルセンサーブレーキサポート**
  - **・誤発進抑制機能**
  - **・アダプティブクルーズコントロール（全車速追従機能付）**
  - **・車線逸脱抑制機能**

注 記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。後輪には装着しないでください。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-8 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

MEMO

7. 万一のとき

● **パンク**

工具、ジャッキの収納場所 …… 7-2
パンクしたときは …… 7-2
タイヤパンク応急修理セット …… 7-2
タイヤ交換の準備 …… 7-8
ジャッキアップ …… 7-9
タイヤの取り付け・取り外し …… 7-11
タイヤを交換したあとは …… 7-13

● **バッテリーあがり**

鉛バッテリーあがりとは …… 7-14
鉛バッテリーあがりのときは …… 7-14
バッテリーあがりを防ぐためには …… 7-15

● **ヒューズ切れ**

ヒューズが切れたときは …… 7-16
ヒューズの点検と交換 …… 7-19

● **電球切れ**

電球の点検 …… 7-20
電球を交換するときは …… 7-21

● **オーバーヒート**

オーバーヒートとは …… 7-26
オーバーヒートしたときは …… 7-27

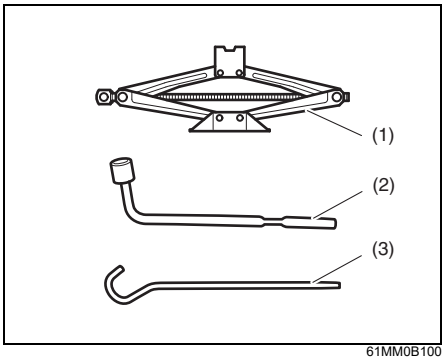
● **そのほか**

発炎筒 …… 7-28
故障したときは …… 7-28
ロープけん引 …… 7-30
水没したときは …… 7-34
万一、事故が起きたときは …… 7-35

工具、ジャッキの収納場所

荷室下にあります。

→ **1-14ページ（荷室）**



61MM0B100

(1) ジャッキ
(2) ホイールレンチ
(3) ジャッキバー

- 使用後は、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから収納してください。

パンクしたときは

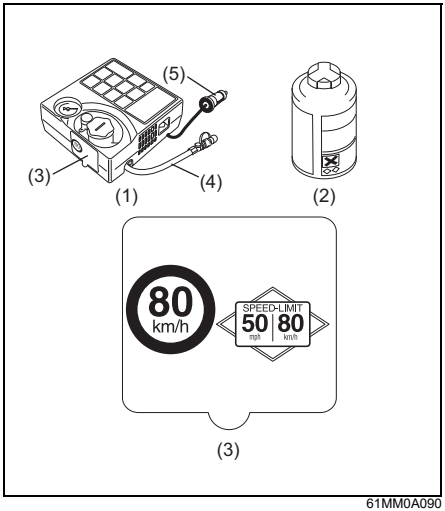
- お車にはスペアタイヤが搭載されていません。タイヤパンク応急修理セットをお使いください。
  → **1-14ページ（荷室）**

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにスズキサービス工場で修理または交換してください。

- タイヤパンク応急修理セットは、荷室下にあります。
  → **1-14ページ（荷室）**

－代表例－



61MM0A090

(1) エアコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル
(3) 速度制限シール
(4) 空気注入ホース
(5) 電源プラグ

※速度制限シールはエアコンプレッサーに貼付されています。

⚠注意

●応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
●応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
●保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。

注 記

●エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
●エアコンプレッサーは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
●エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。
・10分以上連続して使用しない
・防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする
・砂やほこりなどを吸い込ませない
・使用中に動作が遅くなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する
・分解、改造などをしない
・強い衝撃や圧力を加えない

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
  ・期限が切れる前に、新品と交換してください。
- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
  ・エンジンスイッチを ACC にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

応急修理の可否判断

■ 次のようなとき、タイヤの応急修理ができます

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

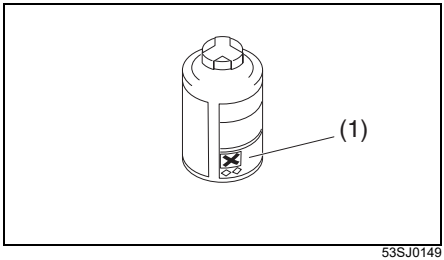
注 記

タイヤに刺さった釘やネジを抜いてしまうと、タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。
タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。

■ 次のような場合はタイヤの応急修理ができません

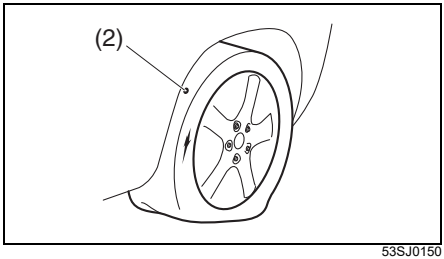
スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。（別冊の**「スズキ４輪車サービスネットワーク」**参照）

- 応急修理剤の有効期限（1）が切れている
  （有効期限はボトルのラベルに記載）



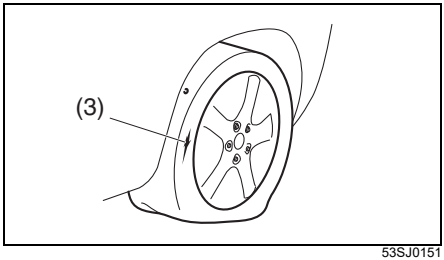
53SJ0149

- タイヤの接地面に長さ４ mm 以上の切り傷や刺し傷（2）がある



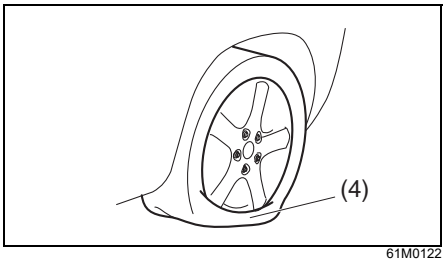
53SJ0150

- タイヤの側面に傷（3）を受けている



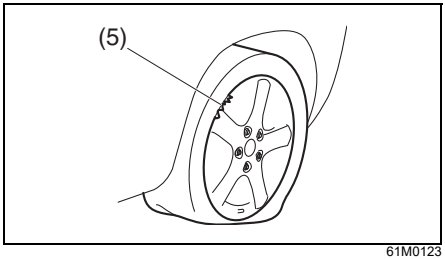
53SJ0151

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム（4）の外側へ完全に外れている



61M0122

- ホイールリム（5）が破損または変形している



61M0123

- タイヤが2本以上パンクしている（修理剤はタイヤ1本分です）

タイヤ応急修理のしかた

1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- セレクトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを止めます。

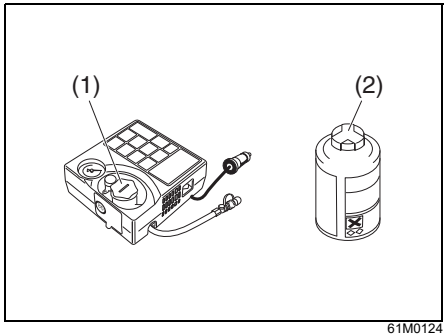
必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

- パンクしたタイヤの状態を確認します。

→ **7-3ページ**
（応急修理の可否判断）

3 同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出します。

4 エアコンプレッサーと修理剤ボトルのふたを開けます。

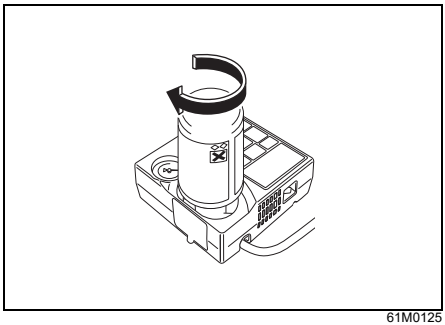


61M0124

(1) エアコンプレッサーのふた
(2) 修理剤ボトルのふた

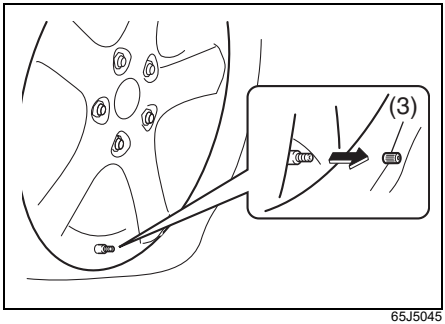
5 修理剤ボトルをコンプレッサーに取り付けます。

- 時計方向にまわしてねじ込むと、ボトルの栓が破れます。



61M0125

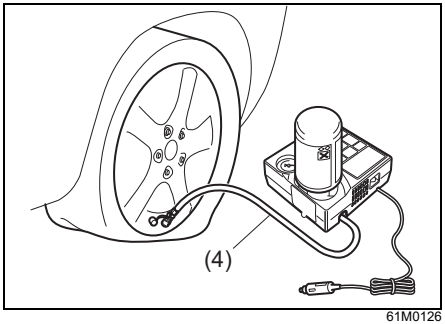
6 タイヤバルブからキャップを反時計方向にまわして外します。



65J5045

(3) キャップ

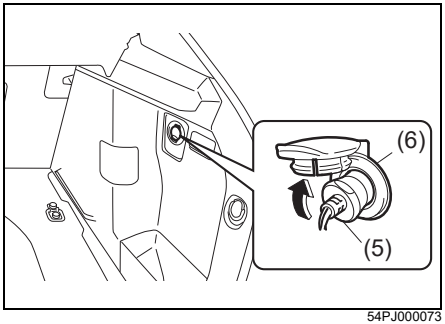
7 空気注入ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



61M0126

(4) 空気注入ホース

8 エアコンプレッサーのスイッチがOFF（○側）になっていることを確認します。電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチを ACC にします。



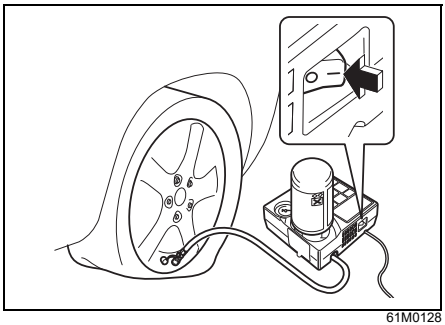
54PJ000073

(5) 電源プラグ
(6) アクセサリーソケット

- アクセサリーソケットは、インパネポケット内にもあります。

→ **5-22ページ（アクセサリーソケット）**

9 エアコンプレッサーのスイッチをON （I 側）にし、修理剤とともに空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。


61M0128

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すきまがなくなれば空気圧が上がります。）
- 指定空気圧まで昇圧するには、10 分程度が必要です。10 分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、空気注入ホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

⚠注意

- **コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。**
- **タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。**

注 記

- **コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**
- **コンプレッサーは 10 分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。**

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

10 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、応急修理セットを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

11 約10分間または5 km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130 kPa（1.3 kgf/cm^2）以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

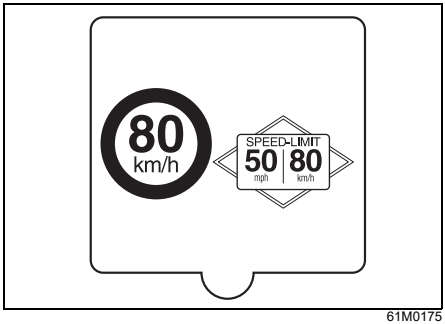
- タイヤ空気圧を測定するときは、空気注入ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチを ON (I 側）にしたあと、すぐにスイッチを OFF （○側）にして空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が130 kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

12 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80 km/h以下の速度で走行してください。

－代表例－



61M0175

⚠警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。

- **SRS エアバッグの収納部。万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。**
- **警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置**

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにスズキサービス工場で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

タイヤ交換の準備

お車にはスペアタイヤが搭載されていません。
応急用スペアタイヤが準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。

→ **7-2ページ**
（タイヤパンク応急修理セット）

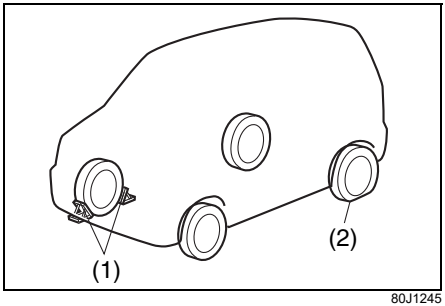
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- セレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

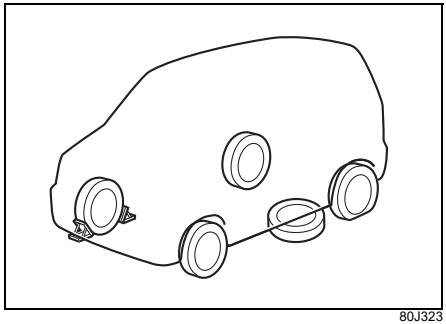
3 交換するタイヤと対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（市販品）を置きます。



80J1245

(1) 輪止め
(2) 交換するタイヤ

4 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。
- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出したスペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。

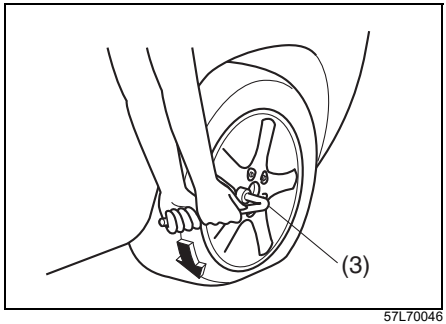


80J323

アドバイス

応急用スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5 ホイールレンチを使用して、ホイールボルト 5 個を反時計方向にまわし、手でボルトが軽くまわるくらいまでゆるめます。



57L70046

(3) ホイールレンチ

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- セレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。

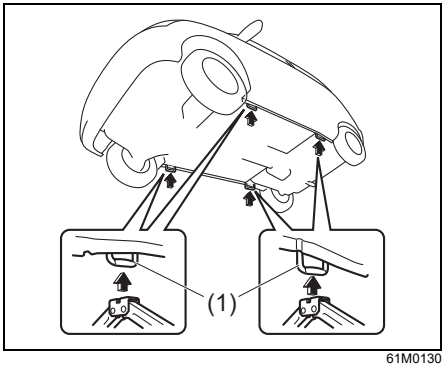
⚠ 警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にものをはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置に軽く接触させます。

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置にはまっているか確認します。



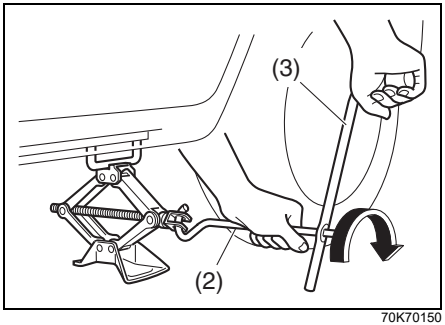
61M0130

(1) ジャッキ指定位置

3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールレンチを取り付けます。（次の図参照）

- ジャッキバーは次の図のように、ホイールレンチの穴に差し込みます。

4 ホイールレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



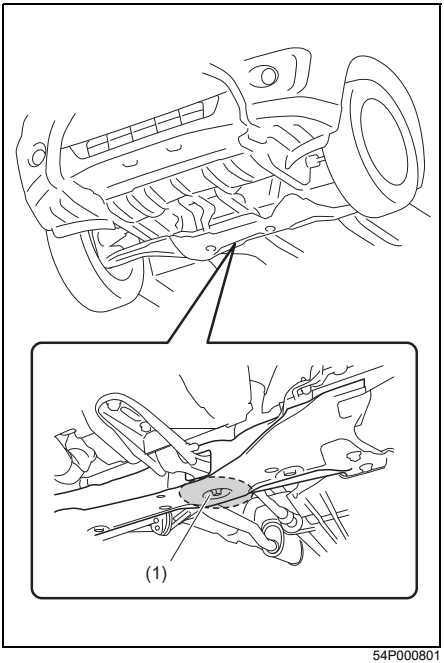
70K70150

(2) ジャッキバー
(3) ホイールレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を次の図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

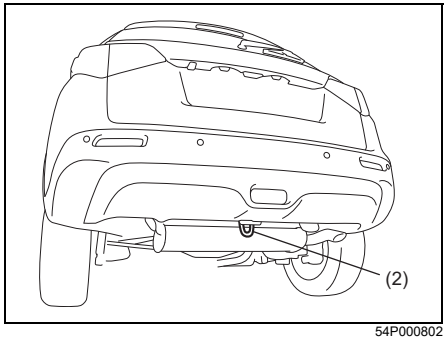
〔フロント側ガレージジャッキ指定位置〕



54P000801

(1) フロント側ガレージジャッキ指定位置

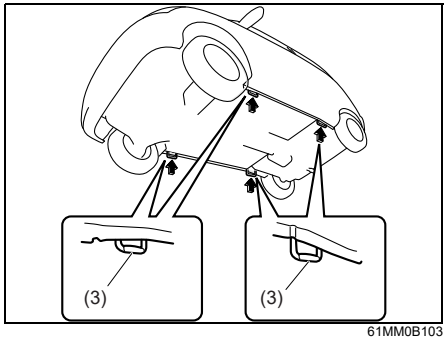
〔リヤ側ガレージジャッキ指定位置〕



54P000802

(2) リヤ側ガレージジャッキ指定位置

〔リジッドラック指定位置〕



61MM0B103

(3) リジッドラック指定位置

⚠警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

タイヤの取り付け・取り外し

1 ホイールボルトを外します。タイヤが急に車両から外れるのを防ぐため、最後のボルトを外すときは、タイヤを手でささえてください。

- 外したタイヤは、車体の下に置きます。

⚠注意

走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりは高温になっていることがあるため、やけどのおそれがあります。
走行直後のホイール、ホイールナット、ブレーキまわりなどには触れないでください。

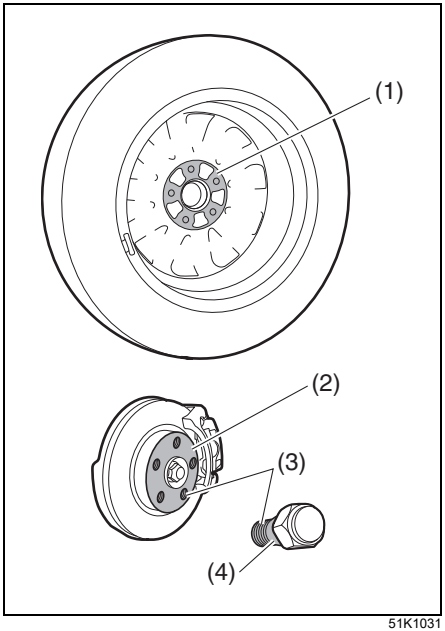
アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取り付け面
- 車体側の取り付け面（ハブ面）
- 車体側のネジ穴やホイールボルトのネジ部
- ホイールボルトのテーパー面
- ホイール穴のテーパー面

－代表例－



51K1031

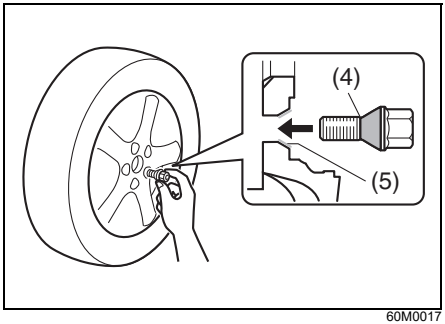
(1) 交換するホイールの取り付け面
(2) 車体側の取り付け面(ハブ面)
(3) 車体側のネジ穴やホイールボルトのネジ部
(4) ホイールボルトのテーパー面

- このとき、ボルトやボルト穴のネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

- **前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールボルトがゆるむことがあります。**
- **ボルトや車体側のネジ穴に、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にボルトを締めすぎて折れるおそれがあります。**

3 タイヤを手でささえながら、ホイールの穴と車両のネジ穴をあわせます。
ホイールボルトのテーパー面が、ホイール穴のテーパー面に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。



60M0017

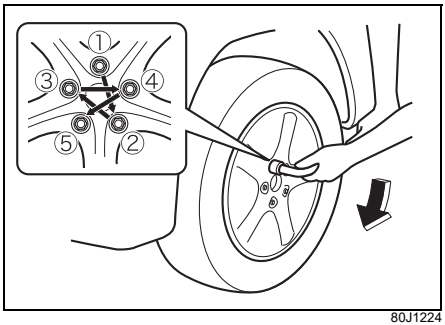
(4) ホイールボルトのテーパー面
(5) ホイール穴のテーパー面

4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5 ホイールレンチを使用して、ホイールボルトを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：100N・m (1020kgf・cm)

- ホイールレンチの柄の先端にかかる力は330N（34kgf）を目安にしてください。
- すべてのホイールボルトが確実に締まっていることを確認してください。



80J1224

⚠警告

- **ホイールボルトが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。**
- **ホイールレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、閉めすぎによってボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

規定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具とジャッキを所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールボルトにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから1,000km程度走行したあとに、ホイールボルトにゆるみがないか点検してください。

⚠警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

鉛バッテリーあがりとは

次のようなときは、鉛バッテリーがあがっています。

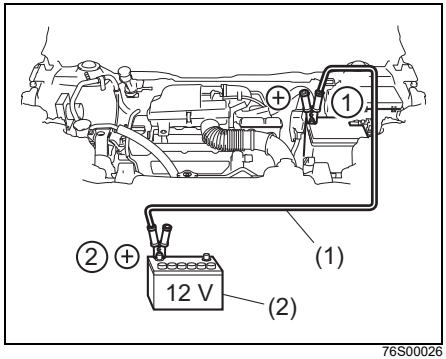
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

鉛バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12Vバッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1 1本目のブースターケーブルを①→②の順序で接続します。

① バッテリーあがり車の⊕端子
② バッテリー正常車の⊕端子

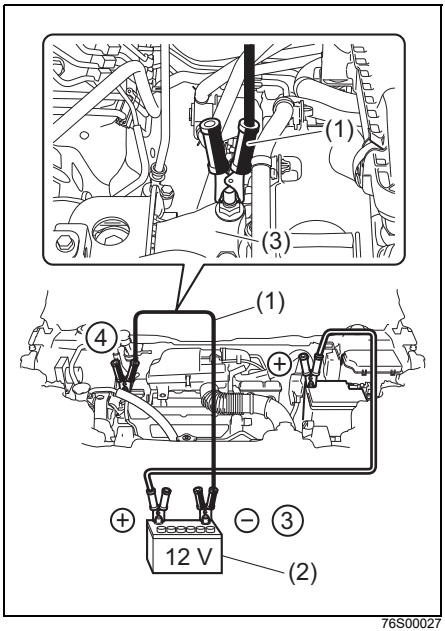


76S00026

(1) ブースターケーブル
(2) バッテリー正常車の鉛バッテリー

2 2本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

③ バッテリー正常車の⊖端子
④ バッテリーあがり車のエンジンマウントのボルト



76S00027

(1) ブースターケーブル
(2) バッテリー正常車の鉛バッテリー
(3) エンジンマウント

3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

5 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

6 お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

⚠警告

- **鉛バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。**
  - **・充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。**
  - **・④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。**
  - **・乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。**

⚠注意

- **ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。**
- **ショート防止のため、ブースターケーブルの ⊕ 端子は、バッテリーの ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。**
- **このお車は押しがけができません。安全のため、押しがけをしないでください。**

バッテリーあがりを防ぐためには

- 1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- ハイブリッドシステムを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。

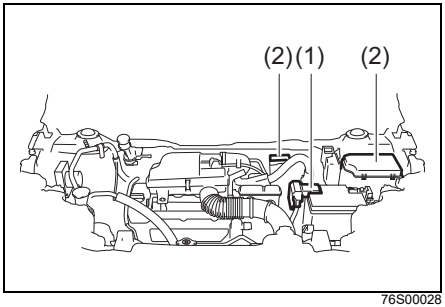
→ **2-3ページ（バッテリーについて）**

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と助手席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

エンジンルーム内のヒューズ



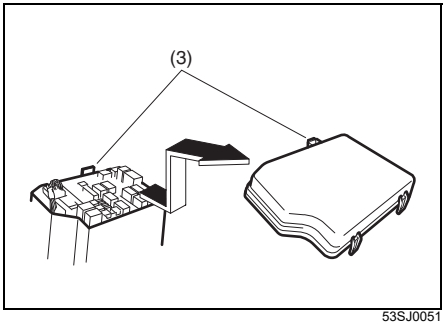
76S00028

(1) メインヒューズボックス
(2) リレーボックス

■ リレーボックス内のヒューズ

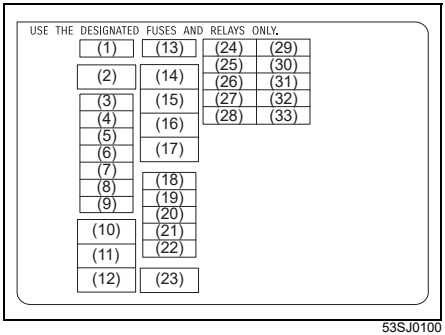
ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。

- リレーボックスを取り外すときは、車両後方のつめ（3）を先に外し、ボックスのふたを少し持ち上げながら手前に引くように取り外します。



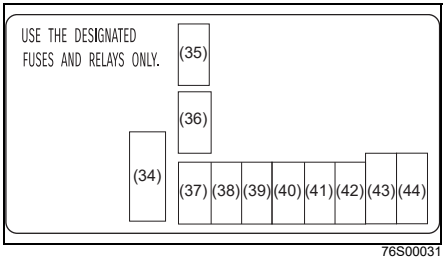
53SJ0051

リレーボックス No.1



53SJ0100

リレーボックス No.2



76S00031

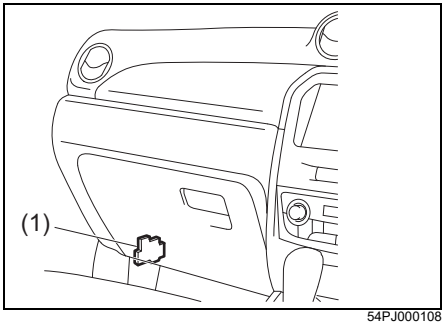
- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	B/U 2	30A	バックアップ 2
2	—	—	—
3	FR FOG	20A	フロント フォグランプ
4	CPRSR	10A	コンプレッサー
5	WTR PUMP	10A	冷却水ポンプ
6	—	—	—
7	BTRY FAN	15A	バッテリー ファン
8	B/U	30A	バックアップ
9	—	—	—
10	IGN	40A	エンジン スイッチ
11	—	—	—
12	ST	30A	スターター
13	—	—	—
14	—	—	—
15	RDTR	30A	ラジエター ファン
16	VAC PUMP	40A	電動負圧ポンプ
17	T/M PUMP	30A	AGS
18	FI	20A	燃料噴射装置
19	HEV	10A	ハイブリッド システム

位置	表示	容量	接続先名称
20	—	—	—
21	T/M	10A	AGS
22	T/M2	7.5A	シフトレバー
23	BLW	30A	ブロワーファン
24	—	—	—
25	—	—	—
26	ST SIG	7.5A	エンジン コントローラー
27	H/L L	10A	ヘッドライト（左）
28	H/L HI L	10A	LED ヘッド ライト（左）
29	—	—	—
30	—	—	—
31	—	—	—
32	H/L R	10A	ヘッドライト（右）
33	H/L HI R	10A	LED ヘッド ライト（右）
34	P/S	80A	パワー ステアリング
35	VAC SIG 2	7.5A	ハイブリッド コントローラー
36	VAC SIG	7.5A	ハイブリッド コントローラー
37	HEV 2	10A	ハイブリッド システム
38	METER 2	10A	スピード メーター

位置	表示	容量	接続先名称
39	H/L	20A	ヘッドライト
40	H/L 2	20A	ヘッドライト
41	H/L 3	20A	ヘッドライト
42	ABS 2	25A	ABS
43	ABS	40A	ABS/ESP® コントローラ
44	B/U 3	40A	バックアップ

助手席足元のヒューズ

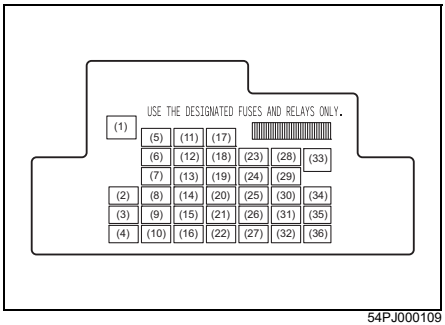


54PJ000108

(1) 助手席足元のヒューズ

■ 助手席足元のヒューズ

ヒューズの表は、ヒューズカバーの表側にあります。



54PJ000109

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	BELT	30A	—
2	A-STOP	10A	アイドリングストップコントローラー
3	DOME	10A	室内灯
4	RADIO	15A	ラジオ
5	P/W T	20A	パワーウインドータイマー機能
6	S/R	20A	—
7	HAZ	10A	非常点滅表示灯
8	HORN	15A	ホーン
9	4WD	15A	4WD
10	TAIL	10A	尾灯
11	STL	15A	電動ハンドルロック

位置	表示	容量	接続先名称
12	DRL	10A	—
13	BCM	7.5A	BCM
14	STOP	10A	制動灯
15	RR FOG	7.5A	—
16	D/L	20A	ドアロック
17	RR DEF	20A	リヤ デフォッガー
18	MRR HTP	10A	ドアミラー ヒーター
19	IG COIL	15A	イグニション コイル
20	A/B	10A	エアバッグ
21	—	—	—
22	CRUISE	7.5A	クルーズ コントロール
23	ST SIG	7.5A	スターター
24	ABS	10A	ABS
25	BACK	10A	後退灯
26	IG1 SIG	7.5A	パワー ステアリング
27	MTR	10A	メーター
28	ACC2	15A	アクセサリー ソケット
29	ACC	15A	ドアミラー
30	WIP	15A	ワイパー

位置	表示	容量	接続先名称
31	RADIO2	15A	—
32	IG2 SIG	7.5A	レインセンサー
33	P/W	30A	パワー ウインドー
34	FR WIP	30A	フロントワイパー ウォッシャーモーター
35	DOME2	10A	スピードメーター/ オートエアコンコントローラー
36	S/H	20A	シートヒーター

注）P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。

→ **3-21 ページ（はさみ込み防止機構の初期設定のしかた）**

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜き（低背ヒューズ用、市販品）および交換用ヒューズ（別売り）が必要となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

点検・交換のしかた

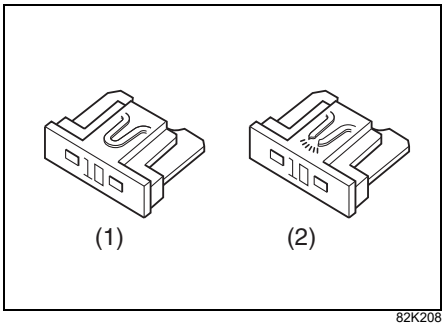
1 エンジンスイッチを LOCK (OFF) にします。

2 ボックスのカバーを外します。

3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

⚠ 警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯はほかの人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が曇ることや結露することがあります。これは、ランプ内外の温度差により一時的に起こる現象です。（雨天時などに窓ガラスが曇るのと同じ現象です。）
また、レンズの縁に水滴が付着しランプ内に水が入っているように見えることがあります。これは、ランプの外側に水が付着することで一時的に起こる現象です。
これらは機能上の問題はありません。
ただし、ランプ内に実際に水がたまっているときやレンズ内面に大粒の水滴がついているときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ（**8-3ページ**）をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

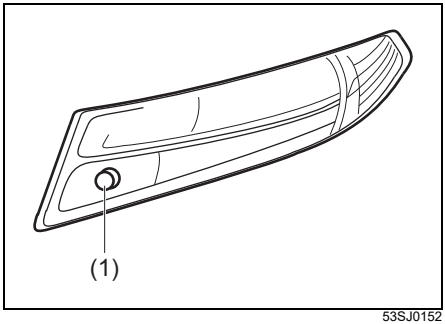
- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **ハイブリッドシステムを停止し、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**



51K0180

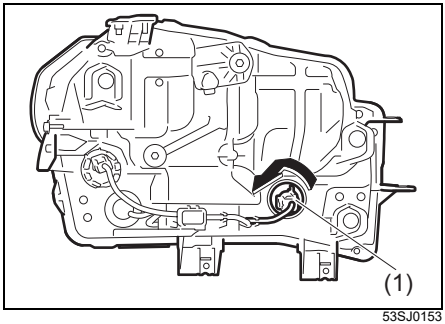
方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。



53SJ0152

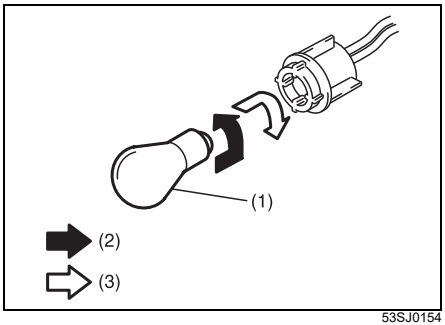
1 方向指示器 / 非常点滅表示灯（1）のソケットを、反時計方向にまわして引き抜きます。



53SJ0153

(1)方向指示器／非常点滅表示灯(前面)

2 方向指示器／非常点滅表示灯（前面）の電球をソケットから取り外すときは、電球を押しこんで反時計方向にまわして引き抜きます。



53SJ0154

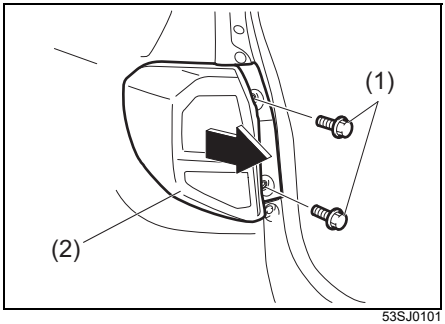
(2)取り外し
(3)取り付け

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

方向指示器／非常点滅表示灯（後面）

1 バックドアを開けます。
→ **3-12ページ（バックドア）**

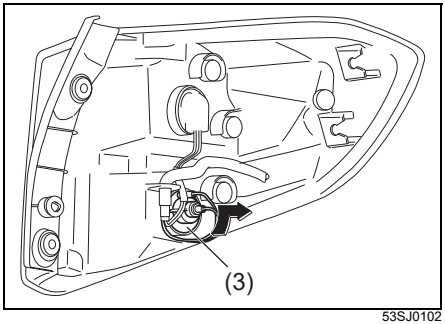
2 ボルト２個は、六角のソケット（市販品）などで外します。
- ランプ本体は、車両の後方へまっすぐ引いて外します。



53SJ0101

(1)ボルト
(2)リヤコンビネーションランプ

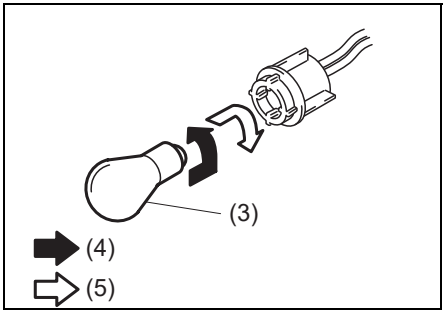
3 ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。



53SJ0102

(3)方向指示器／非常点滅表示灯(後面)

4 電球をソケットから取り外すときは、電球を押しこんで反時計方向にまわして引き抜きます。



53SB7008

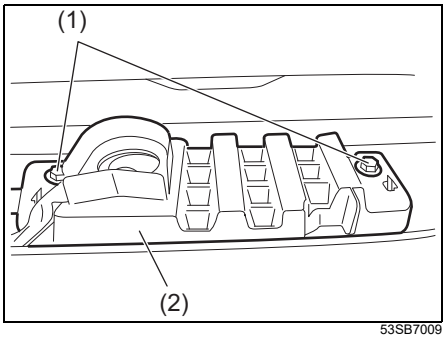
(4)取り外し
(5)取り付け

5 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

- ランプ本体をもどすときは、クリップ2か所をしっかりとはめ込んでください。

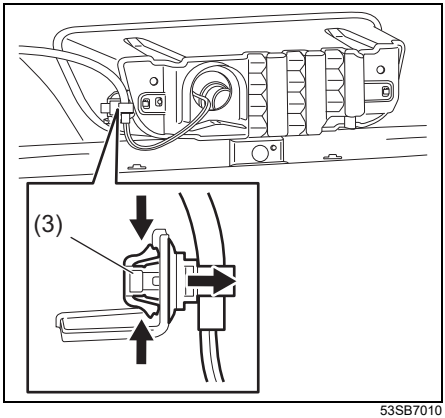
後退灯

1 リヤバンパーの後ろ側から手を差し込み、ランプ本体（2）を固定するボルト（1）を取り外します。



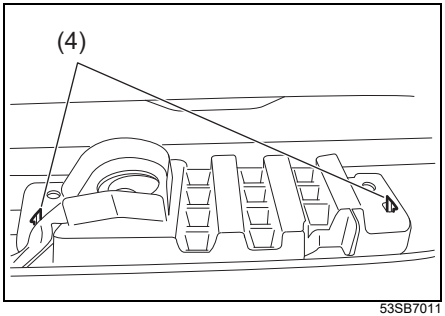
53SB7009

2 ハーネスクランプ（3）を取り外します。



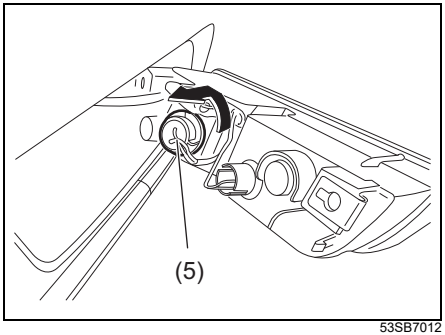
53SB7010

3 ツメ（4）を外し、ランプ本体を引き出します。



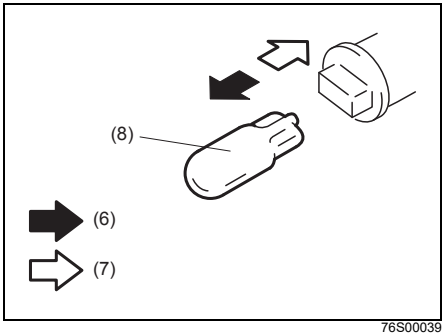
53SB7011

4 ソケット（5）を反時計方向にまわして取り外します。



53SB7012

5 電球（8）を取り外すときは、ソケットから引き抜きます。



76S00039

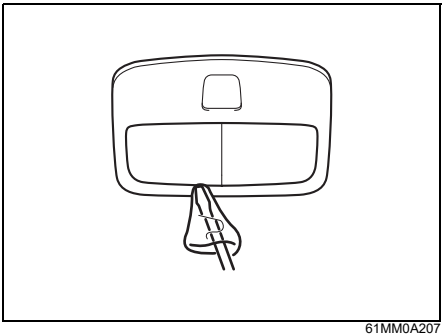
(6)取り外し
(7)取り付け

6 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

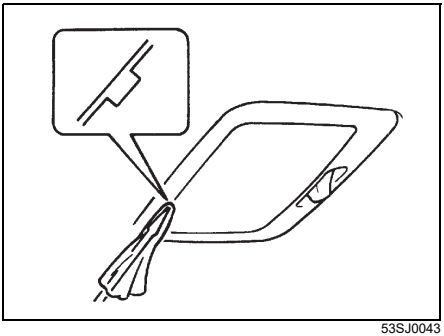
室内灯

先端に布をかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用してレンズを取り外します。

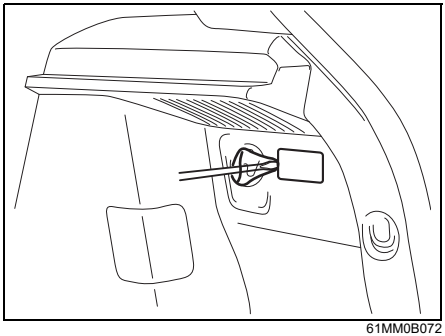
■ フロントマップランプ


61MM0A207

■ 室内灯（中央）

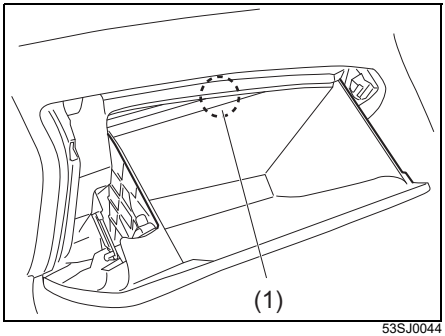

53SJ0043

■ ラゲッジルームランプ



61MM0B072

■ グローブボックスランプ



53SJ0044

電球（1）を取り外すときは、電球を引き抜きます。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

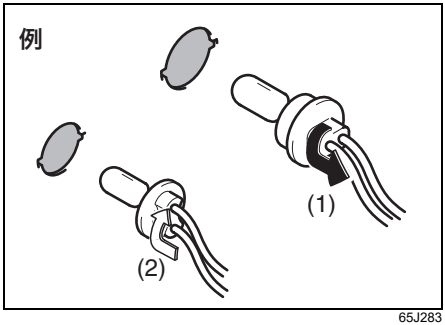
- 方向指示器／非常点滅表示灯（ドアミラー）
- ハイマウントストップランプ
- LEDイルミネーションランプ
- LEDヘッドライト
- リヤコンビネーションランプ（方向指示器を除く）
- テールランプ
- 車幅灯
- 番号灯
- フロントフォグランプ

そのほかの一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取り外し／取り付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取り外し／取り付け

- ソケットをランプ本体から取り外すとき（1）は、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるとき（2）は、ソケットをランプ本体の切り欠きにあわせて差し込み、時計方向にまわします。

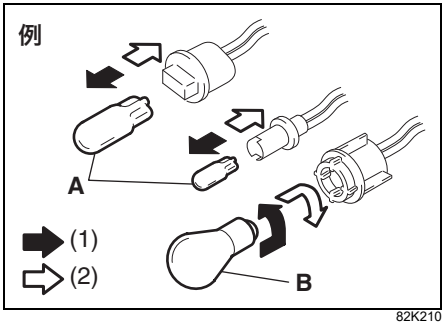


65J283

■ 電球の取り外し／取り付け

2つのタイプがあります。

- **A**のタイプは、図のように抜き差しするだけです。
- **B**のタイプは、次のようになります。
  - ・取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
  - ・取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。



82K210

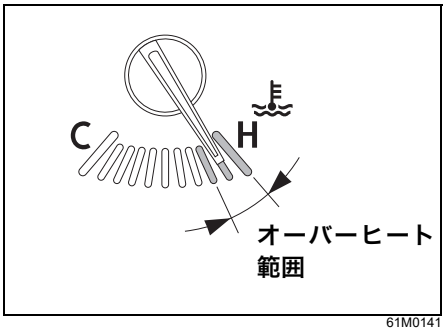
(1)取り外し
(2)取り付け

オーバーヒートとは

ラジエーターなどの冷却システムによるエンジンの冷却が間に合わなくなり、冷却水を適温に保てなくなった状態をオーバーヒートといいます。
次のようなときは、オーバーヒートです。

- エンジンの力が急に落ちた
- 水温計の指針がオーバーヒート範囲（赤色表示範囲）に入っている

→ **3-69ページ（水温計）**



61M0141

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。

2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。

→ **5-17ページ（ボンネット）**

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

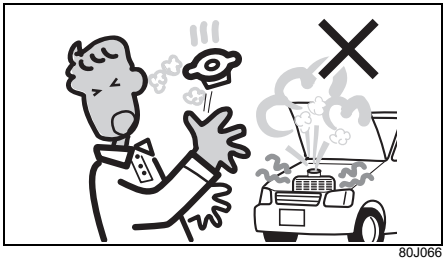
3 冷却ファンの作動を確認し、水温計の指針が下がるのを待ってエンジンを止めます。

- 冷却ファンが作動していないときや、水温計の指針が下がらないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



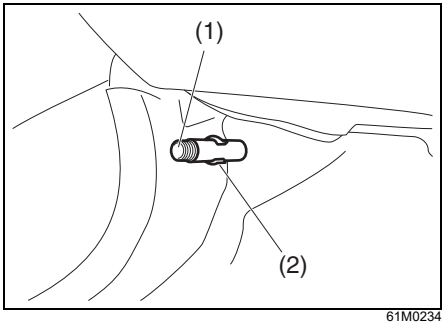
80J066

5 冷却水の量が不足しているときは補充します。

- 水漏れなどの異常があるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補充したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



61M0234

(1) 発炎筒　　(2) ホルダー

⚠ 警告

●お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
●必ずホルダーに保管してください。
●点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
●トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

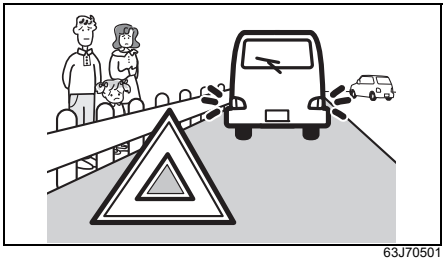
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店および JAF の連絡先は、別冊の「**スズキ 4 輪車サービスネットワーク**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

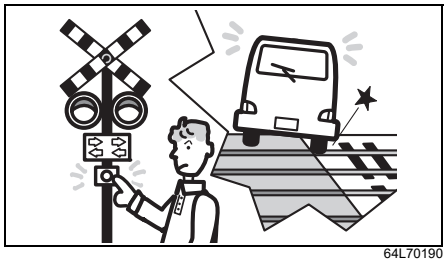
車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

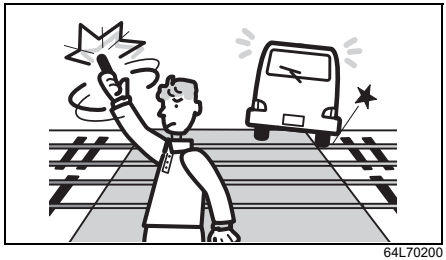
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。

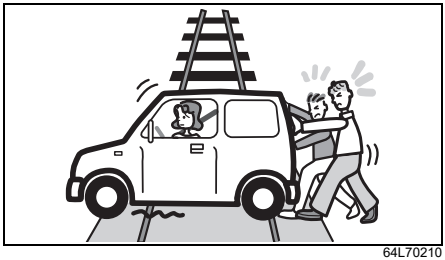


64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んだ状態でセレクトレバーを N に入れます。また、メーター内のセレクトレバー位置表示がNになっていることを確認します。

- メーター内のセレクトレバー位置表示がNにならない場合、セレクトレバーを一度 P に入れたあと、再度セレクトレバーをNに入れてください。



64L70210

アドバイス

- トランスミッションが故障したとき、停車したあとにアクセルペダルを踏み込むと、数十秒間、低速のEV走行ができる場合があります。
- エンジンスイッチを START の位置で保持してスターターをまわすことにより、車を移動させることはできません。
- エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、**4-18 ページ**の「**シフトロックの解除のしかた**」の手順でシフトロックを解除してください。

けん引してもらうときは

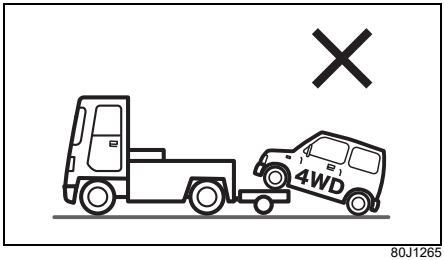
- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず4輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- READY 表示灯が点灯していても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠警告

●他車にけん引してもらうときは、デュアルセンサーブレーキサポートOFF スイッチを操作して作動停止（OFF）にしてください。急にデュアルセンサーブレーキサポートが作動して思いがけない事故につながるおそれがあります。

→ 4-70ページ（デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチ）

●4WD車は、前輪だけまたは後輪だけを台車に載せた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



80J1265

ロープけん引

やむをえず他車にけん引してもらう場合は、車両積載車両までのごく短い距離の移動などにとどめてください。

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フックにかけます。

注記

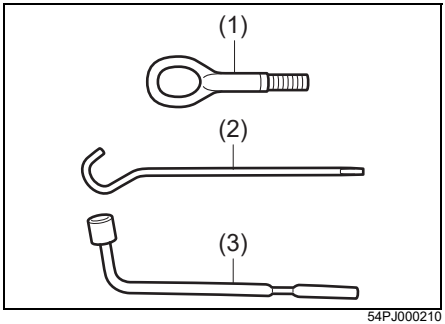
この車で他車をけん引することはできません。けん引フックは次のようなときに使用してください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

- **フロント側は、スタックからの脱出や車両故障時の短距離移動など、けん引されるとき**
- **リヤ側は、スタックからの脱出など、一時的に後ろ側へけん引されるとき、または船積みして搬送する場合**

■ フロント側

1 次の工具を、荷室下から取り出します。

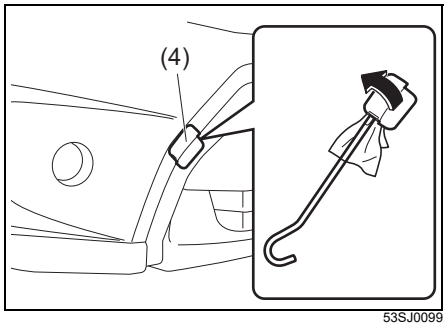
－代表例－



54PJ000210

(1) けん引フック
(2) ジャッキバー
(3) ホイールレンチ

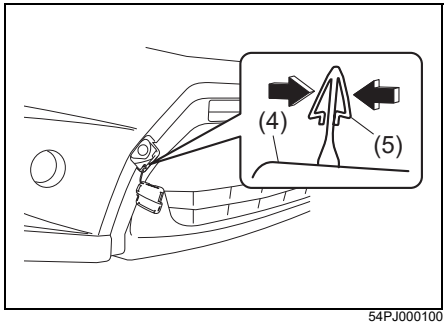
2 けん引フックカバーの切り欠き部に、先端に布をかぶせたジャッキバーを差し込み、カバーをこじって外します。



53SJ0099

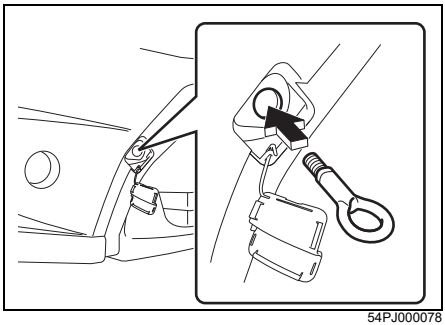
(4) けん引フックカバー

3 次の図のように、バンパー内側からひもの先端にあるつめ（5）を縮めてカバーを取り外します。
●取り外したカバーは、車内で保管してください。

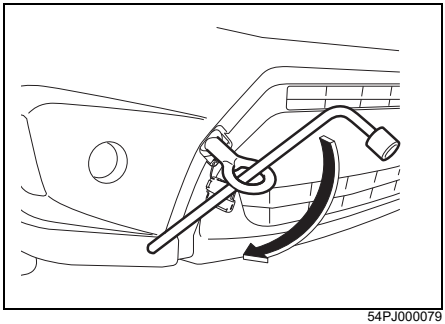


54PJ000100

4 けん引フック差し込み口にけん引フックを差し込み、手でまわせなくなる程度まで締め付けます。

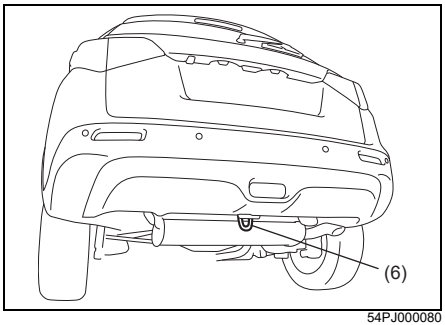

54PJ000078

5 ホイールレンチでけん引フックをしっかり締め付けます。


54PJ000079

■ リヤ側

この車を一時的に後ろに移動させるとき、または船積みして搬送する場合は、けん引フックにロープをかけます。



54PJ000080

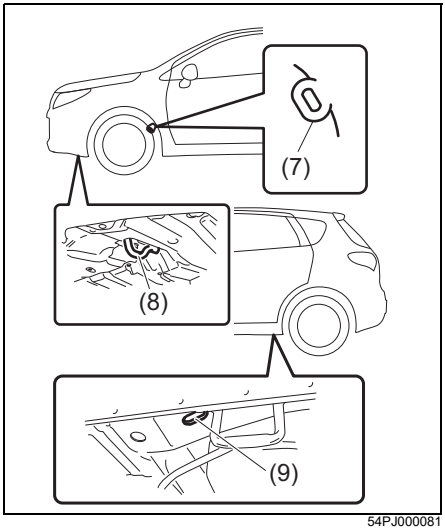
(6) けん引フック
（けん引または船積みに使用）

■ そのほかのフックおよび取り付け穴

積載車に乗せたり、船積みしたりして搬送する場合は、下図の位置へロープをかけて固定します。

- 船積みの場合は、リヤ側のけん引フックも使用します。

－代表例－



54PJ000081

(7) 前輪後部の積載車用フック
(8) 船積み用フック
(9) 後輪前側の積載車用フックの取り付け穴(長穴)

ロープでけん引してもらうときは

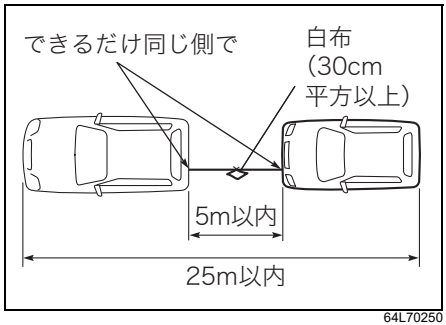
1 けん引フックにロープをかけます。

- ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注 記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

2 ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）を付けます。



64L70250

3 READY 表示灯は点灯したままにします。

- ハイブリッドシステムが作動しないときは、エンジンスイッチを LOCK（OFF）以外の位置にします。
- ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。
- エンジンスイッチ位置が ON のときは、デュアルセンサーブレーキサポートOFFスイッチを操作してデュアルセンサーブレーキサポートを作動停止（OFF）にしてください。

  → **4-70 ページ（デュアルセンサーブレーキサポート OFF スイッチ）**

- ALLGRIP（4WD）モードをAUTOモードに切替えます。

  → **4-28 ページ（ALLGRIP（4WD）モードの切替え）**

⚠ 警告

ハイブリッドシステムを作動できない車の運転は

- **エンジンスイッチを LOCK（OFF）の位置にしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

⚠ 注意

故障や鉛バッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 セレクトレバーを N に入れます。

⚠ 注意

N（ニュートラル）にできないときは、ロープけん引できません。スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。

アドバイス

故障や鉛バッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P からほかの位置へ動かせないときは、**4-18 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

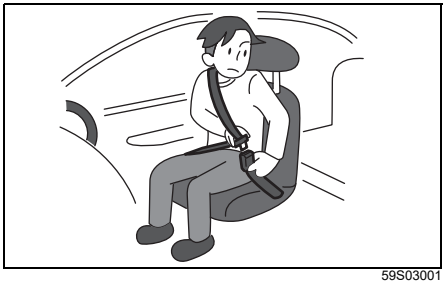
注記

けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

水没したときは

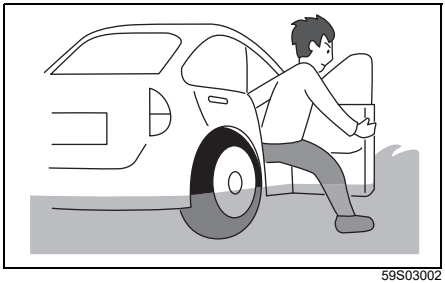
万一、お車が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。



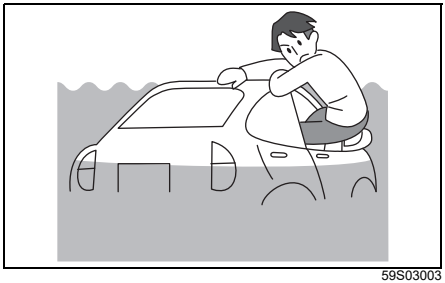
59S03001

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。



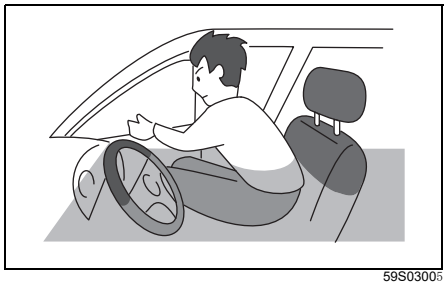
59S03002

- ドアを開けることができない場合、パワーウインドースイッチでウインドーガラスを開けて、窓から車外に出てください。



59S03003

●パワーウインドースイッチでウインドーガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差が無くなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。



59S03005

⚠警告

●水没した後、時間が経過するとパワーウインドーが動作しなくなります。
●この車のフロントドアガラス・リヤドアガラス・バックドアガラスは緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができますが、フロントガラスは合わせガラスのため緊急脱出用ハンマー（別売り）で割ることができません。
●着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

アドバイス

車内外の水位差に応じた方法で対処してください。
●水位差がある場合は窓から避難してください。
●水位差がない場合はドアを開けて避難してください。

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、ハイブリッドシステムを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

MEMO

項　　目		データ	
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	タンク容量	47L	
エンジンオイル（※）	グレード	スズキエクスターF　SN 0W-16 プラス スズキエクスターF　SN 0W-20 スズキエクスターF　SN 5W-30	
	規定量	オイル交換時	3.1L
		オイル、オイルフィルター同時交換時	3.3L
トランスミッションオイル	グレード	スズキ4輪ギヤオイル　75W　シンセティック	
	規定量	1.86L	
トランスファーオイル(4WD車)	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル　75W-85	
	規定量	0.87L	
リヤデファレンシャルオイル(4WD車)	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル　75W-85	
	規定量	0.73L	
冷却水	グレード	スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）	
	規定量	4.5 L	
ウォッシャー液	グレード	スズキエクスターウインドーウォッシャー液	
	タンク容量	2.5 L	
ブレーキ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード（DOT-3）	

※適切なオイルのご使用方法については、**2-36　ページ**の「**エンジンオイルの規格／粘度**」をお読みください。

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 0W-16は燃費性能に優れたオイルです。
- 指定外のトランスミッションフルード、ブレーキ液は絶対に入れないでください。

項目		データ	
スパークプラグ	タイプ	NGK : ILZKR6Q11（イリジウム）	
	電極のすきま	1.0～1.1 mm	
バッテリー	タイプ	鉛バッテリー	12V 55Ah 500A（EN）
		リチウムイオンバッテリー	点検不要（※1）
		高電圧バッテリー	
フロントブレーキ	ディスク厚さ（※2）	基準値（新品時）	22.0 mm
		限度値	20.0 mm
リヤブレーキ	ディスク厚さ（※2）	基準値（新品時）	9.0 mm
		限度値	8.0 mm
ブレーキペダル	遊び	1～8 mm	
	床板とのすきま	59 mm以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕	
パーキングブレーキレバー	引きしろ	4～9 ノッチ〔操作力 200 N（20 kgf）〕	
ドライブベルト		たわみ量	自動調整式
ハンドル	遊び	0～30 mm（ホイール外周）	
タイヤ	ローテーション	5,000 km走行ごと	

※1　完全に放電させてしまったリチウムイオンバッテリーは、再充電することができません。交換または廃棄については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

※2　点検して限度値に達していたら、ディスクを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- 指定外のブレーキ液は絶対に入れないでください。

■ 電球の容量

名　　称			ワット数（型式）	
ヘッドライト			LED	※
車幅灯			LED	※
方向指示器／非常点滅表示灯	前面		21W(PY21W)	
	側面	ドアミラー	LED	※
	後面		21W(P21W)	
制動灯／尾灯			LED	※
後退灯			21W(W21W)	
番号灯			LED	※
グローブボックスランプ			1.4W	
足元照明			LED	※
バニティーミラー照明			3W	
前席室内灯			5W	
中央室内灯			10W	
荷室室内灯			5W	
ハイマウントストップランプ			LED	※
フォグランプ			LED	※
LEDイルミネーションランプ			LED	※

- 表に記載されている次の電球の場合、点検・交換の際はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  ※非分解式のランプのため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

標準タイヤの空気圧

タイヤの種類	タイヤサイズ	空気圧
標準タイヤ	215/55R17 94V	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)

ホイールのサイズ

タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取り付けピッチ円直径 (PCD)
215/55R17 94V	17×6 1/2J	50 mm	114.3 mm

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー → **3-18ページ**	はさみ込み防止機構 → **3-21ページ**	鉛バッテリー端子やヒューズ（**7-19ページ**参照）を外すなどしたとき

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
キーレスプッシュスタートシステム(※)	キーレスプッシュスタートシステムの各発信機の機能	あり	なし
	携帯リモコン電池消耗警告の表示 → **3-8ページ**	あり	なし
	携帯リモコン検出範囲外警告ブザーの吹鳴（1回） → **4-5ページ、4-8ページ**	なし	あり
アンサーバック機能(※) → **3-4ページ**	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯/室内灯	室内灯のみ
	車外ブザーによる合図	あり	なし
セキュリティアラーム → **3-16ページ**	セキュリティアラームモード	Dモード（警報あり）	Aモード（警報なし）
マルチインフォメーションディスプレイ（セッティングモード） → **3-102ページ**	平均燃費のリセット方法	非連動	給油連動
			TRIP A連動
	時計の12h表示と24h表示	12h表示	24h表示
	カレンダー表示	YYYY.MM.DD（年(西暦).月.日）	MM.DD.YYYY（月.日.年(西暦)）
			DD.MM.YYYY（日.月.年(西暦)）
	アンサーバック機能の車外ブザーによる合図	あり	なし
	足元照明	ドア連動	イルミ連動
			OFF
	セキュリティアラームモード	Dモード（警報あり）	Aモード（警報なし）

※印の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
マルチインフォメーションディスプレイ（セッティングモード） → **3-102ページ**	アイドリングストップ空調	標準	燃費優先
			快適優先
	先行車発進お知らせ機能	あり	なし
	標識認識機能	あり	なし
	ブラインドスポットモニタ（車線変更サポート付）とリヤクロストラフィックアラートの設定	BSM選択	BSM ON
			BSM OFF
		RCTA選択	RCTA ON
			RCTA OFF
	設定のリセット	あり	すべての設定を初期設定（工場出荷時）にもどす
オートワイパーシステム（※） → **3-124ページ**	オートワイパーシステムの動作	フルオートモード	セミオートモード
			間欠ワイパーモード

※印の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

数字

4WD警告灯 ····· 3-79
4WD車の運転 ····· 2-32
5分毎平均車速 ····· 3-97

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
　警告灯 ····· 4-41
　装置 ····· 4-38
ABS警告灯 ····· 3-74
ALLGRIP(4WD)モード表示 ····· 3-92
ALLGRIP(4WD)モードの切替え · 4-28

E

ESP® ····· 4-34
ESP® OFFスイッチ ····· 4-37
ESP® OFF表示灯 ····· 3-83、4-38
ESP® 作動表示灯 ····· 3-83、4-36
EV表示灯 ····· 3-86

I

ISOFIX ····· 3-64
ISOFIXアンカー ····· 3-64
ISOFIXお子さま用シート
　固定対応取付装置 ····· 3-64

L

LEDイルミネーションランプ···· 3-120
LEDヘッドライト警告灯 ····· 3-79

M

M(マニュアル)モード表示 ····· 3-101

R

R(リバース)ポジション
　警告ブザー ····· 2-28、4-21
READY表示灯 ····· 3-86

S

SRSエアバッグ警告灯 ····· 3-73、3-55
SRSエアバッグシステム ···· 2-30、3-43

ア

アームレスト ····· 5-27
アクセサリーソケット ····· 5-22
アシストグリップ ····· 5-29
アダプティブクルーズコントロール
　····· 4-75
アダプティブクルーズコントロール
　警告灯 ····· 3-79
アダプティブクルーズコントロール
　スイッチ ····· 4-78
アンサーバック機能 ····· 3-4
アンテナ ····· 5-14

イ

イモビライザー警告灯 ····· 3-78、4-5
イモビライザーシステム ····· 4-4
インパネロアポケット ····· 5-26

ウ

ウインドー
　ウインドーロックスイッチ ····· 3-19
　バックウインドーガラスの
　　手入れ ····· 6-7
　パワーウインドー ····· 3-18
　フロントウインドーガラスの
　　手入れ ····· 6-4
ウォッシャー液 ····· 6-15、8-1
ウォッシャースイッチ ····· 3-123

エ

エアコン、ヒーター
オートエアコン ····· 5-3
外気導入 ····· 5-7
内気循環 ····· 5-7
吹出し口 ····· 5-2
エアフィルター ····· 5-12
エコドライブ ····· 2-37
エコモード表示灯 ····· 3-86
エコモードスイッチ ····· 3-126
エマージェンシーストップ
シグナル(ESS) ····· 4-42
エンジン警告灯 ····· 3-75
エンジンオイル ····· 2-36、3-76、8-1
エンジン回転計(タコメーター) ··· 3-69
エンジン自動停止・再始動
····· 4-101、4-102
エンジンスイッチ ····· 4-2
エンジンスイッチ照明 ····· 4-8
エンジンスイッチもどし忘れ
警告ブザー ····· 4-12
エンジンフード(ボンネット) ····· 5-17
エンジンブレーキ ····· 2-18
エンジンを止めるときは ····· 4-11
エンスト ····· 7-29
エンディングモード ····· 3-100

オ

オーディオ ····· 5-13
オートエアコン ····· 5-3
オートマチック車
運転 ····· 4-23
セレクトレバー ····· 4-15
オートレベリング警告灯 ····· 3-74
オートワイパーシステム ····· 3-124
オーバーヒート ····· 7-26
オイル(エンジンオイル)
····· 2-36、3-76、8-1
お子さま用シートの
シートベルトによる固定 ····· 3-62
お子さま用シートの
選択について ····· 3-56
お子さまを乗せるときは ····· 2-6
オドメーター(積算距離計) ····· 3-101

カ

回生エネルギー表示灯 ····· 3-87
回生ブレーキ ····· 4-103
ガソリン(燃料) ····· 2-27、8-1
可動式アシストグリップ ····· 5-29
仮眠するときは ····· 2-24
ガレージジャッキ ····· 7-10
冠水した場所 ····· 2-20
寒冷時の取扱い ····· 6-15

キ

キー ····· 3-2
キーナンバープレート ····· 3-3
キーレスエントリー ····· 3-3
キーレスプッシュスタート
システム ····· 4-5
キースイッチ
(エンジンスイッチ) ····· 4-2
キックダウン ····· 4-20、4-25
ギヤポジション表示 ····· 3-101
給油 ····· 2-26、5-16
使用燃料 ····· 8-1

ク

空気圧 ····· 8-4
くもり取り(デフロスター) ····· 5-2
くもり取り(リヤデフォッガー) ··· 5-10
クリープ現象 ····· 2-28、4-20
車のお手入れ ····· 6-2
グローブボックス ····· 5-28

ケ

警告灯・表示灯 ····· 1-19
警告灯・表示灯の見かた ····· 3-71
警告ブザー
R(リバース)ポジション
警告ブザー ····· 2-28、4-21

エンジンスイッチもどし忘れ
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-12
警告ブザーが鳴ったときは・・・・・ 1-23
携帯リモコン検出範囲外
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・ 4-7、4-11
シートベルト警告ブザー・・・・・・・ 3-34
パーキングブレーキ解除忘れ
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-14
ハンドルロック未作動
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
ライト消し忘れ警告ブザー・・・・ 3-120
リクエストスイッチ未作動
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-9
携帯電話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-16
携帯リモコン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-5
携帯リモコン車外持ち出し警告・・・・・4-8
携帯リモコン電池消耗警告・・・・・・・・・3-8
携帯リモコン電池消耗警告灯・・・・・・・3-8
携帯リモコン閉じ込み防止機能・・・ 3-10
携帯リモコンの電池交換・・・・・・・・・・・6-9
警報装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-16
けん引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-30

コ

コートフック・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-29
工具(収納場所)・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-2
後席シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-29
航続可能距離・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-96
後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-23
高電圧遮断機能・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-108
高電圧バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・ 4-105
高電圧部位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-106
故障したときは・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28
誤発進抑制機能・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-59
コンソールボックス・・・・・・・・・・・・・・ 5-27

サ

サービスデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-1
サンバイザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-19

シ

シートバックポケット ・・・・・・・・・・・・ 5-26
シートヒータースイッチ ・・・・・・・・・・ 3-28
シートベルト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-33
シートベルト可変フォース
リミッター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-42
シートベルト警告灯 ・・・・・・・・・・・・・ 3-72
シートベルト警告ブザー ・・・・・・・・・ 3-34
シートベルトフォース
リミッター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-42
シートベルトプリテンショナー ・・・ 3-40
事故が起きたときは ・・・・・・・・・・・・・ 7-35
室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-20
室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-20
フロントマップランプ ・・・・・・・・・ 5-22
ラゲッジルームランプ ・・・・・・・・・ 5-21
シフトロック ・・・・・・・・・・・・・・4-17、4-27
車線逸脱警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-62
車線逸脱警報OFFスイッチ ・・・・・・・ 4-71
車線逸脱警報OFF表示灯 ・・・・・・・・・ 3-85
車線逸脱警報作動表示灯 ・・・・・・・・・ 3-85
車線逸脱抑制機能 ・・・・・・・・・・・・・・・ 4-63
車線逸脱抑制機能
ON/OFFスイッチ ・・・・・・・・・・・・・ 4-64
車線逸脱抑制機能警告灯 ・・・・・・・・・ 3-80
ジャッキ(収納場所) ・・・・・・・・・・・・・ 7-2
ジャッキアップ
(タイヤチェーン) ・・・・・・・・・・・・・ 6-21
ジャッキアップ
(パンクしたとき) ・・・・・・・・・・・・・・ 7-9
車両接近通報装置 ・・・・・・・・・ 4-98、4-107
車両接近通報装置警告灯 ・・・・・・・・・ 3-81
集中ドアロック
(パワードアロック) ・・・・・・・・・・・ 3-15
充電警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-76
樹脂部品などの手入れ ・・・・・・・・・・・・ 6-6
出発の前に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-2
ジュニアシート ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-57
瞬間燃費 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-95
照度コントロール ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-70
初期設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-5
ショッピングフック ・・・・・・・・・・・・・ 5-30

ス

水没したときは ……7-34
スズキ セーフティ サポート ……4-47
スタック(立ち往生) ……2-21
ステアリングオーディオ
　スイッチ ……5-15
スノーブレード ……6-15
スピードメーター(速度計) ……3-69

セ

積算走行時間 ……3-97
セキュリティアラーム ……3-16
設定切替え(カスタマイズ) …… 8-5
セッティングモード ……3-102
セレクトレバーの操作 ……4-15
先行車発進お知らせ機能 ……4-69
洗車 …… 6-2
前照灯(ヘッドライト) …… 3-118、8-3
前席シート ……3-26
前席ドリンクホルダー ……5-25
センタークロック ……5-29

ソ

走行中の注意 ……2-15
速度計(スピードメーター) ……3-69

タ

タイマーロック機能 …… 3-5
タイヤ
　応急修理したあとは …… 7-8
　応急修理のしかた …… 7-5
　空気圧 …… 8-4
　交換したあとは ……7-13
　交換するときは …… 6-8
　交換の準備 …… 7-8
　チェーン ……6-20、8-4
　取り付け･取り外し ……7-11
　パンク応急修理セット …… 7-2
　冬用タイヤ ……6-18
　ホイールサイズ …… 8-4
　ローテーション……6-7
　輪止め…… 2-23、6-15
立ち往生(スタック)…… 2-21
暖機運転…… 2-38

チ

チェーン(タイヤチェーン)… 6-20、8-4
チケットホルダー
　(サンバイザー)…… 5-19
チャイルドシート…… 3-57
チャイルドプルーフ…… 3-16
駐車するときは……2-23、4-26、6-19

テ

停止表示板…… 7-28
デフロスター……5-2
デフロスタースイッチ……5-8
デュアルセンサーブレーキサポート
　OFF表示灯…… 3-84
デュアルセンサーブレーキサポート
　作動表示灯…… 3-84
デュアルセンサーブレーキサポート
　…… 4-54
デュアルセンサーブレーキサポート
　OFFスイッチ…… 4-70
テレスコピック＆
　チルトステアリング…… 3-25
電球
　電球の交換(ランプ類)…… 7-21
　電球の点検…… 7-20
　ワット数(ランプ類)……8-3
点検……2-2、8-1
電源が切替わらないときは……4-7
電源の切替え……4-6
電池交換(携帯リモコン)……6-9

ト

ドア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-11
ドアの開閉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-2
ドアポケット・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-25
ドアミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-23
ドアミラー角度調節スイッチ・・・・・ 3-23
ドアミラー格納スイッチ・・・・・・・・・ 3-24
ドアミラーヒータースイッチ・・・・・ 3-25
ドアロック解除機能・・・・・・・・・・・・・ 3-15
凍結防止剤・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2、6-19
凍結路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-18
時計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-90
登降坂変速制御・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-21
トランスミッション警告灯・・・・・・・ 3-77
トリップメーター(区間距離計)・・ 3-101
ドリンクホルダー・・・・・・・・・・・・・・・ 5-25

ナ

内装のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-5
鉛バッテリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-3

ニ

荷室フック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-30
日常点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-2

ネ

燃費
　5分毎平均燃費 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-95
　運転1回毎平均燃費 ・・・・・・・・・・・ 3-95
　瞬間燃費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-95
　平均燃費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-95
燃料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-27、8-1
燃料給油口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-16
燃料計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-69
燃料残量警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-73
燃料タンク容量・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-1

ハ

パーキングブレーキ
　解除忘れ警告ブザー ・・・・・・・・・・・・ 4-14
　寒冷時の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・ 6-19
　操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
ハイドロプレーニング現象 ・・・・・・・ 2-19
ハイブリッドシステム ・・・・・・・・・・・・ 4-99
ハイブリッドシステム警告灯 ・・・・・ 3-81
ハイブリッドシステムの起動 ・・・・・・ 4-9
ハイブリッドシステムの
　止めかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-11
ハイマウントストップランプ
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-3
はさみ込み防止機構 ・・・・・・・・・・・・・ 3-20
発炎筒 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28
バックウインドーガラス
　室内側の手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-7
バックミラー(ルームミラー) ・・・・・ 3-22
バッテリー
　鉛バッテリー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-3
　バッテリーについて ・・・・・・・・・・・・ 2-3
　リチウムイオンバッテリー ・・・・・・ 2-4
　バッテリーあがり ・・・・・・・・・・・・・ 7-14
パドルシフトスイッチ ・・・・・・・・・・・・ 4-19
バニティーミラー
　(サンバイザー) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-20
パワーウインドー ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-18
パワードアロック ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-15
パワーパック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-99
パンク
　タイヤ応急修理のしかた ・・・・・・・・ 7-5
　タイヤ交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-8
番号灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-3
半ドア警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-78
ハンドルロックが
　解除できないときは ・・・・・・・・・・・・・ 4-4
ハンドルロック未解除警告 ・・・・・・・・ 4-4
ハンドルロック未作動
　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13

ヒ

ヒーター(エアコン)
　オートエアコン ····· 5-3
　吹出し口 ····· 5-2
非常点滅表示灯 ····· 8-3
非常点滅表示灯スイッチ ·····3-122
必読！ ····· 2-2
ヒューズ切れ ····· 7-16
標識認識機能 ····· 4-71
日よけ(サンバイザー) ····· 5-19
ヒルディセントコントロール ····· 4-44
ヒルディセントコントロール表示灯3-83
ヒルホールドコントロール ····· 4-43

フ

ブースターケーブル ····· 7-14
フォグランプスイッチ ·····3-121
フットレスト ····· 5-29
フューエルキャップ ····· 5-16
フューエルリッド ····· 5-16
ブラインドスポットモニタ ····· 4-90
ブラインドスポットモニタ
　OFF表示灯 ····· 3-85
ふらつき警報 ····· 4-68
ブレーキ
　ブレーキアシスト ····· 4-41
　ブレーキ液 ····· 8-1
　ブレーキ倍力装置 ·· 2-22、4-11、7-33
ブレーキ警告灯(赤色) ····· 3-71
ブレーキシステム警告灯 ····· 3-82
ブレーキリクエスト
　インジケーター ····· 3-80
フロント(前席)シート ····· 3-26
フロントマップランプ ····· 5-22
フロントワイパー／
　ウォッシャースイッチ ·····3-123

ヘ

平均車速····· 3-97
ペットボトルホルダー
　後席····· 5-25
　前席····· 5-25
ヘッドライト(前照灯)····· 3-118、8-3
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
　表示灯····· 3-82
ヘッドレスト
　後席····· 3-30
　前席····· 3-27
ベビーシート····· 2-8、3-57

ホ

ホイールサイズ····· 8-4
防眩式ルームミラー····· 3-22
方向指示器····· 7-25、8-3
方向指示器スイッチ····· 3-122
方向指示器表示灯····· 3-82
ホーンスイッチ····· 3-126
ボンネット····· 5-17

マ

マスターウォーニング····· 3-83
マニュアルモード····· 4-18
　マニュアルモードシフト警告··· 4-19
　マニュアルモードの使いかた··· 4-18
マルチインフォメーション
　メッセージ····· 4-31
　ディスプレイ····· 3-88
万一のとき····· 7-1

ミ

ミラー
　ドアミラー····· 3-23
　バニティーミラー····· 5-20
　ルームミラー····· 3-22
ミリ波レーダー····· 4-88

メ

メーターの見かた…… 3-68
メーター
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ…… 3-88

ユ

雪道を走行するとき…… 6-18

ヨ

よくあるご質問…… 1-32
横風が強いときは…… 2-18

ラ

ライト点灯表示灯…… 3-82
ライト消し忘れ警告ブザー…… 3-120
ライト自動消灯システム…… 3-120
ライトスイッチ…… 3-118
ラゲッジシェルフ…… 5-31
ラゲッジフック…… 5-30
ラゲッジボード…… 5-31
ラゲッジルームランプ…… 5-21
ラジエーターキャップ…… 7-27
ランプ
　後退灯…… 7-23
　室内灯…… 5-20
　電球の交換(ランプ類)…… 7-21
　ハイマウントストップランプ……8-3
　番号灯……8-3
　非常点滅表示灯
　　…… 3-122、7-21、7-22、8-3
　ヘッドライト…… 3-118、8-3
　方向指示器… 3-122、7-21、7-22、8-3
　リヤコンビネーションランプ… 7-22
　ワット数、型式(ランプ類)……8-3

リ

リクエストスイッチ…… 3-8
リクエストスイッチ未作動
　警告ブザー…… 3-9
リクライニングレバー…… 3-26
リジッドラック…… 7-10
リチウムイオンバッテリー…… 2-4
リバース(R)ポジション
　警告ブザー……2-28、4-21
リヤクロストラフィックアラート
　OFF表示灯…… 3-86
リヤクロストラフィックアラート・4-96
リヤ(後席)シート…… 3-29
リヤデフォッガースイッチ…… 5-10
リヤワイパー／
　ウォッシャースイッチ……3-125

ル

ルーフ…… 5-32
ルーフアンテナ…… 5-14
ルームミラー…… 3-22

レ

冷却水(ラジエーター液)
　オーバーヒート…… 7-27
　寒冷時の取扱い…… 6-15
　規定水量…… 8-1
レーザーレーダーと単眼カメラ… 4-47
レーダーセンサー…… 4-93

ロ

ロープけん引…… 7-30

ワ

ワイパー
　寒冷時の取扱い…… 6-15、6-16、6-19
　ワイパースイッチ……3-123
ワイパーブレードラバーの交換… 6-11
ワックス…… 6-2

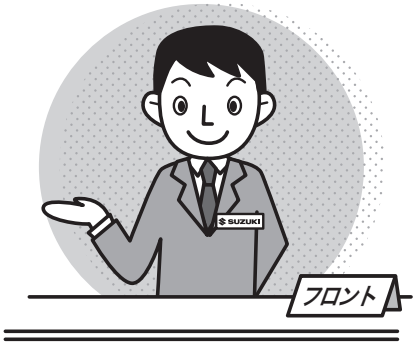
MEMO

MEMO

MEMO

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら、まずはお買い上げいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。
お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号